

平成30年度（第23回）
那覇市民意識調査報告書



2019 年（平成 31 年）3 月



ひと つなぐ まち
那 覇 市

はじめに

はいたい！　ぐすーよー　ちゅーうがなびら。



那覇市では、市民の皆様の日常生活に関する意識と
市政運営に対する評価を把握・分析して今後の市政運営に反映させる
ため、隔年で市民意識調査を実施しています。

今回の調査でも、多くの市民の皆様のご理解とご協力により、有
意義な調査結果を取りまとめることができました。心より感謝申し
上げます。

本市では、今年度から第5次那覇市総合計画がスタートしました。

まちづくりの将来像として掲げた「なはで暮らし、働き、育てよ
う！笑顔広がる元気なまちNAHA～みんなでつながろう市民力～」
の実現にむけて、より一層力を尽くしてまいる所存です。

調査にご協力いただいた市民の皆様には、重ねて御礼申し上げま
すとともに、本市の進める協働の取り組みへの積極的なご参加をお
願い申し上げ、巻頭のあいさつといたします。

いっぺー　にふえーで一びる。

2019年(平成31年)　3月

那覇市長　城間　幹子

目 次

I. 調査の設計と実施概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査設計	3
4. 調査票の送付状況	3
5. 回収状況	4
6. 報告書の読み方	5
7. 調査票	5
II. 調査結果の概要	19
1. 日常生活等に関する意識調査結果の概要・要約	19
2. 第5次総合計画の指標調査の概要・要約	27
3. 第5次総合計画の各政策に対する満足度・重要度調査の概要・要約	28
III. 基本調査結果	31
IV. 日常生活等に関する意識調査結果	35
V. 総合計画の指標調査結果	123
VI. その他	131
VII. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果	135

I. 調査の設計と実施概要

I. 調査の設計と実施概要

1. 調査の目的

この調査は2年ごとに日常生活に関する市民意識を把握するとともに、市が取り組んでいる政策に対する市民満足度と重要度についても把握・分析し、今後のまちづくりに反映させるための参考資料とするものである。

また、「第5次那覇市総合計画」の進捗管理のため、施策ごとに設定された指標についても、本市民意識調査で行うと決定しているものについて、調査を実施した。

なお、「第5次那覇市総合計画」に基づく調査を実施するにあたり、今回調査より複数回答の質問については、従来とは異なり、「回答者数」を母数とすることで回答に対する市民意識をより正確に把握することとした。

2. 調査項目

調査項目は、クロス集計による分析のための基本項目も含め、以下の5項目で構成した。

なお、設問の詳細と内容については、各部局へ照会を実施して、内容を確定させた。

(質問総数は、分岐質問3問を含め、合計50問)

(1) 基本項目

- 1) 性別
- 2) 年代
- 3) 居住地区
- 4) 那覇市における居住年数
- 5) 住居形態

(2) 日常生活等に関する意識調査について

- 1) 住み心地について
- 2) 自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について
- 3) 市政への市民参加について
- 4) 議会への市民参加について
- 5) 平和行政・男女共同参画について
- 6) 誰もが移動しやすいまちについて
- 7) 協働によるまちづくりにについて
- 8) 市街地活性化について
- 9) 子育て支援について
- 10) 福祉について
- 11) 健康について
- 12) 文化・芸術について
- 13) 観光意識について
- 14) 緑のまちについて
- 15) 生涯学習について
- 16) 青少年育成について
- 17) 消防行政について
- 18) 防災対策について
- 19) 環境について

(3) 第5次那覇市総合計画の指標調査について

- 1) 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者の割合
- 2) 地球温暖化を防ぐための実践項目数
- 3) 市民が文化活動を主体的に行う機会や、優れた文化や地域文化を観たり、ふれる機会が充実しているまちと思う人の割合

(4) その他

- 1) 自身が感じる幸せの点数について

(5) 市の政策に対する満足度・重要度調査について

- 1) 小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり
- 2) 地域の力が重なる安全安心のまちづくり
- 3) 交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり
- 4) 人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり
- 5) 地域で暮らし地域で支えるまちづくり
- 6) すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり
- 7) 身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり
- 8) 衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり
- 9) 子育てが楽しくなるまちづくり
- 10) 自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり
- 11) 生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり
- 12) 郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり
- 13) ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり
- 14) 様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり
- 15) 産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり
- 16) 中心市街地を活かしたまちづくり
- 17) 省エネを実践し、資源が循環するまちづくり
- 18) 自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり
- 19) 暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり
- 20) 災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり
- 21) 那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり
- 22) 市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり
- 23) 効率的で効果的な行財政運営を行う

3. 調査設計

- | | |
|----------|--------------------------------|
| (1) 調査対象 | 那覇市に居住する満 18 歳以上の男女 5,000 人 |
| (2) 調査地域 | 那覇市全域 |
| (3) 抽出方法 | 年齢等間隔抽出法（住民基本台帳による等間隔抽出）による |
| (4) 調査方法 | 配布・回収共に郵送法による |
| (5) 調査期間 | 2018 年 9 月 1 日～9 月 30 日（30 日間） |

4. 調査票の送付状況

住民基本台帳より年齢等間隔抽出法にて抽出を行った 5,000 人に調査票を送付して回答を依頼した。送付者の性別、年代別、居住地区別の内訳は、概ね本市の人口構成に比例させて、以下の通りとなった。

		送付実数	送付比率
合 計		5,000 人	100.0%
性別	男 性	2,506 人	50.1%
	女 性	2,494 人	49.9%
年代別	10 代	126 人	2.5%
	20 代	625 人	12.5%
	30 代	775 人	15.5%
	40 代	937 人	18.7%
	50 代	787 人	15.7%
	60 代	792 人	15.8%
	70 代以上	958 人	19.2%
居住地区別	本 庁	1,556 人	31.1%
	真 和 志	1,654 人	33.1%
	小 禄	899 人	18.0%
	首 里	891 人	17.8%

5. 回収状況

(1) 回収実数と回収率

調査票の送付・回収は郵送法にて行った。総数で 1,264 人の回収があった。有効回収実数、回収率、そして性別、年代別、居住地区別の回収実数、回収率は、以下の通りとなった。

		回収実数	／	送付実数	回収率 (%)
合 計		1,264 人	／	5,000 人	25.3%
性別	男 性	546 人	／	2,506 人	21.8%
	女 性	711 人	／	2,494 人	28.5%
	性別無回答	7 人	／	-	-
年代別	10 代	24 人	／	126 人	19.0%
	20 代	108 人	／	625 人	17.3%
	30 代	183 人	／	775 人	23.6%
	40 代	231 人	／	937 人	24.7%
	50 代	199 人	／	787 人	25.3%
	60 代	231 人	／	792 人	29.2%
	70 代以上	285 人	／	958 人	29.7%
	年代無回答	3 人	／	-	-
居住地区別	本 庁	448 人	／	1,556 人	28.8%
	真 和 志	322 人	／	1,654 人	19.5%
	小 禄	218 人	／	899 人	24.2%
	首 里	243 人	／	891 人	27.3%
	居住地区無回答	33 人	／	-	-

(2) 集計方法

単純集計・クロス集計

6. 報告書の読み方

- (1) 結果は百分率で表示した。少数点第 2 位を四捨五入したため、合計が 100%と一致しない場合がある。
- (2) 回答者を限定する質問では、限定質問該当者数を分母として用いた。
- (3) 経年変化に係る分析は、過去の調査等のデータを用いている。
- (4) 回答比率の小さいものは、グラフ表示などで読み取りづらい場合があり、数値表示を省略している場合がある。
- (5) 「わからない」及び「無回答」の解析は、特に必要がない限り行わない。
- (6) 指標調査は、「第 5 次那覇市総合計画」に掲げられた「目標値」の達成状況を中心に分析を行った。
- (7) 各質問の単純集計グラフの種類においては、特に意図がある場合を除き、単一回答の場合は円グラフによるパーセント表示を採用し、複数回答の場合は横棒グラフによるパーセント表示（回答者数を母数とする割合）を採用した。
- (8) 複数回答の場合は、母数を回答総数ではなく、回答者数としているため、パーセント表示の合計が 100%を超えている。
- (9) 円グラフ等の表示においては、特に意図がある場合を除き、選択肢のトップから順に濃い色から薄い色へ変化するように表示の統一を行った。
- (10) 不適切な回答（選択肢にすべて○をつける、相反する選択肢に○をつける等）については、原則として無回答として処理しているが、回答者の意思の表明が読み取れるもの（訂正、取り消し等）は、できる限り反映させて処理した。

7. 調査票

次項に当該調査に使用した調査票を掲載する。

1. 男性 2. 女性

1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代
5. 50代 6. 60代 7. 70代以上

1. 本庁 2. 真和志 3. 小緑 4. 首里

1. 1年未満 2. 1～2年 3. 3～5年
4. 6～10年 5. 11～20年 6. 21年以上

1. 一戸建て(持ち家・借家) 2. 分譲マンション 3. 賃貸(アパート・マンション)
4. 公営住宅(市営・県営など) 5. 社宅・公官舎・寮
6. その他(具体的に:)

1. 愛着を感じる 2. 愛着を感じない 3. どちらともいえない

1. 公共交通の便がよいから
2. 通勤・通学・買い物など生活に便利だから
3. 子育て環境がよいから（保育施設や教育施設の充実など）
4. 地域の文化芸術や伝統芸能が豊かだから
5. 地域のコミュニティ活動（校区まちづくり協議会等）が活発だから
6. レジャー施設・公園などが充実しているから
7. 景色・景観がよいから
8. 公共施設（公民館・図書館・支所等）が充実しているから
9. 自然環境が豊かだから
10. その他（ ）

質問 7. 那覇市の住み心地について、あなたはどのように思いますか。

- | | | |
|------------|-------------|-----------|
| 1. 非常に住みよい | 2. まあ住みよい | 3. 普通だと思う |
| 4. 少し住みづらい | 5. 非常に住みづらい | |

(2) 自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について

質問 8. あなたのご家庭は、自治会・通り会・校区まちづくり協議会・PT(C)Aの活動に参加していますか。

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 参加している | 2. 参加していない（今後参加したい） |
| 3. 参加していない（今後も参加しない） | 4. わからない |

質問 8-1. 上記質問で「2」又は「3」を選択した方に伺います。活動に参加していない理由を次の中から1つお選びください。

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. 参加の仕方がわからない | 2. 自治会などの地域コミュニティがない |
| 3. 勧誘がない | 4. 時間的にゆとりがない |
| 5. 永住する気がない | 6. わずらわしい |
| 7. 関心がない | 8. メリットを感じられない |
| 9. その他（具体的に：_____） | |

質問 9. あなたがお住まいの地域で、特に大きいと思われる課題について2つまでお選びください。

- | | | |
|------------------|--------------------------|------------|
| 1. 地域の美化・清掃 | 2. 自治会、PT(C)A、その他団体などの連携 | |
| 3. 防犯に関する取組 | 4. 防災に関する取組 | |
| 5. 青少年健全育成に関する取組 | 6. 一人暮らしのお年寄りへの支援 | |
| 7. 子育てに対する支援 | 8. 交通安全 | 9. 住民同士の交流 |
| 10. その他（ _____ ） | | |

(3) 市政への市民参加について

質問 10. 市政への関心について、次の中から1つお選びください。

- | | | |
|--------------|--------------|-------------|
| 1. 非常に関心がある | 2. まあ関心がある | 3. あまり関心がない |
| 4. まったく関心がない | 5. どちらともいえない | |

質問 11. 市民の市政参加を促すために、市がすべきだと思うことを次の中から2つまでお選びください。

- | | |
|------------------------------|----------------|
| 1. 参加の機会を増やす | 2. わかりやすい広報活動 |
| 3. 楽しく参加できる工夫 | 4. 参加の呼びかけを増やす |
| 5. インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる | |
| 6. 自治会などが行う地域活動の活性化 | 7. 市民活動団体への支援 |
| 8. その他（ _____ ） | |

質問 12. 今後、那覇市の情報発信に力を入れるべきだと思う媒体について、次の中から2つまでお選びください。

- | | | |
|----------------------------|------------------|--------|
| 1. 広報紙などは市民の友 | 2. 那覇市公式ホームページ | |
| 3. フェイスブックやラインなどのソーシャルメディア | | |
| 4. ラジオ | 5. 新聞 | 6. テレビ |
| 7. チラシやフリーペーパー | 8. その他 (_____) | |

(4) 議会への市民参加について

質問 13. あなたは議会に何を求めますか。次の中から2つまでお選びください。

- | | | |
|------------------|-------------------|------------|
| 1. 行政の監視機能 | 2. 政策や条例の提案 | 3. 議会情報の公開 |
| 4. 地域問題や市民相談への対応 | 5. 議会報告会や意見交換会の開催 | |
| 6. 議員定数や報酬などの見直し | 7. その他 (_____) | |

質問 14. 議会報告会で取り上げてほしいテーマを次の中から3つまでお選びください。

- | | | |
|---------------------|-------------------|------------|
| 1. 子育て支援・教育問題 | 2. 健康長寿対策 | 3. 医療や福祉問題 |
| 4. 環境問題 | 5. お住まいの地域の課題 | |
| 6. 産業・観光振興、経済活性化 | 7. 雇用・失業問題 | |
| 8. 中心市街地の活性化 | 9. 交通政策・都市計画 | |
| 10. 防災・防犯など安全なまちづくり | 11. 協働のまちづくり | |
| 12. 文化・芸能・スポーツ振興 | 13. その他 (_____) | |

(5) 平和行政・男女共同参画について

質問 15. 平和行政について、重点的に取り組むべきだと思うものを3つまでお選びください。

- | | |
|--------------------------------------|--------------------|
| 1. 米軍の事件・事故に対する取り組み | 2. 那覇港湾施設（那覇軍港）の返還 |
| 3. 平和・核廃絶を求める運動への支援 | 4. 那覇市戦没者追悼式の実施 |
| 5. 長崎などの平和発信都市の児童生徒との交流事業 | |
| 6. 市内小中学校との連携による平和学習の推進 | |
| 7. 那覇市の戦争資料の整理・展示 | |
| 8. 沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実 | |
| 9. その他 (_____) | |

質問 16. 社会全体でみた場合、男女の平等について、あなたはどのように思いますか。

- | | |
|-----------------|--------------------------|
| 1. 男性の方が優遇されている | 2. どちらかというと、男性の方が優遇されている |
| 3. 平等である | 4. どちらかというと、女性の方が優遇されている |
| 5. 女性の方が優遇されている | 6. わからない |

質問 17. 「性の多様性」に関する問題を人権問題ととらえ、「性の多様性を尊重する都市・なは」を宣言しました。戸籍上、同性であるお二人の申請に基づく、那覇市パートナーシップ登録制度など、「性の多様性」に関する取り組みについて、あなたはどのように思いますか。次の中

から1つお選びください。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 賛成 | 2. どちらかといえば賛成 |
| 3. どちらかといえば反対 | 4. 反対 |

(6) 誰もが移動しやすいまちについて

質問 18. 子どもからお年寄りまで、誰でも快適に移動できるまちづくりのために、重要だと思うものを次の中から3つまでお選びください。

- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| 1. 自転車を利用しやすくする | 2. オートバイを利用しやすくする |
| 3. タクシーを利用しやすくする | 4. バスを利用しやすくする |
| 5. モノレールを利用しやすくする | 6. 路面電車等の新しい交通手段を導入する |
| 7. 乗合タクシー（※）等を導入する | |
| 8. 歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する | |
| 9. 緑陰やベンチ等休憩施設を整備する | 10. 駐車場・駐輪場を整備する |
| 11. その他（ _____ ） | |

※乗合タクシー：利用者からの予約を受けて、定められた運行区域内で一般のタクシーを乗合で利用する新しいタイプの公共交通です。【例】真和志地域乗合タクシー

質問 19. バス、モノレール、タクシーの各公共交通について満足していますか。

- | | | |
|--------------|-----------|-------|
| 1. 非常に満足している | 2. 満足している | 3. 普通 |
| 4. 不満 | 5. 非常に不満 | |

質問 19-1. 上記質問で「4」又は「5」を選択した方に伺います。不満に感じていることを次の中から3つまでお選びください。

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1. バスが時間通りに来ない | 2. バスの便数が少ない |
| 3. バスの路線がわかりづらい | 4. バス停の間隔が長い（遠い） |
| 5. モノレールとバス、タクシーの乗り継ぎが不便 | |
| 6. タクシー乗り場が少ない | 7. 駅の案内表示、音声案内がわかりにくい |
| 8. モノレール車内が混雑している | 9. その他（ _____ ） |

(7) 協働によるまちづくりについて

質問 20. あなたが現在行っているボランティア活動の分野について、次の中から2つまでお選びください。

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 高齢者・障がいのある方への支援 | 2. 子どもの健全育成 |
| 3. まちづくりの推進、地域安全 | 4. 環境保全 |
| 5. キャリア教育、社会教育など生涯教育 | 6. 学術、文化、芸術、スポーツの振興 |
| 7. 観光、平和、国際交流 | 8. その他（ _____ ） |
| 9. 行っていない | |

質問 21. 行政機関がボランティア活動を支援する場合、どのようなことをしたらよいと思いますか。次の中から 2 つまで お選びください。

1. 市民への情報発信（ホームページの充実やボランティア団体の活動の紹介等）
2. 技術や知識などの研修会、講習会の開催
3. 活動中の事故に対する保険制度の整備・援助
4. ポイント制を導入したポイントに応じて特典を設けられる制度
5. ボランティアを求める側とボランティアをしたい側との仲介（マッチング・コーディネート）
6. その他（_____）

質問 22. 那覇市では、協働によるまちづくりを実践している団体の代表者や、団体が推薦する方々を「協働大使」として委嘱しております。

「協働大使」にどのような役割を期待しますか？次の中から 1 つ お選びください。

1. 協働大使としての活動の継続
2. 那覇市及び協働団体との連携強化
3. 協働大使の周知と広報活動の強化
4. 協働大使について知らないので分からない

（8）市街地活性化について

質問 23. あなたが、次の中心市街地商店街へ行く回数をそれぞれ 1 つ お選びください。

- | | | | | |
|---------|---|------------|------------|------------|
| 【国際通り】 | { | 1. ほぼ毎日 | 2. 週 3～4 回 | 3. 週 1～2 回 |
| | | 4. 月 1～2 回 | 5. 年 1～2 回 | 6. 全く行かない |
| 【マチグッー】 | { | 1. ほぼ毎日 | 2. 週 3～4 回 | 3. 週 1～2 回 |
| | | 4. 月 1～2 回 | 5. 年 1～2 回 | 6. 全く行かない |

※マチグッー：「市場」を意味する方言。ここでは、昔ながらの市場・商店街。

[例] 第一牧志公設市場、平和通り商店街、沖映通り商店街、栄町市場商店街など。

質問 24. 国際通りやマチグッー等、中心市街地商店街を魅力あるものにするにはどのような方策が必要だと思いますか。次の中から 3 つまで お選びください。（実施主体は行政・民間を問わない）

1. 花や緑を増やす
2. 日かげ等の環境整備（暑さ対策）
3. 定期的にイベント等を開く
4. トランジットモール（※）などを充実させる
5. 気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす
6. 歩道や広場等でオープンカフェや屋台市を定期的開催する
7. 再開発により市街地を再生する
8. 市街地周辺部に駐車場を整備する
9. 駐輪場（バイク・自転車）を整備する
10. 託児施設や子供を自由に遊ばせられる場所を整備する
11. 個店の魅力を向上させる（人材育成・情報発信力強化等）
12. 映画館等アミューズメント施設を誘致する
13. 利用客へ共通サービス（駐車場割引券、ポイントカード等）を実施する
14. その他（_____）

※歩行者と公共交通（バス等）を優先させて、まちの賑わいを創出する歩行空間のこと。

(9) 子育て支援について

質問 25. 小学校就学前までの子育て支援策について、優先的に取り組んでほしい施策を、次の中から3つまでお選びください。

1. 公立保育所や認可保育所の受入児童数の拡大
2. 公立幼稚園での認定こども園での受入年齢などの拡充
3. 子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充
4. 病中・病後保育（病児保育）の拡充
5. 障がい児保育の拡充
6. 育児休業制度や育児支援事業の啓発
7. 保育、教育に関する経済的負担の軽減
8. 乳幼児医療費助成制度の拡充（対象年齢の引き上げ等）
9. その他（_____）

質問 26. こどもの貧困を解消し、こどものみらいを応援する取り組みとして、あなたが効果的だと思う施策は次のうちどれですか。次の中から3つまでお選びください。

1. 保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援
2. こどもの医療費助成など医療施策の充実
3. こどもの健康診査事業や子育て相談などの保健事業の充実
4. 無料学習塾やこども食堂などの居場所づくりの支援
5. 学力保障やこどもに寄り添う支援員（相談員）の配置など学校を中心とした支援の充実
6. 不登校・中退対策、キャリア教育などの子どもの就労支援
7. 職業訓練、雇用創出などの親への就労支援
8. 貧困対策を行うNPOや企業、団体への支援

質問 27. こどものみらいを応援する取り組みとして、あなたができると思うことを次の中から1つお選びください。

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1. 学習支援などのボランティア活動 | 2. 寄付や募金などの資金援助 |
| 3. 食材やサービスなどの物品提供 | 4. 無料学習塾やこども食堂などへの場の提供 |
| 5. 就労体験などの機会の提供 | 6. 地域のこどもたちへ挨拶・見守り活動 |

質問 28. 本市における子育て支援（保育所での延長保育、放課後児童クラブの設置等）の取り組みについて満足していますか。

- | | | | | |
|-------|---------|---------|-------|----------|
| 1. 満足 | 2. まあ満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 | 5. わからない |
|-------|---------|---------|-------|----------|

(10) 福祉について

質問 29. 地域の中で困っている方（高齢者、障がいのある方等）に対して、あなたができることはどのようなことですか。次の中から3つまでお選びください

- | | | |
|---------|--------|---------|
| 1. 話し相手 | 2. 買い物 | 3. 調理 |
| 4. 掃除 | 5. 洗濯 | 6. ゴミ出し |

- | | | |
|-------------------|-------------|-----------------|
| 7. 電球交換 | 8. 車等での送迎 | 9. 散歩等の運動への付き添い |
| 10. 見守り訪問 | 11. 災害時の手助け | |
| 12. その他 (_____) | | 13. できることはない |

質問 30. 那覇市が、障がいのある方も地域でともに暮らせるまちにするためには、どのような取り組みの充実が必要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1. 生活相談 | 2. 福祉サービス(介護・自立訓練・就労支援など) |
| 3. 医療等の助成 | 4. 年金・手当等 |
| 5. 割引・優遇制度(税関係・施設等割引など) | |
| 6. 補装具費・日常生活用具の給付 | 7. イベント等(運動会) |
| 8. 特になし | 9. その他 (_____) |

(11) 健康について

質問 31. あなたは、1 回 30 分以上の運動（ウォーキングなどを含む）をどの程度取り組んでいますか。

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. ほとんど毎日 | 2. 週 3 回以上 | 3. 週 1 ～ 2 回程度 |
| 4. 月 1 ～ 2 回程度 | 5. 関心はあるが機会がない | 6. 関心がない |

(12) 文化・芸術について

質問 32. 那覇市が振興したほうが良いと考える文化芸術の分野は何ですか。次の中から3つまでお選びください。

- | | |
|----------------------------------|-------------------|
| 1. 古典芸能（組踊、能・狂言、歌舞伎、文楽など） | |
| 2. 演劇（沖縄芝居、ミュージカルを含む） | |
| 3. 洋舞（バレエ、ヒップホップなど） | |
| 4. 邦舞（琉球舞踊、日本舞踊） | |
| 5. ポップス、ジャズ、ロックなど | |
| 6. クラシック音楽（オーケストラ、オペラ、吹奏楽など） | |
| 7. 合奏、歌唱 | |
| 8. 美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真） | |
| 9. 映像・アニメーションなど | |
| 10. デザイン（グラフィックデザイン、プロダクトデザインなど） | |
| 11. 文芸 | 12. その他 (_____) |

質問 33. 1 年間にどのくらいの頻度で劇場や市民会館などへ鑑賞に出掛けますか。次の中から1つお選びください。

- | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| 1. 年に 1 ～ 2 回程度 | 2. 年に 3 ～ 4 回程度 | 3. 年に 5 ～ 6 回程度 |
| 4. 年に 7 回以上 | 5. ほとんど行かない | |

(13) 観光意識について

質問 34. 那覇市内における観光客の増加や、観光地としての整備が進むことによる生活環境の変化について、あなたはどのように思いますか。次の中から3つまでお選びください。

1. 自然環境や景観、伝統文化・芸能が保存・継承されている
2. 道路や景観が整備され、生活環境の質を高めている
3. 高賃金の仕事、雇用を生み出している
4. 新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している
5. レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている
6. マナーや習慣の違いにより、日常的なトラブルが生じている
7. 地域が受け入れられる観光客の量を超えていると感じている
8. 不特定多数の来訪者の増加に不安を感じている
9. その他（ _____ ）

(14) 緑のまちについて

質問 35. あなたは、住んでいる地域の花や緑（公園の緑や街路樹、公共や民間の緑化）に満足していますか。

- | | | |
|---------|---------|----------|
| 1. 満足 | 2. まあ満足 | |
| 3. やや不満 | 4. 不満 | 5. わからない |

(15) 生涯学習について

質問 36. あなたは、どのような活動に興味があり学んでみたいと思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1. 動物愛護やごみ問題などの自然環境活動 | 2. 食育や生活習慣病予防などの健康活動 |
| 3. 避難訓練などの地域防災活動 | 4. 介護や障がいのある方への支援などの福祉活動 |
| 5. 趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動 | |
| 6. その他（ _____ ） | |

(16) 青少年育成について

質問 37. あなたは、地域の青少年（小学生～29 歳まで）とどのように関わっていますか。あてはまるものをすべてお選びください。

1. あいさつや地域行事への参加の声掛け
2. 青少年団体へ寄付をするなど金銭的な支援で関わっている
3. 部活動のコーチや読み聞かせ、登下校の見守りなど学校支援を通して関わっている
4. 地域の青年会や子ども会活動などで関わっている
5. 特に関わりがない

(17) 消防行政について

質問 38. あなたは、応急手当（心肺蘇生法及び AED の取扱い）の講習を受けたことがありますか。

- | | |
|-------------|------------------------|
| 1. 受けたことがある | 2. 受けたことはないが、受けてみたい |
| 3. 受けたくない | 4. どちらともいえない（受けたことがない） |

(18) 防災対策について

質問 39. あなたが実施している防災対策は何ですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1. 非常用食糧の備蓄 | 2. 家具などの転倒・落下防止策 |
| 3. 避難場所・経路の確認 | 4. ハザードマップの確認 |
| 5. 家族間での連絡方法の確認 | 6. 防災訓練への参加 |
| 7. 家屋の耐震化 | 8. 自治体や勤務先の防災情報メールに登録 |
| 9. その他（ _____ ） | 10. 特にやっていない |

質問 40. あなたが市に特に力を入れてほしい災害対策は何ですか。次の中から3つまでお選びください。

- | | |
|---|------------|
| 1. 非常用食糧の備蓄 | |
| 2. 高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援 | |
| 3. 防災に関するパンフレット・チラシ等の発行・提供 | |
| 4. 避難路・避難場所・津波避難ビルの整備・指定 | |
| 5. 地域の防災リーダーの育成・活用 | 6. 防災訓練の充実 |
| 7. 防災に関するイベント・講演会 | |
| 8. インターネット（自治体ホームページ、フェイスブックなど）による防災情報の提供 | |
| 9. 防災行政無線などの通信設備の整備による情報伝達手段の拡充 | |
| 10. ボランティアの育成、受け入れ、活用 | |
| 11. 自主防災組織が使用する防災用資機材の整備 | |
| 12. 企業や各種団体との災害時応援協定の締結 | |
| 13. その他（ _____ ） | |

(19) 環境について

質問 41. 資源循環型社会の形成促進のため、本市では、次に掲げるものを資源化物としてリサイクルしています。今後も資源化物としての取り扱いを続けてほしいものをすべてお選びください。

- | | | |
|----------|-----------|-----------------|
| 1. 紙類 | 2. 布類 | 3. 缶類（アルミ・スチール） |
| 4. ガラスビン | 5. ペットボトル | 6. 草木 |

【総合計画の指標調査】

ここでは、第5次那覇市総合計画で設定された指標について調査します。

質問 42. あなたは、主食、主菜、副菜の3つを組み合わせる食べることが1日2回以上あるのは週に何日ありますか。次の中から1つお選びください。

「主食」とは、ごはん、パン、麺類などの料理

「主菜」とは、魚介類、肉類、卵類、大豆。大豆製品を主材料にした料理

「副菜」とは、野菜類、海藻類、きのこ類を主材料にした料理

- | | |
|-------------|-----------|
| 1. ほとんど毎日 | 2. 週に4～5日 |
| 3. 週に2～3日程度 | 4. ほとんどない |

質問 43. 地球環境保護のため、あなたが実践していることは何ですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1. 電気の節約 | 2. 水の節約 |
| 3. マイバッグ、マイはし、マイボトルの使用 | |
| 4. ごみの減量 | 5. 紙・布・缶・ビン・ペットボトル・草木の分別 |
| 6. 生ごみの堆肥化 | 7. エコドライブの実践 |
| 8. 公共交通の利用 | 9. ノーマイカーデーの実践 |
| 10. 地産地消の実践 | 11. 環境にやさしい商品の選択 |
| 12. 屋上・壁面等緑化、緑のカーテンの実践 | |
| 13. 太陽光発電の利用 | 14. 太陽熱温水器の利用 |
| 15. ハイブリッド車・電気自動車等の利用 | |
| 16. 省エネ家電・製品の利用 | 17. エコキュートやエネファームの利用 |
| 18. クールビズの実践 | |

質問 44. 文化芸術を鑑賞したり習い事をしたりする機会や、優れた地域文化にふれる機会など、本市内での文化的な環境に満足していますか。

- | | | |
|---------|---------|----------|
| 1. 満足 | 2. まあ満足 | |
| 3. やや不満 | 4. 不満 | 5. わからない |

【その他】

質問 45. 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになりますか。次の中から1つだけ点数をお選びください。



質問 46. その他、那覇市の市政に関するご意見やご提言があれば、下記へご記入をお願いします。

--

【市の政策に対する満足度・重要度調査】

那覇市では、第5次総合計画に基づき、様々な政策を展開しています。本市の取り組んでいる23の政策に対する「満足度」と「重要度」について、あてはまる番号に○をつけてください。

問.47

下記の政策1～23について、最も当てはまると思われるものを1つずつ選んで、右側の番号に○をご記入ください。実感や印象、経験でお答えください。

	満足度 (現在、どの程度満足していますか)					重要度 (今後、どの程度重要だと思いますか)				
	満足	まあ満足	やや不満	不満	わからない	高い	まあ高い	やや低い	低い	わからない
本市の第5次総合計画 政策(取組)	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
【めざすまちの姿】 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA										
小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり (自治会や校区まちづくり協議会への活動支援等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
地域の力が重なる安全安心のまちづくり (防犯・交通安全活動の推進、防災体制の強化等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり (平和・国際交流の推進等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり (人権尊重、男女共同参画推進等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
【めざすまちの姿】 互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA										
地域で暮らし地域で支えるまちづくり (福祉・介護・障がいのある方への支援、子どもの貧困対策等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり (健康づくりの実践、こころの健康維持等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり (地域医療の充実等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり (生活衛生・食品衛生・感染症対策等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
【めざすまちの姿】 次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA										
子育てが楽しくなるまちづくり (子育て支援、待機児童対策等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり (学力向上、教育環境の整備等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり (スポーツ施設等の整備、青少年健全育成等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり (文化財の保全、文化芸術・芸能活動の支援等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

【市の政策に対する満足度・重要度調査】

	満足度 (現在、どの程度満足していますか)					重要度 (今後、どの程度重要だと思いますか)				
	満足	まあ満足	やや不満	不満	わからない	高い	まあ高い	やや低い	低い	わからない
本市の第5次総合計画 政策(取組)	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
【めざすまちの姿】 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA										
ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり (観光客受入体制の整備、観光資源の発掘・創造等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり (産業振興、中小企業支援等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり (労働環境の改善、就労支援、人材育成の推進等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
中心市街地を活かしたまちづくり (商店街・マチグラーの振興等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
【めざすまちの姿】 自然環境と都市機能が調和した住みつけたいまち NAHA										
省エネを実践し、資源が循環するまちづくり (省エネを実践するライフスタイルの推進、ごみ減量化等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり (魅力ある都市景観の形成、道路美化等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり (交通体系の整備等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり (安全安心で快適な道路や公園の整備等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり (都市計画、土地利用等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
【基本構想を推進するために】 市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営を行う										
市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり (行政サービスの電子化等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
効率的で効果的な行財政運営を行う (市民満足度の高いサービスの提供等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

お忙しい中、調査にご協力いただきありがとうございました。
記入もれや記入間違いがないか再度ご確認の上、同封の返信用封筒(切手不要)
に入れて9月30日(日)までに郵便ポストにご投函をお願いします。

Ⅱ. 調査結果の概要

II. 調査結果の概要

1. 日常生活等に関する意識調査結果の概要・要約

平成 30 年度実施の日常生活等に関する意識調査結果の概要は、下記の通りである。

(1) 住み心地について

約 8 割の市民が那覇市に対して「自分のまち」として愛着を感じている。

那覇市を「非常に住みよい」と感じている市民の割合は、前回調査からほぼ横ばいになっており、「まあ住みよい」と感じている市民の割合が増加していることから、市民の住み心地は維持できていると考えられる。



- 79.3%の市民が那覇市に愛着を感じている。
- 居住地区別では、本庁・首里地区の愛着度が最も高く、小禄地区が最も低い（住み心地では、小禄地区が最も高くなっている）。
- 愛着を感じる理由は「通勤・通学・買い物など生活に便利だから」が72.7%で最も高く、次いで「公共交通の便がよいから」が57.6%となっている。
- 住み心地が「普通以上」と感じている市民は92.7%である。さらに「非常に住みよい」、「まあ住みよい」を合わせて「住みよい」と感じている市民は65.2%で、過去調査で2番目に高い。

(2) 自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について

31.7%の市民が自治会、校区まちづくり協議会等へ「参加している」と回答しており、前回調査時から、あまり変動はない。

自治会や校区まちづくり協議会等地域コミュニティ活動への参加率を向上させるためには、地域コミュニティ活動へ「参加していない」と回答した市民の理由について、個人的な理由以外に、「地域コミュニティがない」、「勧誘がない」などの地域の事情があることから、参加を希望する者を受け入れる体制の整備が必要である。

地域の課題としては「防犯に関する取組」、「一人暮らしのお年寄りの支援」と回答した市民が多い。また、本庁地区、小禄地区では「防犯に関する取組」、真和志地区、首里地区では「一人暮らしのお年寄りへの支援」が最も高い。居住地区によって課題が異なることから、それぞれに適した対策が求められている。

- 自治会、校区まちづくり協議会等に参加している市民は、特に首里地区で高い割合を示している。
- 年代や居住年数が高くなるのに比例して、自治会等の参加率は高まっている。
- 「参加していない」と回答した市民の理由は、「時間的にゆとりがない」が31.6%、次いで「自治会などの地域コミュニティがない」が12.2%となっている。
- 地域の課題としては「防犯に関する取組」が25.0%と前回調査と同様、最も割合が高い。



(3) 市政への市民参加について

市政へ関心がある市民は 63.2%となっており、市政に対する関心は、前々回調査結果(68.1%)以降、減少傾向にある。

市民が市の情報発信に力を入れるべき媒体としては、「広報紙なは市民の友」、「新聞」の割合が高い。

しかし、年代別において 60 代以上で同様の結果となった一方で、20・30 代では、「フェイスブックやラインなどのソーシャルメディア」の割合が高いことから、属性別に広報の方策を展開することが必要であると考えられる。



- 市政へ関心のある市民は 63.2%、関心がない市民は 24.0%である。
- 市民の市政参加を促すために「わかりやすい広報活動」、「楽しく参加できる工夫」が望まれている。
- 市の情報発信に力を入れるべきだと思う媒体については、「広報紙なは市民の友」が 39.5%で最も高く、次いで「新聞」が 32.2%、「テレビ」が 25.7%の順となっている。
- 年代別においては、「フェイスブックやラインなどのソーシャルメディア」が 20代で 58.3%、30代で 49.7%と高い割合を占めている。

(4) 議会への市民参加について

市民が議会へ求めていることは、「地域問題や市民相談への対応」、「議員定数や報酬などの見直し」が多い。

また、議会報告会で取り上げてほしいテーマとして、10 代~40 代は「子育て支援・教育問題」、50 代以上では「医療や福祉問題」などライフステージに応じたテーマがあげられている。



- 議会に求めることについて「地域問題や市民相談への対応」が 54.7%と全体及び全ての属性別において最も割合が高く、続いて「議員定数や報酬などの見直し」が 32.6%、「議会情報の公開」が 27.8%の順となっている。
- 市民が議会報告会で取り上げてほしいテーマとしては「医療や福祉問題」が 45.0%、「子育て支援・教育問題」が 43.2%、「防災・防犯など安全なまちづくり」が 32.4%、「交通政策・都市計画」が 25.5%となっている。

(5) 平和行政・男女共同参画について

平和行政について、市民が最も望む取り組みは「米軍の事件・事故に対する取り組み」となっている。

年代別にみると 10 代～20 代、60 代～70 代で「米軍の事件・事故に対する取り組み」の割合が最も高く、30 代～50 代以上では「沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実」の割合が高くなっている。

男女の平等について、男性が優遇されていると思う市民は 65.0%、女性が優遇されていると思う市民は 6.8%。

「性の多様性」についての取り組みは、「賛成」が「反対」を大幅に上回る結果となっている。市では、「男女平等」、「性の多様性」の取り組みに対し支持または理解を示す市民を増やしていく事を目標に掲げており、市の取り組みが概ね受け入れられていると考えられる。



- 平和行政について最も市民が望む取り組みは、「米軍の事件・事故に対する取り組み」の 56.6%と最も高く、次いで「沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実」が 55.4%となっている。
- 男女共同参画について、「どちらかという、男性の方が優遇されている」が 47.0%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が 18.0%、「平等である」が 12.9%の順となっている。
- 「性の多様性」に関する取り組みについては、「賛成」が 46.8%と最も多く、次いで「どちらかといえば賛成」が 33.3%、「どちらかといえば反対」が 10.4%の順となっており、「賛成」が「反対」を大きく上回っている。性別でみると、女性は男性より「賛成」・「どちらかといえば賛成」の割合が高い。年代別でみると、全ての年代で「賛成」・「どちらかといえば賛成」の割合が「反対」・「どちらかといえば反対」を上回っている。

(6) 誰もが移動しやすいまちについて



誰でも快適に移動できるまちづくりのために重要だと思うものは、「歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する」、「バスを利用しやすくする」ことである。

各公共交通について「満足している」市民は 18.4%に対し、「不満」な市民は 29.4%であり、「不満」が「満足」を上回っている。

- 誰でも快適に移動できるまちづくりのために重要だと思うものは、「歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する」が 48.6%と最も多く、次いで「バスを利用しやすくする」が 46.9%となっている。
- 各公共交通について、満足しているかについては、「普通」が 49.9%と最も多く、次いで「不満」が 23.4%、「満足している」が 16.1%の順となっている。
- 各公共交通の不満に感じていることは、「バスが時間通りに来ない」が 54.8%と最も高く、次いで、「バスの路線がわかりづらい」が 48.1%、「バスの便数が少ない」が 37.9%と、上位 3 位までを「バス」に対する不満が占めている。

(7) 協働によるまちづくりについて

市民が行っているボランティア活動について、「行っていない」が7割弱となっている。

行政機関に求めるボランティア活動を支援する取組みとしては、「ボランティアを求める側としたい側との仲介（マッチング・コーディネート）」が期待されている。



市民が「協働大使」に期待する役割について、「協働大使について知らないのでわからない」が7割弱と最も多いことから、その存在、目的、役割を周知することが重要である。

また、ボランティア活動については必要とされているボランティア活動の内容について、情報提供を行うことなどが重要である。

- 市民が行っているボランティア活動について「行っていない」が69.3%と最も多く、次いで「子供の健全教育」の8.7%となっている。
- 行政機関が行うボランティア活動支援としては「ボランティアを求める側としたい側との仲介（マッチング・コーディネート）」が46.5%で最も高く、次いで「市民へ情報発信（ホームページの充実やボランティア団体の活動の紹介等）」が45.3%となっている。
- 市民が「協働大使」に期待する役割について、「協働大使について知らないのでわからない」が67.6%で最も多く、次いで「協働大使の周知と広報活動の強化」が10.9%となっている。

(8) 市街地活性化について

市民が国際通り、マチグラー等の中心市街地商店街へ行く頻度は、「年1～2回」が最も多い。「全く行かない」と「年1～2回」を合わせると、国際通りで6割弱、マチグラーで7割弱となっており、中心市街地商店街へ殆ど行かない市民の割合が増加傾向にある。



中心市街地商店街を魅力あるものにするための必要な方策として「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」を望む声が最も多く、ついで「市街地周辺部に駐車場を整備する」、「日かげ等の環境整備（暑さ対策）」である。中心市街地商店街の活性化に向け、快適に過ごせる環境整備や歩いて楽しめる通り自体の魅力や利便性の向上について取り組む必要があると思われる。

- 国際通りに「全く行かない」が21.8%、「年1～2回」が37.6%である。
マチグラーに「全く行かない」が29.0%、「年1～2回」が40.5%である。
- 中心市街地商店街を魅力あるものにするための必要な方策として「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」が54.3%、「市街地周辺部に駐車場を整備する」34.9%、「日かげ等の環境整備（暑さ対策）」29.6%の順となっている。

(9) 子育て支援について



小学校就学前までの子育て支援について優先的に取り組んでほしい施策は、「公立保育所や認可保育所の受入児童数の拡大」が最も多く、次いで「保育、教育に関する経済的負担の軽減」となっている。

こどもの貧困を解消し、こどものみらいを応援する取組として効果的だと思う施策は「経済的支援」が最も多く、次に「居場所づくりの支援」となっている。

こどものみらいを応援する取組みとして、市民ができると思うことは、「地域のこどもたちへの挨拶・見守り活動」である。

- 子育て支援策について優先的に取り組んでほしい施策は「公立保育所や認可保育所の受入児童数の拡大」が 62.3%、次いで「保育、教育に関する経済的負担の軽減」が 49.7%となっている。
- こどもの貧困を解消し、こどものみらいを応援する取組として効果的だと思う施策は「保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援」が 57.8%、次いで「無料学習塾やこども食堂などの居場所づくりの支援」が 51.3%となっている。
- こどものみらいを応援する取組みとして、市民ができると思うことは「挨拶・見守り」が 33.1%で最も多く、次いで「寄付や募金などの資金援助」が 24.9%となっている。
- 本市における子育て支援について満足しているかについて、「満足」「まあ満足」を合わせると 24.0%、「不満」「やや不満」を合わせると 18.7%となっている。

(10) 福祉について

市民が地域で困っている方（高齢者、障がいのある方等）にできる取り組みとして、「話し相手」が最も多く、次いで「災害時の手助け」である。

障がいのある方も地域とともに暮らせるまちにするためには、「福祉サービス（介護・自立訓練・就労支援など）」や「生活相談」等の充実が求められている。

- 市民が困っている方（高齢者、障がいのある方等）にできる取り組みとして、「話し相手」が 45.4%で最も多く、次いで「災害時の手助け」が 29.2%となっている。
男女別にみると、男性は「災害時の手助け」、女性は「買い物」の割合が高くなっている。
- 障がいのある方も地域とともに暮らせるまちにするためには、「福祉サービス（介護・自立訓練・就労支援など）」が 72.1%で最も高く、次いで「生活相談」が 50.3%、「医療等の助成」が 47.9%の順となっている。



(11) 健康について



1 回 30 分以上の運動を週 3 回以上取り組んでいる市民は3割。一方で、取り組む関心はあるが、機会がない市民も3割弱となっている。

年代別でみると、20 代以下と 60 代以上で、週 1 ～2 回以上運動をしている市民が半数を超えている。一方、30 代～50 代は年代が上がるにつれて、運動をする機会が減る傾向がある。

- 1 回 30 分以上の運動への取り組みに対して、「関心はあるが機会がない」が 29.7%、次いで「週 1～2 回程度」が 23.6%、「週 3 回以上」が 16.1%の順となっている。

(12) 文化・芸術について

那覇市が振興したほうが良いと考える文化芸術の分野は「演劇」が最も多く、次いで「古典芸能」となっている。

一方で、劇場や市民会館などへ鑑賞には「ほとんど行かない」という市民は 5 割を超えており、年代別でみると年代層が低いほど「ほとんど行かない」という割合が高くなる傾向がある。



- 那覇市が振興したほうが良いと考える文化芸術の分野は「演劇（沖縄芝居、ミュージカルを含む）」が 43.8%で最も高く、次いで「古典芸能（組踊、能・狂言、歌舞伎、文楽など）」が 41.6%、「美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真）」が 37.1%の順となっている。
- 1 年間に劇場や市民会館などへ鑑賞に出掛ける頻度については、「ほとんど行かない」が 55.9%で最も多く、次いで「年に 1～2 回程度」が 25.5%、「年に 3～4 回程度」が 10.3%の順となっている。

(13) 観光意識について



那覇市内における観光客の増加や、観光地としての整備が進むことによる生活環境の変化について、「レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている」と 7 割近くの市民が感じており、全ての属性別においても、最も高い回答結果となっている。

- 観光客の増加や、観光地としての整備が進むことによる生活環境の変化について、「レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている」が 67.6%と最も高く、次いで「マナーや習慣の違いにより、日常的なトラブルが生じている」が 41.7%、「新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している」が 34.3%の順となっている。

(14) 緑のまちについて

居住地域の花や緑に「満足」している市民は 53.0%。
「不満」な市民は 36.7%で居住地域の花や緑に対して
「満足」している市民の方が多い。

居住地区別では首里地区で「満足」が 6 割をこえて
いるのに対し、本庁地域では 5 割を下回っている。

- 住んでいる地域の花や緑（公園の緑や街路樹、公共や民間の緑化）に対して、「まあ満足」が 47.5%で最も多く、次いで「やや不満」が 24.8%、「不満」が 11.9%の順となっている。



(15) 生涯学習について

市民が、興味があり学んでみたい活動は「趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動」が最も多い。

性別でみると、男性は「趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動」、女性は「食育や生活習慣病予防などの健康活動」の割合が最も高くなっている。

- 興味があり学んでみたい活動については、「趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動」が 46.6%で最も高く、次いで「食育や生活習慣病予防などの健康活動」が 42.3%、「動物愛護やごみ問題などの自然環境活動」が 24.4%の順となっている。

(16) 青少年の育成について

市民の地域青少年との関わりについて、「特に関わりがない」が 7 割以上を占めている。

- 地域の青少年とどのように関わっているかについては、「あいさつや地域行事への参加の声掛け」が 13.8%と最も高く、次いで「部活動のコーチや読み聞かせ、登下校の見守りなど、学校支援を通して関わっている」が 4.2%、「青少年団体への寄付をするなど金銭的な支援で関わっている」が 3.5%の順となっている。

(17) 消防行政について

応急手当（心肺蘇生法及び AED の取扱い）の講習を受けたことがあると回答した市民の割合は約 4 割。若い年代ほど受講経験がある割合は高く、10 代～40 代では「受けたことがある」、「受けてみたい」を合わせると 8 割を超えており、応急手当講習に対する必要性和関心の高さを示している。

- 応急手当法の講習を「受けたことがある」市民は 41.1%で最も多く、次いで「受けてみたい」市民は 30.8%の順である。
- 若い年代ほど応急手当法の受講経験がある市民の割合が高くなっており、10 代で 66.7%、20 代においては 71.3%が受講の経験がある。



(18) 防災対策について

市民が実施している防災対策について、「特にやっていない」が約 4 割となっており、ほぼすべての属性で高い割合を占めていることから、防災対策に関する情報提供や意識啓発にさらに取り組んで行く必要がある。

市民が特に力を入れてほしい災害対策は「高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援」が 5 割以上となっている。



- 市民が実施している防災対策については、「避難場所・経路の確認」が 26.1%で最も高く、次いで「家族間での連絡方法の確認」が 21.2%、「非常用食糧の備蓄」が 18.7%の順となっている。
- 那覇市に特に力を入れてほしい災害対策については、「高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援」が 54.5%で最も高く、次いで「非常用食糧の備蓄」が 44.4%、「避難路・避難場所・津波避難ビルの整備・指定」が 41.1%の順となっている。

(19) 環境について



資源化物として取り扱いを続けてほしいものは「缶類（アルミ・スチール）」、「ペットボトル」「紙類」などである。

- 資源循環型社会の形成促進のために、資源化物として取り扱いを続けてほしいものについては、「缶類（アルミ・スチール）」が 80.3%と最も高く、次いで「ペットボトル」が 79.9%、「紙類」が 78.6%の順となっている。草木を除き、資源化物としての取り扱いを 5 割以上の市民が続けてほしいと希望している。

2. 第5次総合計画の指標調査の概要・要約

平成30年度実施の第5次総合計画指標調査結果の概要は、下記の通りである。

第5次総合計画で掲げた指標のうち、今回の市民意識調査で確認した3つの指標については、「わからない」、「無回答」を含めて達成状況を判断するのか、除いて判断するのかが未確定のため、前回調査同様、「全回答」と「有意回答」の2つの場合に分けて確認を行った。

(1) 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者の割合

今回調査結果における目標の達成の状況は全回答で47.8%（有意回答は48.6%）

- 2022年度の間目標値57.0%に対し、全回答数で△9.2P、有意回答数で△8.4Pとなっており、中間目標値に対して着実に近づけていく政策が望まれる。

(2) 地域温暖化を防ぐための実践項目数

今回調査結果における実践項目数の状況は平均4.11個

- 前回調査よりも1.07個減少しており、2016年の基準値の5個を下回る結果となった。平成26年度以降、減少傾向にあるため、2022年の中間目標値8個の達成に向けて取組みの改善が必要である。

(3) 市民が文化活動を主体的に行う機会や、優れた文化や地域文化を観たり、ふれる機会が充実しているまちと思う人の割合

今回調査結果における充実しているまちと思う市民の割合は32.0%（有意回答は62.0%）

- 第5次那覇市総合計画において、基準値である36.0%に対して有意回答では達成しているものの、全回答ではわずかに及ばない結果となった。今後は「わからない」と回答した43.9%の市民の満足度を上げる施策を行っていく必要がある。

3. 第5次総合計画の各政策に対する満足度・重要度調査の概要・要約

平成30年度実施の第5次総合計画各政策に対する満足度・重要度調査結果の概要は、下記の通りである。

第5次総合計画で掲げた23の政策に対する市民の満足度・重要度は、概ね重要度が高い領域で、満足度も平均値の周辺に集中して分布するという結果となった。

満足度の合計点数平均 = 2,002点

満足度の有意回答者数平均 = 842人

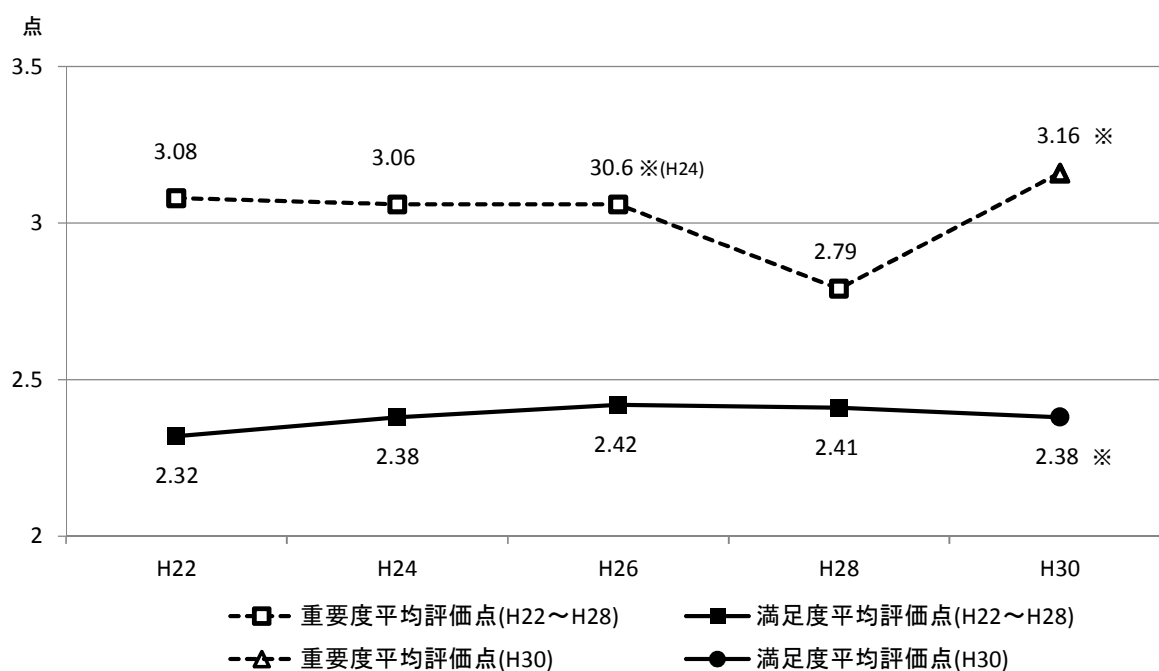
満足度の一人当たり平均評価点 = 2.38点

重要度の合計点数平均 = 3,149点

重要度の有意回答者数平均 = 997人

重要度の一人当たり平均評価点 = 3.16点

●満足度・重要度一人当たり平均評価点の経年変化グラフ（平成22年度～平成30年度）



今回の調査から第5次総合計画の政策となったことで、質問項目が前回と異なることから、単純比較は出来ないが、参考として、前回までの調査結果との経年変化を掲載した。

満足度については、政策23項目のうち全施策の平均点2.38以上の項目が10項目（前は25項目の内12項目）あることから、満足度に大きな変化はないと考えられる。

重要度については、政策23項目のうち全施策の平均点3.16以上の項目が12項目（前は25項目の内13項目）という結果となっている。

※H26調査は重要度調査を実施しておらず、H24調査の重要度を掲載している。

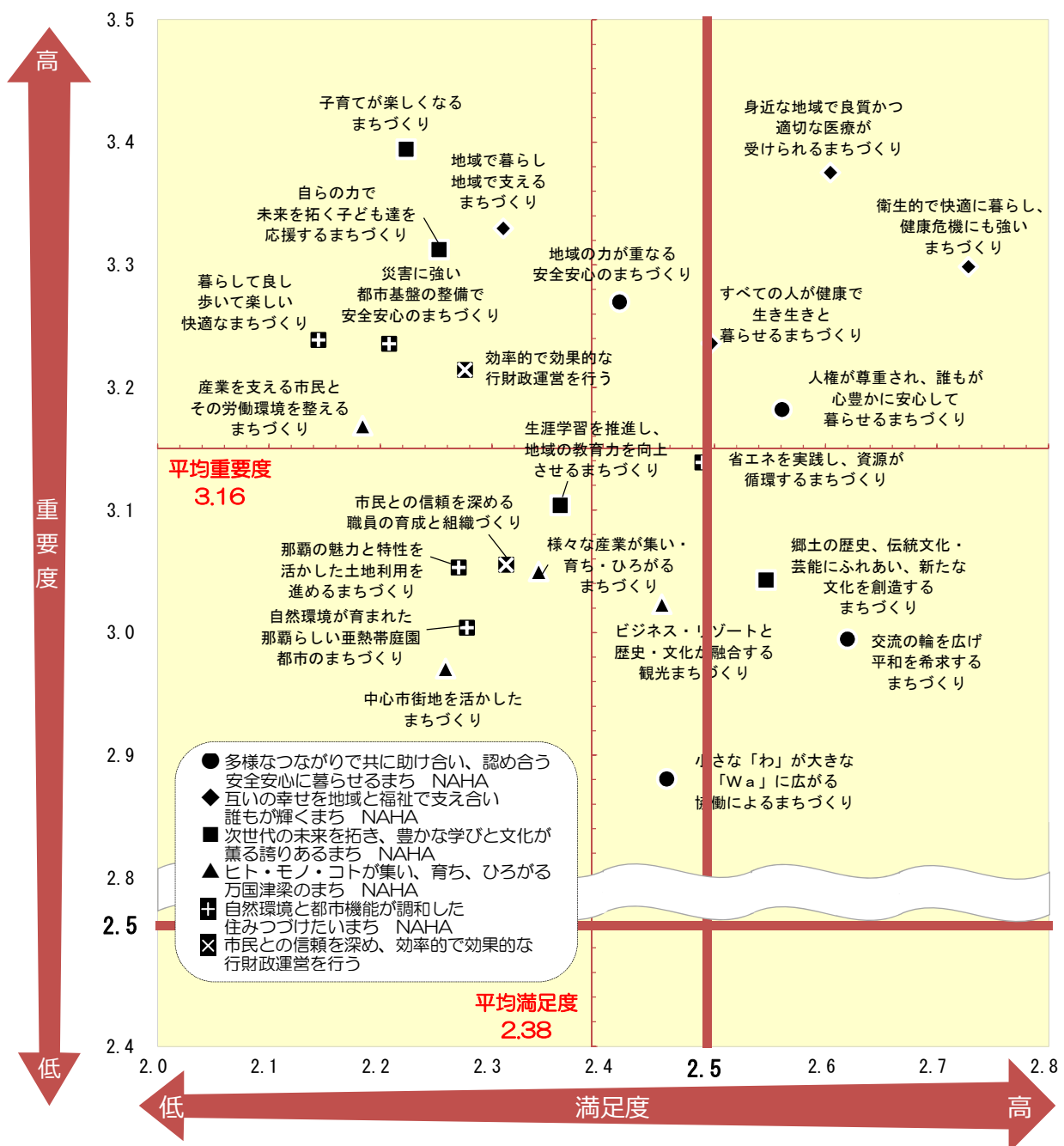
満足度・重要度とも相対的に高い評価を得た政策は、以下の5つの政策である。

- 衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり
- 身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり
- 人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり
- すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり
- 地域の力が重なる安全安心のまちづくり

満足度・重要度とも相対的に低い評価を得た政策は、以下の6つの政策である。

- 中心市街地を活かしたまちづくり
- 自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり
- 那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり
- 市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり
- 様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり
- 生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり

●平均満足度・平均重要度を中心とした23の個々の政策分布図



Ⅲ. 基本調査結果

Ⅲ. 基本調査結果

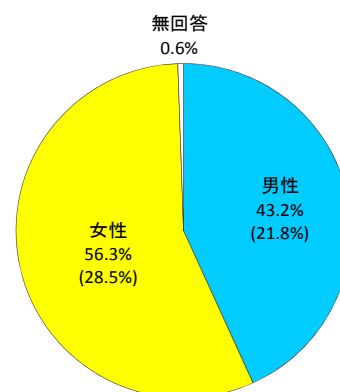
質問 1. あなたの性別は？

1. 男性 2. 女性

回答者の性別については、「男性」が546人（43.2%）、「女性」が711人（56.3%）、「無回答」が7人（0.6%）となっている。

男女比については、男性よりも女性が多いという那覇市の現状に近い標本数が確保されている。

選択項目	回答数	%
男性	546	43.2%
女性	711	56.3%
無回答	7	0.6%
合 計	1,264	100%



()内は送付数に対する回収率

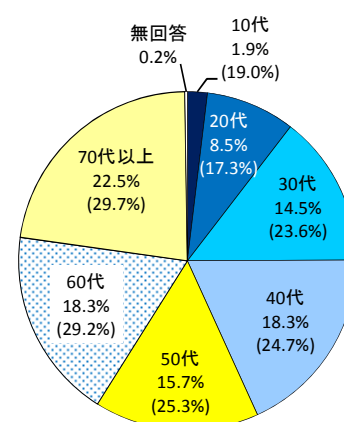
質問 2. あなたの年代は？

1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代
5. 50代 6. 60代 7. 70代以上

年代別の回収率をみると、「70代以上」が22.5%と最も多く、次いで「40代」、「60代」がともに18.3%の順となっている。

送付数に対する回収率は、「20代」の割合が低いものの概ね各年代の那覇市の現状に近い標本数が確保されている。

選択項目	回答数	%
10代	24	1.9%
20代	108	8.5%
30代	183	14.5%
40代	231	18.3%
50代	199	15.7%
60代	231	18.3%
70代以上	285	22.5%
無回答	3	0.2%
合 計	1,264	100%



()内は送付数に対する回収率

Ⅲ. 基本調査結果

質問 3. あなたがお住まいの地区は？

1. 本庁 2. 真和志 3. 小禄 4. 首里

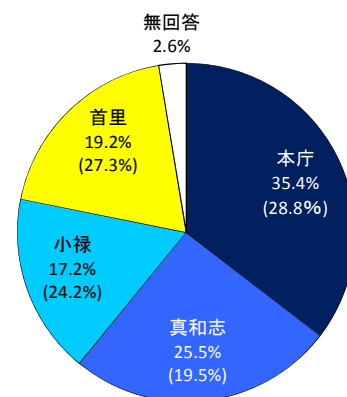
居住地区別については、送付数に対する回収率が「真和志地区」で低くなっているが、ほぼ那覇市の現状に近い標本数が確保されている。

また、「無回答」の中には、自分の居住地区が曖昧で、回答できなかった市民も含まれると推測される。



那覇市地区図

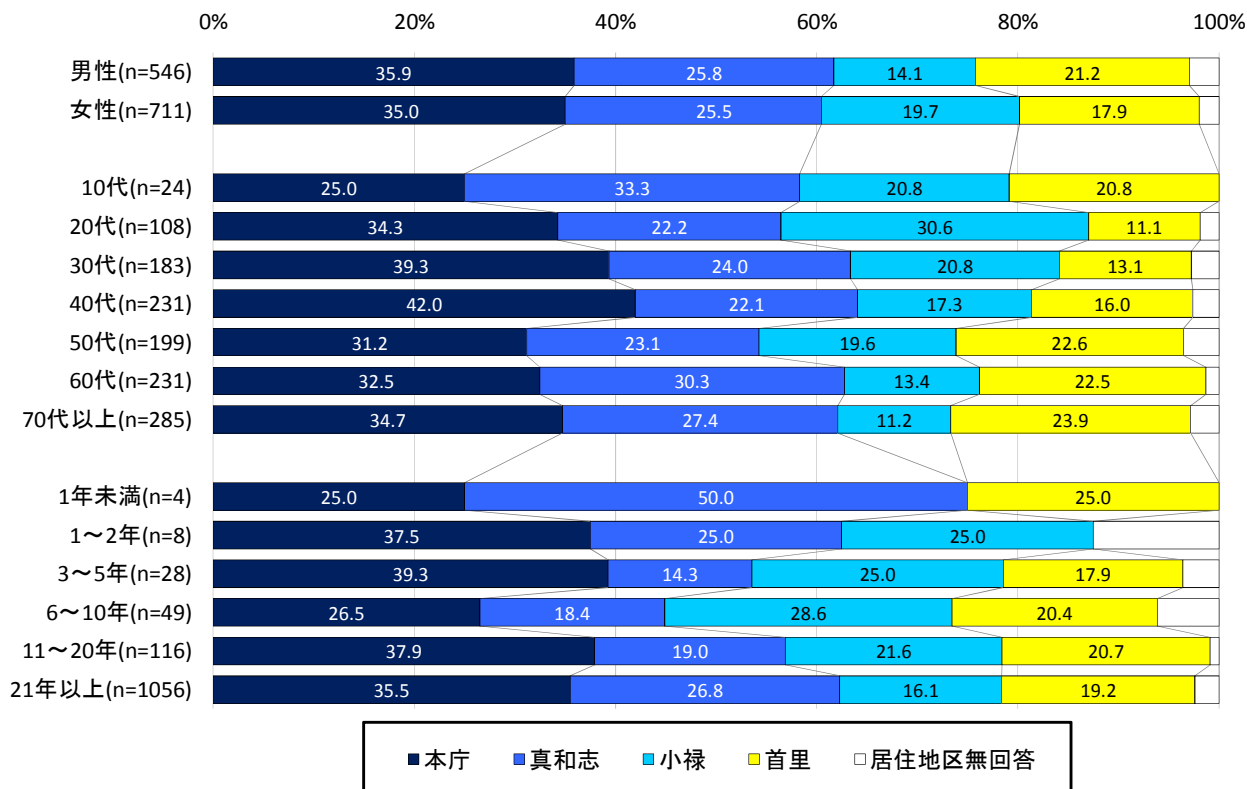
選択項目	回答数	%
本庁	448	35.4%
真和志	322	25.5%
小禄	218	17.2%
首里	243	19.2%
無回答	33	2.6%
合 計	1,264	100%



()内は送付数に対する回収率

【属性別集計（回答者属性無回答除く）】

属性別でみると、居住年数が「1～2 年」で居住地区について「無回答」の割合が高くなっている。

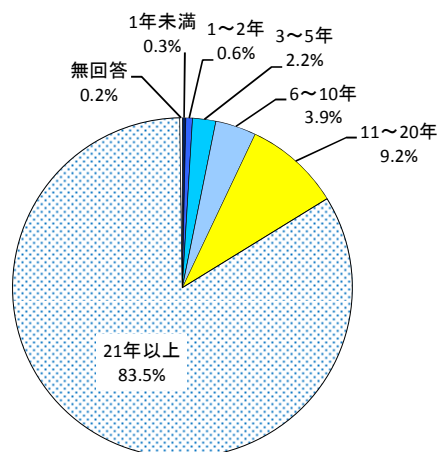


質問 4. あなたは那覇市にお住まいになって何年になりますか？

1. 1 年未満 2. 1～2 年 3. 3～5 年
4. 6～10 年 5. 11～20 年 6. 21 年以上

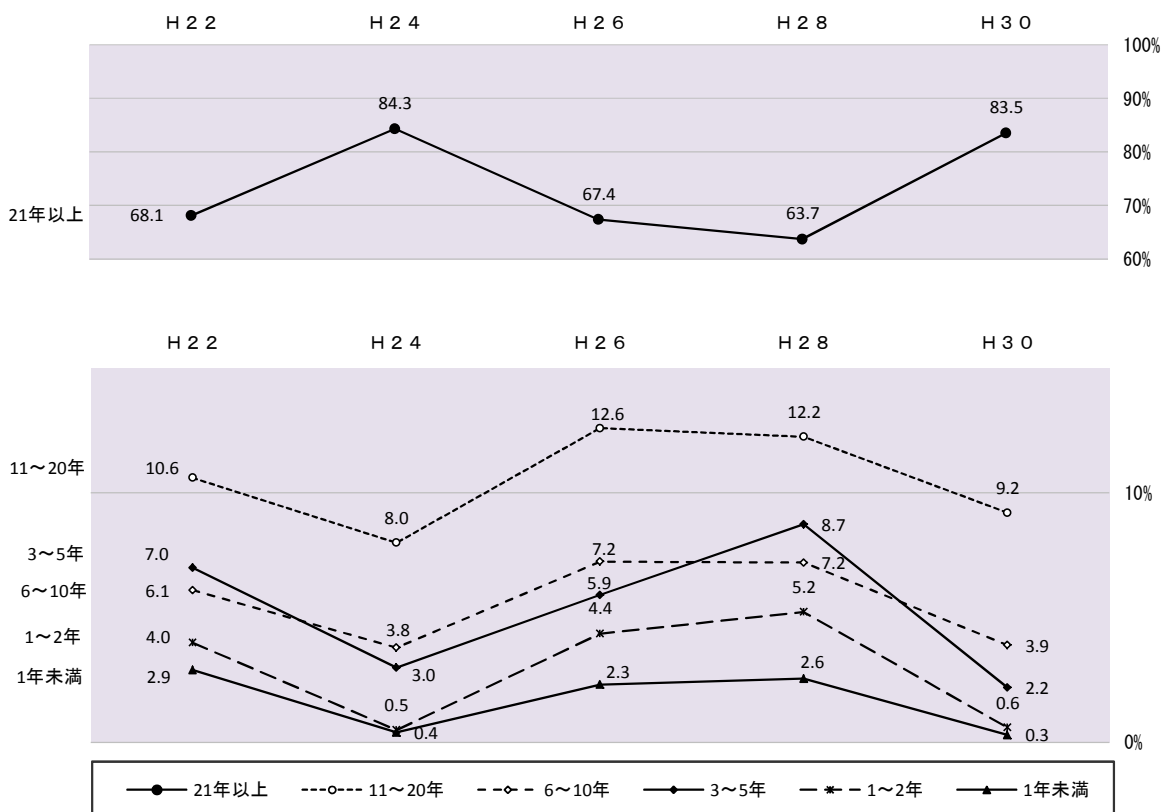
居住年数については、「21 年以上」が 83.5%と最も多く、次いで「11～20 年」が 9.2%、「6～10 年」が 3.9%の順となっており、居住年数に比例して回答割合が高いという結果になった。

選択項目	回答数	%
1 年未満	4	0.3%
1～2 年	8	0.6%
3～5 年	28	2.2%
6～10 年	49	3.9%
11～20 年	116	9.2%
21 年以上	1,056	83.5%
無回答	3	0.2%
合 計	1,264	100%



【経年変化（平成 22 年～平成 28 年）】

経年変化でみると、「21 年以上」は平成 28 年と比べ、19.8 ポイント増加している。



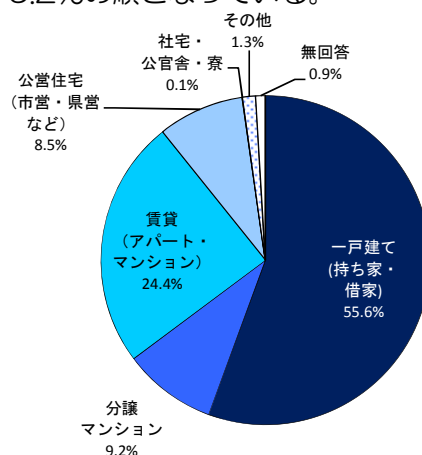
Ⅲ. 基本調査結果

質問 5. あなたのお住まいの住居形態は？次の中から 1つお選びください。

1. 一戸建て(持ち家・借家) 2. 分譲マンション 3. 賃貸(アパート・マンション)
4. 公営住宅(市営・県営など) 5. 社宅・公官舎・寮
6. その他(具体的に: _____)

住居形態別については、「一戸建て(持ち家・借家)」が 55.6%と最も多く、次いで「賃貸(アパート・マンション)」が 24.4%、「分譲マンション」が 9.2%の順となっている。

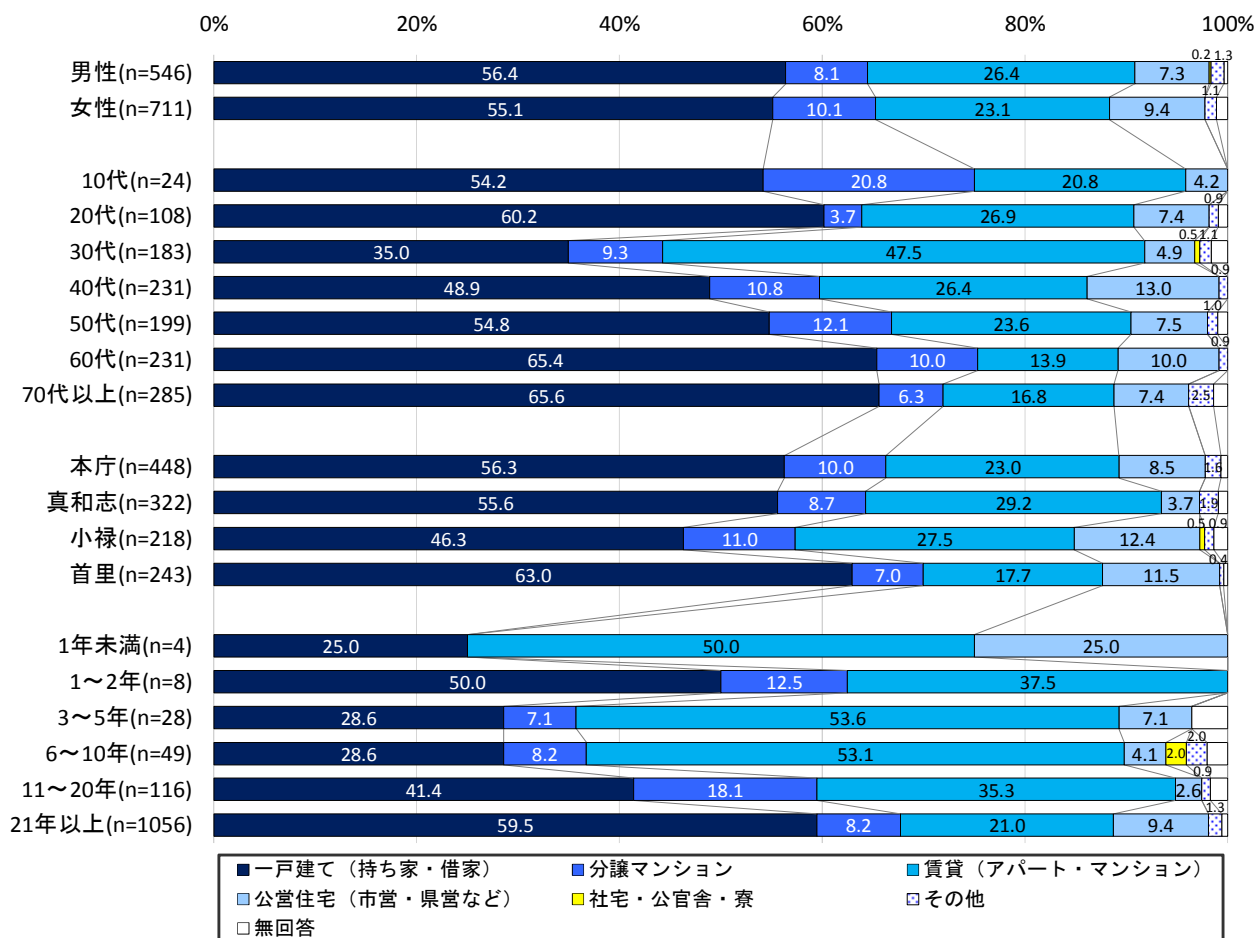
選択項目	回答数	%
一戸建て(持ち家・借家)	703	55.6%
分譲マンション	116	9.2%
賃貸(アパート・マンション)	309	24.4%
公営住宅(市営・県営など)	107	8.5%
社宅・公官舎・寮	1	0.1%
その他	16	1.3%
無回答	12	0.9%
合 計	1,264	100%



【属性別集計(回答者属性無回答除く)】

年代別でみると、30 代では、「賃貸(アパート・マンション)」の割合が最も高くなっており、年齢が上がるにつれて「一戸建て(持ち家・借家)」の割合が高くなる傾向にある。

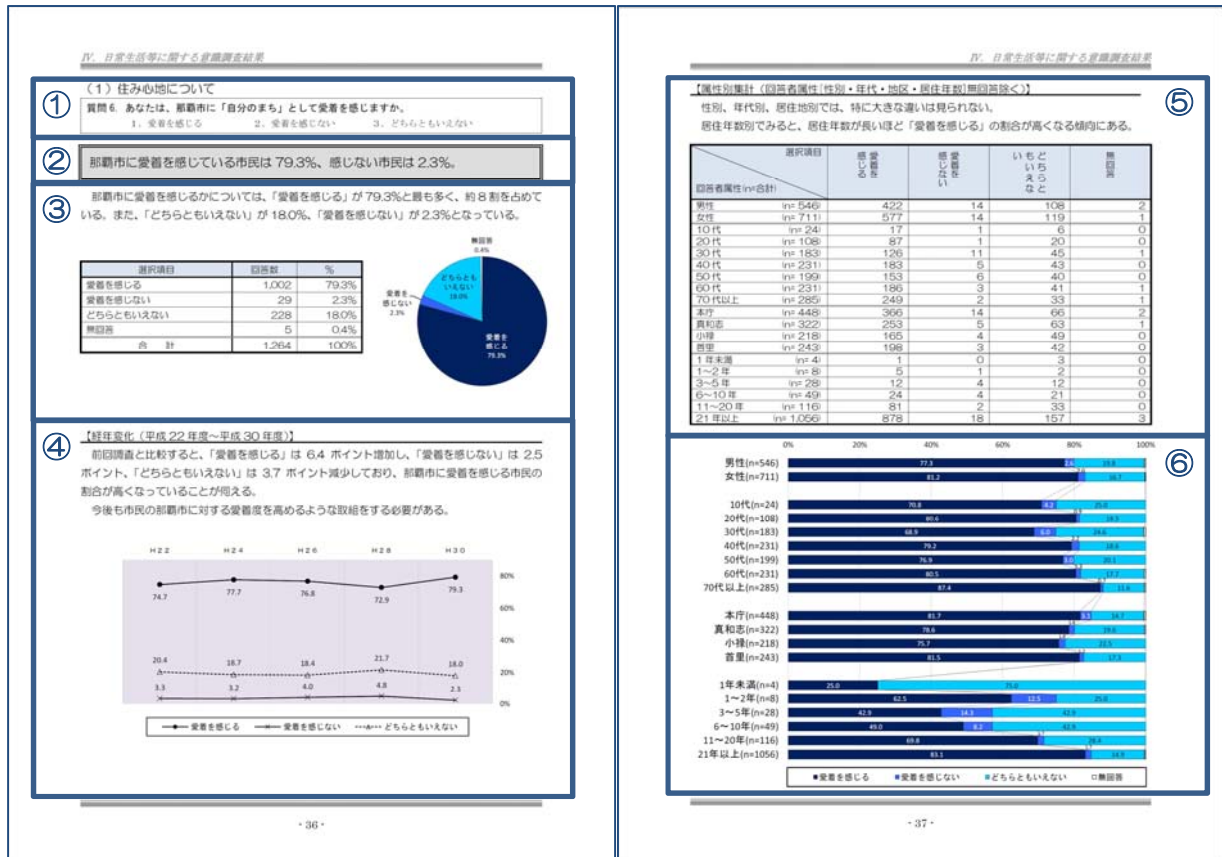
居住年数別でみると、1 年未満及び 3～10 年では「賃貸」の割合が高いが、11 年以上では「一戸建て(持家・借家)」の割合が高くなっている。



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

報告書の見方について



- ① 今回調査に使用したアンケート用紙の質問を掲載
- ② ①の質問に関し、③～⑥の表・グラフから分析した総括を掲載
- ③ ①の質問に関する、回答数の集計及び集計グラフを掲載
- ④ H22（2010 年）～H30（2018 年）までの、①と同種質問の経年変化グラフを掲載
- ⑤ ①の質問に関する回答を、属性（性別、年代、居住地区、居住年数）別に集計し掲載
- ⑥ ⑤において集計した結果を棒グラフにて掲載

※今回の「経年変化グラフ」及び「属性別集計表・グラフ」では、過去調査同様、無回答を含めた百分率で算出しているが、グラフの見やすさや、わかりやすさを考慮し、特に解析の必要が無い限り「無回答」「その他」等についてはグラフの表示を、比率の小さい選択項目については%表示を省略している。

(1) 住み心地について

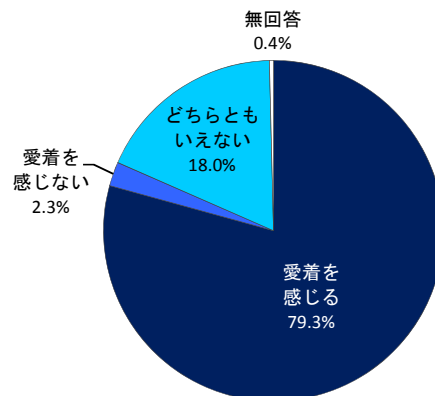
質問 6. あなたは、那覇市に「自分のまち」として愛着を感じますか。

1. 愛着を感じる 2. 愛着を感じない 3. どちらともいえない

那覇市に愛着を感じている市民は 79.3%、感じない市民は 2.3%。

那覇市に愛着を感じるかについては、「愛着を感じる」が 79.3%と最も多く、約 8 割を占めている。また、「どちらともいえない」が 18.0%、「愛着を感じない」が 2.3%となっている。

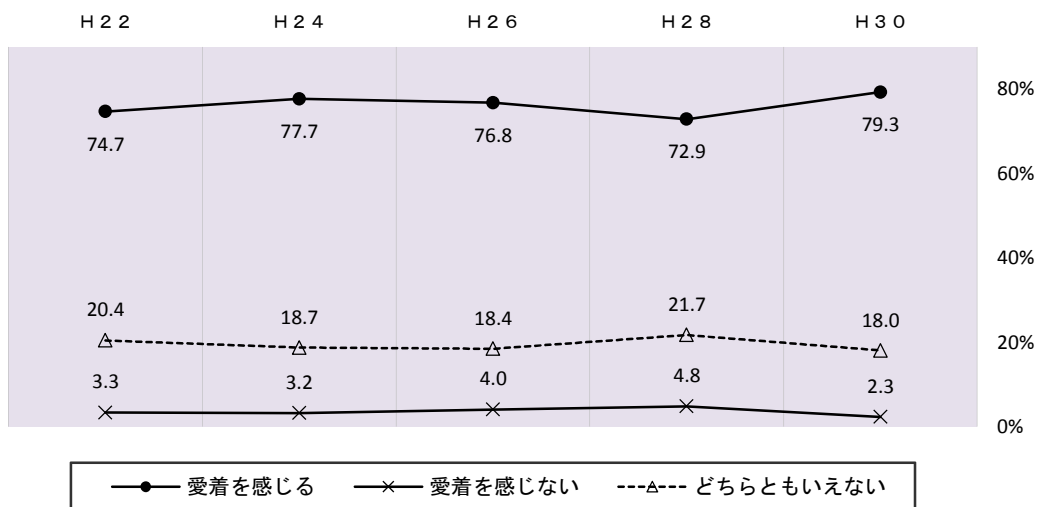
選択項目	回答数	%
愛着を感じる	1,002	79.3%
愛着を感じない	29	2.3%
どちらともいえない	228	18.0%
無回答	5	0.4%
合 計	1,264	100%



【経年変化（平成 22 年度～平成 30 年度）】

前回調査と比較すると、「愛着を感じる」は 6.4 ポイント増加し、「愛着を感じない」は 2.5 ポイント、「どちらともいえない」は 3.7 ポイント減少しており、那覇市に愛着を感じる市民の割合が高くなっていることが伺える。

今後も市民の那覇市に対する愛着度を高めるような取組をする必要がある。

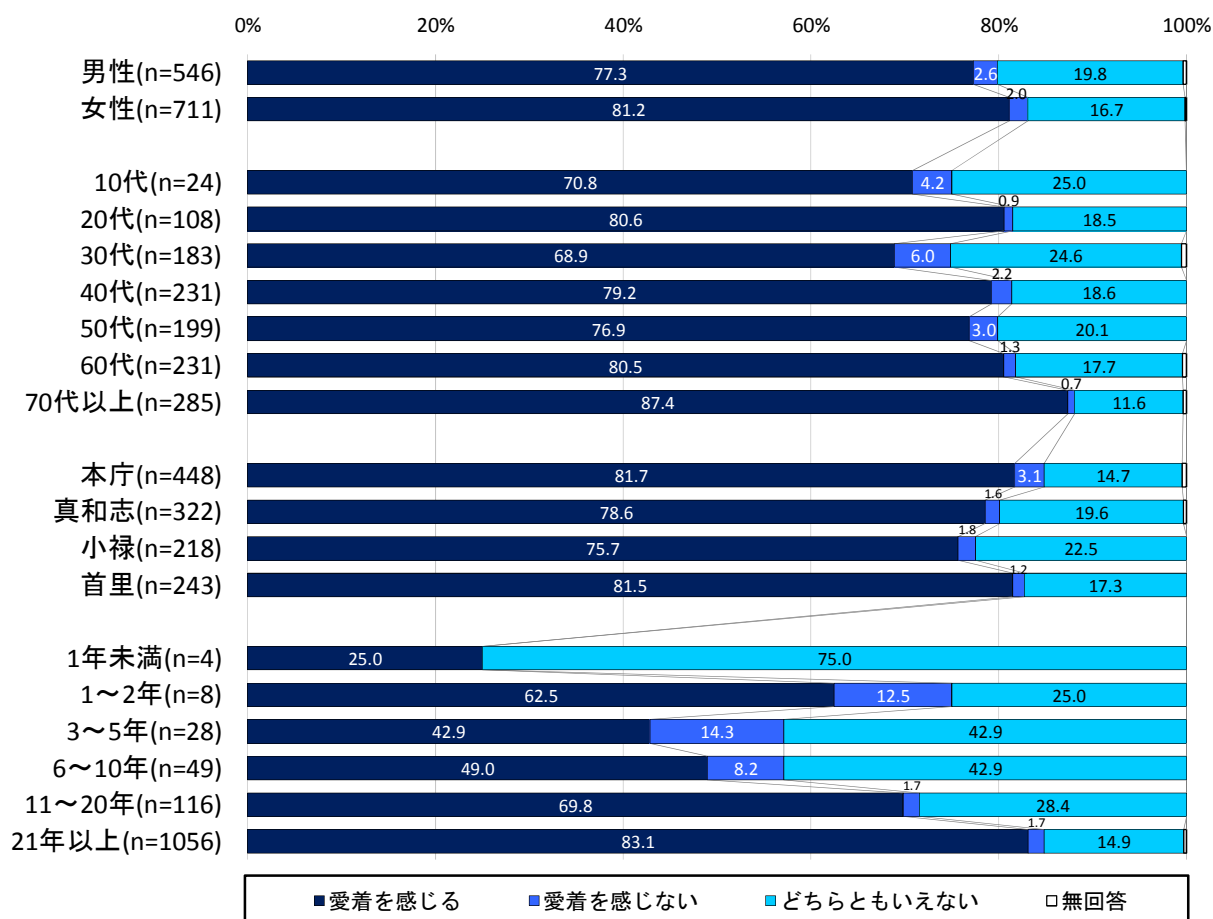


【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別、年代別、居住地別では、特に大きな違いは見られない。

居住年数別でみると、居住年数が長いほど「愛着を感じる」の割合が高くなる傾向にある。

回答者属性(n=合計)	選択項目	愛着を感じる	愛着を感じない	どちらともいえない	無回答
男性 (n= 546)		422	14	108	2
女性 (n= 711)		577	14	119	1
10代 (n= 24)		17	1	6	0
20代 (n= 108)		87	1	20	0
30代 (n= 183)		126	11	45	1
40代 (n= 231)		183	5	43	0
50代 (n= 199)		153	6	40	0
60代 (n= 231)		186	3	41	1
70代以上 (n= 285)		249	2	33	1
本庁 (n= 448)		366	14	66	2
真和志 (n= 322)		253	5	63	1
小禄 (n= 218)		165	4	49	0
首里 (n= 243)		198	3	42	0
1年未満 (n= 4)		1	0	3	0
1～2年 (n= 8)		5	1	2	0
3～5年 (n= 28)		12	4	12	0
6～10年 (n= 49)		24	4	21	0
11～20年 (n= 116)		81	2	33	0
21年以上 (n= 1,056)		878	18	157	3



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 6-1. 上記質問で「1」を選択した方に伺います。愛着を感じる理由を2つまでお選びください。

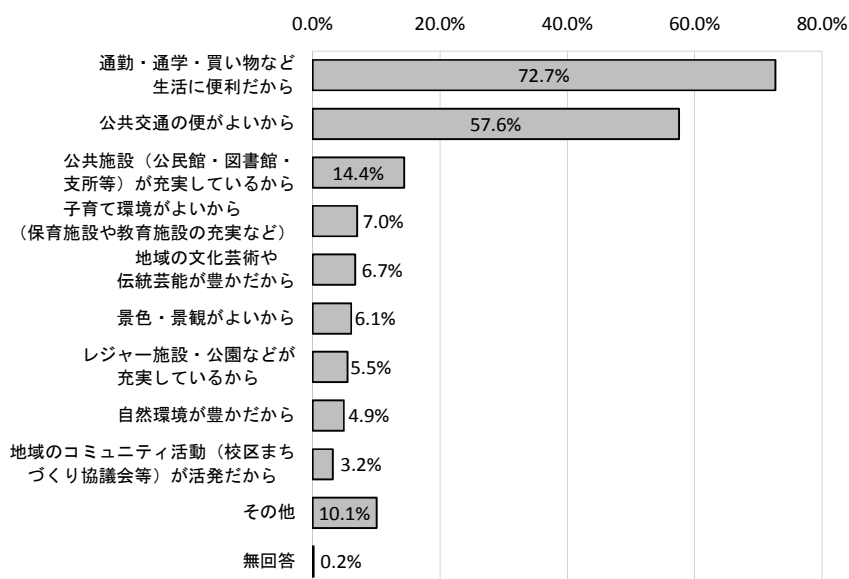
1. 公共交通の便がよいから 2. 通勤・通学・買い物など生活に便利だから
3. 子育て環境がよいから（保育施設や教育施設の充実など）
4. 地域の文化芸術や伝統芸能が豊かだから
5. 地域のコミュニティ活動（校区まちづくり協議会等）が活発だから
6. レジャー施設・公園などが充実しているから 7. 景色・景観がよいから
8. 公共施設（公民館・図書館・支所等）が充実しているから
9. 自然環境が豊かだから 10. その他（ ）

愛着を感じる理由は「通勤・通学・買い物など生活に便利だから」が72.7%。

愛着を感じる理由については、「通勤・通学・買い物など生活に便利だから」が72.7%と最も高く、次いで「公共交通の便がよいから」が57.6%、「公共施設（公民館・図書館・支所等）が充実しているから」が14.4%の順となっている。

順位	選択項目	回答数	%
1 位	通勤・通学・買い物など生活に便利だから	728	72.7%
2 位	公共交通の便がよいから	577	57.6%
3 位	公共施設（公民館・図書館・支所等）が充実しているから	144	14.4%
4 位	子育て環境がよいから（保育施設や教育施設の充実など）	70	7.0%
5 位	地域の文化芸術や伝統芸能が豊かだから	67	6.7%
6 位	景色・景観がよいから	61	6.1%
7 位	レジャー施設・公園などが充実しているから	55	5.5%
8 位	自然環境が豊かだから	49	4.9%
9 位	地域のコミュニティ活動（校区まちづくり協議会等）が活発だから	32	3.2%
-	その他	101	10.1%
-	無回答	2	0.2%
合 計		1,886	—
回答者数		1,002	188.2%

※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。



今回の調査結果から、那覇市が多くの企業や商業施設を有していることや、モノレールやバスなどの公共交通機関が整備されていることなど、生活における利便性の高さが市民の愛着度につながっていることが見受けられる。

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

年代別について、70 代以上では「公共交通の便がよいから」が最も多く、他の年代では「通勤・通学・買い物など生活に便利だから」が最も多くなっている。

70 代以上では、日常の移動手段として、モノレールやバスなどの公共交通機関を利用する人が多いことが伺える。

※■は第 1 位、■は第 2 位、□は第 3 位の項目

回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)		選択項目	公共交通の便が よいから	通勤・通学・ 買い物など生活に 便利だから	子育て環境がよいから (保育施設や教育施設の 充実など)	地域の文化芸術や 伝統芸能が 豊かなから	地域のコミュニティ活動 (校区まちづくり協議会 等) が活発だから	レジャー施設・公園など が充実しているから	景色・景観が よいから	公共施設(公民館・ 図書館・支所等) が 充実しているから	豊かな自然環境が あるから	その他	無回答
性別	男性 (n= 422)		213 50.5	298 70.6	37 8.8	40 9.5	19 4.5	30 7.1	24 5.7	63 14.9	23 5.5	42 10.0	1 0.2
	女性 (n= 577)		363 62.9	429 74.4	32 5.5	27 4.7	13 2.3	25 4.3	37 6.4	81 14.0	26 4.5	58 10.1	1 0.2
年代別	10代 (n= 17)		6 35.3	13 76.5	1 5.9	1 5.9	0 0	1 5.9	1 5.9	3 17.6	1 5.9	4 23.5	0 0
	20代 (n= 87)		48 55.2	69 79.3	3 3.4	4 4.6	1 1.1	8 9.2	4 4.6	14 16.1	1 1.1	8 9.2	0 0
	30代 (n= 126)		67 53.2	102 81.0	10 7.9	8 6.3	3 2.4	7 5.6	10 7.9	11 8.7	4 3.2	15 11.9	0 0
	40代 (n= 183)		106 57.9	150 82.0	11 6.0	11 6.0	6 3.3	6 3.3	10 5.5	20 10.9	4 2.2	20 10.9	0 0
	50代 (n= 153)		86 56.2	120 78.4	16 10.5	12 7.8	5 3.3	3 2.0	8 5.2	23 15.0	2 1.3	16 10.5	0 0
	60代 (n= 186)		112 60.2	132 71.0	17 9.1	16 8.6	5 2.7	8 4.3	15 8.1	31 16.7	8 4.3	11 5.9	0 0
	70代以上 (n= 249)		151 60.6	141 56.6	12 4.8	15 6.0	12 4.8	22 8.8	13 5.2	42 16.9	29 11.6	27 10.8	2 0.8
地区別	本庁 (n= 366)		213 58.2	279 76.2	23 6.3	19 5.2	14 3.8	23 6.3	16 4.4	41 11.2	15 4.1	41 11.2	0 0
	真和志 (n= 253)		134 53.0	186 73.5	20 7.9	13 5.1	7 2.8	15 5.9	16 6.3	45 17.8	16 6.3	22 8.7	0 0
	小祿 (n= 165)		114 69.1	130 78.8	8 4.8	4 2.4	4 2.4	11 6.7	8 4.8	22 13.3	3 1.8	13 7.9	0 0
	首里 (n= 198)		103 52.0	119 60.1	19 9.6	29 14.6	7 3.5	6 3.0	20 10.1	34 17.2	13 6.6	25 12.6	0 0
居住年数別	1年未満 (n= 1)		1 100.0	1 100.0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 100.0	0 0	0 0	0 0	0 0
	1～2年 (n= 5)		4 80.0	4 80.0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 20.0	1 20.0	0 0	0 0
	3～5年 (n= 12)		9 75.0	10 83.3	1 8.3	1 8.3	1 8.3	0 0	1 8.3	0 0	0 0	1 8.3	0 0
	6～10年 (n= 24)		13 54.2	20 83.3	2 8.3	3 12.5	1 4.2	2 8.3	0 0	1 4.2	2 8.3	1 4.2	0 0
	11～20年 (n= 81)		42 51.9	60 74.1	6 7.4	4 4.9	2 2.5	6 7.4	7 8.6	11 13.6	3 3.7	9 11.1	0 0
	21年以上 (n= 878)		507 57.7	632 72.0	61 6.9	59 6.7	28 3.2	47 5.4	52 5.9	131 14.9	43 4.9	90 10.3	2 0.2

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・生まれ育った場所だから (49 人) 女性-40 代-首里地区・他
- ・長年住んでいるから (14 人) 男性-10 代-本庁地区・他
- ・住み慣れた街だから (9 人) 女性-50 代-真和志地区・他

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 7. 那覇市の住み心地について、あなたはどのように思いますか。

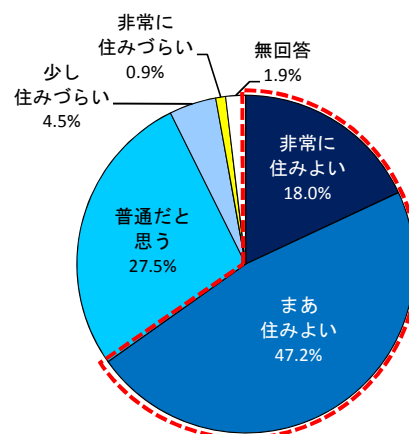
1. 非常に住みよい 2. まあ住みよい 3. 普通だと思う
4. 少し住みづらい 5. 非常に住みづらい

那覇市の住み心地が「住みよい（「非常に住みよい」と「まあ住みよい」の合計）」と感じている市民は 65.2%。

那覇市の住み心地については、「まあ住みよい」が 47.2%と最も多く、次いで「普通だと思う」が 27.5%、「非常に住みよい」が 18.0%の順となっている。

「少し住みづらい」と「非常に住みづらい」を合わせると 5.4%となっている。

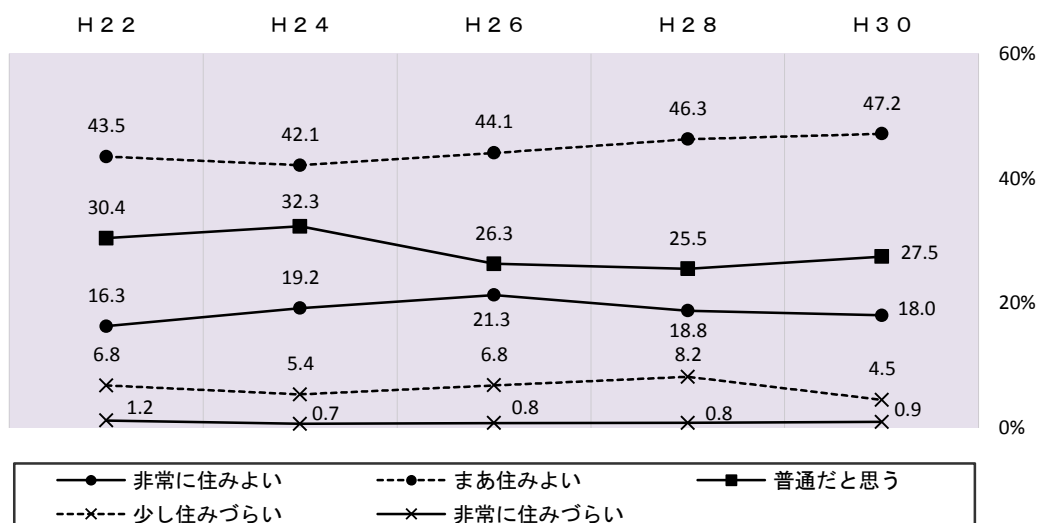
選択項目	回答数	%
非常に住みよい	228	18.0%
まあ住みよい	596	47.2%
普通だと思う	347	27.5%
少し住みづらい	57	4.5%
非常に住みづらい	12	0.9%
無回答	24	1.9%
合 計	1,264	100%



【経年変化（平成 22 年度～平成 30 年度）】

前回調査と比較すると、「非常に住みよい」と回答した市民の割合は 0.8 ポイント減少しているが、「まあ住みよい」は 0.9 ポイント増加しており、65.2%の市民が「非常に住みよい」、「まあ住みよい」と感じていることがわかる。

今回の調査では、「まあ住みよい」が 0.9 ポイント、「普通だと思う」が 2.0 ポイント増加し、「少し住みづらい」が 3.7 ポイント減少していることから、市民の住み心地に対する評価が少し上がっていることが伺える。

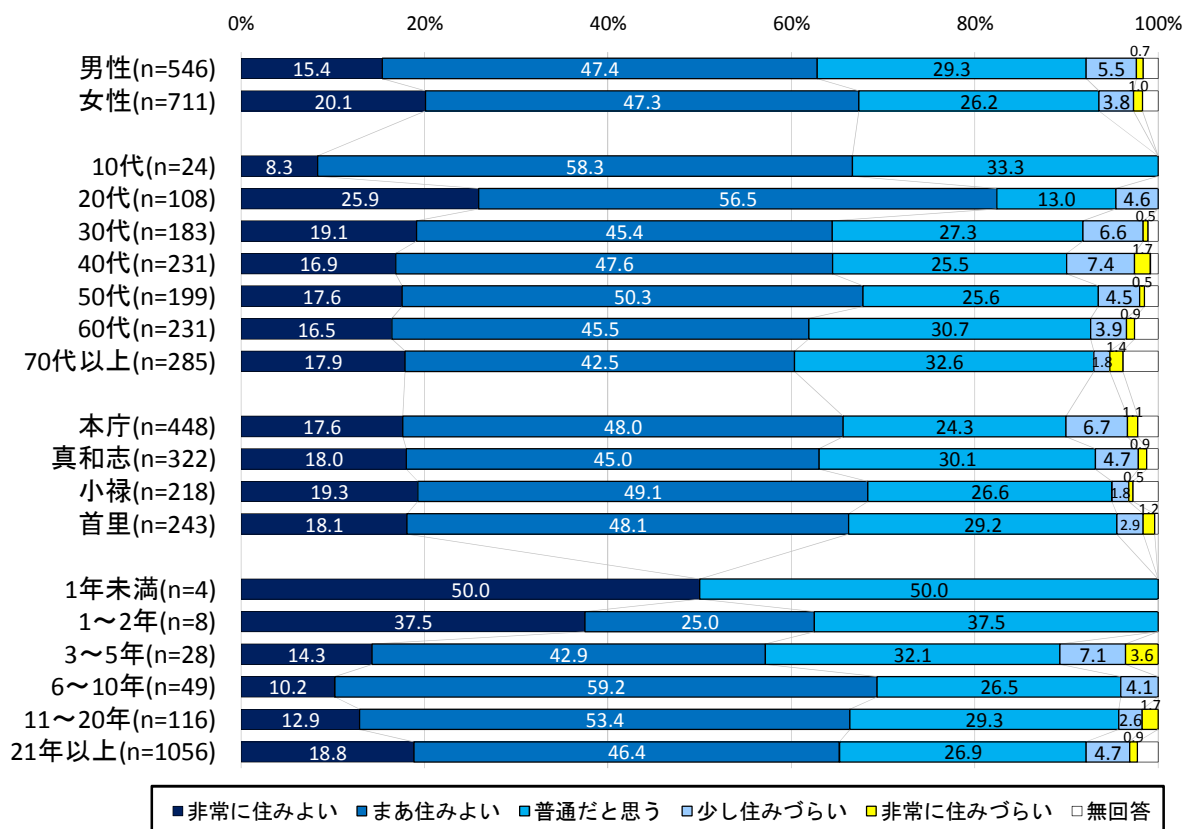


【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、女性は「非常に住みよい」と回答した割合がやや高くなっており、年代別でみると、20代は「非常に住みよい」と回答した割合が高くなっている。

居住年数別では、6～10年で「非常に住みよい」、「まあ住みよい」と回答した割合が最も高くなっている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	非常に 住みよい	まあ 住みよい	普通だ と思う	少し 住みづらい	非常に 住みづらい	無 回答
男性 (n= 546)		84	259	160	30	4	9
女性 (n= 711)		143	336	186	27	7	12
10代 (n= 24)		2	14	8	0	0	0
20代 (n= 108)		28	61	14	5	0	0
30代 (n= 183)		35	83	50	12	1	2
40代 (n= 231)		39	110	59	17	4	2
50代 (n= 199)		35	100	51	9	1	3
60代 (n= 231)		38	105	71	9	2	6
70代以上 (n= 285)		51	121	93	5	4	11
本庁 (n= 448)		79	215	109	30	5	10
真和志 (n= 322)		58	145	97	15	3	4
小禄 (n= 218)		42	107	58	4	1	6
首里 (n= 243)		44	117	71	7	3	1
1年未満 (n= 4)		2	0	2	0	0	0
1～2年 (n= 8)		3	2	3	0	0	0
3～5年 (n= 28)		4	12	9	2	1	0
6～10年 (n= 49)		5	29	13	2	0	0
11～20年 (n= 116)		15	62	34	3	2	0
21年以上 (n= 1,056)		199	490	284	50	9	24



(2) 自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について

質問 8. あなたのご家庭は、自治会・通り会・校区まちづくり協議会・PT(C)Aの活動に参加していますか。

1. 参加している
2. 参加していない（今後参加したい）
3. 参加していない（今後も参加しない）
4. わからない

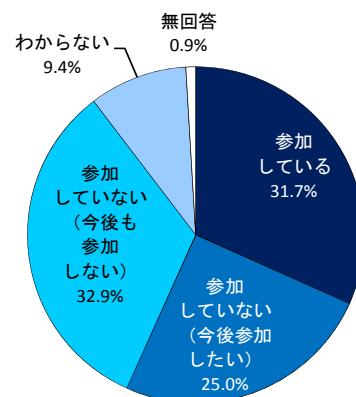
自治会や校区まちづくり協議会等に参加している市民は31.7%、参加していない市民は57.9%。

今回の調査では、地域コミュニティ活動の対象に「校区まちづくり協議会」や「PT(C)A」の活動を含めた参加状況についてアンケートを行った。

自治会・通り会・校区まちづくり協議会・PT(C)Aの活動に参加しているかについては、「参加していない（今後も参加しない）」が32.9%で最も多く、次いで「参加している」が31.7%、「参加していない（今後参加したい）」が25.0%の順となっている。

「参加していない（今後参加したい）」と「参加していない（今後も参加しない）」を合わせた市民の割合は57.9%となっており、今後も参加しない意向は3割を超えている。

選択項目	回答数	%
参加している	401	31.7%
参加していない（今後参加したい）	316	25.0%
参加していない（今後も参加しない）	416	32.9%
わからない	119	9.4%
無回答	12	0.9%
合 計	1,264	100%

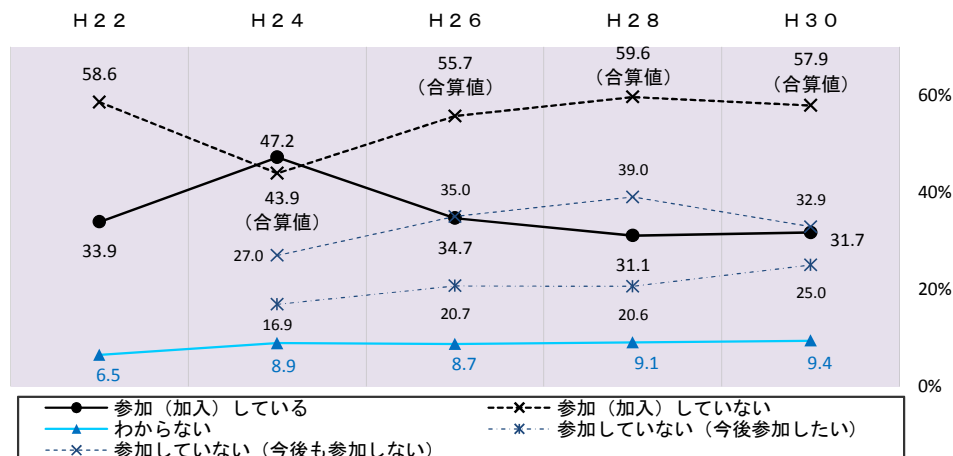


【経年変化（平成22年度～平成30年度）】

前回調査と比較すると、「参加している」市民の割合が0.6ポイント増加している。

約6割の市民が地域コミュニティ活動に参加していないが、「今後参加したい」と回答した市民が2割以上いることから、参加者数を増加させるために、参加に向けた取組を積極的に進める必要がある。

※平成28年度までは自治会・通り会等の加入を対象としており、平成30年度から「校区まちづくり協議会」や「PT(C)A」の活動を含めた参加状況としているため、単純比較できないので、取扱いに注意が必要がある。



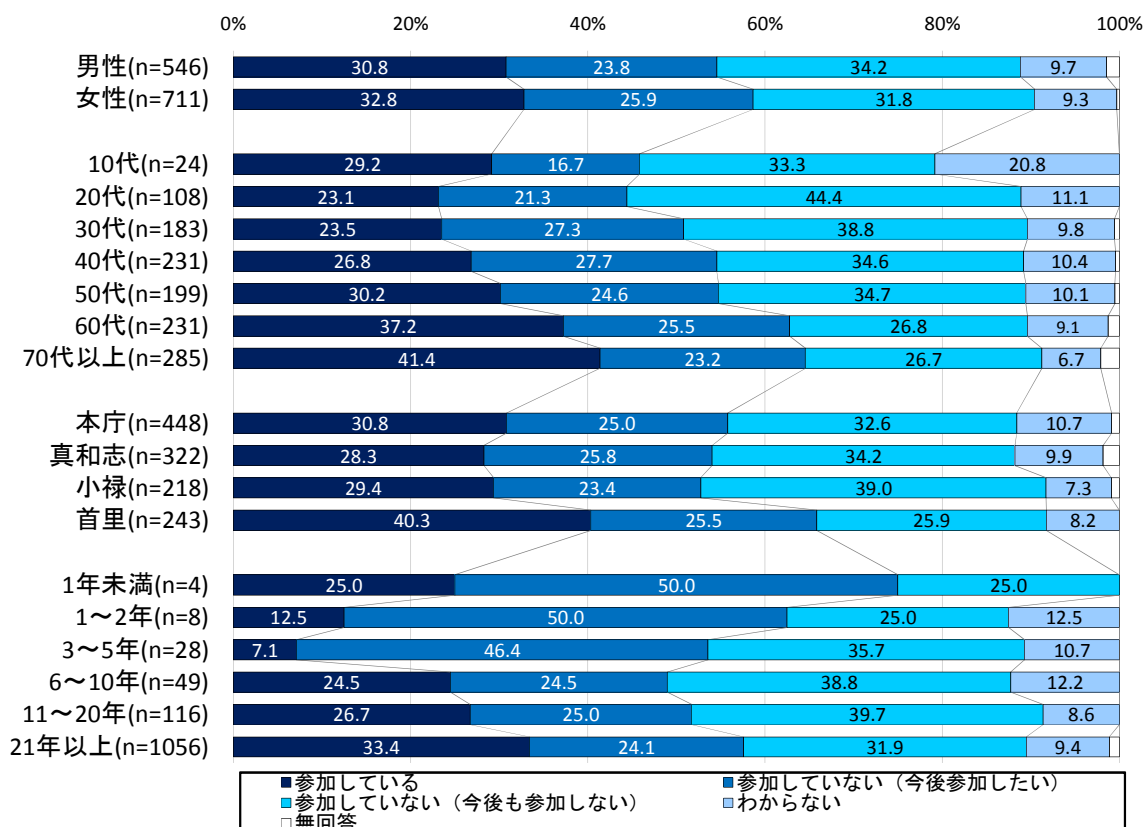
【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、女性は男性に比べ、「参加している」割合がやや高くなっている。

年代別でみると、年代が上がるにつれて「参加している」割合が高くなる傾向にある。

居住地区別でみると、首里地区が「参加している」割合が高く、今後参加したい市民の割合を含めると6割を超えている。居住年数別でみると、3～5年で「参加している」割合が最も低く、居住年数が長くなるにつれて「参加している」割合が高くなっている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	参加している	参加していない (今後参加したい)	参加していない (今後参加しない)	わからない	無回答
男性 (n= 546)		168	130	187	53	8
女性 (n= 711)		233	184	226	66	2
10代 (n= 24)		7	4	8	5	0
20代 (n= 108)		25	23	48	12	0
30代 (n= 183)		43	50	71	18	1
40代 (n= 231)		62	64	80	24	1
50代 (n= 199)		60	49	69	20	1
60代 (n= 231)		86	59	62	21	3
70代以上 (n= 285)		118	66	76	19	6
本庁 (n= 448)		138	112	146	48	4
真和志 (n= 322)		91	83	110	32	6
小禄 (n= 218)		64	51	85	16	2
首里 (n= 243)		98	62	63	20	0
1年未満 (n= 4)		1	2	1	0	0
1～2年 (n= 8)		1	4	2	1	0
3～5年 (n= 28)		2	13	10	3	0
6～10年 (n= 49)		12	12	19	6	0
11～20年 (n= 116)		31	29	46	10	0
21年以上 (n= 1,056)		353	255	337	99	12



質問 8-1. 上記質問で「2」又は「3」を選択した方に伺います。活動に参加していない理由を次の中から1つお選びください。

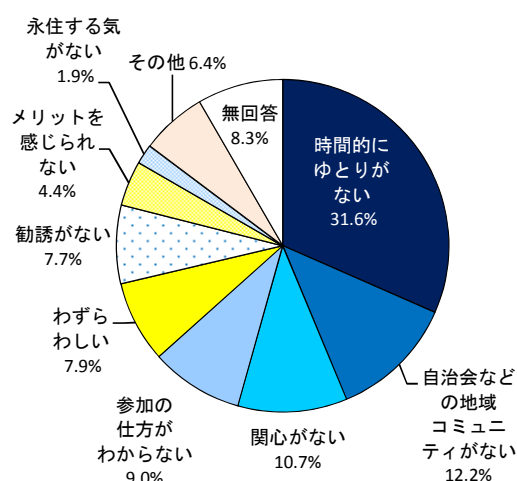
- | | |
|----------------|----------------------|
| 1. 参加の仕方がわからない | 2. 自治会などの地域コミュニティがない |
| 3. 勧誘がない | 4. 時間的にゆとりがない |
| 5. 永住する気がない | 6. わずらわしい |
| 7. 関心がない | 8. メリットを感じられない |
| 9. その他（具体的に： |) |

個人の意思で参加していない市民は 56.5%。地域の事情（「自治会などの地域コミュニティがない」、「勧誘がない」）で参加していない市民は 19.9%。

自治会・通り会・校区まちづくり協議会・PT（C）A の活動に参加していない理由は「時間的にゆとりがない」が 31.6%と最も多く、次いで「自治会などの地域コミュニティがない」が 12.2%、「関心がない」が 10.7%の順となっている。

個人の意思（「時間的にゆとりがない」、「関心がない」、「わずらわしい」、「メリットを感じられない」、「永住する気がない」の合計）で加入していない市民は 5 割以上を占めている。また、地域の事情（「自治会などの地域コミュニティがない」、「勧誘がない」の合計）で加入していない市民は 2 割弱となっている。

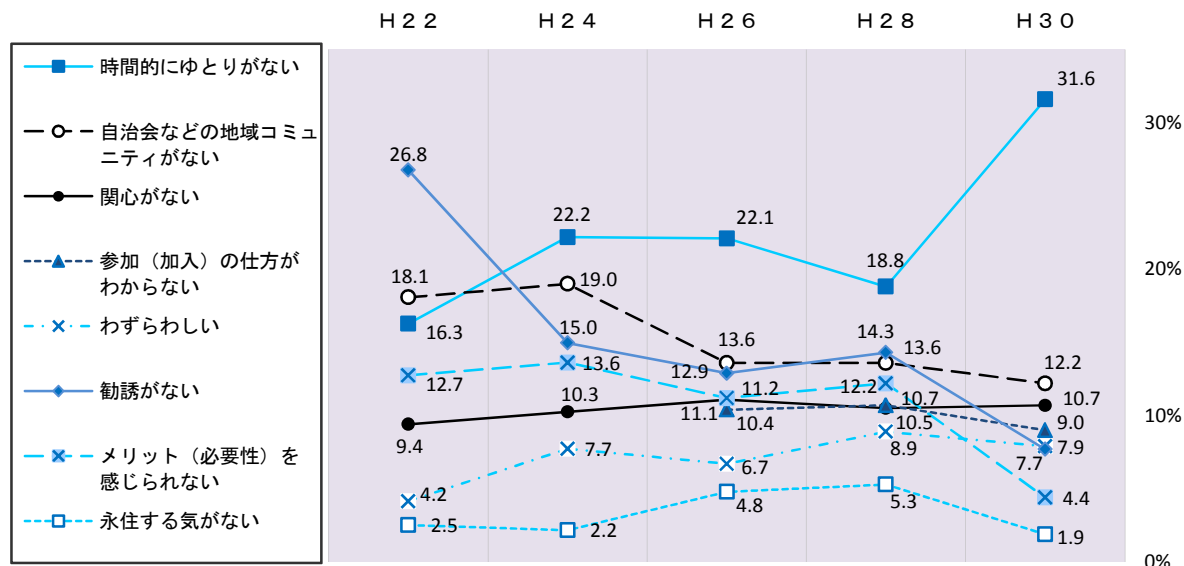
順位	選択項目	回答数	%
1 位	時間的にゆとりがない	231	31.6%
2 位	自治会などの地域コミュニティがない	89	12.2%
3 位	関心がない	78	10.7%
4 位	参加の仕方がわからない	66	9.0%
5 位	わずらわしい	58	7.9%
6 位	勧誘がない	56	7.7%
7 位	メリットを感じられない	32	4.4%
8 位	永住する気がない	14	1.9%
—	その他	47	6.4%
—	無回答	61	8.3%
合 計		732	100%



【経年変化（平成 22 年度～平成 30 年度）】

前回調査と比較すると、「時間にゆとりがない」の割合が 12.8 ポイント増加しているものの、「メリット（必要性）を感じられない」は 7.8 ポイント減少している。

※平成 30 年度より、対象と選択項目を変更しているため単純比較できないので、取扱いに注意する必要がある。

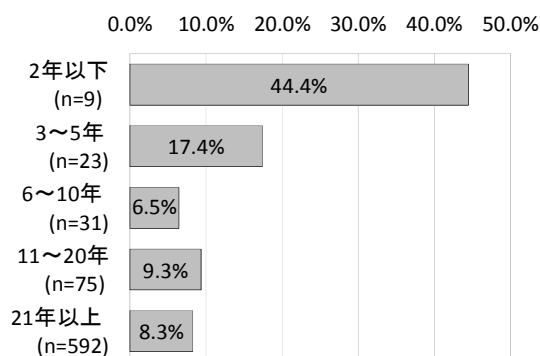


【属性別集計（回答者属性[居住年数]無回答除く）】

「参加の仕方がわからない」について、回答者の居住年数に着目し、その割合について比較を行った。 ※1 年未満は回答数が少ないため、1～2 年と合算し、2 年以下として集計。

概ね居住年数が短いほど、「参加の仕方がわからない」と回答する割合が高い傾向にある。

居住年数	居住年数 回答数	「参加の仕方が わからない」 回答数	%
2 年以下	9	4	44.4%
3～5 年	23	4	17.4%
6～10 年	31	2	6.5%
11～20 年	75	7	9.3%
21 年以上	592	49	8.3%
合計	730	66	—



【選択肢「その他」の主な内容】

- ・身体が不自由なため（障がい、闘病中等）（15 人）
- ・就労中のため（6 人）
- ・高齢のため（6 人）
- ・他地域に対して閉鎖的に感じる（3 人）

男性-20 代-本庁地区・他
男性-40 代-首里地区・他
男性-70 代以上-首里地区・他
女性-40 代-本庁地区・他

【属性別集計（回答者属性[今後の参加意向・性別・年代・地区・居住年数]無回答除く）】

ここでは、質問 8 で「今後参加したい」「今後も参加しない」と回答した市民を属性に加えて分析を行った。

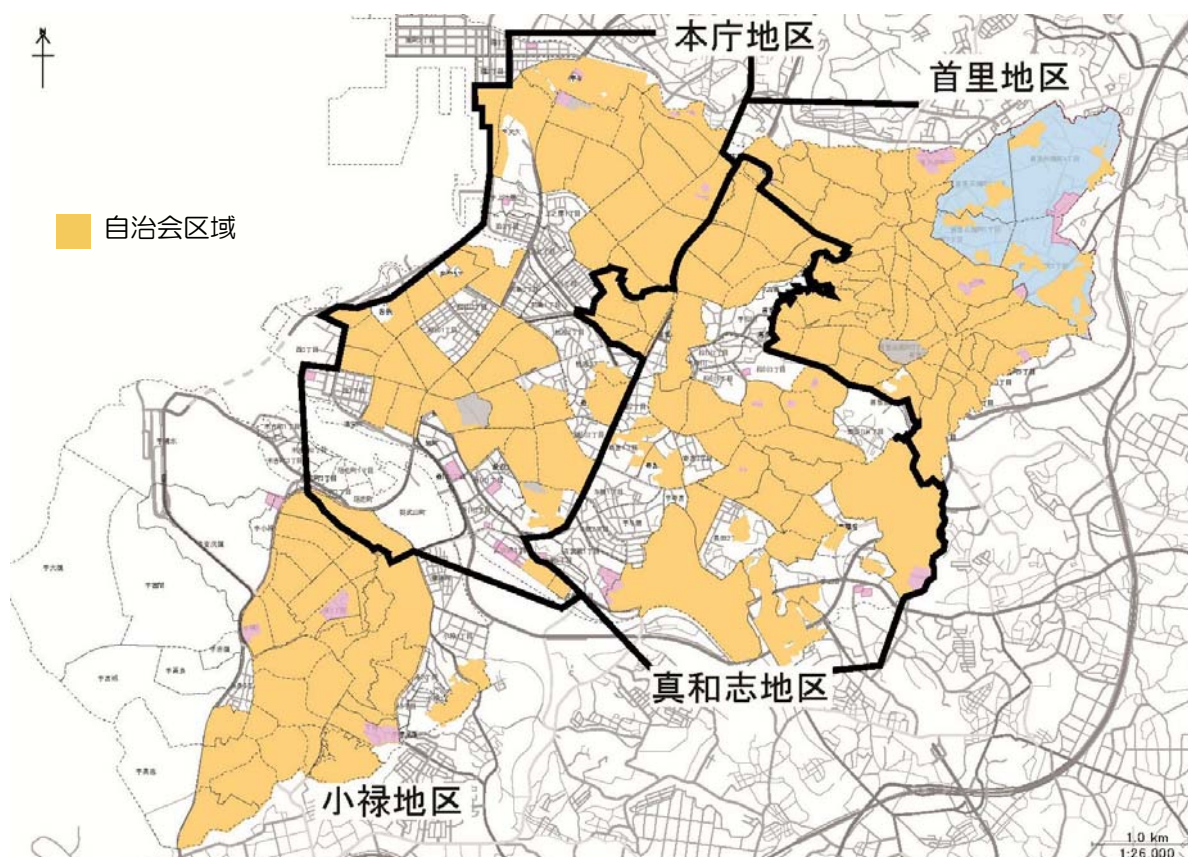
「参加していない」市民の参加意向別にみると、「今後参加したい」と回答した市民は、「今後も参加しない」と回答した市民に比べ、「参加の仕方がわからない」、「自治会などの地域コミュニティがない」の割合が高くなっている。自治会などの地域コミュニティへの参加率を向上させるために、自治会・校区まちづくり協議会等の有無を広く周知させる必要があると考えられる。

性別でみると、男性は女性に比べ、「関心がない」の割合が高くなっている。

年代別でみると、10 代～50 代では「時間的にゆとりがない」の割合が高くなっている。70 代以上では「自治会などの地域コミュニティがない」の割合が最も高い。

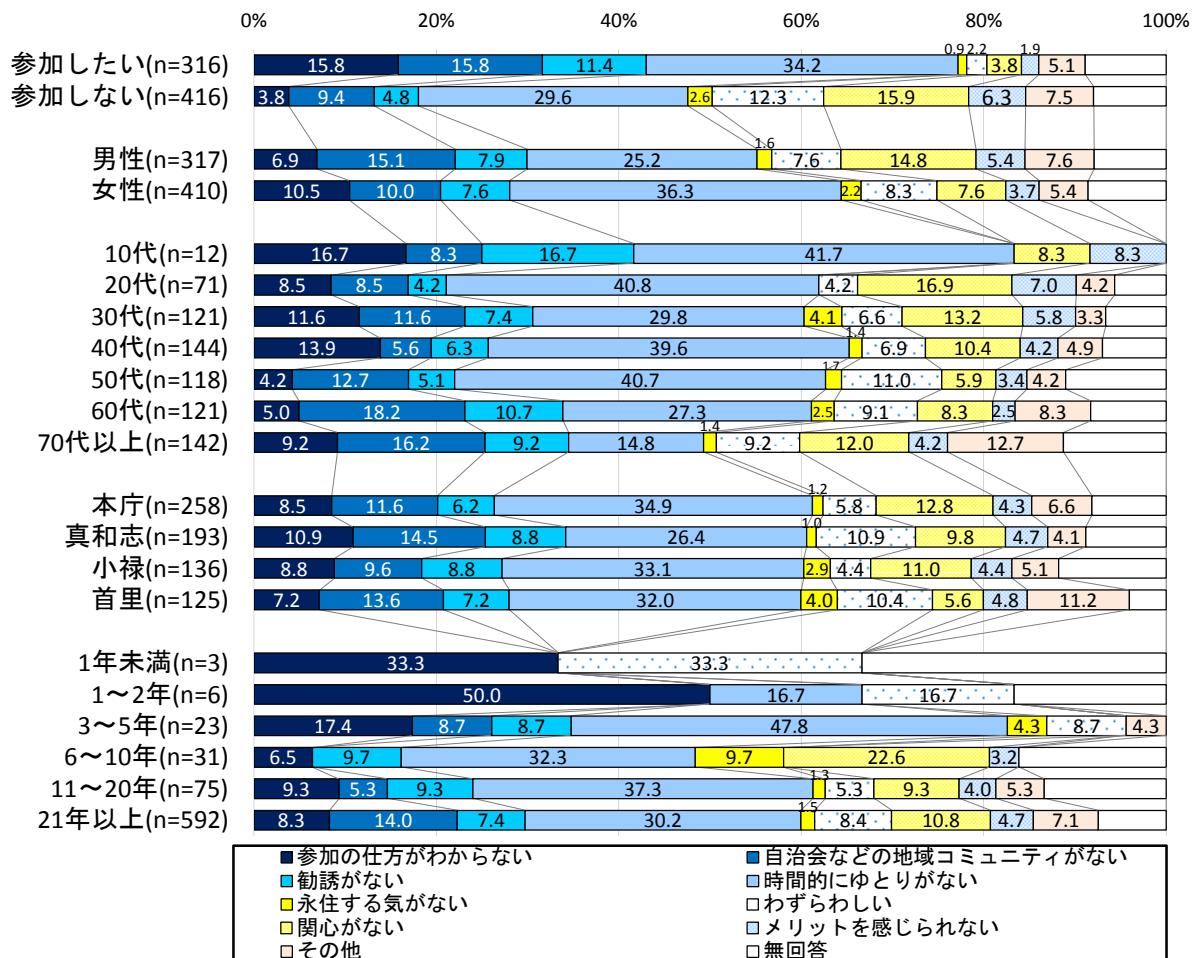
居住地区別でみると、真和志地区、首里地区で「わずらわしい」の割合が比較的高くなっている。

居住年数別でみると、1 年未満～2 年では「参加の仕方がわからない」の割合が最も高くなっており、6～10 年では「永住する気がない」、「関心がない」の割合が比較的高くなっている。



那覇市自治会区域図（平成 30 年 5 月現在）

選択項目 回答者属性(n=合計)	参加の仕方が わからない	自治会などの地域 コミュニティがない	勧誘がない	時間的に ゆとりがない	永住する気がない	わずらわしい	関心がない	メリットを 感じられない	その他	無回答
参加したい (n= 316)	50	50	36	108	3	7	12	6	16	28
参加しない (n= 416)	16	39	20	123	11	51	66	26	31	33
男性 (n= 317)	22	48	25	80	5	24	47	17	24	25
女性 (n= 410)	43	41	31	149	9	34	31	15	22	35
10代 (n=12)	2	1	2	5	0	0	1	1	0	0
20代 (n= 71)	6	6	3	29	0	3	12	5	3	4
30代 (n= 121)	14	14	9	36	5	8	16	7	4	8
40代 (n= 144)	20	8	9	57	2	10	15	6	7	10
50代 (n= 118)	5	15	6	48	2	13	7	4	5	13
60代 (n= 121)	6	22	13	33	3	11	10	3	10	10
70代以上 (n= 142)	13	23	13	21	2	13	17	6	18	16
本庁 (n= 258)	22	30	16	90	3	15	33	11	17	21
真和志 (n= 193)	21	28	17	51	2	21	19	9	8	17
小禄 (n= 136)	12	13	12	45	4	6	15	6	7	16
首里 (n= 125)	9	17	9	40	5	13	7	6	14	5
1年未満 (n= 3)	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1
1～2年 (n= 6)	3	0	0	1	0	1	0	0	0	1
3～5年 (n= 23)	4	2	2	11	1	2	0	0	1	0
6～10年 (n= 31)	2	0	3	10	3	0	7	1	0	5
11～20年 (n= 75)	7	4	7	28	1	4	7	3	4	10
21年以上 (n= 592)	49	83	44	179	9	50	64	28	42	44



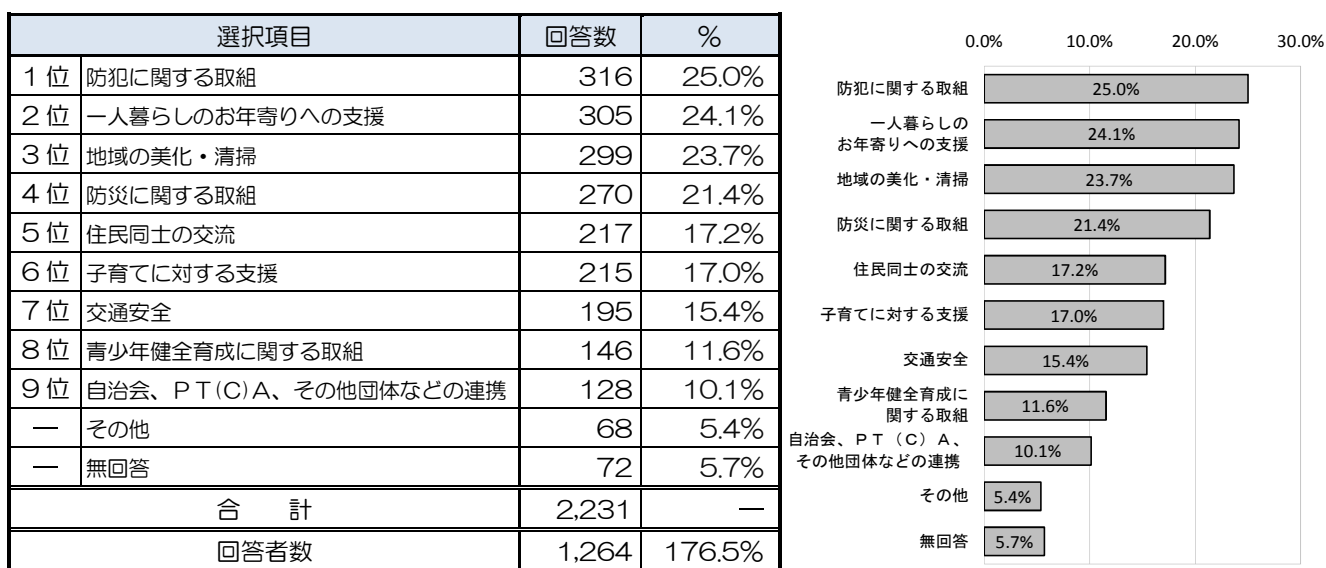
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 9. あなたがお住まいの地域で、特に大きいと思われる課題について2つまでお選びください。

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 地域の美化・清掃 | 2. 自治会、PT(C)A、その他団体などの連携 |
| 3. 防犯に関する取組 | 4. 防災に関する取組 |
| 5. 青少年健全育成に関する取組 | 6. 一人暮らしのお年寄りへの支援 |
| 7. 子育てに対する支援 | 8. 交通安全 |
| 9. 住民同士の交流 | |
| 10. その他 () | |

居住地域の課題は「防犯に関する取組」25.0%が特に大きいと感じている。

居住地域での特に大きいと思われる課題については、「防犯に関する取組」が 25.0%と最も多く、次いで「一人暮らしのお年寄りへの支援」が 24.1%、「地域の美化・清掃」が 23.7%の順となっている。

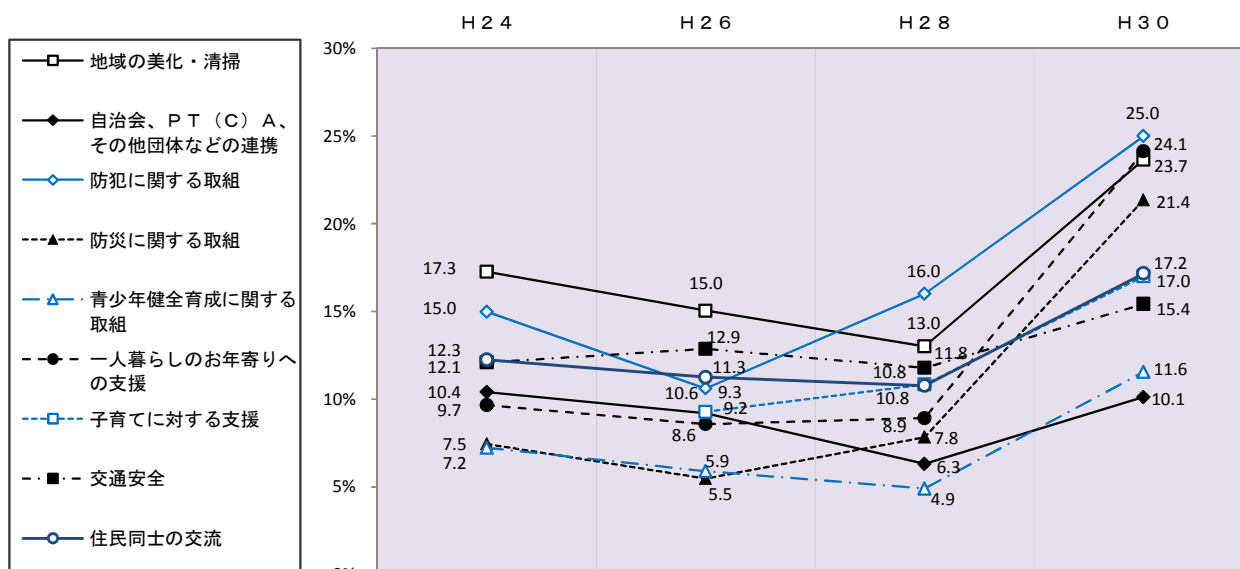


※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。

【経年変化（平成 24 年度～平成 30 年度）】

前回調査と比較すると、「一人暮らしのお年寄りへの支援」、「防災に関する取組」の割合が高くなっており、近年の震災等による懸念や、高齢化社会の影響が考えられる。

※平成 30 年度の調査より、単一回答ではなく複数回答としたため、全体的に回答割合の数値が増加している。



【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、男性は「地域の美化・清掃」の割合が高く、女性は「防犯に関する取組」の割合が高くなっている。

年代別でみると、20代～30代では「子育てに対する支援」の割合が高くなっている。一方、60代～70代以上では「地域の美化・清掃」、「一人暮らしのお年寄りへの支援」の割合が高くなっており、「住民同士の交流」の割合も比較的高い。

居住地区別でみると、真和志地区、首里地区では「一人暮らしのお年寄りへの支援」の割合が最も高くなっており、本庁地区や小禄地区では「防犯に関する取組」の割合が高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)		地域の 美化・ 清掃	自治会、 PT(C)A、 その他 団体など の連携	防犯に 関する 取組	防災に 関する 取組	青少年 健全育 成に 関する 取組	お一人 暮らし への支 援	子育て に 対する 支援	交通 安全	住民 同士の 交流	その他	無 回 答
性別	男性 (n= 546)	138 25.3	53 9.7	121 22.2	106 19.4	68 12.5	138 25.3	96 17.6	88 16.1	99 18.1	34 6.2	24 4.4
	女性 (n= 711)	161 22.6	74 10.4	195 27.4	163 22.9	77 10.8	165 23.2	119 16.7	105 14.8	117 16.5	34 4.8	45 6.3
年代別	10代 (n= 24)	6 25.0	2 8.3	8 33.3	6 25.0	4 16.7	7 29.2	6 25.0	2 8.3	3 12.5	0 0	0 0
	20代 (n= 108)	18 16.7	11 10.2	37 34.3	17 15.7	16 14.8	18 16.7	32 29.6	21 19.4	16 14.8	7 6.5	2 1.9
	30代 (n= 183)	39 21.3	8 4.4	47 25.7	38 20.8	25 13.7	31 16.9	61 33.3	34 18.6	28 15.3	11 6.0	7 3.8
	40代 (n= 231)	49 21.2	20 8.7	71 30.7	63 27.3	24 10.4	59 25.5	45 19.5	40 17.3	28 12.1	8 3.5	6 2.6
	50代 (n= 199)	40 20.1	12 6.0	58 29.1	59 29.6	26 13.1	41 20.6	30 15.1	36 18.1	28 14.1	12 6.0	8 4.0
	60代 (n= 231)	62 26.8	23 10.0	43 18.6	47 20.3	31 13.4	68 29.4	24 10.4	35 15.2	47 20.3	15 6.5	15 6.5
	70代以上 (n= 285)	85 29.8	52 18.2	52 18.2	38 13.3	20 7.0	80 28.1	17 6.0	26 9.1	67 23.5	15 5.3	33 11.6
地区別	本庁 (n= 448)	113 25.2	35 7.8	124 27.7	102 22.8	56 12.5	102 22.8	82 18.3	55 12.3	67 15.0	30 6.7	26 5.8
	真和志 (n= 322)	73 22.7	40 12.4	76 23.6	67 20.8	43 13.4	81 25.2	47 14.6	54 16.8	58 18.0	10 3.1	20 6.2
	小禄 (n= 218)	47 21.6	21 9.6	56 25.7	46 21.1	25 11.5	43 19.7	49 22.5	38 17.4	42 19.3	11 5.0	11 5.0
	首里 (n= 243)	59 24.3	30 12.3	53 21.8	46 18.9	18 7.4	70 28.8	34 14.0	45 18.5	43 17.7	14 5.8	12 4.9
居住年数別	1年未満 (n= 4)	1 25.0	0 0	1 25.0	1 25.0	0 0	1 25.0	1 25.0	0 0	1 25.0	0 0	0 0
	1～2年 (n= 8)	1 12.5	1 12.5	1 12.5	1 12.5	2 25.0	2 25.0	4 50.0	0 0	1 12.5	0 0	0 0
	3～5年 (n= 28)	5 17.9	3 10.7	9 32.1	5 17.9	7 25.0	2 7.1	6 21.4	6 21.4	5 17.9	1 3.6	2 7.1
	6～10年 (n= 49)	14 28.6	0 0	15 30.6	9 18.4	5 10.2	6 12.2	20 40.8	10 20.4	7 14.3	3 6.1	0 0
	11～20年 (n= 116)	24 20.7	9 7.8	39 33.6	20 17.2	17 14.7	26 22.4	26 22.4	16 13.8	21 18.1	4 3.4	3 2.6
	21年以上 (n= 1,056)	254 24.1	115 10.9	250 23.7	232 22.0	115 10.9	267 25.3	158 15.0	163 15.4	182 17.2	60 5.7	66 6.3

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・道路の整備（11人） 男性-40代-真和志地区・他
- ・騒音問題に対する取組（3人） 女性-30代-本庁地区・他

(3) 市政への市民参加について

質問 10. 市政への関心について、次の中から 1 つお選びください。

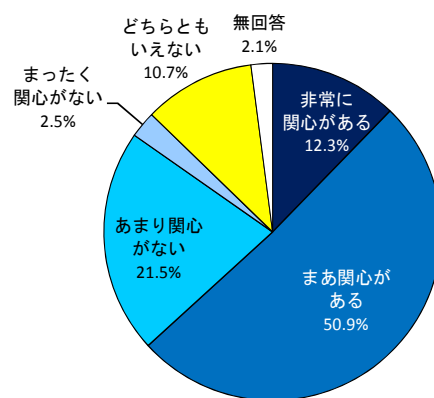
1. 非常に関心がある
2. まあ関心がある
3. あまり関心がない
4. まったく関心がない
5. どちらともいえない

市政へ関心がある市民は 63.2%。関心がない市民は 24.0%。

市政への関心については、「まあ関心がある」が 50.9%で最も多く、次いで「あまり関心がない」が 21.5%、「非常に関心がある」が 12.3%の順となっている。

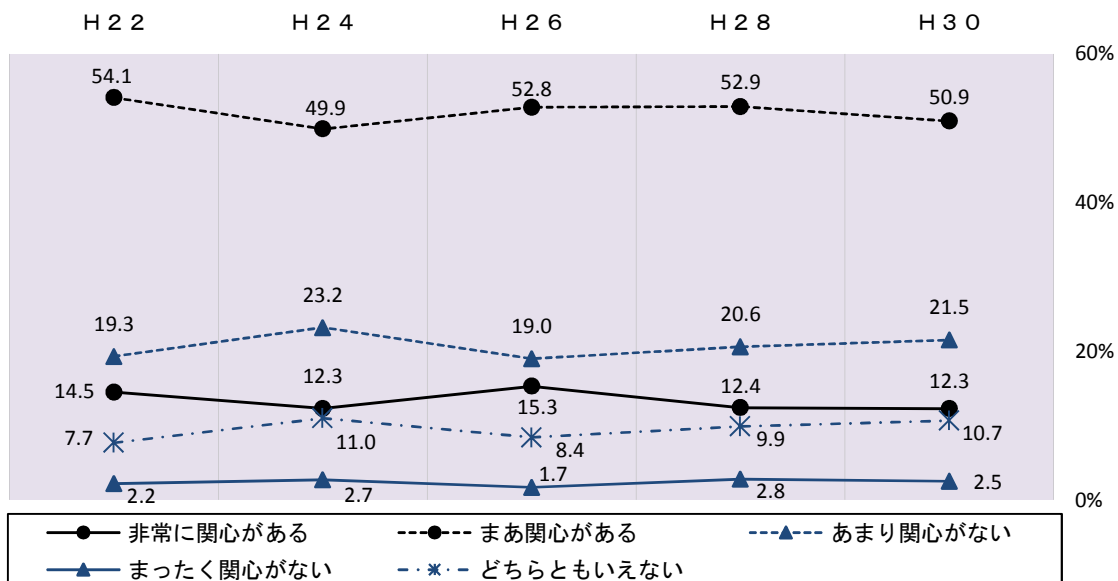
「非常に関心がある」と「まあ関心がある」の合計は 63.2%に対し、「まったく関心がない」と「あまり関心がない」の合計は 24.0%となっている。

選択項目	回答数	%
非常に関心がある	155	12.3%
まあ関心がある	644	50.9%
あまり関心がない	272	21.5%
まったく関心がない	32	2.5%
どちらともいえない	135	10.7%
無回答	26	2.1%
合 計	1,264	100%



【経年変化（平成 22 年度～平成 30 年度）】

前回調査と比較すると、「非常に関心がある」は横ばい、「まあ関心がある」が 2.0 ポイント減少しており、市政に対する関心はわずかに下降している。

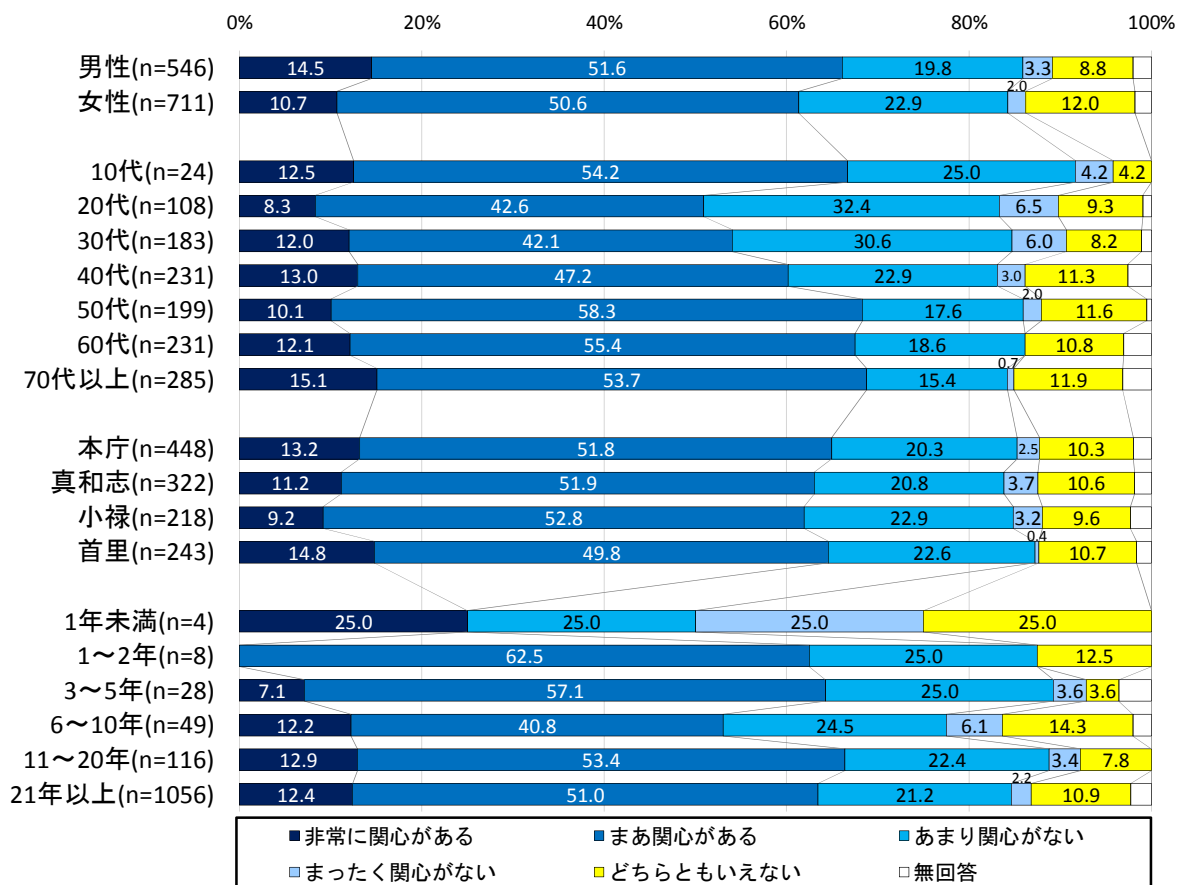


【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、男性は女性に比べ、「関心がある」の割合が高い。

年代別でみると、年代が上がるにつれて「関心がある」の割合が増加する傾向にある。

選択項目 回答者属性(n=合計)	非常に 関心がある	まあ 関心がある	あまり 関心がない	まったく 関心がない	どちら とも いえない	無 回 答
男性 (n= 546)	79	282	108	18	48	11
女性 (n= 711)	76	360	163	14	85	13
10代 (n= 24)	3	13	6	1	1	0
20代 (n= 108)	9	46	35	7	10	1
30代 (n= 183)	22	77	56	11	15	2
40代 (n= 231)	30	109	53	7	26	6
50代 (n= 199)	20	116	35	4	23	1
60代 (n= 231)	28	128	43	0	25	7
70代以上 (n= 285)	43	153	44	2	34	9
本庁 (n= 448)	59	232	91	11	46	9
真和志 (n= 322)	36	167	67	12	34	6
小禄 (n= 218)	20	115	50	7	21	5
首里 (n= 243)	36	121	55	1	26	4
1年未満 (n= 4)	1	0	1	1	1	0
1～2年 (n= 8)	0	5	2	0	1	0
3～5年 (n= 28)	2	16	7	1	1	1
6～10年 (n= 49)	6	20	12	3	7	1
11～20年 (n= 116)	15	62	26	4	9	0
21年以上 (n= 1,056)	131	539	224	23	115	24



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

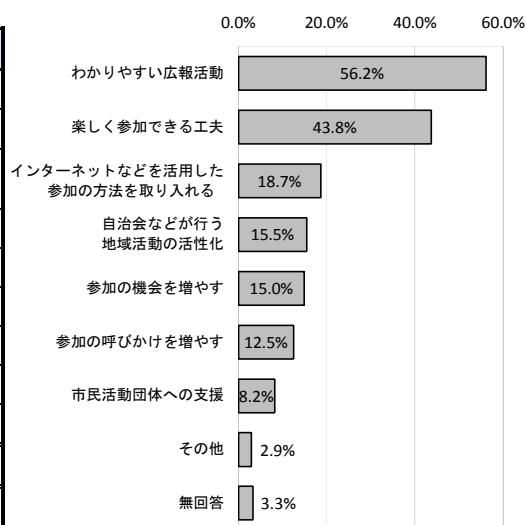
質問 11. 市民の市政参加を促すために、市がすべきだと思うことを次の中から2つまでお選びください。

- | | |
|------------------------------|----------------|
| 1. 参加の機会を増やす | 2. わかりやすい広報活動 |
| 3. 楽しく参加できる工夫 | 4. 参加の呼びかけを増やす |
| 5. インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる | |
| 6. 自治会などが行う地域活動の活性化 | 7. 市民活動団体への支援 |
| 8. その他 () | |

市民の市政参加を促すために、市がすべきことは「わかりやすい広報活動」や「楽しく参加できる工夫」である。

市民の市政参加を促すために、市がすべきだと思うことは、「わかりやすい広報活動」が56.2%と最も高く、次いで「楽しく参加できる工夫」が43.8%、「インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる」が18.7%の順となっている。

選択項目	回答数	%
1位 わかりやすい広報活動	710	56.2%
2位 楽しく参加できる工夫	553	43.8%
3位 インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる	236	18.7%
4位 自治会などが行う地域活動の活性化	196	15.5%
5位 参加の機会を増やす	189	15.0%
6位 参加の呼びかけを増やす	158	12.5%
7位 市民活動団体への支援	104	8.2%
- その他	37	2.9%
- 無回答	42	3.3%
合 計	2,225	—
回答者数	1,264	176.0%

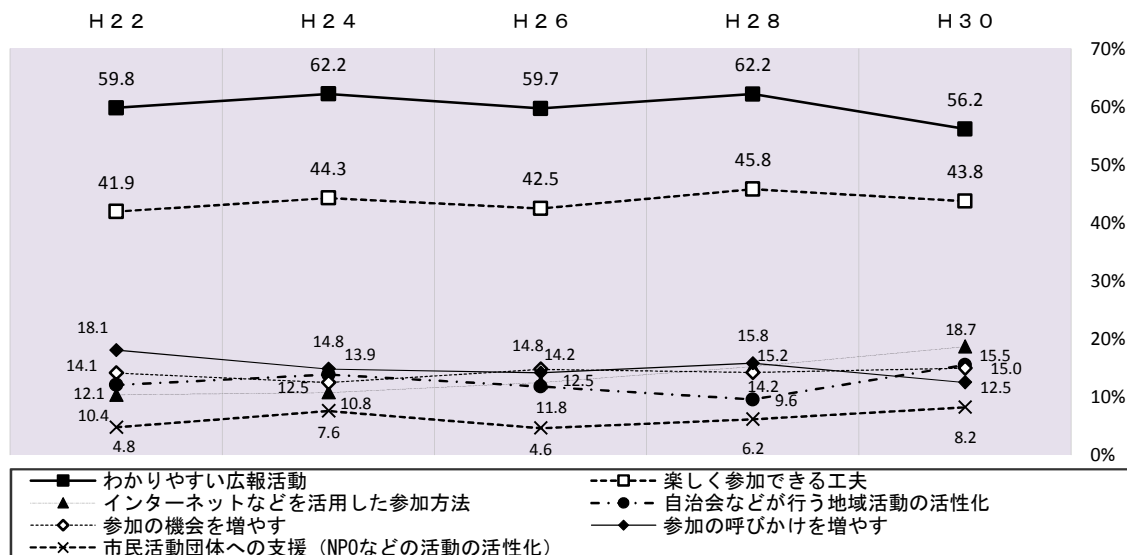


※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。

【経年変化（平成 22 年度～平成 30 年度）】

前回調査と比較すると、「わかりやすい広報活動」の割合が 6.0 ポイント減少している。また、「インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる」の割合が 3.5 ポイント増加しており、インターネットを活用した参加方法に対する関心が年々高まっていることが伺える。

※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出しているため、平成 22～28 年度も同様に算出し、比較。



【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

年代別でみると、60代～70代以上で「インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる」の割合が低くなっているが、その他の年代での割合は高いことから、市政への参加を促すツールとしてインターネットが有効だと考えられる。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性（n=合計） 上段（人）：下段（%）		参加の機会を増やす	わかりやすい広報活動	楽しく参加できる工夫	参加の呼びかけを増やす	インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる	自治会などの活性化	市民活動団体への支援	その他	無回答
性別	男性（n= 546）	64 11.7	298 54.6	226 41.4	86 15.8	108 19.8	88 16.1	46 8.4	21 3.8	17 3.1
	女性（n= 711）	92 12.9	411 57.8	326 45.9	101 14.2	128 18.0	108 15.2	58 8.2	16 2.3	22 3.1
年代別	10代（n= 24）	2 8.3	12 50.0	15 62.5	3 12.5	6 25.0	3 12.5	4 16.7	0 0	0 0
	20代（n= 108）	13 12.0	57 52.8	56 51.9	7 6.5	38 35.2	11 10.2	6 5.6	3 2.8	0 0
	30代（n= 183）	30 16.4	106 57.9	70 38.3	15 8.2	57 31.1	21 11.5	10 5.5	6 3.3	6 3.3
	40代（n= 231）	40 17.3	133 57.6	101 43.7	32 13.9	57 24.7	24 10.4	15 6.5	5 2.2	3 1.3
	50代（n= 199）	20 10.1	132 66.3	85 42.7	19 9.5	49 24.6	30 15.1	17 8.5	6 3.0	1 0.5
	60代（n= 231）	18 7.8	137 59.3	103 44.6	43 18.6	20 8.7	45 19.5	24 10.4	8 3.5	10 4.3
	70代以上（n= 285）	34 11.9	133 46.7	123 43.2	68 23.9	9 3.2	62 21.8	28 9.8	9 3.2	21 7.4
地区別	本庁（n= 448）	50 11.2	254 56.7	200 44.6	58 12.9	92 20.5	58 12.9	40 8.9	16 3.6	15 3.3
	真和志（n= 322）	48 14.9	181 56.2	137 42.5	52 16.1	55 17.1	55 17.1	25 7.8	10 3.1	9 2.8
	小祿（n= 218）	29 13.3	129 59.2	95 43.6	32 14.7	41 18.8	32 14.7	15 6.9	6 2.8	5 2.3
	首里（n= 243）	25 10.3	130 53.5	109 44.9	42 17.3	42 17.3	44 18.1	23 9.5	5 2.1	11 4.5
居住年数別	1年未満（n= 4）	1 25.0	0 0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	0 0	0 0	0 0	0 0
	1～2年（n= 8）	2 25.0	5 62.5	3 37.5	0 0	4 50.0	2 25.0	0 0	0 0	0 0
	3～5年（n= 28）	1 3.6	16 57.1	16 57.1	4 14.3	7 25.0	3 10.7	1 3.6	1 3.6	0 0
	6～10年（n= 49）	4 8.2	28 57.1	22 44.9	3 6.1	11 22.4	10 20.4	2 4.1	1 2.0	1 2.0
	11～20年（n= 116）	19 16.4	60 51.7	51 44.0	11 9.5	35 30.2	17 14.7	8 6.9	1 0.9	2 1.7
	21年以上（n= 1,056）	130 12.3	601 56.9	459 43.5	167 15.8	178 16.9	164 15.5	93 8.8	34 3.2	38 3.6

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・意見を聞く交流の場をつくる（3人） 男性-60代-本庁地区・他
- ・自治会などのコミュニティの設立支援 男性-70代以上-真和志地区・他

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

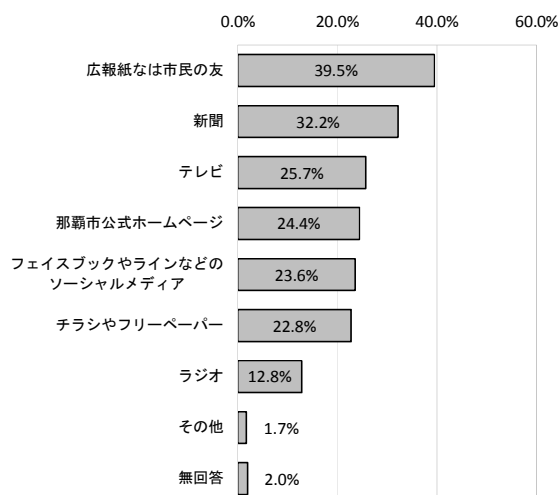
質問 12. 今後、那覇市の情報発信に力を入れるべきだと思う媒体について、次の中から 2 つまで お選びください。

1. 広報紙なは市民の友
2. 那覇市公式ホームページ
3. フェイスブックやラインなどのソーシャルメディア
4. ラジオ
5. 新聞
6. テレビ
7. チラシやフリーペーパー
8. その他 ()

那覇市は「広報紙なは市民の友」や「新聞」の媒体に力を入れるべきである。

那覇市の情報発信に力を入れるべきだと思う媒体については、「広報紙なは市民の友」が 39.5% で最も高く、次いで「新聞」が 32.2%、「テレビ」が 25.7% の順となっている。

選択項目	回答数	%
1 位 広報紙なは市民の友	499	39.5%
2 位 新聞	407	32.2%
3 位 テレビ	325	25.7%
4 位 那覇市公式ホームページ	309	24.4%
5 位 フェイスブックやラインなどのソーシャルメディア	298	23.6%
6 位 チラシやフリーペーパー	288	22.8%
7 位 ラジオ	162	12.8%
- その他	22	1.7%
- 無回答	25	2.0%
合 計	2,335	—
回答者数	1,264	184.7%

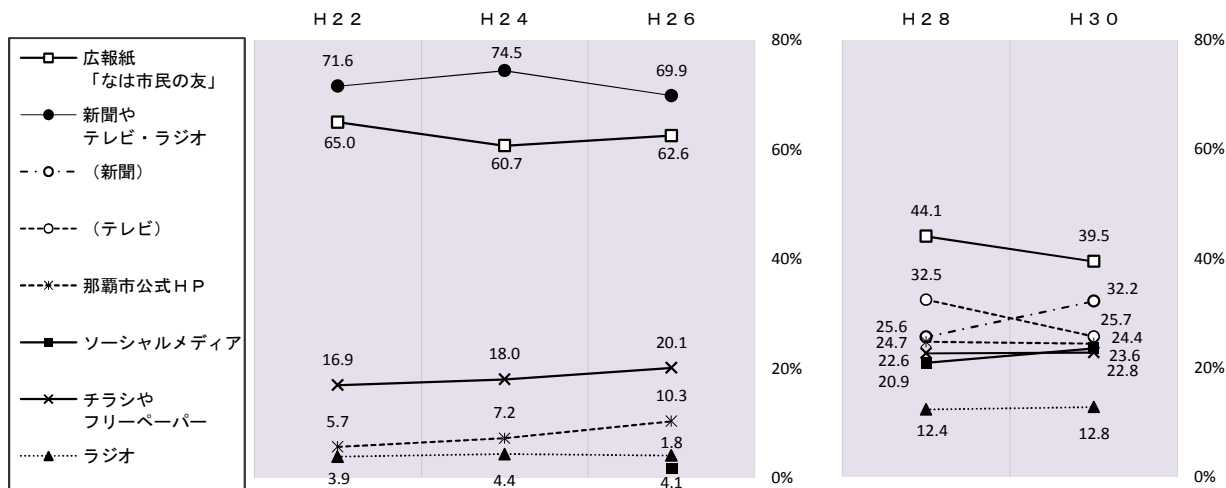


※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100% を超えている。

【経年変化（平成 22 年度～平成 30 年度）】

前回調査と比較すると、「広報紙なは市民の友」の割合は 4.6 ポイント減少しているが、「フェイスブックやラインなどのソーシャルメディア」の割合が 2.7 ポイント増加している。

※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出しているため、平成 22～28 年度も同様に割合を算出し、比較を行った。また、平成 28 年度より選択項目を変更しているため、比較対象となるもののみグラフ化している。合わせて、平成 28 年度までは、市民が那覇市の情報を得ている媒体について質問しており、平成 30 年度においては那覇市の情報発信に力を入れるべき媒体について質問しているため、単純比較できないので、取扱いに注意する必要がある。



【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

年代別でみると、10代は「テレビ」、20代～30代は「フェイスブックやラインなどのソーシャルメディア」の割合が高く、「広報紙なは市民の友」や「新聞」の割合は低い。一方、50代以上では「広報紙なは市民の友」の割合が高くなり、60代以上では「新聞」の割合も高くなっている。

居住年数別では、1～20年では「フェイスブックやラインなどのソーシャルメディア」の割合が最も高いが、21年以上では「広報紙なは市民の友」の割合が高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性（n=合計） 上段（人）：下段（％）		なは市民の友 広報紙	ホーム 那覇市公式 ページ	フェイスブックや ラインなどの ソーシャルメディア	ラジオ	新聞	テレビ	フリッシュ チャット バー	その他	無回答
性別	男性（n= 546）	208 38.1	121 22.2	130 23.8	67 12.3	151 27.7	180 33.0	115 21.1	12 2.2	12 2.2
	女性（n= 711）	290 40.8	187 26.3	168 23.6	94 13.2	172 24.2	224 31.5	173 24.3	10 1.4	10 1.4
年代別	10代（n= 24）	5 20.8	8 33.3	8 33.3	3 12.5	3 12.5	10 41.7	7 29.2	0 0	0 0
	20代（n= 108）	24 22.2	29 26.9	63 58.3	9 8.3	8 7.4	36 33.3	25 23.1	2 1.9	1 0.9
	30代（n= 183）	38 20.8	62 33.9	91 49.7	22 12.0	17 9.3	53 29.0	45 24.6	8 4.4	1 0.5
	40代（n= 231）	77 33.3	81 35.1	66 28.6	25 10.8	40 17.3	75 32.5	57 24.7	4 1.7	4 1.7
	50代（n= 199）	78 39.2	53 26.6	50 25.1	31 15.6	49 24.6	61 30.7	52 26.1	1 0.5	1 0.5
	60代（n= 231）	110 47.6	49 21.2	13 5.6	32 13.9	83 35.9	76 32.9	57 24.7	3 1.3	5 2.2
	70代以上（n= 285）	166 58.2	26 9.1	7 2.5	39 13.7	125 43.9	94 33.0	45 15.8	4 1.4	13 4.6
地区別	本庁（n= 448）	175 39.1	113 25.2	116 25.9	51 11.4	104 23.2	149 33.3	104 23.2	9 2.0	8 1.8
	真和志（n= 322）	114 35.4	67 20.8	72 22.4	50 15.5	93 28.9	105 32.6	79 24.5	6 1.9	8 2.5
	小禄（n= 218）	89 40.8	60 27.5	61 28.0	27 12.4	53 24.3	65 29.8	48 22.0	2 0.9	3 1.4
	首里（n= 243）	111 45.7	58 23.9	41 16.9	28 11.5	70 28.8	77 31.7	51 21.0	5 2.1	4 1.6
居住年数別	1年未満（n= 4）	2 50.0	0 0	0 0	0 0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	0 0
	1～2年（n= 8）	1 12.5	1 12.5	6 75.0	3 37.5	0 0	2 25.0	2 25.0	1 12.5	0 0
	3～5年（n= 28）	5 17.9	10 35.7	11 39.3	6 21.4	2 7.1	8 28.6	6 21.4	0 0	0 0
	6～10年（n= 49）	16 32.7	14 28.6	22 44.9	8 16.3	6 12.2	7 14.3	11 22.4	2 4.1	1 2.0
	11～20年（n= 116）	36 31.0	38 32.8	47 40.5	6 5.2	26 22.4	29 25.0	27 23.3	1 0.9	1 0.9
	21年以上（n= 1,056）	437 41.4	245 23.2	212 20.1	138 13.1	290 27.5	358 33.9	240 22.7	17 1.6	23 2.2

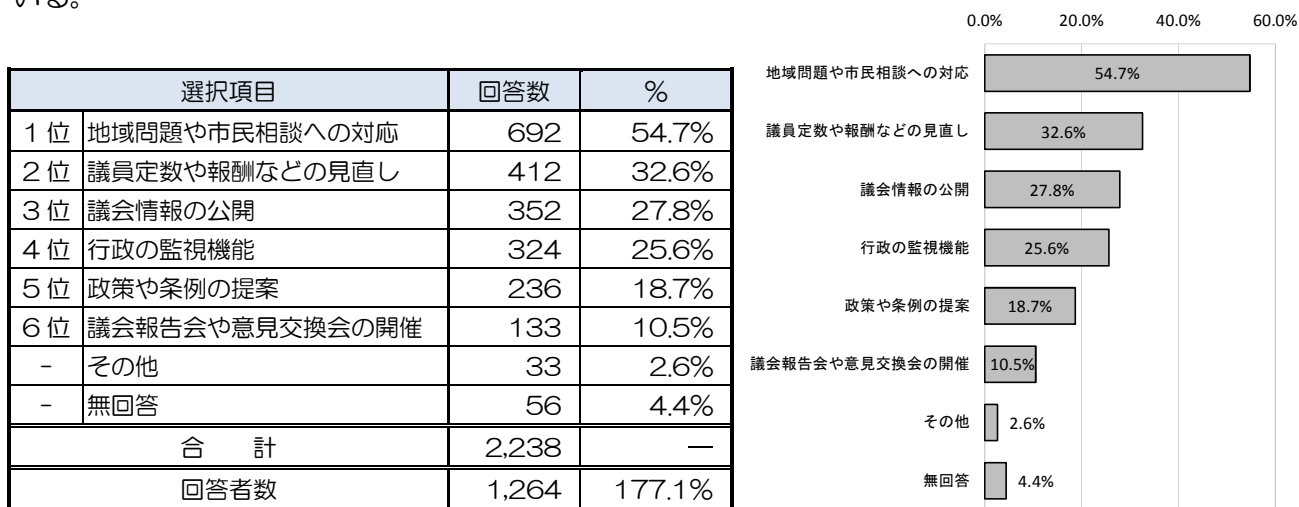
(4) 議会への市民参加について

質問 13. あなたは議会に何を求めますか。次の中から 2 つまで お選びください。

- | | | |
|------------------|-------------------|------------|
| 1. 行政の監視機能 | 2. 政策や条例の提案 | 3. 議会情報の公開 |
| 4. 地域問題や市民相談への対応 | 5. 議会報告会や意見交換会の開催 | |
| 6. 議員定数や報酬などの見直し | 7. その他 () | |

市民が議会に最も求めていることは、「地域問題や市民相談への対応」である。

市民が議会に求めることについては、「地域問題や市民相談への対応」が 54.7% と最も高く、次いで「議員定数や報酬などの見直し」が 32.6%、「議会情報の公開」が 27.8% の順となっている。

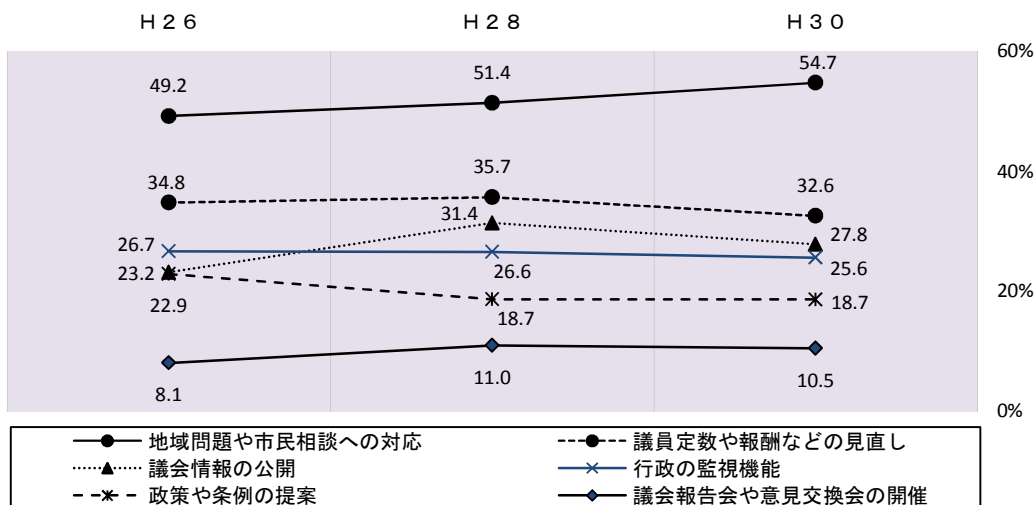


※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100% を超えている。

【経年変化（平成 26 年度～平成 30 年度）】

前回調査と比較すると、「地域問題や市民相談への対応」の割合が 3.3 ポイント増加しており、年々増加傾向にある。一方、「議会情報の公開」は 3.6 ポイント減少している。

※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出しているため、平成 26～28 年度も同様に算出し、比較。



【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

いずれの属性においても、「地域問題や市民相談への対応」の割合が最も高くなっており、あまり大きな違いは見られない。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性（n=合計） 上段（人）：下段（％）		行政の監視機能	政策や条例の提案	議会情報の公開	市民地域問題や 相談への対応	意見議会 交換報告会 の開催	報酬議員 定数や 見直し	その他	無回答
性別	男性（n= 546）	163 29.9	110 20.1	168 30.8	273 50.0	58 10.6	188 34.4	14 2.6	19 3.5
	女性（n= 711）	161 22.6	126 17.7	182 25.6	417 58.6	74 10.4	223 31.4	18 2.5	34 4.8
年代別	10代（n= 24）	8 33.3	4 16.7	5 20.8	14 58.3	1 4.2	10 41.7	0 0	0 0
	20代（n= 108）	26 24.1	21 19.4	29 26.9	67 62.0	15 13.9	25 23.1	3 2.8	1 0.9
	30代（n= 183）	38 20.8	43 23.5	49 26.8	103 56.3	20 10.9	70 38.3	6 3.3	4 2.2
	40代（n= 231）	44 19.0	52 22.5	64 27.7	125 54.1	33 14.3	73 31.6	9 3.9	6 2.6
	50代（n= 199）	66 33.2	39 19.6	58 29.1	108 54.3	19 9.5	61 30.7	5 2.5	4 2.0
	60代（n= 231）	70 30.3	34 14.7	62 26.8	127 55.0	21 9.1	80 34.6	5 2.2	17 7.4
	70代以上（n= 285）	72 25.3	43 15.1	84 29.5	146 51.2	24 8.4	92 32.3	5 1.8	23 8.1
地区別	本庁（n= 448）	109 24.3	79 17.6	127 28.3	244 54.5	51 11.4	146 32.6	20 4.5	14 3.1
	真和志（n= 322）	91 28.3	61 18.9	98 30.4	179 55.6	29 9.0	103 32.0	8 2.5	16 5.0
	小禄（n= 218）	61 28.0	44 20.2	51 23.4	120 55.0	21 9.6	76 34.9	2 0.9	10 4.6
	首里（n= 243）	58 23.9	47 19.3	64 26.3	133 54.7	27 11.1	82 33.7	3 1.2	11 4.5
居住年数別	1年未満（n= 4）	1 25.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	0 0	1 25.0	0 0	0 0
	1～2年（n= 8）	1 12.5	3 37.5	2 25.0	6 75.0	1 12.5	2 25.0	0 0	0 0
	3～5年（n= 28）	10 35.7	4 14.3	8 28.6	12 42.9	4 14.3	11 39.3	0 0	0 0
	6～10年（n= 49）	9 18.4	15 30.6	9 18.4	25 51.0	4 8.2	18 36.7	2 4.1	3 6.1
	11～20年（n= 116）	32 27.6	20 17.2	29 25.0	63 54.3	12 10.3	41 35.3	4 3.4	0 0
	21年以上（n= 1,056）	271 25.7	193 18.3	301 28.5	583 55.2	112 10.6	338 32.0	27 2.6	52 4.9

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・ 市民との対話（4人）
 - ・ 建設的な議論（5人）
- 男性-60代-本庁地区・他
女性-40代-本庁地区・他

© 2006 The Authors
Journal compilation © 2006 Blackwell Publishing Ltd

1. 子育て支援・教育問題	2. 健康長寿対策	3. 医療や福祉問題
4. 環境問題	5. お住まいの地域の課題	
6. 産業・観光振興、経済活性化	9. 雇用・失業問題	
8. 中心市街地の活性化	9. 交通政策・都市計画	
10. 防災・防犯など安全なまちづくり	11. 協働のまちづくり	
12. 文化・芸能・スポーツ振興	13. その他（	）

--

版二第 17 页

課題	割合
医療や福祉問題	45.0%
子育て支援・教育問題	43.2%
防災・防犯など安全なまちづくり	32.4%
交通政策・都市計画	25.5%
雇用・失業問題	24.4%
健康長寿対策	19.4%
お住まいの地域の課題	15.3%
環境問題	14.9%
産業・観光振興、経済活性化	14.4%
文化・芸能・スポーツ振興	9.2%
中心市街地の活性化	7.4%
協働のまちづくり	4.4%
その他	2.1%
無回答	2.1%

- [illegible]

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、男性では「医療や福祉問題」の割合が高く、女性は「子育て支援・教育問題」の割合が高くなっている。

年代別でみると、10代～40代では「子育て支援・教育問題」の割合が最も高くなっており、50代以上では「医療や福祉問題」の割合が最も高い。また、20代では「雇用・失業問題」、70代以上では「健康長寿対策」の割合も高い。

居住地区別でみると、小祿地区で「子育て支援・教育問題」が5割以上を占めている。

居住年数別でみると、21年以上で「医療や福祉問題」の割合が高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性（n=合計） 上段（人）：下段（％）		子育て支援・ 教育問題	健康長寿 対策	医療や福祉 問題	環境問題	お住まいの 地域の課 題	産業・観光振興・経 済活性化	雇用・失業 問題	中心市街地の 活性化	都市計画・ 交通政策	防災・防犯など 安全なまちづくり	協働のまちづくり	文化・芸術・ スポーツ振興	その他	無回答
性別	男性（n= 546）	213 39.0	105 19.2	238 43.6	81 14.8	97 17.8	92 16.8	131 24.0	47 8.6	152 27.8	163 29.9	25 4.6	59 10.8	11 2.0	11 2.0
	女性（n= 711）	332 46.7	138 19.4	330 46.4	107 15.0	93 13.1	89 12.5	177 24.9	46 6.5	170 23.9	243 34.2	30 4.2	57 8.0	15 2.1	13 1.8
年代別	10代（n= 24）	13 54.2	1 4.2	9 37.5	2 8.3	3 12.5	3 12.5	8 33.3	1 4.2	8 33.3	9 37.5	2 8.3	4 16.7	0 0	0 0
	20代（n= 108）	61 56.5	6 5.6	38 35.2	12 11.1	12 11.1	18 16.7	47 43.5	6 5.6	45 41.7	27 25.0	1 0.9	7 6.5	1 0.9	0 0
	30代（n= 183）	115 62.8	12 6.6	77 42.1	21 11.5	28 15.3	35 19.1	56 30.6	13 7.1	57 31.1	56 30.6	8 4.4	15 8.2	5 2.7	2 1.1
	40代（n= 231）	105 45.5	24 10.4	97 42.0	37 16.0	35 15.2	38 16.5	64 27.7	12 5.2	53 22.9	86 37.2	15 6.5	21 9.1	6 2.6	3 1.3
	50代（n= 199）	78 39.2	33 16.6	100 50.3	34 17.1	28 14.1	27 13.6	45 22.6	15 7.5	63 31.7	67 33.7	4 2.0	17 8.5	4 2.0	1 0.5
	60代（n= 231）	85 36.8	56 24.2	111 48.1	46 19.9	36 15.6	28 12.1	52 22.5	19 8.2	48 20.8	81 35.1	6 2.6	22 9.5	4 1.7	5 2.2
	70代以上（n= 285）	88 30.9	112 39.3	137 48.1	36 12.6	50 17.5	33 11.6	36 12.6	27 9.5	48 16.8	81 28.4	20 7.0	30 10.5	6 2.1	15 5.3
地区別	本庁（n= 448）	184 41.1	83 18.5	197 44.0	75 16.7	66 14.7	73 16.3	106 23.7	38 8.5	113 25.2	148 33.0	16 3.6	42 9.4	14 3.1	8 1.8
	真和志（n= 322）	129 40.1	69 21.4	146 45.3	45 14.0	58 18.0	42 13.0	89 27.6	25 7.8	84 26.1	106 32.9	14 4.3	22 6.8	6 1.9	9 2.8
	小祿（n= 218）	117 53.7	30 13.8	108 49.5	31 14.2	25 11.5	35 16.1	51 23.4	12 5.5	61 28.0	64 29.4	11 5.0	20 9.2	4 1.8	5 2.3
	首里（n= 243）	103 42.4	55 22.6	105 43.2	34 14.0	40 16.5	29 11.9	51 21.0	15 6.2	56 23.0	78 32.1	13 5.3	26 10.7	2 0.8	3 1.2
居住年数別	1年未満（n= 4）	2 50.0	0 0	0 0	0 0	2 50.0	0 0	1 25.0	1 25.0	0 0	2 50.0	0 0	1 25.0	0 0	0 0
	1～2年（n= 8）	7 87.5	0 0	3 37.5	1 12.5	2 25.0	2 25.0	3 37.5	0 0	2 25.0	2 25.0	0 0	0 0	0 0	0 0
	3～5年（n= 28）	16 57.1	0 0	13 46.4	4 14.3	7 25.0	2 7.1	9 32.1	0 0	9 32.1	8 28.6	1 3.6	1 3.6	3 10.7	0 0
	6～10年（n= 49）	36 73.5	4 8.2	17 34.7	9 18.4	8 16.3	6 12.2	13 26.5	2 4.1	15 30.6	15 30.6	5 10.2	3 6.1	1 2.0	0 0
	11～20年（n= 116）	61 52.6	12 10.3	42 36.2	13 11.2	14 12.1	22 19.0	30 25.9	7 6.0	38 32.8	40 34.5	4 3.4	8 6.9	1 0.9	1 0.9
	21年以上（n= 1,056）	422 40.0	228 21.6	493 46.7	161 15.2	160 15.2	150 14.2	252 23.9	83 7.9	258 24.4	341 32.3	46 4.4	103 9.8	21 2.0	25 2.4

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

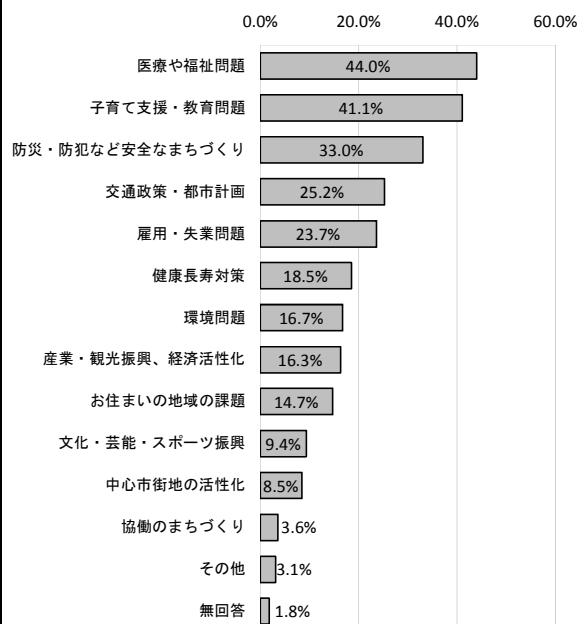
議会報告会で取り上げてほしいテーマについて、居住地区別に順位づけし、比較を行った。

本庁地区、真和志地区、首里地区では「医療や福祉問題」の割合が最も高く、小禄地区では「子育て支援・教育問題」が最も高い。すべての地区で「医療や福祉問題」、「子育て支援・教育問題」が上位2位を占めており、関心が高いことが伺える。

3位については、すべての地区で「防災・防犯など安全なまちづくり」となっている。

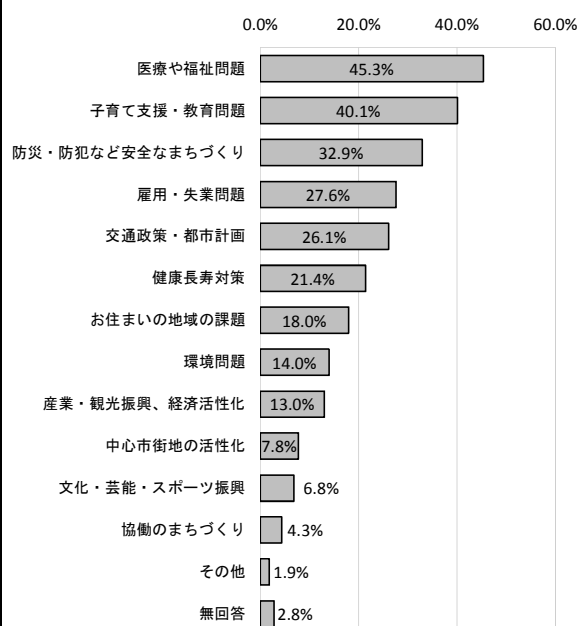
【本庁地区】

選択項目		回答数	%
1位	医療や福祉問題	197	44.0%
2位	子育て支援・教育問題	184	41.1%
3位	防災・防犯など安全なまちづくり	148	33.0%
4位	交通政策・都市計画	113	25.2%
5位	雇用・失業問題	106	23.7%
6位	健康長寿対策	83	18.5%
7位	環境問題	75	16.7%
8位	産業・観光振興、経済活性化	73	16.3%
9位	お住まいの地域の課題	66	14.7%
10位	文化・芸能・スポーツ振興	42	9.4%
11位	中心市街地の活性化	38	8.5%
12位	協働のまちづくり	16	3.6%
—	その他	14	3.1%
—	無回答	8	1.8%
合 計		1,163	—
回答者数		448	259.6%



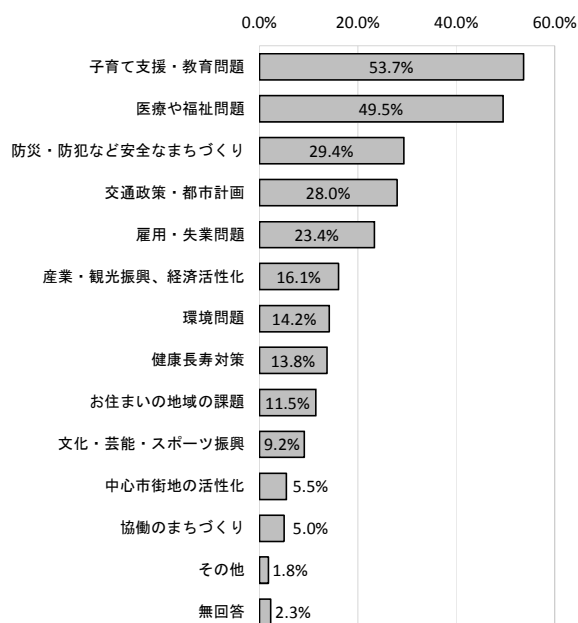
【真和志地区】

選択項目		回答数	%
1位	医療や福祉問題	146	45.3%
2位	子育て支援・教育問題	129	40.1%
3位	防災・防犯など安全なまちづくり	106	32.9%
4位	雇用・失業問題	89	27.6%
5位	交通政策・都市計画	84	26.1%
6位	健康長寿対策	69	21.4%
7位	お住まいの地域の課題	58	18.0%
8位	環境問題	45	14.0%
9位	産業・観光振興、経済活性化	42	13.0%
10位	中心市街地の活性化	25	7.8%
11位	文化・芸能・スポーツ振興	22	6.8%
12位	協働のまちづくり	14	4.3%
—	その他	6	1.9%
—	無回答	9	2.8%
合 計		844	—
回答者数		322	262.1%



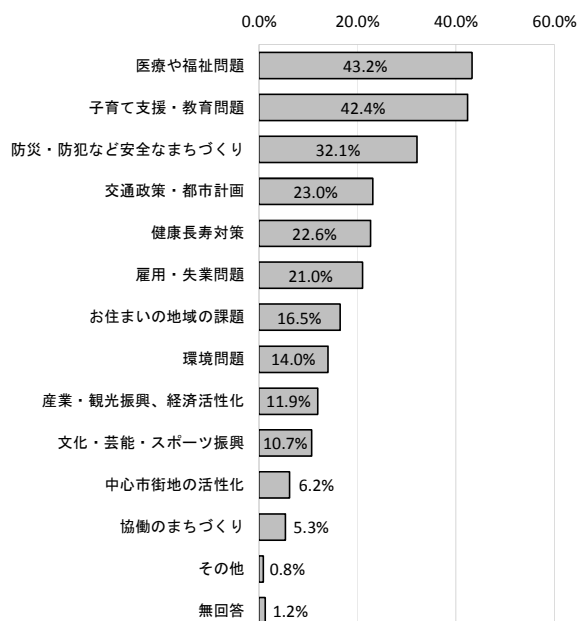
【小祿地区】

	選択項目	回答数	%
1位	子育て支援・教育問題	117	53.7%
2位	医療や福祉問題	108	49.5%
3位	防災・防犯など安全なまちづくり	64	29.4%
4位	交通政策・都市計画	61	28.0%
5位	雇用・失業問題	51	23.4%
6位	産業・観光振興、経済活性化	35	16.1%
7位	環境問題	31	14.2%
8位	健康長寿対策	30	13.8%
9位	お住まいの地域の課題	25	11.5%
10位	文化・芸能・スポーツ振興	20	9.2%
11位	中心市街地の活性化	12	5.5%
12位	協働のまちづくり	11	5.0%
—	その他	4	1.8%
—	無回答	5	2.3%
合 計		574	—
回答者数		218	263.3%



【首里地区】

	選択項目	回答数	%
1位	医療や福祉問題	105	43.2%
2位	子育て支援・教育問題	103	42.4%
3位	防災・防犯など安全なまちづくり	78	32.1%
4位	交通政策・都市計画	56	23.0%
5位	健康長寿対策	55	22.6%
6位	雇用・失業問題	51	21.0%
7位	お住まいの地域の課題	40	16.5%
8位	環境問題	34	14.0%
9位	産業・観光振興、経済活性化	29	11.9%
10位	文化・芸能・スポーツ振興	26	10.7%
11位	中心市街地の活性化	15	6.2%
12位	協働のまちづくり	13	5.3%
—	その他	2	0.8%
—	無回答	3	1.2%
合 計		610	—
回答者数		243	251.0%



(5) 平和行政・男女共同参画について

質問 15. 平和行政について、重点的に取り組むべきだと思うものを3つまでお選びください。

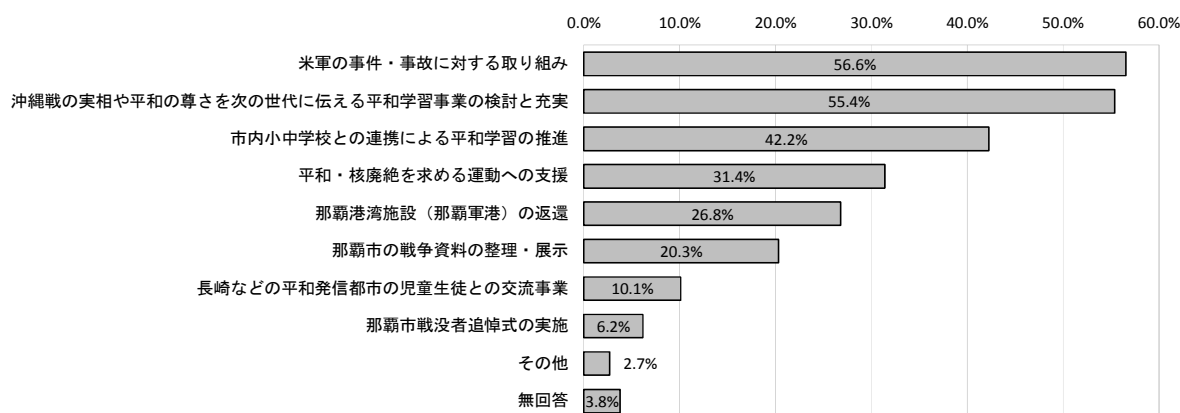
1. 米軍の事件・事故に対する取り組み
2. 那覇港湾施設（那覇軍港）の返還
3. 平和・核廃絶を求める運動への支援
4. 那覇市戦没者追悼式の実施
5. 長崎などの平和発信都市の児童生徒との交流事業
6. 市内小中学校との連携による平和学習の推進
7. 那覇市の戦争資料の整理・展示
8. 沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実
9. その他（ ）

平和行政について重点的に取り組むべきことは、「米軍の事件・事故に対する取り組み」と「沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実」である。

平和行政について重点的に取り組むべきことについては、「米軍の事件・事故に対する取り組み」が 56.6%と最も高く、次いで「沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実」が 55.4%、「市内小中学校との連携による平和学習の推進」が 42.2%の順となっている。

選択項目	回答数	%
1位 米軍の事件・事故に対する取り組み	715	56.6%
2位 沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実	700	55.4%
3位 市内小中学校との連携による平和学習の推進	534	42.2%
4位 平和・核廃絶を求める運動への支援	397	31.4%
5位 那覇港湾施設（那覇軍港）の返還	339	26.8%
6位 那覇市の戦争資料の整理・展示	257	20.3%
7位 長崎などの平和発信都市の児童生徒との交流事業	128	10.1%
8位 那覇市戦没者追悼式の実施	78	6.2%
— その他	34	2.7%
— 無回答	48	3.8%
合 計	3,230	—
回答者数	1,264	255.5%

※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。



【選択肢「その他」の主な内容】

- ・情報公開（政策の明確化）（3人）
- ・現状のままでよい（2人）

女性-60代-本庁地区・他
男性-50代-小禄地区・他

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、男性は「米軍の事件・事故に対する取り組み」の割合が高く、女性は「沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実」の割合が高くなっている。

年代別でみると、10代～20代、60代以上では「米軍の事件・事故に対する取り組み」の割合が高く、30代～50代では「沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実」の割合が高い。

居住地区別でみると、本庁地区、首里地区で「米軍の事件・事故に対する取り組み」の割合が最も高くなっており、特に首里地区では6割以上を占めている。

※■は第1位、■は第2位、□は第3位の項目

選択項目 回答者属性（n=合計） 上段（人）：下段（%）		米軍の事件・事故に対する取り組み・事	（那覇港・湾施設）の返還	平和・核廃絶運動への支援を求める	那覇市戦没者追悼式の実施	長崎などの平和発信都市の児童生徒との交流事業	市内小中学校との連携による平和学習の推進	那覇市の戦争資料の整理・展示	沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実	その他	無回答
性別	男性（n= 546）	309 56.6	205 37.5	151 27.7	45 8.2	52 9.5	228 41.8	124 22.7	280 51.3	17 3.1	15 2.7
	女性（n= 711）	403 56.7	133 18.7	244 34.3	33 4.6	75 10.5	306 43.0	132 18.6	417 58.6	17 2.4	31 4.4
年代別	10代（n= 24）	16 66.7	5 20.8	9 37.5	2 8.3	4 16.7	9 37.5	4 16.7	12 50.0	1 4.2	0 0
	20代（n= 108）	68 63.0	14 13.0	27 25.0	10 9.3	13 12.0	43 39.8	30 27.8	57 52.8	4 3.7	2 1.9
	30代（n= 183）	81 44.3	40 21.9	49 26.8	14 7.7	25 13.7	97 53.0	51 27.9	99 54.1	5 2.7	5 2.7
	40代（n= 231）	127 55.0	45 19.5	74 32.0	17 7.4	31 13.4	106 45.9	52 22.5	131 56.7	5 2.2	3 1.3
	50代（n= 199）	108 54.3	60 30.2	48 24.1	10 5.0	24 12.1	84 42.2	41 20.6	121 60.8	5 2.5	2 1.0
	60代（n= 231）	138 59.7	67 29.0	96 41.6	6 2.6	12 5.2	92 39.8	34 14.7	123 53.2	8 3.5	18 7.8
	70代以上（n= 285）	176 61.8	107 37.5	93 32.6	19 6.7	18 6.3	103 36.1	43 15.1	155 54.4	6 2.1	18 6.3
地区別	本庁（n= 448）	247 55.1	126 28.1	125 27.9	31 6.9	55 12.3	195 43.5	81 18.1	238 53.1	18 4.0	17 3.8
	真和志（n= 322）	179 55.6	87 27.0	99 30.7	22 6.8	30 9.3	140 43.5	65 20.2	191 59.3	9 2.8	14 4.3
	小禄（n= 218）	118 54.1	49 22.5	75 34.4	18 8.3	17 7.8	83 38.1	56 25.7	123 56.4	4 1.8	10 4.6
	首里（n= 243）	150 61.7	67 27.6	90 37.0	6 2.5	22 9.1	104 42.8	44 18.1	134 55.1	3 1.2	6 2.5
居住年数別	1年未満（n= 4）	1 25.0	1 25.0	1 25.0	0 0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	0 0	0 0
	1～2年（n= 8）	4 50.0	1 12.5	2 25.0	0 0	3 37.5	6 75.0	0 0	5 62.5	0 0	0 0
	3～5年（n= 28）	13 46.4	5 17.9	9 32.1	2 7.1	4 14.3	15 53.6	7 25.0	9 32.1	1 3.6	0 0
	6～10年（n= 49）	24 49.0	11 22.4	15 30.6	4 8.2	6 12.2	20 40.8	13 26.5	31 63.3	0 0	2 4.1
	11～20年（n= 116）	64 55.2	27 23.3	39 33.6	8 6.9	15 12.9	49 42.2	22 19.0	62 53.4	5 4.3	2 1.7
	21年以上（n= 1,056）	607 57.5	294 27.8	330 31.3	63 6.0	98 9.3	442 41.9	213 20.2	591 56.0	28 2.7	44 4.2

質問 16. 社会全体でみた場合、男女の平等について、あなたはどのように思いますか。

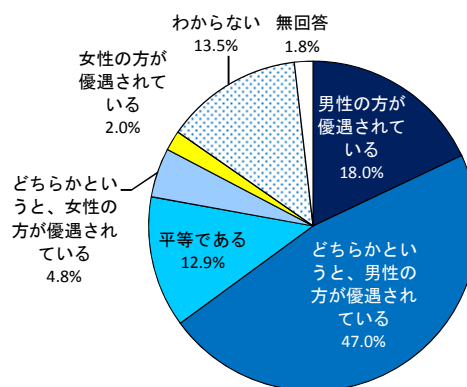
- | | |
|-----------------|-------------------------|
| 1. 男性の方が優遇されている | 2. どちらかという、男性の方が優遇されている |
| 3. 平等である | 4. どちらかという、女性の方が優遇されている |
| 5. 女性の方が優遇されている | 6. わからない |

男性が優遇されていると思う市民は 65.0%。女性が優遇されていると思う市民は 6.8%。

男女の平等について、「どちらかという、男性の方が優遇されている」が 47.0%で最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が 18.0%、「平等である」が 12.9%の順となっている。

「男性の方が優遇されている」と「どちらかという、男性の方が優遇されている」の合計は 6 割以上を占めている。

選択項目	回答数	%
男性の方が優遇されている	227	18.0%
どちらかという、男性の方が優遇されている	594	47.0%
平等である	163	12.9%
どちらかという、女性の方が優遇されている	61	4.8%
女性の方が優遇されている	25	2.0%
わからない	171	13.5%
無回答	23	1.8%
合 計	1,264	100%

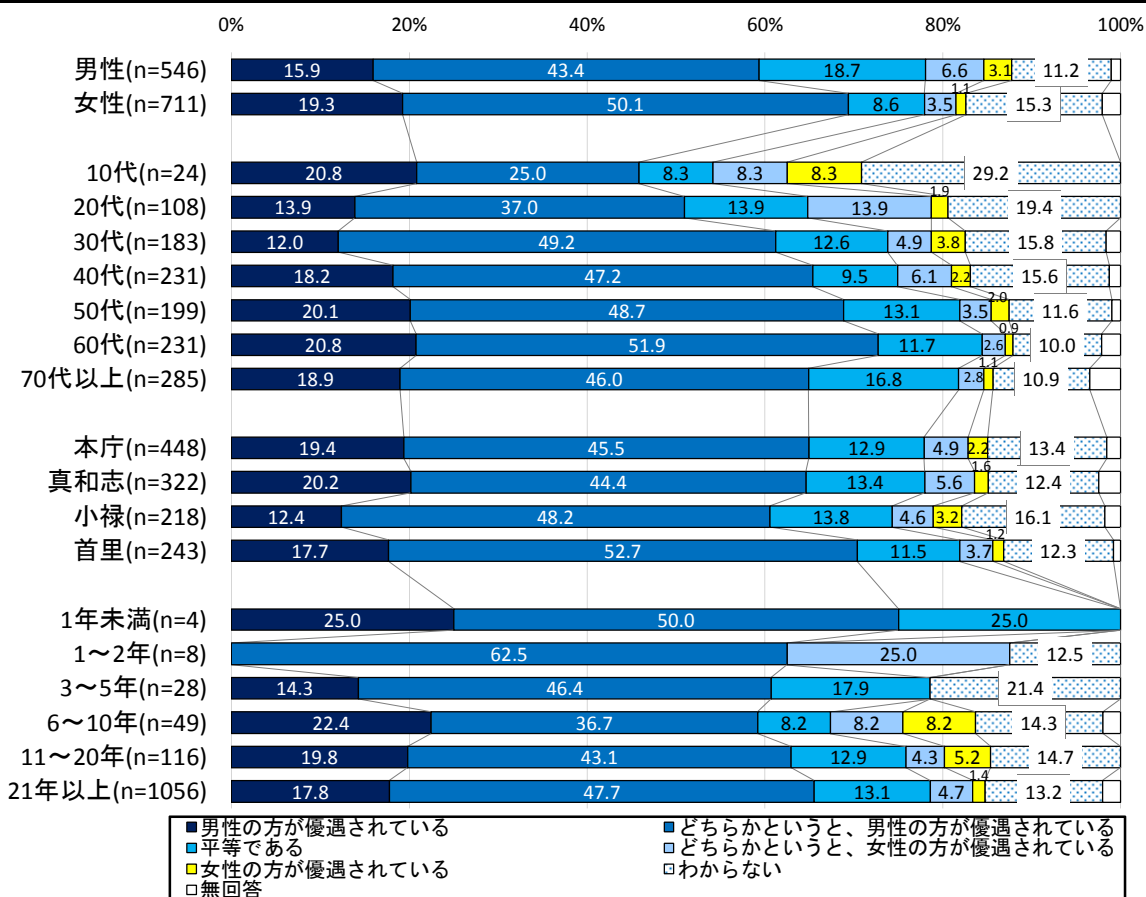


【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、男性は女性に比べ、「平等である」の割合が高くなっている。

年代別でみると、年代が上がるにつれて、「男性の方が優遇されている」の割合が高くなる傾向にある。

回答者属性(n=合計)	選択項目	男性の方が 優遇されている	どちらかという と、男性の方が 優遇されている	平等である	どちらかという と、女性の方が 優遇されている	女性の方が 優遇されている	わからない
男性 (n= 546)		87	237	102	36	17	61
女性 (n= 711)		137	356	61	25	8	109
10代 (n= 24)		5	6	2	2	2	7
20代 (n= 108)		15	40	15	15	2	21
30代 (n= 183)		22	90	23	9	7	29
40代 (n= 231)		42	109	22	14	5	36
50代 (n= 199)		40	97	26	7	4	23
60代 (n= 231)		48	120	27	6	2	23
70代以上 (n= 285)		54	131	48	8	3	31
本庁 (n= 448)		87	204	58	22	10	60
真和志 (n= 322)		65	143	43	18	5	40
小禄 (n= 218)		27	105	30	10	7	35
首里 (n= 243)		43	128	28	9	3	30
1年未満 (n= 4)		1	2	1	0	0	0
1～2年 (n= 8)		0	5	0	2	0	1
3～5年 (n= 28)		4	13	5	0	0	6
6～10年 (n= 49)		11	18	4	4	4	7
11～20年 (n= 116)		23	50	15	5	6	17
21年以上 (n= 1,056)		188	504	138	50	15	139



質問 17. 「性の多様性」に関する問題を人権問題ととらえ、「性の多様性を尊重する都市・なは」を宣言しました。戸籍上、同性であるお二人の申請に基づく、那覇市パートナーシップ登録制度など、「性の多様性」に関する取り組みについて、あなたはどのように思いますか。次の中から 1 つお選びください。

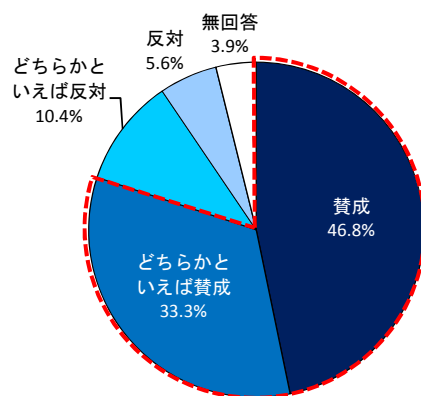
- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 賛成 | 2. どちらかといえば賛成 |
| 3. どちらかといえば反対 | 4. 反対 |

「性の多様性」に関する取り組みについて「賛成（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）」は 80.1%。

「性の多様性」に関する取り組みについては、「賛成」が 46.8%と最も多く、次いで「どちらかといえば賛成」が 33.3%、「どちらかといえば反対」が 10.4%の順となっており、「賛成」が「反対」を大きく上回っている。

「反対」と「どちらかといえば反対」の合計は 16.0%になっている。

選択項目	回答数	%
賛成	591	46.8%
どちらかといえば賛成	421	33.3%
どちらかといえば反対	132	10.4%
反対	71	5.6%
無回答	49	3.9%
合 計	1,264	100%



【那覇市の取り組み】

平成 27 年 7 月 「性の多様性を尊重する都市・なは」 宣言

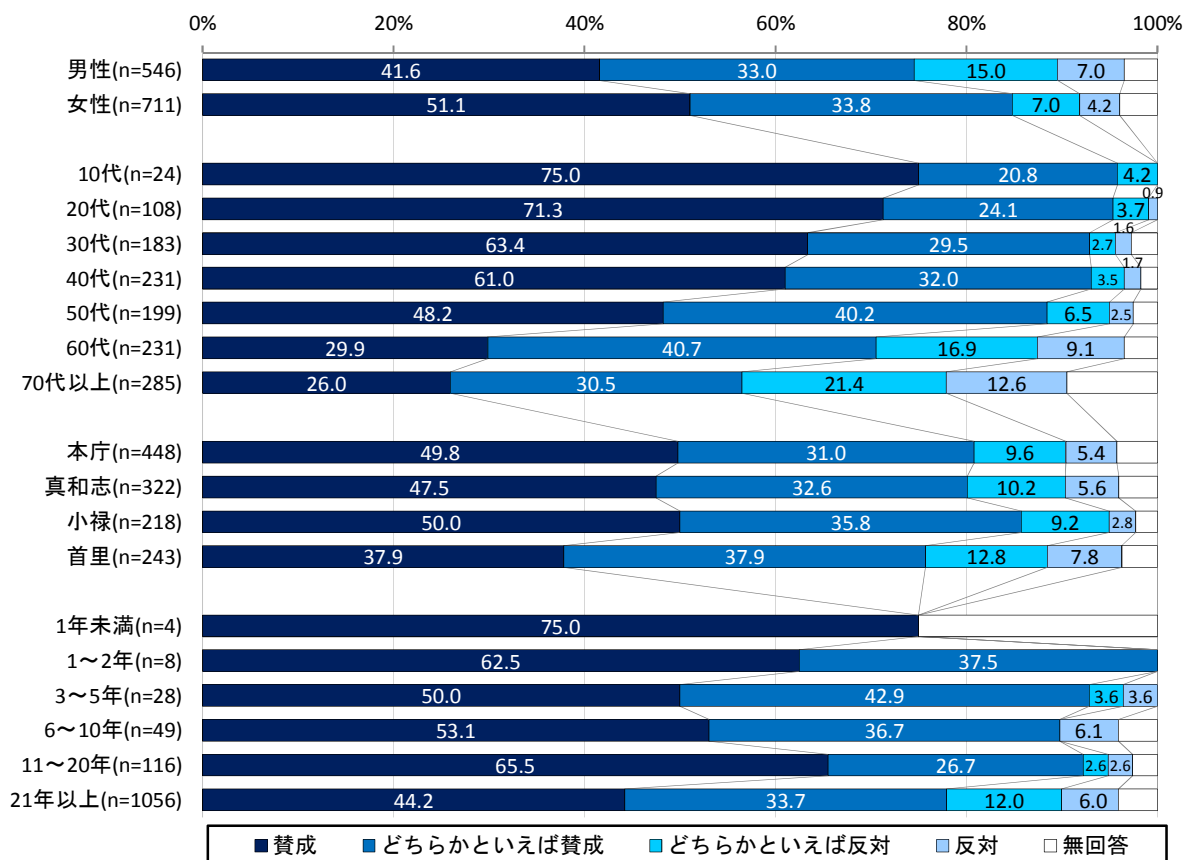
平成 28 年 7 月 「那覇市パートナーシップ登録」 制度の開始

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、女性は男性に比べ、「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合が高くなっている。

年代別でみると、年代が上がるにつれて、「反対」、「どちらかといえば反対」の割合が高くなる傾向にあるが、いずれの年代も「賛成」は半数を超えている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	無回答
男性 (n= 546)		227	180	82	38	19
女性 (n= 711)		363	240	50	30	28
10代 (n= 24)		18	5	1	0	0
20代 (n= 108)		77	26	4	1	0
30代 (n= 183)		116	54	5	3	5
40代 (n= 231)		141	74	8	4	4
50代 (n= 199)		96	80	13	5	5
60代 (n= 231)		69	94	39	21	8
70代以上 (n= 285)		74	87	61	36	27
本庁 (n= 448)		223	139	43	24	19
真和志 (n= 322)		153	105	33	18	13
小禄 (n= 218)		109	78	20	6	5
首里 (n= 243)		92	92	31	19	9
1年未満 (n= 4)		3	0	0	0	1
1～2年 (n= 8)		5	3	0	0	0
3～5年 (n= 28)		14	12	1	1	0
6～10年 (n= 49)		26	18	0	3	2
11～20年 (n= 116)		76	31	3	3	3
21年以上 (n= 1,056)		467	356	127	63	43



(6) 誰もが移動しやすいまちについて

質問 18. 子どもからお年寄りまで、誰でも快適に移動できるまちづくりのために、重要だと思うものを次の中から3つまでお選びください。

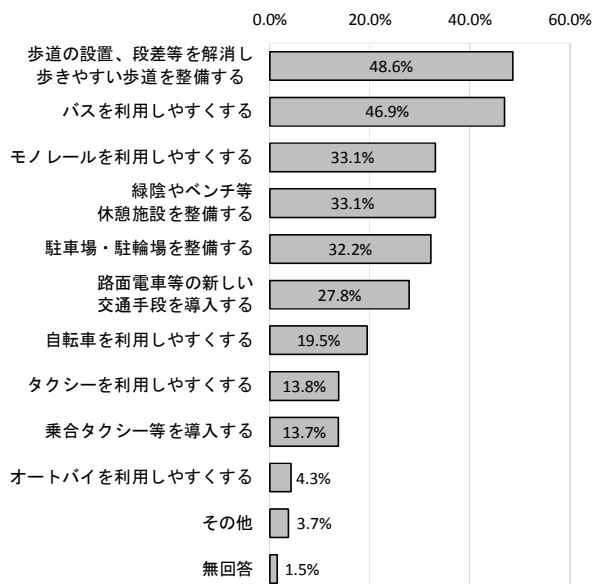
1. 自転車を利用しやすくする
2. オートバイを利用しやすくする
3. タクシーを利用しやすくする
4. バスを利用しやすくする
5. モノレールを利用しやすくする
6. 路面電車等の新しい交通手段を導入する
7. 乗合タクシー（※）等を導入する
8. 歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する
9. 緑陰やベンチ等休憩施設を整備する
10. 駐車場・駐輪場を整備する
11. その他（ ）

※乗合タクシー：利用者からの予約を受けて、定められた運行区域内で一般のタクシーを乗合で利用する新しいタイプの公共交通です。【例】真和志地域乗合タクシー

誰でも快適に移動できるまちづくりのために重要だと思うものは「歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する」ことである。

誰でも快適に移動できるまちづくりのために重要だと思うものは、「歩道の設置、段差等を解消し、歩きやすい歩道を整備する」が 48.6%と最も高く、次いで「バスを利用しやすくする」が 46.9%、「モノレールを利用しやすくする」「緑陰やベンチ等休憩施設を整備する」がともに 33.1%の順となっている。

選択項目	回答数	%
1位 歩道の設置、段差等を解消し 歩きやすい歩道を整備する	614	48.6%
2位 バスを利用しやすくする	593	46.9%
3位 モノレールを利用しやすくする	418	33.1%
3位 緑陰やベンチ等休憩施設を整備する	418	33.1%
5位 駐車場・駐輪場を整備する	407	32.2%
6位 路面電車等の新しい交通手段を 導入する	352	27.8%
7位 自転車を利用しやすくする	246	19.5%
8位 タクシーを利用しやすくする	174	13.8%
9位 乗合タクシー等を導入する	173	13.7%
10位 オートバイを利用しやすくする	54	4.3%
— その他	47	3.7%
— 無回答	19	1.5%
合 計	3,515	—
回答者数	1,264	278.1%

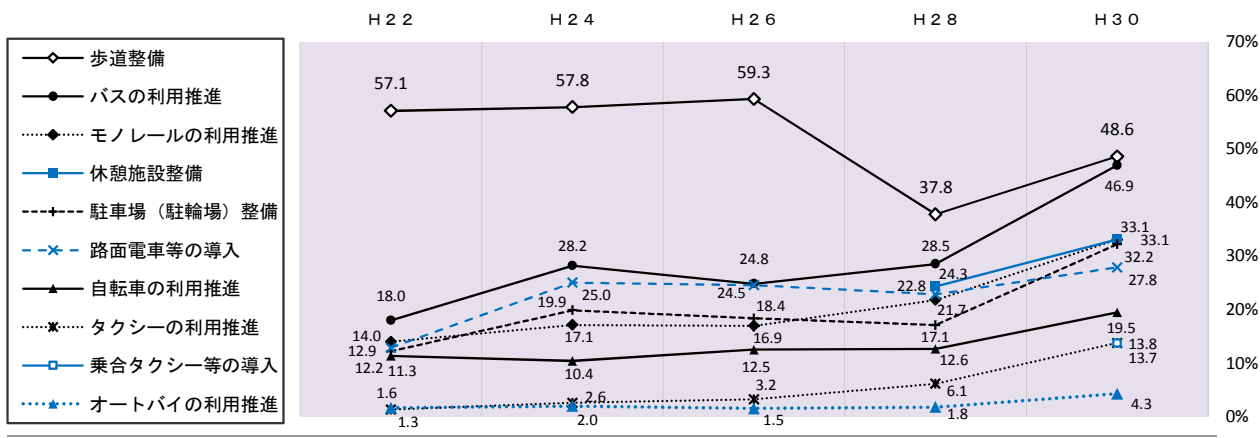


※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。

【経年変化（平成 22 年度～平成 30 年度）】

前回調査と比較すると、バスやモノレールの利用推進や駐車場の整備の割合が高くなっている。

※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出しているため、平成 22～28 年度も同様に算出し、比較。



【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、男性は「バスを利用しやすくする」の割合が高く、女性は「歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する」の割合が高くなっている。

年代別でみると、10代～30代では「バスを利用しやすくする」の割合が高いが、40代以降は「歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する」の割合が最も高い。

居住地区別でみると、小禄地区でバスやモノレールの利用に関する項目の割合が高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

回答者属性 (n=合計) 上段(人)：下段(%)		選択項目	利用しやすくする 自転車をする	利用しやすくする オートバイをする	利用しやすくする タクシーをする	利用しやすくする バスをする	利用しやすくする モノレールをする	路面電車等の新しい 交通手段を導入する	乗合タクシー等を 導入する	歩道の設置、段差等 を解消し歩きやすい 歩道を整備する	休憩施設やベンチ等 を整備する	緑陰や駐輪場を 整備する	その他	無回答
性別	男性 (n= 546)		130 23.8	40 7.3	71 13.0	245 44.9	184 33.7	175 32.1	78 14.3	225 41.2	170 31.1	176 32.2	19 3.5	6 1.1
	女性 (n= 711)		116 16.3	14 2.0	101 14.2	345 48.5	231 32.5	176 24.8	94 13.2	386 54.3	246 34.6	230 32.3	28 3.9	12 1.7
年代別	10代 (n= 24)		6 25.0	0 0	3 12.5	15 62.5	8 33.3	4 16.7	4 16.7	7 29.2	10 41.7	7 29.2	1 4.2	1 4.2
	20代 (n= 108)		19 17.6	7 6.5	13 12.0	53 49.1	49 45.4	29 26.9	10 9.3	45 41.7	27 25.0	47 43.5	4 3.7	0 0
	30代 (n= 183)		42 23.0	12 6.6	20 10.9	84 45.9	66 36.1	50 27.3	25 13.7	78 42.6	50 27.3	72 39.3	11 6.0	1 0.5
	40代 (n= 231)		54 23.4	10 4.3	32 13.9	99 42.9	85 36.8	59 25.5	32 13.9	107 46.3	73 31.6	87 37.7	9 3.9	1 0.4
	50代 (n= 199)		43 21.6	12 6.0	27 13.6	82 41.2	63 31.7	65 32.7	34 17.1	103 51.8	70 35.2	59 29.6	6 3.0	2 1.0
	60代 (n= 231)		33 14.3	4 1.7	31 13.4	122 52.8	65 28.1	66 28.6	24 10.4	133 57.6	83 35.9	77 33.3	8 3.5	2 0.9
	70代以上 (n= 285)		49 17.2	9 3.2	48 16.8	137 48.1	80 28.1	79 27.7	44 15.4	141 49.5	103 36.1	57 20.0	8 2.8	11 3.9
地区別	本庁 (n= 448)		92 20.5	11 2.5	75 16.7	208 46.4	137 30.6	126 28.1	58 12.9	221 49.3	149 33.3	144 32.1	19 4.2	4 0.9
	真和志 (n= 322)		67 20.8	22 6.8	38 11.8	156 48.4	91 28.3	97 30.1	40 12.4	169 52.5	109 33.9	97 30.1	9 2.8	6 1.9
	小禄 (n= 218)		42 19.3	7 3.2	29 13.3	103 47.2	93 42.7	61 28.0	32 14.7	95 43.6	68 31.2	68 31.2	7 3.2	3 1.4
	首里 (n= 243)		37 15.2	11 4.5	29 11.9	115 47.3	86 35.4	60 24.7	36 14.8	117 48.1	84 34.6	87 35.8	10 4.1	4 1.6
居住年数別	1年未満 (n= 4)		0 0	0 0	0 0	3 75.0	3 75.0	1 25.0	0 0	2 50.0	1 25.0	0 0	0 0	0 0
	1～2年 (n= 8)		2 25.0	0 0	1 12.5	3 37.5	4 50.0	1 12.5	0 0	5 62.5	3 37.5	4 50.0	1 12.5	0 0
	3～5年 (n= 28)		7 25.0	2 7.1	4 14.3	15 53.6	6 21.4	3 10.7	3 10.7	15 53.6	7 25.0	12 42.9	0 0	2 7.1
	6～10年 (n= 49)		14 28.6	4 8.2	6 12.2	20 40.8	18 36.7	10 20.4	3 6.1	23 46.9	16 32.7	21 42.9	1 2.0	0 0
	11～20年 (n= 116)		27 23.3	3 2.6	14 12.1	59 50.9	46 39.7	34 29.3	17 14.7	52 44.8	32 27.6	34 29.3	3 2.6	2 1.7
	21年以上 (n= 1,056)		196 18.6	45 4.3	149 14.1	493 46.7	339 32.1	302 28.6	150 14.2	517 49.0	358 33.9	334 31.6	42 4.0	14 1.3

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・道路の整備（3人）
 - ・Uber（自動車配信サイト）の導入（3人）
 - ・高齢者や障がい者向けの福祉車両の充実、割引
- 女性-30代-首里地区・他
男性-40代-本庁地区・他
女性-40代-首里地区・他

質問 19. バス、モノレール、タクシーの各公共交通について満足していますか。

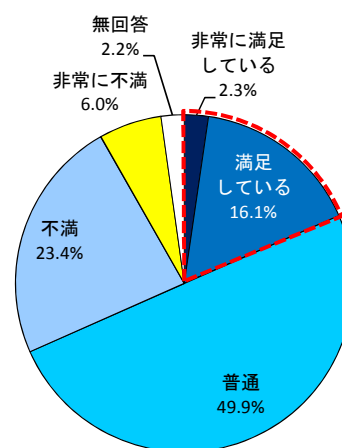
1. 非常に満足している 2. 満足している 3. 普通
4. 不満 5. 非常に不満

各公共交通について「満足」している市民は 18.4%。「不満」な市民は 29.4%。

バス、モノレール、タクシーの各公共交通について、満足しているかについては、「普通」が 49.9%と最も多く、次いで「不満」が 23.4%、「満足している」が 16.1%の順となっている。

「非常に満足している」と「満足している」の合計が 18.4%に対し、「不満」と「非常に不満」の合計は 29.4%であり、各公共交通に対して、「不満」に感じている市民の方が多いことが伺える。

選択項目	回答数	%
非常に満足している	29	2.3%
満足している	204	16.1%
普通	631	49.9%
不満	296	23.4%
非常に不満	76	6.0%
無回答	28	2.2%
合 計	1,264	100%



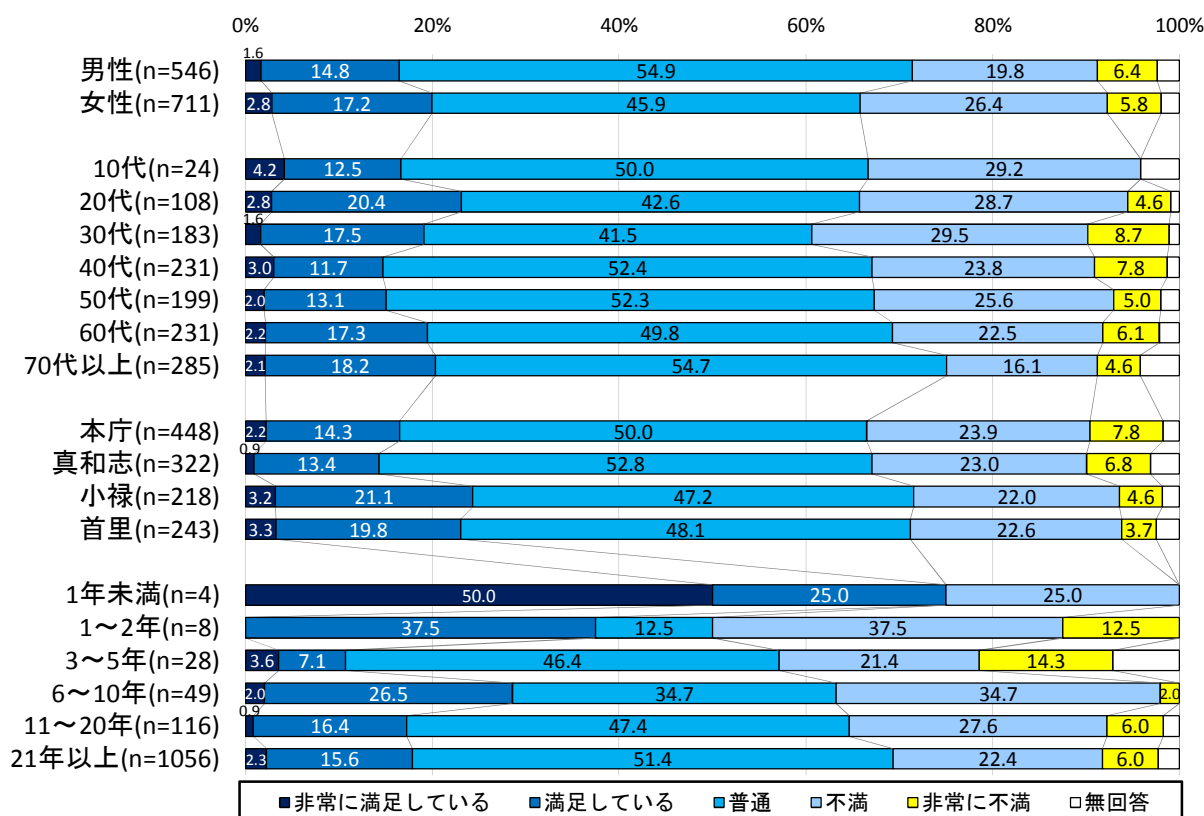
【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、女性は男性に比べ、「不満」の割合が高くなっている。

年代別でみると、30代で「不満」、「非常に不満」の割合が高くなっている。

居住地区別でみると、小祿地区と首里地区で「非常に満足している」「満足している」の割合が高くなっている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	非常に満足している	満足している	普通	不満	非常に不満	無回答
男性 (n= 546)		9	81	300	108	35	13
女性 (n= 711)		20	122	326	188	41	14
10代 (n= 24)		1	3	12	7	0	1
20代 (n= 108)		3	22	46	31	5	1
30代 (n= 183)		3	32	76	54	16	2
40代 (n= 231)		7	27	121	55	18	3
50代 (n= 199)		4	26	104	51	10	4
60代 (n= 231)		5	40	115	52	14	5
70代以上 (n= 285)		6	52	156	46	13	12
本庁 (n= 448)		10	64	224	107	35	8
真和志 (n= 322)		3	43	170	74	22	10
小祿 (n= 218)		7	46	103	48	10	4
首里 (n= 243)		8	48	117	55	9	6
1年未満 (n= 4)		2	1	0	1	0	0
1～2年 (n= 8)		0	3	1	3	1	0
3～5年 (n= 28)		1	2	13	6	4	2
6～10年 (n= 49)		1	13	17	17	1	0
11～20年 (n= 116)		1	19	55	32	7	2
21年以上 (n= 1,056)		24	165	543	237	63	24



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

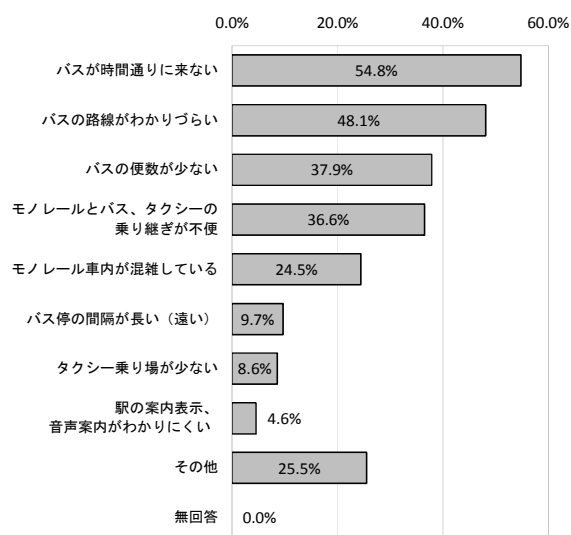
質問 19-1. 上記質問で「4」又は「5」を選択した方に伺います。不満に感じていることを次の中から3つまでお選びください。

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1. バスが時間通りに来ない | 2. バスの便数が少ない |
| 3. バスの路線がわかりづらい | 4. バス停の間隔が長い（遠い） |
| 5. モノレールとバス、タクシーの乗り継ぎが不便 | |
| 6. タクシー乗り場が少ない | 7. 駅の案内表示、音声案内がわかりにくい |
| 8. モノレール車内が混雑している | 9. その他（ ） |

公共交通の不満に感じていることは、「バスが時間通りに来ない」、「バスの路線がわかりづらい」ことである。

質問 19 で、各公共交通に対し「不満」に感じている理由について、「バスが時間通りに来ない」が 54.8%と最も高く、次いで「バスの路線がわかりづらい」が 48.1%、「バスの便数が少ない」が 37.9%の順となっている。

選択項目	回答数	%
1位 バスが時間通りに来ない	204	54.8%
2位 バスの路線がわかりづらい	179	48.1%
3位 バスの便数が少ない	141	37.9%
4位 モノレールとバス、タクシーの乗り継ぎが不便	136	36.6%
5位 モノレール車内が混雑している	91	24.5%
6位 バス停の間隔が長い（遠い）	36	9.7%
7位 タクシー乗り場が少ない	32	8.6%
8位 駅の案内表示、音声案内がわかりにくい	17	4.6%
— その他	95	25.5%
— 無回答	0	0.0%
合 計	931	—
回答者数	372	250.3%



※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。

【選択肢「その他」の主な内容】

- | | |
|--------------------------------|----------------|
| • 運賃が高い、支払方法が不便（23 人） | 女性-20 代-本庁地区・他 |
| • 運転手のマナーが悪い（16 人） | 男性-30 代-本庁地区・他 |
| • 停留所の設備（ベンチ、屋根、案内表示）が悪い（16 人） | 男性-50 代-首里地区・他 |
| • モノレールの範囲が狭い（11 人） | 女性-30 代-本庁地区・他 |

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

年代別でみると、10代で「バスの便数が少ない」の割合が最も高く、30代と50代で「バスの路線がわかりづらい」の割合が最も高い。また、30代は「モノレール車内が混雑している」の割合も高くなっている。

居住地区別でみると、本庁地区では「バスの路線がわかりづらい」の割合が最も高く、首里地区では「バスの便数が少ない」の割合が高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性（n=合計） 上段（人）：下段（%）		バスが時間通りに来ない	バスの便数が少ない	バスの路線がわかりづらい	バス停の間隔が長い（遠い）	モノレールとバス、タクシートの乗り継ぎが不便	タクシー乗り場が少ない	音声案内がわかりにくい	モノレール車内が混雑している	その他	無回答
性別	男性（n= 143）	74 51.7	47 32.9	74 51.7	14 9.8	49 34.3	14 9.8	8 5.6	36 25.2	38 26.6	0 0
	女性（n= 229）	130 56.8	94 41.0	105 45.9	22 9.6	87 38.0	18 7.9	9 3.9	55 24.0	57 24.9	0 0
年代別	10代（n= 7）	4 57.1	5 71.4	4 57.1	1 14.3	3 42.9	0 0	1 14.3	0 0	1 14.3	0 0
	20代（n= 36）	21 58.3	14 38.9	17 47.2	4 11.1	7 19.4	2 5.6	1 2.8	10 27.8	13 36.1	0 0
	30代（n= 70）	30 42.9	17 24.3	37 52.9	4 5.7	21 30.0	3 4.3	4 5.7	32 45.7	25 35.7	0 0
	40代（n= 73）	40 54.8	28 38.4	34 46.6	4 5.5	29 39.7	7 9.6	2 2.7	20 27.4	18 24.7	0 0
	50代（n= 61）	34 55.7	21 34.4	37 60.7	5 8.2	25 41.0	6 9.8	4 6.6	11 18.0	12 19.7	0 0
	60代（n= 66）	40 60.6	30 45.5	30 45.5	9 13.6	23 34.8	8 12.1	2 3.0	14 21.2	13 19.7	0 0
	70代以上（n= 59）	35 59.3	26 44.1	20 33.9	9 15.3	28 47.5	6 10.2	3 5.1	4 6.8	13 22.0	0 0
地区別	本庁（n= 142）	71 50.0	54 38.0	74 52.1	9 6.3	49 34.5	9 6.3	4 2.8	30 21.1	46 32.4	0 0
	真和志（n= 96）	50 52.1	41 42.7	43 44.8	11 11.5	41 42.7	12 12.5	8 8.3	24 25.0	20 20.8	0 0
	小禄（n= 58）	35 60.3	10 17.2	31 53.4	7 12.1	18 31.0	7 12.1	2 3.4	22 37.9	11 19.0	0 0
	首里（n= 64）	41 64.1	30 46.9	27 42.2	8 12.5	24 37.5	2 3.1	3 4.7	14 21.9	14 21.9	0 0
居住年数別	1年未満（n= 1）	0 0	0 0	1 100.0	0 0	1 100.0	0 0	0 0	1 100.0	0 0	0 0
	1～2年（n= 4）	3 75.0	1 25.0	1 25.0	0 0	0 0	1 25.0	0 0	2 50.0	3 75.0	0 0
	3～5年（n= 10）	5 50.0	4 40.0	4 40.0	0 0	6 60.0	1 10.0	0 0	2 20.0	3 30.0	0 0
	6～10年（n= 18）	5 27.8	6 33.3	8 44.4	1 5.6	9 50.0	1 5.6	0 0	8 44.4	5 27.8	0 0
	11～20年（n= 39）	21 53.8	14 35.9	25 64.1	5 12.8	9 23.1	1 2.6	4 10.3	11 28.2	11 28.2	0 0
	21年以上（n= 300）	170 56.7	116 38.7	140 46.7	30 10.0	111 37.0	28 9.3	13 4.3	67 22.3	73 24.3	0 0

(7) 協働によるまちづくりについて

質問 20. あなたが現在行っているボランティア活動の分野について、次の中から2つまでお選びください。

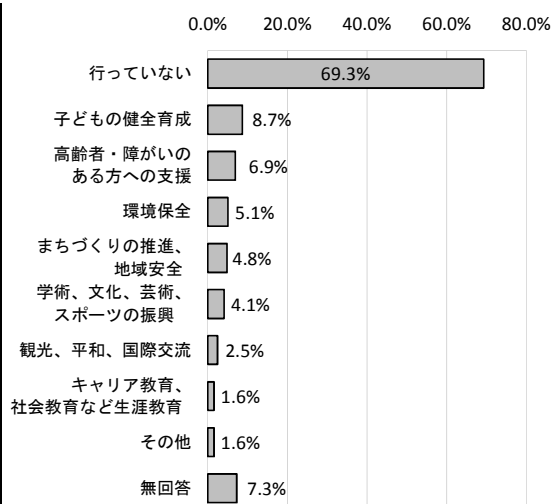
- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 高齢者・障がいのある方への支援 | 2. 子どもの健全育成 |
| 3. まちづくりの推進、地域安全 | 4. 環境保全 |
| 5. キャリア教育、社会教育など生涯教育 | 6. 学術、文化、芸術、スポーツの振興 |
| 7. 観光、平和、国際交流 | 8. その他 () |
| 9. 行っていない | |

ボランティア活動を行っていない市民は 69.3%を占めている。

現在行っているボランティア活動については、「子どもの健全育成」が 8.7%で最も多く、次いで「高齢者・障がいのある方への支援」が 6.9%、「環境保全」が 5.1%の順となっている。

また、「行っていない」と回答した市民は 69.3%と 7 割弱を占めている。

選択項目	回答数	%
1 位 行っていない	876	69.3%
2 位 子どもの健全育成	110	8.7%
3 位 高齢者・障がいのある方への支援	87	6.9%
4 位 環境保全	64	5.1%
5 位 まちづくりの推進、地域安全	61	4.8%
6 位 学術、文化、芸術、スポーツの振興	52	4.1%
7 位 観光、平和、国際交流	31	2.5%
8 位 キャリア教育、社会教育など生涯教育	20	1.6%
- その他	20	1.6%
- 無回答	92	7.3%
合 計	1,413	—
回答者数	1,264	111.8%



※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・清掃活動（公園、道路等）（4 人）
- ・動物の保護活動（3 人）

女性-60 代-小祿地区・他
女性-40 代-本庁地区・他

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

すべての属性において、「行っていない」の割合が最も高いことから、ボランティアの意義等について市民へ周知することが重要であると思われる。

性別でみると、男性は「環境保全」、女性は「高齢者・障がいのある方への支援」の割合が比較的高くなっている。

年代別でみると、比較的年齢が高くなるほど「行っていない」の割合は低くなる傾向がある。また、20代、60代以上で「高齢者・障がいのある方への支援」の割合が高い。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性 (n=合計) 上段(人)：下段(%)		高齢者・障がいのある方への支援	子どもの健全育成	まちづくりの推進、地域安全	環境保全	キャリア教育、社会教育など	芸術、学術、文化、スポーツの振興	観光、平和、国際交流	その他	行っていない	無回答
性別	男性 (n= 546)	36 6.6	49 9.0	36 6.6	40 7.3	11 2.0	31 5.7	16 2.9	8 1.5	367 67.2	32 5.9
	女性 (n= 711)	50 7.0	60 8.4	24 3.4	24 3.4	9 1.3	21 3.0	14 2.0	12 1.7	506 71.2	58 8.2
年代別	10代 (n= 24)	1 4.2	2 8.3	0 0	1 4.2	0 0	3 12.5	0 0	0 0	17 70.8	1 4.2
	20代 (n= 108)	6 5.6	4 3.7	1 0.9	2 1.9	1 0.9	4 3.7	3 2.8	0 0	90 83.3	1 0.9
	30代 (n= 183)	5 2.7	17 9.3	7 3.8	5 2.7	5 2.7	6 3.3	6 3.3	1 0.5	147 80.3	2 1.1
	40代 (n= 231)	11 4.8	30 13.0	13 5.6	10 4.3	2 0.9	7 3.0	6 2.6	3 1.3	168 72.7	8 3.5
	50代 (n= 199)	6 3.0	13 6.5	9 4.5	10 5.0	3 1.5	4 2.0	5 2.5	7 3.5	150 75.4	7 3.5
	60代 (n= 231)	25 10.8	13 5.6	7 3.0	18 7.8	4 1.7	11 4.8	0 0	3 1.3	159 68.8	18 7.8
	70代以上 (n= 285)	33 11.6	30 10.5	24 8.4	18 6.3	5 1.8	17 6.0	10 3.5	6 2.1	144 50.5	54 18.9
地区別	本庁 (n= 448)	30 6.7	38 8.5	19 4.2	18 4.0	5 1.1	27 6.0	17 3.8	7 1.6	312 69.6	26 5.8
	真和志 (n= 322)	27 8.4	30 9.3	16 5.0	15 4.7	6 1.9	8 2.5	3 0.9	5 1.6	221 68.6	31 9.6
	小祿 (n= 218)	9 4.1	20 9.2	11 5.0	12 5.5	4 1.8	7 3.2	3 1.4	2 0.9	159 72.9	13 6.0
	首里 (n= 243)	18 7.4	20 8.2	9 3.7	15 6.2	4 1.6	7 2.9	7 2.9	4 1.6	166 68.3	19 7.8
居住年数別	1年未満 (n= 4)	1 25.0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	3 75.0	0 0
	1～2年 (n= 8)	0 0	1 12.5	2 25.0	1 12.5	0 0	0 0	1 12.5	0 0	5 62.5	0 0
	3～5年 (n= 28)	1 3.6	4 14.3	1 3.6	3 10.7	0 0	1 3.6	0 0	1 3.6	19 67.9	2 7.1
	6～10年 (n= 49)	0 0	7 14.3	1 2.0	0 0	1 2.0	1 2.0	3 6.1	0 0	40 81.6	0 0
	11～20年 (n= 116)	4 3.4	12 10.3	5 4.3	4 3.4	1 0.9	7 6.0	4 3.4	1 0.9	81 69.8	7 6.0
	21年以上 (n= 1,056)	81 7.7	85 8.0	52 4.9	55 5.2	18 1.7	43 4.1	22 2.1	18 1.7	728 68.9	82 7.8

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 21. 行政機関がボランティア活動を支援する場合、どのようなことをしたらよいと思いますか。
次の中から2つまでお選びください。

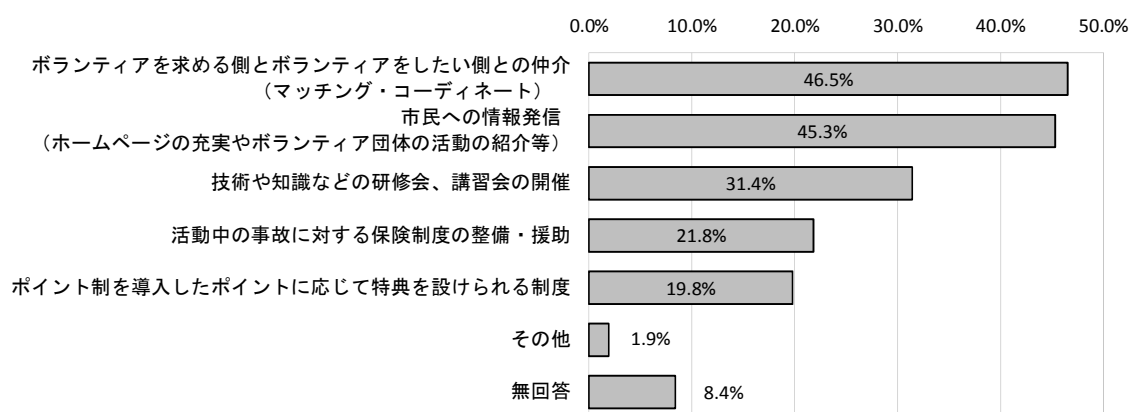
1. 市民への情報発信（ホームページの充実やボランティア団体の活動の紹介等）
2. 技術や知識などの研修会、講習会の開催
3. 活動中の事故に対する保険制度の整備・援助
4. ポイント制を導入したポイントに応じて特典を設けられる制度
5. ボランティアを求める側とボランティアをしたい側との仲介（マッチング・コーディネート）
6. その他（ ）

ボランティア活動を支援する取組として、「ボランティアを求める側とボランティアをしたい側との仲介（マッチング・コーディネート）」が期待されている。

ボランティア活動を支援する取組は、「ボランティアを求める側とボランティアをしたい側との仲介（マッチング・コーディネート）」が 46.5%で最も高く、次いで「市民への情報発信（ホームページの充実やボランティア団体の活動の紹介等）」が 45.3%、「技術や知識などの研修会、講習会の開催」が 31.4%の順となっている。

選択項目		回答数	%
1 位	ボランティアを求める側とボランティアをしたい側との仲介（マッチング・コーディネート）	588	46.5%
2 位	市民への情報発信（ホームページの充実やボランティア団体の活動の紹介等）	573	45.3%
3 位	技術や知識などの研修会、講習会の開催	397	31.4%
4 位	活動中の事故に対する保険制度の整備・援助	276	21.8%
5 位	ポイント制を導入したポイントに応じて特典を設けられる制度	250	19.8%
—	その他	24	1.9%
—	無回答	106	8.4%
合 計		2,214	—
回答者数		1,264	175.2%

※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。



【選択肢「その他」の主な内容】

- ・活動費等の助成、援助（5 人）

女性-30 代-首里地区・他

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、男性は「市民への情報発信」の割合が最も高く、女性は「仲介（マッチング・コーディネート）」の割合が最も高くなっている。

年代別でみると、10代～20代、60代以上で「市民への情報発信」の割合が最も高くなっているが、30代～50代では「ボランティアを求める側とボランティアをしたい側との仲介（マッチング・コーディネート）」の割合が高い。

居住年数別では、居住年数が長いほど「仲介（マッチング・コーディネート）」を求める傾向にある。

※■は第1位、■は第2位、□は第3位の項目

選択項目 回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)		市民への情報発信 (ホームページの充実や ボランティア団体の 活動の紹介等)	研修会、講習会などの 開催	活動中の事故に 対する 保険制度の整備・ 援助	ポイント制を導入した 特典を設けられる 制度	ボランティアを求める側 とボランティアを したい側との仲介 (マッチング・ コーディネート)	その他	無回答
性別	男性 (n= 546)	244 44.7	173 31.7	131 24.0	119 21.8	235 43.0	12 2.2	44 8.1
	女性 (n= 711)	328 46.1	223 31.4	143 20.1	131 18.4	350 49.2	12 1.7	61 8.6
年代別	10代 (n= 24)	12 50.0	6 25.0	4 16.7	9 37.5	10 41.7	0 0	1 4.2
	20代 (n= 108)	51 47.2	31 28.7	23 21.3	38 35.2	48 44.4	1 0.9	2 1.9
	30代 (n= 183)	77 42.1	56 30.6	34 18.6	49 26.8	101 55.2	4 2.2	4 2.2
	40代 (n= 231)	107 46.3	84 36.4	52 22.5	50 21.6	118 51.1	5 2.2	7 3.0
	50代 (n= 199)	102 51.3	65 32.7	44 22.1	38 19.1	112 56.3	2 1.0	5 2.5
	60代 (n= 231)	120 51.9	72 31.2	54 23.4	22 9.5	106 45.9	5 2.2	27 11.7
	70代以上 (n= 285)	104 36.5	81 28.4	65 22.8	43 15.1	92 32.3	7 2.5	59 20.7
地区別	本庁 (n= 448)	207 46.2	125 27.9	102 22.8	86 19.2	209 46.7	10 2.2	39 8.7
	真和志 (n= 322)	151 46.9	104 32.3	70 21.7	65 20.2	151 46.9	7 2.2	26 8.1
	小祿 (n= 218)	98 45.0	77 35.3	39 17.9	48 22.0	111 50.9	3 1.4	12 5.5
	首里 (n= 243)	105 43.2	80 32.9	55 22.6	43 17.7	105 43.2	4 1.6	25 10.3
居住年数別	1年未満 (n= 4)	3 75.0	0 0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	0 0	0 0
	1～2年 (n= 8)	4 50.0	3 37.5	4 50.0	1 12.5	3 37.5	0 0	0 0
	3～5年 (n= 28)	11 39.3	7 25.0	3 10.7	10 35.7	11 39.3	0 0	3 10.7
	6～10年 (n= 49)	20 40.8	18 36.7	9 18.4	12 24.5	25 51.0	1 2.0	1 2.0
	11～20年 (n= 116)	60 51.7	26 22.4	23 19.8	23 19.8	64 55.2	4 3.4	5 4.3
	21年以上 (n= 1,056)	475 45.0	341 32.3	235 22.3	203 19.2	483 45.7	19 1.8	96 9.1

質問 22. 那覇市では、協働によるまちづくりを実践している団体の代表者や、団体が推薦する方々を「協働大使」として委嘱しております。

「協働大使」にどのような役割を期待しますか？次の中から1つお選びください。

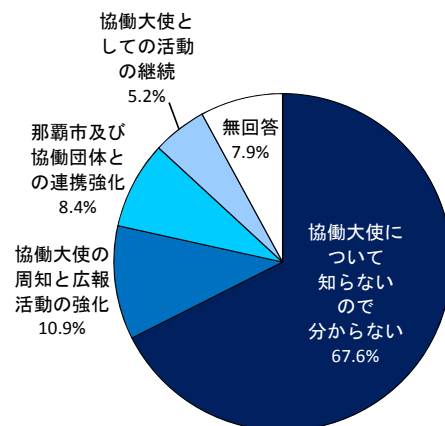
1. 協働大使としての活動の継続
2. 那覇市及び協働団体との連携強化
3. 協働大使の周知と広報活動の強化
4. 協働大使について知らないで分からない

「協働大使」について知らない市民が 67.6%。「協働大使」について市民に周知することが重要。

「協働大使」に期待する役割については、「協働大使の周知と広報活動の強化」が 10.9%と最も多く、次いで「那覇市及び協働団体との連携強化」が 8.4%、「協働大使としての活動の継続」が 5.2%の順となっている。

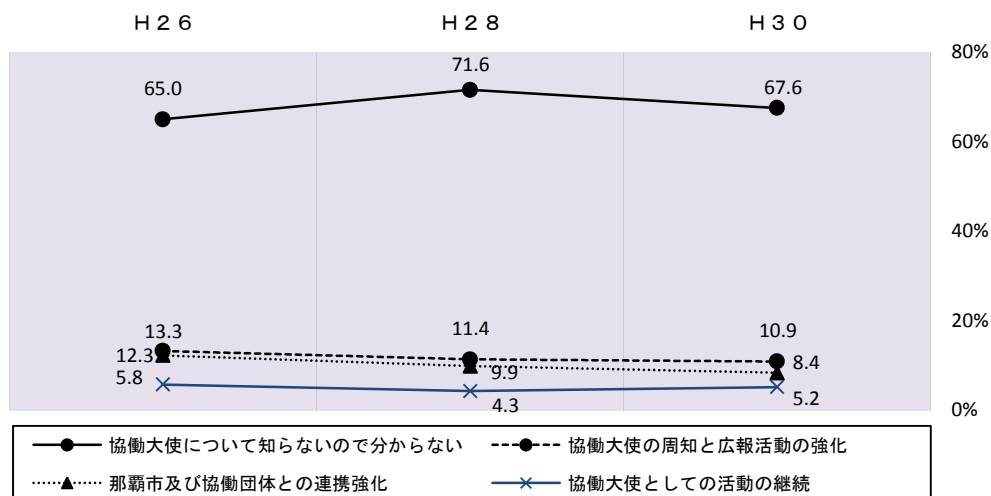
「協働大使」について、知らない市民は 7 割弱を占め、「協働大使の周知と広報活動の強化」の役割に期待している市民が多いことから、今後、「協働大使」の存在・役割・目的等について周知していくことが望ましいと考えられる。

選択項目	回答数	%
1 位 協働大使について知らないで分からない	854	67.6%
2 位 協働大使の周知と広報活動の強化	138	10.9%
3 位 那覇市及び協働団体との連携強化	106	8.4%
4 位 協働大使としての活動の継続	66	5.2%
- 無回答	100	7.9%
合 計	1,264	100%



【経年変化（平成 26 年度～平成 30 年度）】

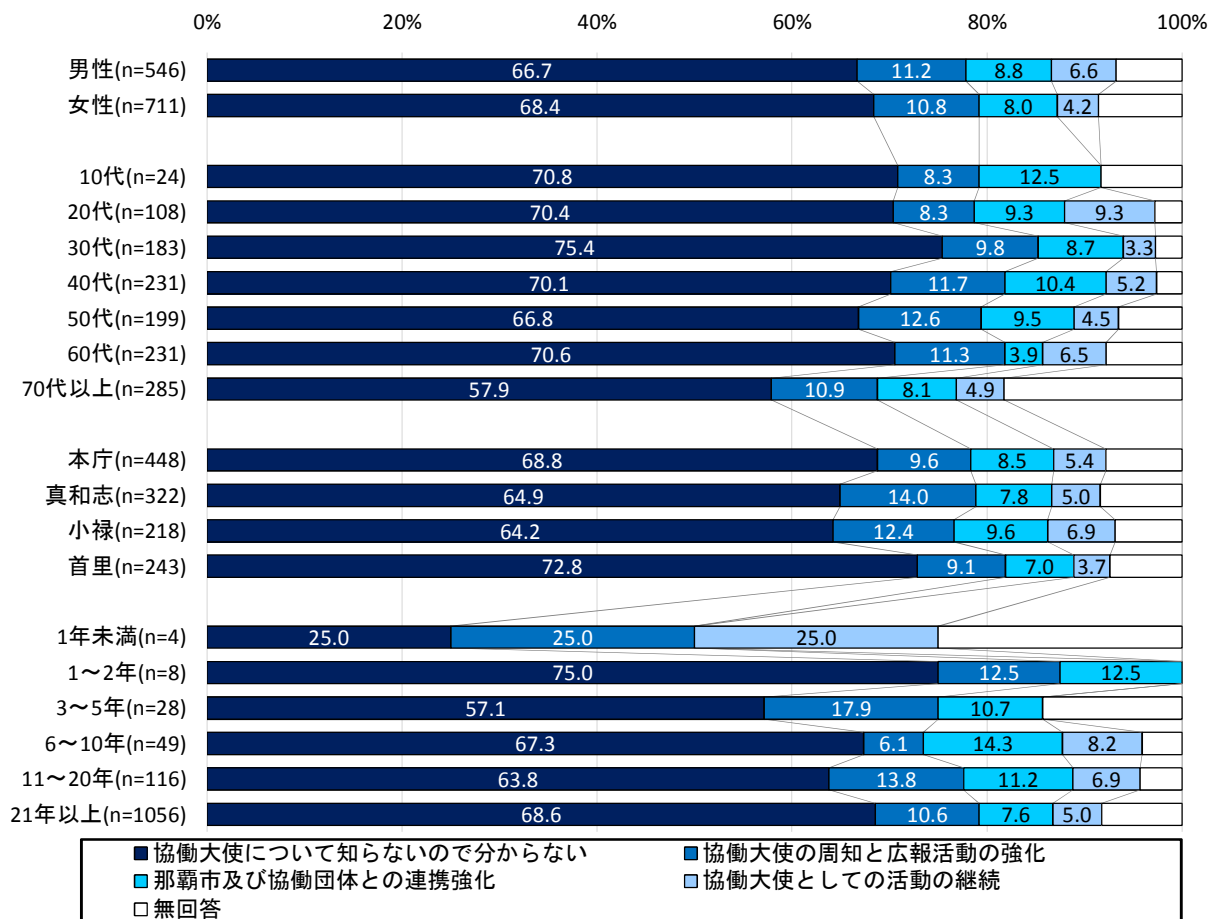
前回調査と比較すると、「協働大使について知らないで分からない」の割合は 4.0 ポイント減少しているが、平成 26 年度から最も高い割合は変わらない。



【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

すべての属性において、「協働大使について知らないので分からない」の割合が高くなっており、あまり大きな違いは見られない。

回答者属性(n=合計)	選択項目	1 位	2 位	3 位	4 位	—
		協働大使について 知らないので 分からない	協働大使の周知と 広報活動の強化	那覇市及び 協働団体との 連携強化	協働大使としての 活動の継続	無回答
男性 (n= 546)		364	61	48	36	37
女性 (n= 711)		486	77	57	30	61
10代 (n= 24)		17	2	3	0	2
20代 (n= 108)		76	9	10	10	3
30代 (n= 183)		138	18	16	6	5
40代 (n= 231)		162	27	24	12	6
50代 (n= 199)		133	25	19	9	13
60代 (n= 231)		163	26	9	15	18
70代以上 (n= 285)		165	31	23	14	52
本庁 (n= 448)		308	43	38	24	35
真和志 (n= 322)		209	45	25	16	27
小禄 (n= 218)		140	27	21	15	15
首里 (n= 243)		177	22	17	9	18
1年未満 (n= 4)		1	1	0	1	1
1～2年 (n= 8)		6	1	1	0	0
3～5年 (n= 28)		16	5	3	0	4
6～10年 (n= 49)		33	3	7	4	2
11～20年 (n= 116)		74	16	13	8	5
21年以上 (n= 1,056)		724	112	80	53	87



(8) 市街地活性化について

質問 23. あなたが、次の中心市街地商店街へ行く回数をそれぞれ 1 つお選びください。

- 【国際通り】 { 1. ほぼ毎日 2. 週 3～4 回 3. 週 1～2 回
4. 月 1～2 回 5. 年 1～2 回 6. 全く行かない
- 【マチグラー】 { 1. ほぼ毎日 2. 週 3～4 回 3. 週 1～2 回
4. 月 1～2 回 5. 年 1～2 回 6. 全く行かない

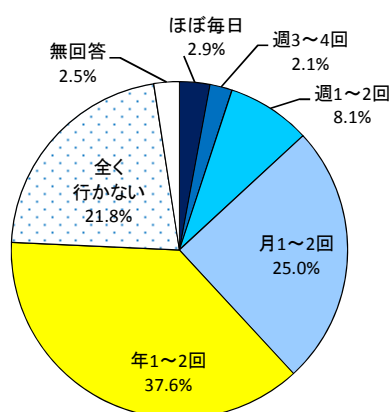
市民が国際通りに行く回数で最も多い回答は「年 1～2 回」の 37.6%。
マチグラーへ行く回数で最も多い回答は「年 1～2 回」の 40.5%。

中心市街地を、国際通りとマチグラーに分類し、行く回数について、それぞれ集計を行った。
国際通りについては、「年 1～2 回」が 37.6%と最も多く、次いで「月 1～2 回」が 25.0%、
「全く行かない」が 21.8%の順となっている。

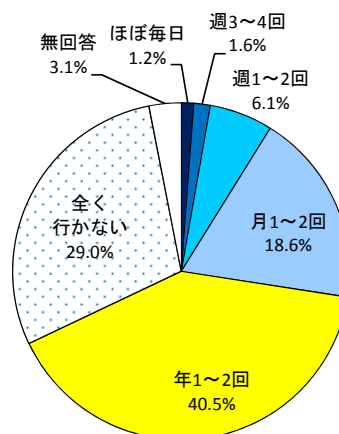
マチグラーについては、「年 1～2 回」が 40.5%と最も多く、次いで「全く行かない」が 29.0%、
「月 1～2 回」が 18.6%の順となっている。

選択項目	国際通り		マチグラー	
	回答数	%	回答数	%
ほぼ毎日	37	2.9%	15	1.2%
週 3～4 回	27	2.1%	20	1.6%
週 1～2 回	102	8.1%	77	6.1%
月 1～2 回	316	25.0%	235	18.6%
年 1～2 回	475	37.6%	512	40.5%
全く行かない	276	21.8%	366	29.0%
無回答	31	2.5%	39	3.1%
合 計	1,264	100%	1,264	100%

【国際通り】



【マチグラー】



【経年変化（平成 22 年度～平成 30 年度）】

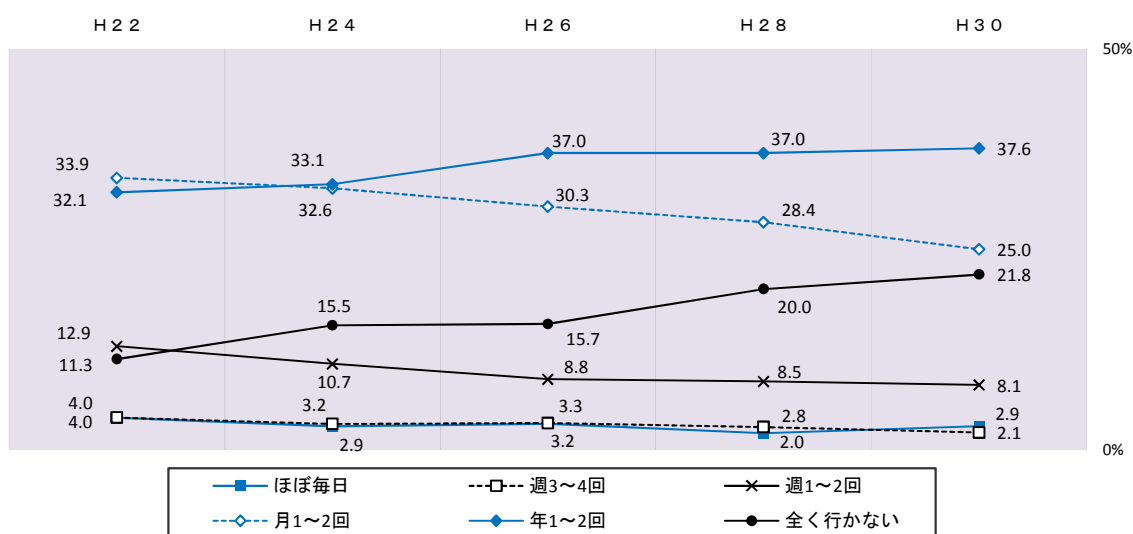
国際通りについて前回調査と比較すると、「ほぼ毎日」が 0.9 ポイント増加しているが、「全く行かない」も 1.8 ポイント増加している。

マチグラーについて前回調査と比較すると、「ほぼ毎日」は 0.5 ポイント減少、「全く行かない」は 0.2 ポイント増加と、ほぼ横ばいの結果となった。

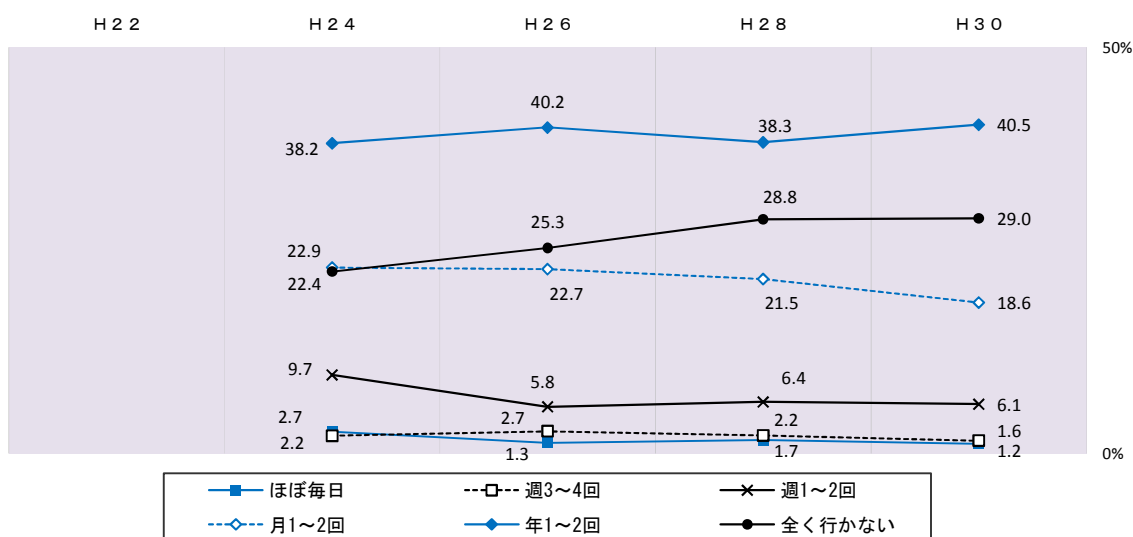
また、マチグラーは「ほぼ毎日」「週 3～4 回」「週 1～2 回」「月 1～2 回」の割合が、国際通りの同回答よりも低く、市民の通う頻度が少ないことが推測される。

国際通り、マチグラーともに観光客でにぎわっている一方で、市民の足が遠のいている現状がある。

【国際通り】



【マチグラー】



※ マチグラー H22 調査なし

【属性別集計（回答者属性「性別・年代・地区・居住年数」無回答除く）】

属性別では、通う頻度が高い（「ほぼ毎日」「週3～4日」「週1～2回」の合計）と、相対する通う頻度が低い（「月1～2回」「年1～2回」「全く行かない」の合計）に分けて、比較した。

性別では、あまり大きな違いは見られない。

年代別では、20代～40代は、マチグーに比べ、国際通りに通う頻度が高くなっている。

居住地区別でみると、本庁地区と真和志地区は、国際通り、マチグーともに通う頻度が高くなっているが、小禄地区と首里地区は頻度が低くなっている。本庁地区と真和志地区は、国際通りやマチグーに比較的近いことから、アクセスしやすく、通う頻度が高くなっていると考えられる。

【国際通り】

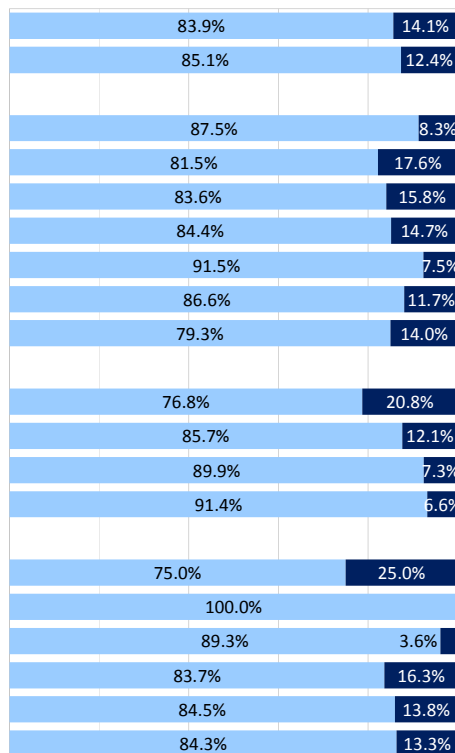


【マチグー】

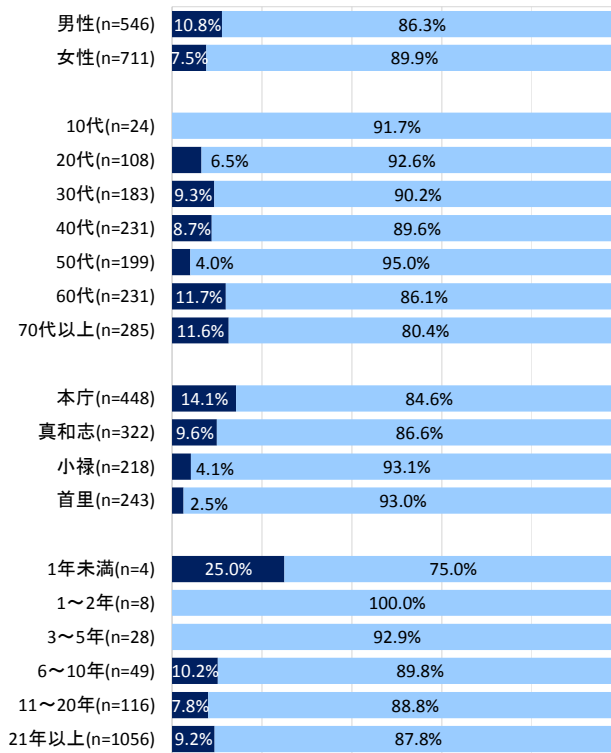


国際通り							選択項目 回答者属性(n=合計)		マチグー						
無回答	全く行かない	年1～2回	月1～2回	週1～2回	週3～4回	ほぼ毎日			ほぼ毎日	週3～4回	週1～2回	月1～2回	年1～2回	全く行かない	無回答
11	137	189	132	50	12	15	男性	(n= 546)	7	11	41	84	222	165	16
18	138	284	183	52	14	22	女性	(n= 711)	8	9	36	151	289	199	19
1	1	9	11	1	0	1	10代	(n= 24)	0	0	0	4	8	10	2
1	9	35	44	13	2	4	20代	(n= 108)	1	0	6	19	45	36	1
1	45	74	34	15	3	11	30代	(n= 183)	7	3	7	28	79	58	1
2	60	83	52	24	6	4	40代	(n= 231)	1	3	16	41	84	82	4
2	45	94	43	9	0	6	50代	(n= 199)	0	4	4	42	95	52	2
4	50	87	63	16	6	5	60代	(n= 231)	3	5	19	47	99	53	5
19	65	92	69	24	10	6	70代以上	(n= 285)	3	5	25	54	101	74	23
11	94	141	109	54	14	25	本庁	(n= 448)	10	10	43	89	171	119	6
7	67	120	89	30	5	4	真和志	(n= 322)	4	8	19	78	119	82	12
6	47	96	53	9	2	5	小禄	(n= 218)	0	1	8	25	100	78	6
5	60	105	57	8	6	2	首里	(n= 243)	1	0	5	37	108	81	11
0	0	2	1	0	0	1	1年未満	(n= 4)	1	0	0	1	2	0	0
0	0	4	4	0	0	0	1～2年	(n= 8)	0	0	0	3	4	1	0
2	7	12	6	1	0	0	3～5年	(n= 28)	0	0	0	0	15	11	2
0	11	24	6	3	2	3	6～10年	(n= 49)	1	2	2	6	18	20	0
2	19	34	45	10	0	6	11～20年	(n= 116)	1	2	6	21	43	39	4
26	238	398	254	88	25	27	21年以上	(n= 1,056)	12	16	69	203	430	294	32

【国際通り】



【マチグー】



■ ほぼ毎日～週1～2回 ■ 月1～2回～全く行かない

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 24. 国際通りやマチグー等、中心市街地商店街を魅力あるものにするにはどのような方策が必要だと思いますか。次の中から 3 つまで お選びください。（実施主体は行政・民間を問わない）

1. 花や緑を増やす
2. 日かげ等の環境整備（暑さ対策）
3. 定期的にイベント等を開く
4. トランジットモール（※）などを充実させる
5. 気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす
6. 歩道や広場等でオープンカフェや屋台市を定期的に開催する
7. 再開発により市街地を再生する
8. 市街地周辺部に駐車場を整備する
9. 駐輪場（バイク・自転車）を整備する
10. 託児施設や子どもを自由に遊ばせられる場所を整備する
11. 個店の魅力を向上させる（人材育成・情報発信力強化等）
12. 映画館等アミューズメント施設を誘致する
13. 利用客へ共通サービス（駐車場割引券、ポイントカード等）を実施する
14. その他（ ）

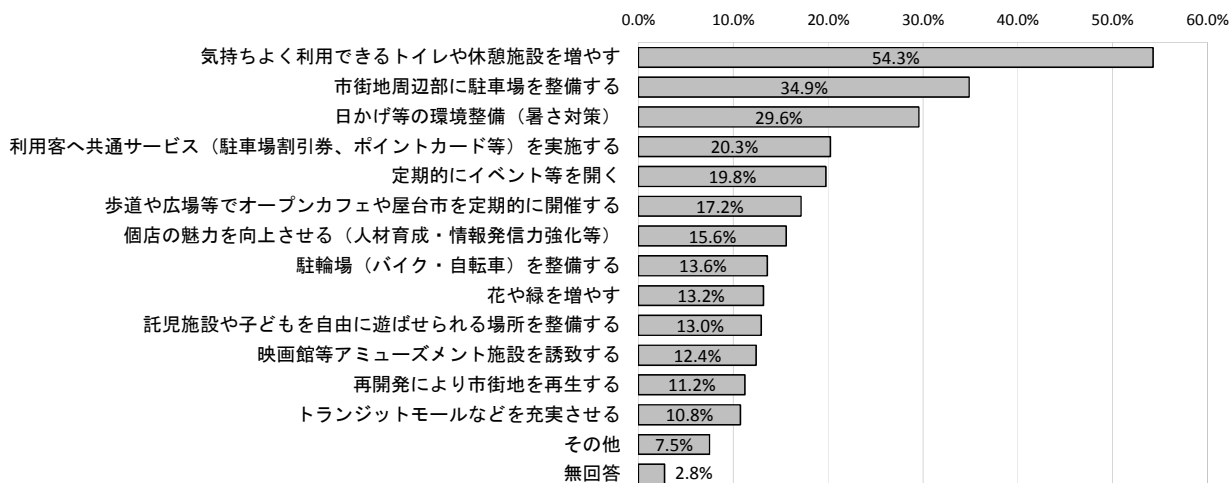
※歩行者と公共交通（バス等）を優先させて、まちの賑わいを創出する歩行空間のこと。

中心市街地商店街を魅力あるものにするためには、「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」方策が必要とされている。

中心市街地商店街を魅力あるものにするために必要だと思う方策については、「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」が 54.3% で最も多く、次いで「市街地周辺部に駐車場を整備する」が 34.9%、「日かげ等の環境整備（暑さ対策）」が 29.6% の順となっている。

選択項目	回答数	%
1 位 気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす	686	54.3%
2 位 市街地周辺部に駐車場を整備する	441	34.9%
3 位 日かげ等の環境整備（暑さ対策）	374	29.6%
4 位 利用客へ共通サービス（駐車場割引券、ポイントカード等）を実施する	256	20.3%
5 位 定期的にイベント等を開く	250	19.8%
6 位 歩道や広場等でオープンカフェや屋台市を定期的に開催する	217	17.2%
7 位 個店の魅力を向上させる（人材育成・情報発信力強化等）	197	15.6%
8 位 駐輪場（バイク・自転車）を整備する	172	13.6%
9 位 花や緑を増やす	167	13.2%
10 位 託児施設や子どもを自由に遊ばせられる場所を整備する	164	13.0%
11 位 映画館等アミューズメント施設を誘致する	157	12.4%
12 位 再開発により市街地を再生する	142	11.2%
13 位 トランジットモールなどを充実させる	136	10.8%
— その他	95	7.5%
— 無回答	35	2.8%
合 計	3,489	—
回答者数	1,264	276.0%

※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100% を超えている。

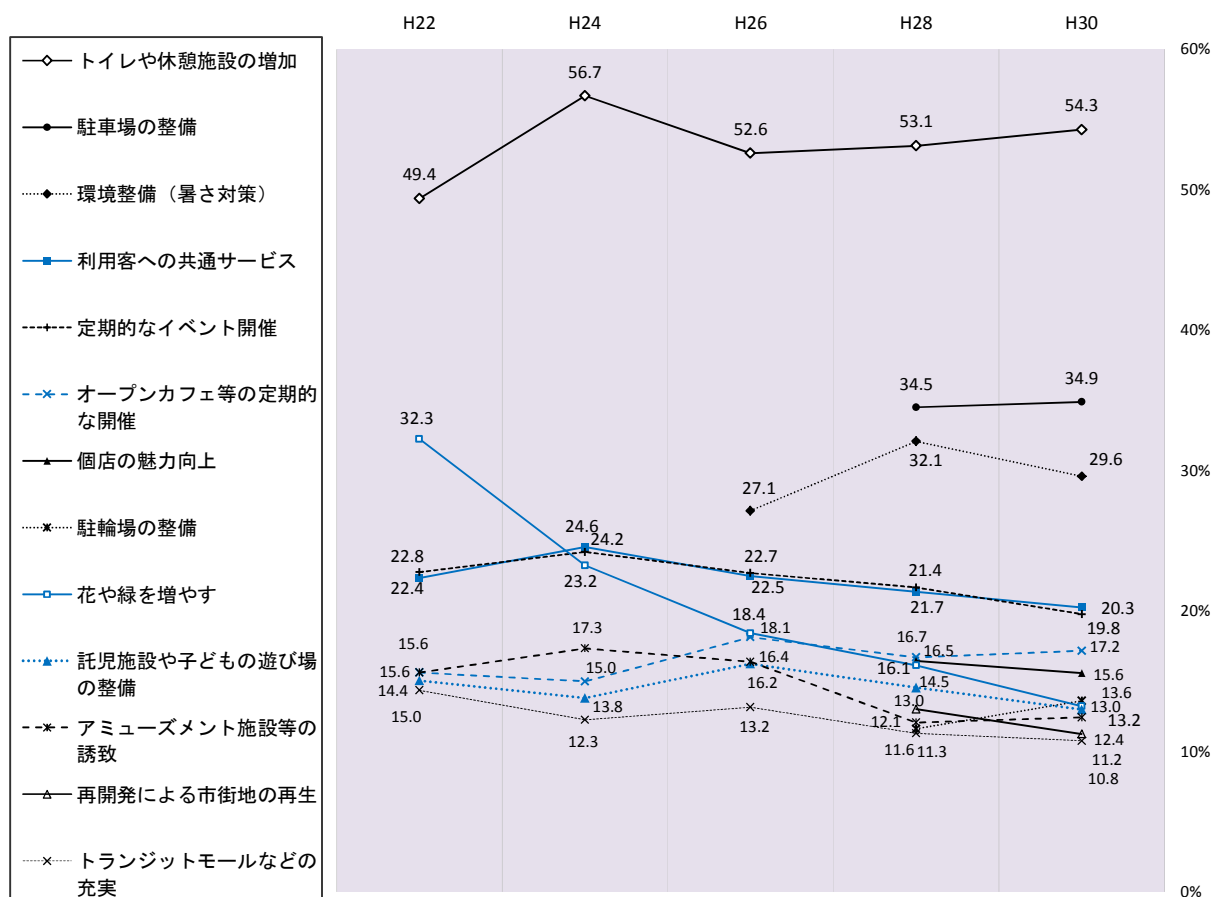


【経年変化（平成 22 年度～平成 30 年度）】

平成 22 年度の調査より、「トイレや休憩施設の増加」が変わらず 1 位となっている。

2 位は、前回同様、「駐車場の整備」となっており、3 位も変わらず、「環境整備（暑さ対策）」となっているが、2.5 ポイント減少となっている。また、「駐輪場の整備」の割合が 2.0 ポイント増加となっており、近年の自転車利用者の増加により、「駐輪場の整備」に対する市民のニーズが高まっていることがうかがえる。

※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出しているため、平成 22～28 年度も同様に割合を算出。



【選択肢「その他」の主な内容】

- ・観光客向けでなく、市民向けの店の充実（33 人）
- ・無料駐車場やシャトルバスの設置（8 人）
- ・ゴミ箱の設置（3 人）
- ・安全対策（3 人）

女性-40 代-本庁地区・他
 男性-60 代-本庁地区・他
 女性-20 代-小祿地区・他
 男性-30 代-本庁地区・他

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

年代別でみると、20代で「利用客へ共通サービス（駐車場割引券、ポイントカード等）を実施する」の割合が高くなっている。

居住地区別でみると、本庁地区で「日かげ等の環境整備（暑さ対策）」の割合が高くなっている。

居住年数別では、3～5年で「市街地周辺部に駐車場を整備する」の割合が5割以上を占めている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目		花や緑を増やす	日かげ等の環境整備（暑さ対策）	定期的にイベント等を開く	トランジットモールなどを充実させる	気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす	歩道や広場等でオープンカフェや屋台市を定期的に開催する	再開発により市街地を再生する	市街地周辺部に駐車場を整備する	駐輪場（バイク・自転車）を整備する	遊ばせられる場所を整備する	託児施設や子供を自由に遊ばせられる場所を整備する	（人材育成・情報発信力強化等） 個店の魅力を向上させる	映画館等アミューズメント施設を誘致する	（駐車場割引券、ポイントカード等）を実施する	利用客へ共通サービス その他	無回答
回答者属性（n=合計） 上段（人）：下段（％）																	
性別	男性（n= 546）	69 12.6	149 27.3	103 18.9	73 13.4	278 50.9	95 17.4	78 14.3	189 34.6	103 18.9	70 12.8	73 13.4	71 13.0	106 19.4	46 8.4	13 2.4	
	女性（n= 711）	94 13.2	223 31.4	146 20.5	63 8.9	406 57.1	122 17.2	62 8.7	250 35.2	69 9.7	94 13.2	124 17.4	86 12.1	148 20.8	49 6.9	22 3.1	
年代別	10代（n= 24）	3 12.5	5 20.8	7 29.2	1 4.2	14 58.3	7 29.2	3 12.5	8 33.3	3 12.5	3 12.5	4 16.7	3 12.5	4 16.7	1 4.2	1 4.2	
	20代（n= 108）	9 8.3	19 17.6	29 26.9	12 11.1	61 56.5	28 25.9	4 3.7	37 34.3	19 17.6	9 8.3	16 14.8	20 18.5	32 29.6	10 9.3	1 0.9	
	30代（n= 183）	17 9.3	64 35.0	46 25.1	15 8.2	87 47.5	26 14.2	15 8.2	67 36.6	26 14.2	38 20.8	26 14.2	31 16.9	31 16.9	22 12.0	1 0.5	
	40代（n= 231）	22 9.5	65 28.1	53 22.9	34 14.7	101 43.7	50 21.6	30 13.0	72 31.2	40 17.3	33 14.3	41 17.7	40 17.3	48 20.8	21 9.1	1 0.4	
	50代（n= 199）	26 13.1	59 29.6	43 21.6	17 8.5	102 51.3	43 21.6	24 12.1	79 39.7	21 10.6	22 11.1	42 21.1	26 13.1	46 23.1	12 6.0	3 1.5	
	60代（n= 231）	36 15.6	76 32.9	40 17.3	29 12.6	145 62.8	30 13.0	26 11.3	89 38.5	24 10.4	28 12.1	37 16.0	18 7.8	49 21.2	15 6.5	5 2.2	
	70代以上（n= 285）	52 18.2	85 29.8	31 10.9	28 9.8	175 61.4	33 11.6	40 14.0	87 30.5	39 13.7	31 10.9	31 10.9	19 6.7	45 15.8	14 4.9	23 8.1	
地区別	本庁（n= 448）	57 12.7	149 33.3	96 21.4	53 11.8	230 51.3	88 19.6	57 12.7	131 29.2	69 15.4	65 14.5	72 16.1	62 13.8	73 16.3	39 8.7	11 2.5	
	真和志（n= 322）	51 15.8	92 28.6	60 18.6	30 9.3	186 57.8	49 15.2	40 12.4	110 34.2	50 15.5	40 12.4	59 18.3	26 8.1	65 20.2	23 7.1	10 3.1	
	小禄（n= 218）	17 7.8	64 29.4	43 19.7	29 13.3	116 53.2	44 20.2	18 8.3	90 41.3	20 9.2	25 11.5	34 15.6	30 13.8	49 22.5	17 7.8	6 2.8	
	首里（n= 243）	34 14.0	61 25.1	45 18.5	20 8.2	140 57.6	30 12.3	27 11.1	99 40.7	29 11.9	27 11.1	29 11.9	33 13.6	62 25.5	15 6.2	6 2.5	
居住年数別	1年未満（n= 4）	2 50.0	1 25.0	1 25.0	0 0	2 50.0	0 0	1 25.0	0 0	0 0	2 50.0	0 0	0 0	0 0	1 25.0	0 0	
	1～2年（n= 8）	1 12.5	3 37.5	3 37.5	0 0	4 50.0	3 37.5	0 0	2 25.0	1 12.5	3 37.5	2 25.0	1 12.5	1 12.5	0 0	0 0	
	3～5年（n= 28）	2 7.1	5 17.9	5 17.9	4 14.3	10 35.7	6 21.4	2 7.1	15 53.6	4 14.3	6 21.4	3 10.7	3 10.7	8 28.6	0 0	2 7.1	
	6～10年（n= 49）	8 16.3	18 36.7	9 18.4	2 4.1	24 49.0	3 6.1	4 8.2	22 44.9	5 10.2	11 22.4	7 14.3	12 24.5	13 26.5	6 12.2	0 0	
	11～20年（n= 116）	13 11.2	39 33.6	26 22.4	13 11.2	60 51.7	27 23.3	14 12.1	36 31.0	12 10.3	14 12.1	26 22.4	15 12.9	19 16.4	10 8.6	3 2.6	
	21年以上（n= 1,056）	140 13.3	307 29.1	205 19.4	117 11.1	585 55.4	178 16.9	121 11.5	364 34.5	150 14.2	127 12.0	159 15.1	126 11.9	214 20.3	78 7.4	30 2.8	

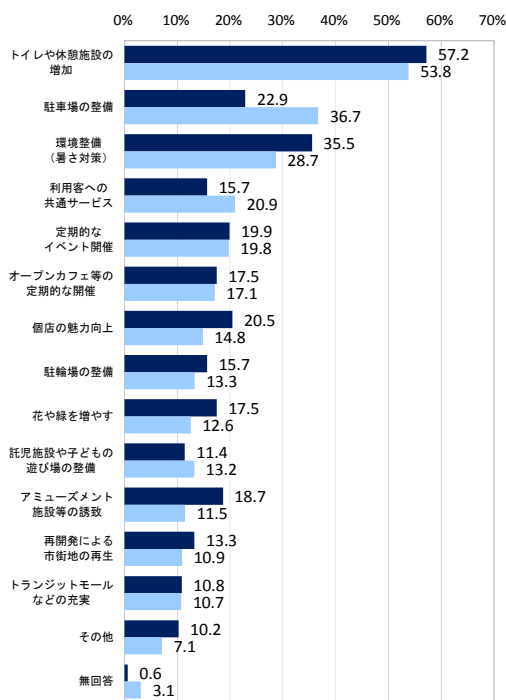
【属性別集計（回答者属性〔中心市街地商店街への訪問頻度別〕無回答除く）】

質問 23 で、国際通り、マチグーに通う頻度の高い市民と頻度の低い市民で、それぞれの選択項目について比較を行ったところ、いずれも「トイレや休憩施設の増加」の割合が最も高くなっている。

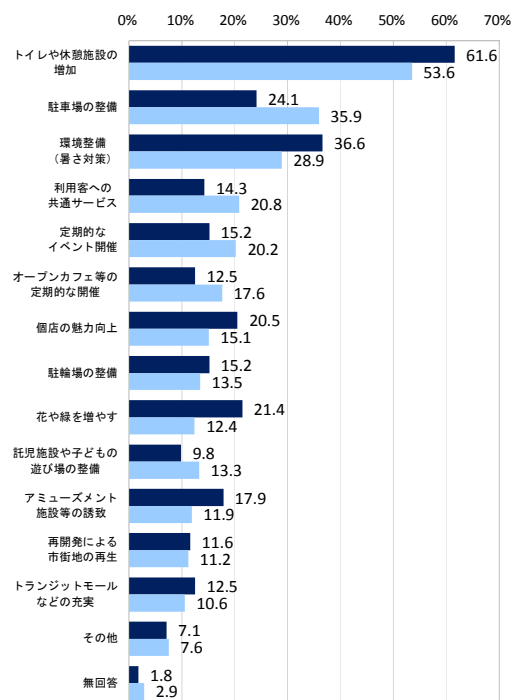
また、国際通り、マチグーともに、通う頻度の低い市民は、通う頻度の高い市民に比べ、「駐車場の整備」や「利用客への共通サービス」の割合が高くなっており、「環境整備（暑さ対策）」の割合が低くなっている。

選択項目		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位	12位	13位	-	-
回答者属性(n=合計)		トイレや休憩施設の増加	駐車場の整備	環境整備（暑さ対策）	利用客への共通サービス	定期的なイベント開催	オープンカフェ等の定期的な開催	個店の魅力向上	駐輪場の整備	花や緑を増やす	託児施設や遊び場の整備	アミューズメント施設等の誘致	再開発による市街地の再生	トランジットモールなどの充実	その他	無回答
国際通り	合 計	686	441	374	256	250	217	197	172	167	164	157	142	136	95	35
	ほぼ毎日～週1～2回 (n=166)	95	38	59	26	33	29	34	26	29	19	31	22	18	17	1
	月1～2回～全く行かない (n=1,098)	591	403	315	230	217	188	163	146	138	145	126	120	118	78	34
マチグー	合 計	686	441	374	256	250	217	197	172	167	164	157	142	136	95	35
	ほぼ毎日～週1～2回 (n=112)	69	27	41	16	17	14	23	17	24	11	20	13	14	8	2
	月1～2回～全く行かない (n=1,152)	617	414	333	240	233	203	174	155	143	153	137	129	122	87	33

【国際通り】



【マチグー】



(9) 子育て支援について

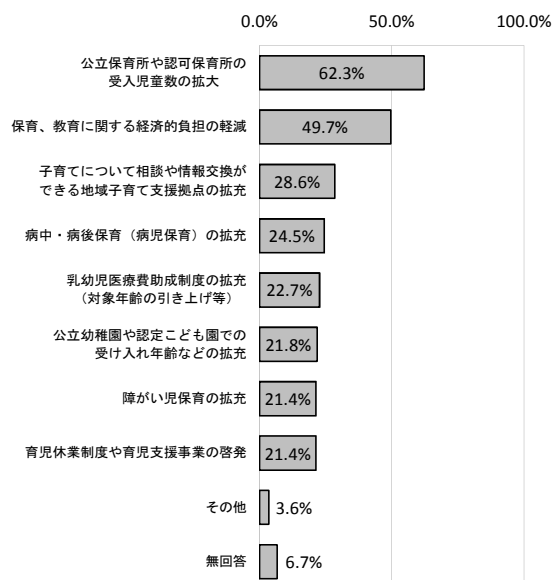
質問 25. 小学校就学前までの子育て支援策について、優先的に取り組んでほしい施策を、次の中から3つまでお選びください。

1. 公立保育所や認可保育所の受入児童数の拡大
2. 公立幼稚園での認定こども園での受入年代などの拡充
3. 子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充
4. 病中・病後保育（病児保育）の拡充
5. 障がい児保育の拡充
6. 育児休業制度や育児支援事業の啓発
7. 保育、教育に関する経済的負担の軽減
8. 乳幼児医療費助成制度の拡充（対象年代の引き上げ等）
9. その他（ ）

子育て支援策について優先的に取り組んでほしい施策は、「公立保育所や認可保育所の受け入れ児童数の拡大」である。

子育て支援策について優先的に取り組んでほしい施策については、「公立保育所や認可保育所の受け入れ児童数の拡大」が62.3%で最も高く、次いで「保育、教育に関する経済的負担の軽減」が49.7%、「子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充」が28.6%の順となっている。

選択項目	回答数	%
1位 公立保育所や認可保育所の受入児童数の拡大	787	62.3%
2位 保育、教育に関する経済的負担の軽減	628	49.7%
3位 子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充	361	28.6%
4位 病中・病後保育（病児保育）の拡充	310	24.5%
5位 乳幼児医療費助成制度の拡充（対象年代の引き上げ等）	287	22.7%
6位 公立幼稚園や認定こども園での受け入れ年代などの拡充	276	21.8%
7位 障がい児保育の拡充	271	21.4%
7位 育児休業制度や育児支援事業の啓発	271	21.4%
— その他	45	3.6%
— 無回答	85	6.7%
合 計	3,321	—
回答者数	1,264	262.7%

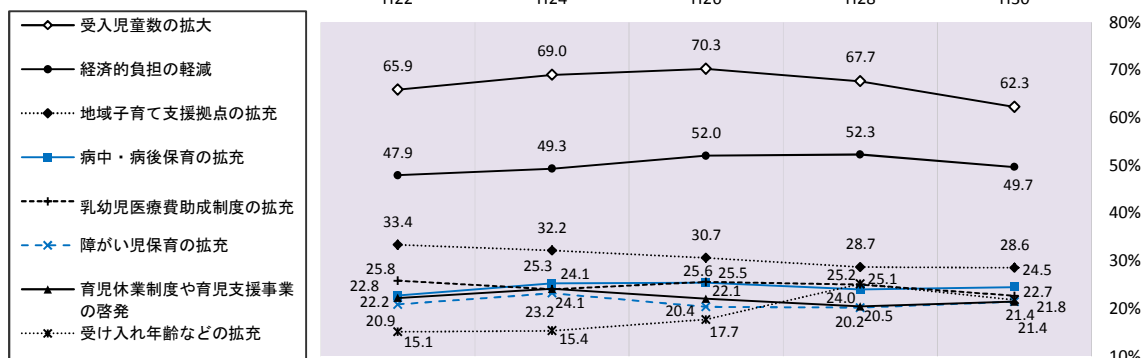


※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。

【経年変化（平成 22 年度～平成 30 年度）】

平成 22 年度の調査より、上位 3 項目の順位は変わらない。しかし、「受入児童数の拡大」については、前回調査より 5.4 ポイント減少していることから保育所の定員枠拡大などの施策の効果が表れつつあることがわかる。

※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出しているため、平成 22～28 年度も同様に割合を算出。



【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、女性は「病中・病後保育（病児保育）の拡充」の割合が高くなっている。

年代別でみると、30代で「保育、教育に関する経済的負担の軽減」が6割を占めており、「乳幼児医療費助成制度の拡充（対象年齢の引き上げ等）」の割合も高いことから、子育て世代における経済的支援に対する要望が高い。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性（n=合計） 上段（人）：下段（%）		公立 保育所や認可 保育所の 受入児童数の 拡大	公立 幼稚園での 認定ことも 園	地域 子育て支援 拠点の拡充	子育てに ついて相談や 情報交換が できる	（病中・病 後保育）の 拡充	障がい児 保育の拡充	育児休業 制度や 育児支援 事業の啓発	保育、教育に 関する 経済的負担の 軽減	乳幼児医療費 助成制度の 拡充 （対象年齢の 引き上げ等）	その他	無 回 答
性別	男性 (n= 546)	348 63.7	134 24.5	166 30.4	110 20.1	124 22.7	104 19.0	276 50.5	118 21.6	18 3.3	36 6.6	
	女性 (n= 711)	437 61.5	142 20.0	192 27.0	199 28.0	145 20.4	166 23.3	351 49.4	168 23.6	27 3.8	46 6.5	
年代別	10代 (n= 24)	14 58.3	5 20.8	4 16.7	6 25.0	9 37.5	7 29.2	13 54.2	5 20.8	0 0	1 4.2	
	20代 (n= 108)	76 70.4	19 17.6	38 35.2	22 20.4	18 16.7	37 34.3	63 58.3	16 14.8	1 0.9	2 1.9	
	30代 (n= 183)	101 55.2	36 19.7	34 18.6	56 30.6	33 18.0	55 30.1	117 63.9	64 35.0	12 6.6	2 1.1	
	40代 (n= 231)	149 64.5	56 24.2	68 29.4	73 31.6	51 22.1	52 22.5	106 45.9	45 19.5	8 3.5	5 2.2	
	50代 (n= 199)	124 62.3	33 16.6	63 31.7	57 28.6	53 26.6	40 20.1	95 47.7	48 24.1	5 2.5	8 4.0	
	60代 (n= 231)	157 68.0	66 28.6	68 29.4	47 20.3	49 21.2	29 12.6	117 50.6	53 22.9	9 3.9	15 6.5	
	70代以上 (n= 285)	166 58.2	61 21.4	85 29.8	49 17.2	58 20.4	50 17.5	117 41.1	55 19.3	10 3.5	50 17.5	
地区別	本庁 (n= 448)	287 64.1	97 21.7	118 26.3	121 27.0	84 18.8	99 22.1	234 52.2	101 22.5	14 3.1	28 6.3	
	真和志 (n= 322)	200 62.1	72 22.4	101 31.4	73 22.7	67 20.8	66 20.5	158 49.1	74 23.0	13 4.0	23 7.1	
	小祿 (n= 218)	134 61.5	45 20.6	59 27.1	54 24.8	54 24.8	51 23.4	106 48.6	57 26.1	7 3.2	11 5.0	
	首里 (n= 243)	150 61.7	57 23.5	75 30.9	54 22.2	57 23.5	52 21.4	118 48.6	46 18.9	10 4.1	17 7.0	
居住年数別	1年未満 (n= 4)	3 75.0	1 25.0	1 25.0	0 0	0 0	2 50.0	2 50.0	1 25.0	0 0	0 0	
	1～2年 (n= 8)	5 62.5	1 12.5	1 12.5	4 50.0	2 25.0	3 37.5	6 75.0	2 25.0	0 0	0 0	
	3～5年 (n= 28)	11 39.3	6 21.4	5 17.9	9 32.1	2 7.1	8 28.6	12 42.9	10 35.7	3 10.7	2 7.1	
	6～10年 (n= 49)	27 55.1	12 24.5	12 24.5	16 32.7	11 22.4	11 22.4	29 59.2	21 42.9	2 4.1	0 0	
	11～20年 (n= 116)	63 54.3	28 24.1	29 25.0	30 25.9	23 19.8	27 23.3	62 53.4	27 23.3	4 3.4	6 5.2	
	21年以上 (n= 1,056)	677 64.1	228 21.6	312 29.5	250 23.7	233 22.1	219 20.7	516 48.9	225 21.3	36 3.4	76 7.2	

【選択肢「その他」の主な内容】

・保育士の処遇改善等（9人）

女性-30代-本庁地区・他

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 26. こどもの貧困を解消し、こどものみらいを応援する取り組みとして、あなたが効果的だと思う施策は次のうちどれですか。次の中から3つまでお選びください。

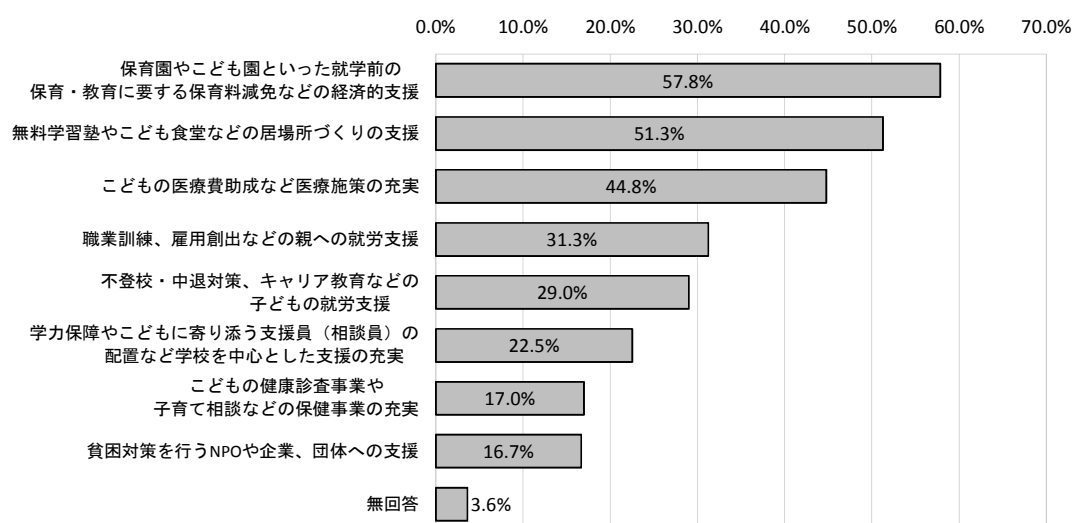
1. 保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援
2. こどもの医療費助成など医療施策の充実
3. こどもの健康診査事業や子育て相談などの保健事業の充実
4. 無料学習塾やこども食堂などの居場所づくりの支援
5. 学力保障やこどもに寄り添う支援員（相談員）の配置など学校を中心とした支援の充実
6. 不登校・中退対策、キャリア教育などの子どもの就労支援
7. 職業訓練、雇用創出などの親への就労支援
8. 貧困対策を行うNPOや企業、団体への支援

こどものみらいを応援する取り組みとして、効果的だと思う施策は、「就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援」である。

こどもの貧困を解消し、こどものみらいを応援する取り組みとして、効果的だと思う施策については、「保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援」が57.8%と最も高く、次いで「無料学習塾やこども食堂などの居場所づくりの支援」が51.3%、「こどもの医療費助成など医療施策の充実」が44.8%の順となっている。

選択項目	回答数	%
1位 保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援	731	57.8%
2位 無料学習塾やこども食堂などの居場所づくりの支援	648	51.3%
3位 こどもの医療費助成など医療施策の充実	566	44.8%
4位 職業訓練、雇用創出などの親への就労支援	395	31.3%
5位 不登校・中退対策、キャリア教育などの子どもの就労支援	367	29.0%
6位 学力保障やこどもに寄り添う支援員（相談員）の配置など学校を中心とした支援の充実	285	22.5%
7位 こどもの健康診査事業や子育て相談などの保健事業の充実	215	17.0%
8位 貧困対策を行うNPOや企業、団体への支援	211	16.7%
— 無回答	46	3.6%
合 計	3,464	—
回答者数	1,264	274.1%

※平成30年度より、回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。



【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

ほぼすべての属性において、「保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援」の割合が高い。

年代別でみると、30代で「こどもの医療費助成など医療施策の充実」の割合が高くなっているほか、40代～50代で「無料学習塾やこども食堂などの居場所づくりの支援」の割合が最も高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性（n=合計） 上段（人）：下段（%）		保育園やこども園といった 就学前の保育・教育に要する 保育料減免などの経済的支援	こどもの医療費助成など 医療施策の充実	こどもの健康診事業や 子育て相談などの保健事業の 充実	無料学習塾やこども食堂 などの居場所づくりの支援	学力保障やこどもに寄り添 う支援（相談員）の配置など 学校を中心とした支援の充実	不登校・中退対策、キャリア 支援など	職業訓練、雇用創出などの 親への就労支援	貧困対策を行うNPOや 企業、団体への支援	無回答
性別	男性（n= 546）	339 62.1	255 46.7	100 18.3	272 49.8	100 18.3	150 27.5	158 28.9	96 17.6	23 4.2
	女性（n= 711）	388 54.6	309 43.5	114 16.0	373 52.5	184 25.9	215 30.2	237 33.3	113 15.9	22 3.1
年代別	10代（n= 24）	14 58.3	9 37.5	4 16.7	14 58.3	5 20.8	7 29.2	7 29.2	7 29.2	0 0
	20代（n= 108）	62 57.4	51 47.2	27 25.0	59 54.6	23 21.3	30 27.8	22 20.4	22 20.4	1 0.9
	30代（n= 183）	112 61.2	103 56.3	20 10.9	101 55.2	37 20.2	46 25.1	62 33.9	23 12.6	1 0.5
	40代（n= 231）	119 51.5	98 42.4	34 14.7	121 52.4	58 25.1	79 34.2	82 35.5	41 17.7	3 1.3
	50代（n= 199）	103 51.8	73 36.7	26 13.1	112 56.3	65 32.7	68 34.2	71 35.7	33 16.6	3 1.5
	60代（n= 231）	141 61.0	108 46.8	31 13.4	120 51.9	42 18.2	69 29.9	75 32.5	34 14.7	14 6.1
	70代以上（n= 285）	179 62.8	124 43.5	73 25.6	121 42.5	55 19.3	66 23.2	76 26.7	50 17.5	23 8.1
地区別	本庁（n= 448）	261 58.3	186 41.5	79 17.6	242 54.0	92 20.5	136 30.4	149 33.3	63 14.1	15 3.3
	真和志（n= 322）	191 59.3	153 47.5	55 17.1	164 50.9	72 22.4	87 27.0	95 29.5	64 19.9	14 4.3
	小祿（n= 218）	123 56.4	111 50.9	32 14.7	117 53.7	61 28.0	63 28.9	62 28.4	25 11.5	6 2.8
	首里（n= 243）	140 57.6	107 44.0	45 18.5	109 44.9	56 23.0	71 29.2	80 32.9	54 22.2	6 2.5
居住年数別	1年未満（n= 4）	4 100.0	1 25.0	1 25.0	0 0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	0 0
	1～2年（n= 8）	6 75.0	5 62.5	3 37.5	2 25.0	1 12.5	2 25.0	4 50.0	1 12.5	0 0
	3～5年（n= 28）	15 53.6	13 46.4	4 14.3	15 53.6	9 32.1	6 21.4	5 17.9	7 25.0	0 0
	6～10年（n= 49）	29 59.2	27 55.1	9 18.4	21 42.9	12 24.5	17 34.7	14 28.6	11 22.4	0 0
	11～20年（n= 116）	63 54.3	49 42.2	18 15.5	59 50.9	32 27.6	36 31.0	32 27.6	22 19.0	2 1.7
	21年以上（n= 1,056）	612 58.0	470 44.5	180 17.0	551 52.2	230 21.8	303 28.7	339 32.1	168 15.9	43 4.1

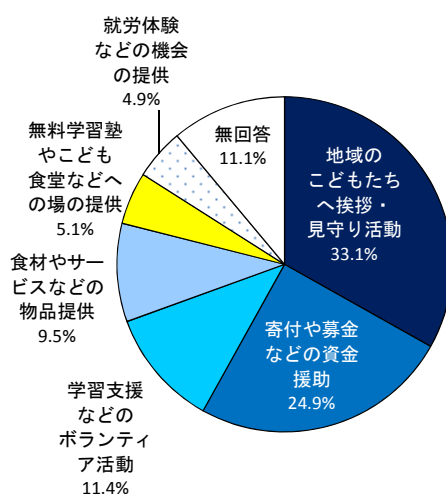
質問 27. こどものみらいを応援する取り組みとして、あなたができると思うことを次の中から1つお選びください。

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1. 学習支援などのボランティア活動 | 2. 寄付や募金などの資金援助 |
| 3. 食材やサービスなどの物品提供 | 4. 無料学習塾やこども食堂などへの場の提供 |
| 5. 就労体験などの機会の提供 | 6. 地域のこどもたちへ挨拶・見守り活動 |

こどものみらいを応援する取り組みとして、市民ができると思うことは、「地域のこどもたちへ挨拶・見守り活動」である。

こどものみらいを応援する取り組みとして、市民ができると思うことについては、「地域のこどもたちへ挨拶・見守り活動」が33.1%と最も多く、次いで「寄付や募金などの資金援助」が24.9%、「学習支援などのボランティア活動」が11.4%の順となっている。

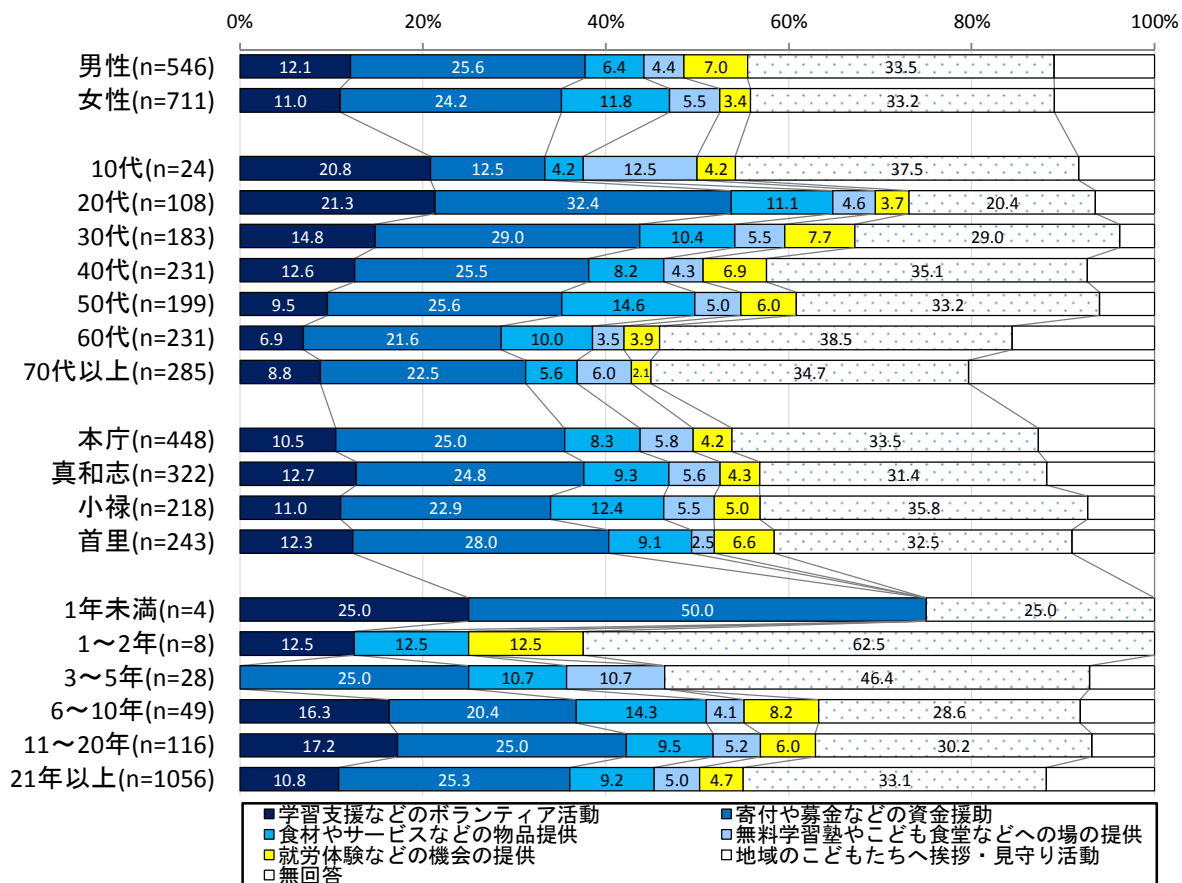
	選択項目	回答数	%
1位	地域のこどもたちへ挨拶・見守り活動	419	33.1%
2位	寄付や募金などの資金援助	315	24.9%
3位	学習支援などのボランティア活動	144	11.4%
4位	食材やサービスなどの物品提供	120	9.5%
5位	無料学習塾やこども食堂などへの場の提供	64	5.1%
6位	就労体験などの機会の提供	62	4.9%
—	無回答	140	11.1%
	合 計	1,264	100%



【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

年代別でみると、10代～20代は「学習支援などのボランティア活動」の割合が高く、40代以上は「地域のこどもたちへの挨拶・見守り活動」の割合が最も高い。

回答者属性(n=合計)	学習支援などのボランティア活動	寄付や募金などの資金援助	食材やサービスなどの物品提供	無料学習塾やこども食堂などへの場の提供	就労体験などの機会の提供	地域のこどもたちへ挨拶・見守り活動	無回答
男性 (n= 546)	66	140	35	24	38	183	60
女性 (n= 711)	78	172	84	39	24	236	78
10代 (n= 24)	5	3	1	3	1	9	2
20代 (n= 108)	23	35	12	5	4	22	7
30代 (n= 183)	27	53	19	10	14	53	7
40代 (n= 231)	29	59	19	10	16	81	17
50代 (n= 199)	19	51	29	10	12	66	12
60代 (n= 231)	16	50	23	8	9	89	36
70代以上 (n= 285)	25	64	16	17	6	99	58
本庁 (n= 448)	47	112	37	26	19	150	57
真和志 (n= 322)	41	80	30	18	14	101	38
小禄 (n= 218)	24	50	27	12	11	78	16
首里 (n= 243)	30	68	22	6	16	79	22
1年未満 (n= 4)	1	2	0	0	0	1	0
1～2年 (n= 8)	1	0	1	0	1	5	0
3～5年 (n= 28)	0	7	3	3	0	13	2
6～10年 (n= 49)	8	10	7	2	4	14	4
11～20年 (n= 116)	20	29	11	6	7	35	8
21年以上 (n= 1,056)	114	267	97	53	50	350	125



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

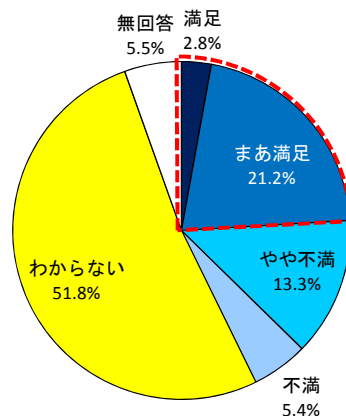
質問 28. 本市における子育て支援（保育所での延長保育、放課後児童クラブの設置等）の取り組みについて満足していますか。

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

子育て支援に満足している市民は 24.0%（有意回答で 56.3%）。

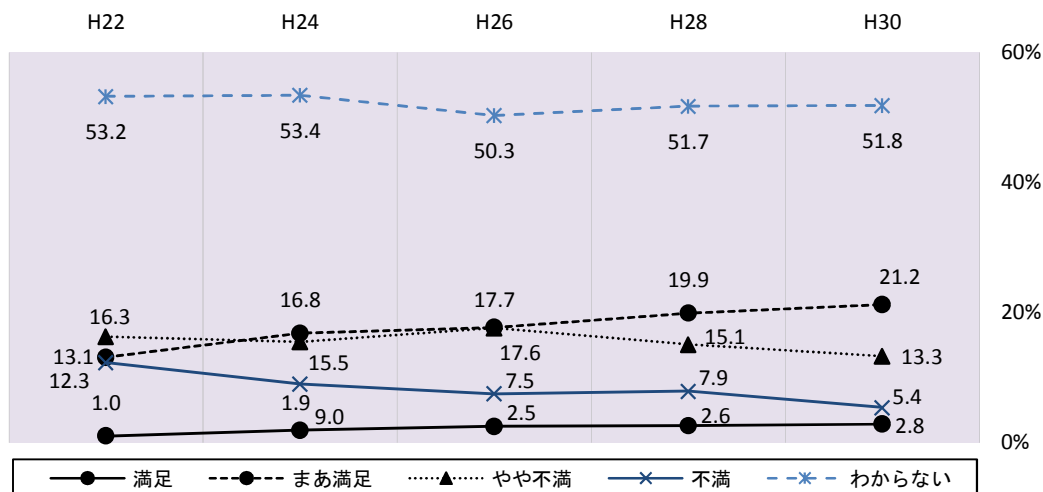
子育て支援の取り組みについて満足しているかについては、「わからない」が 51.8%と最も多く、次いで「まあ満足」が 21.2%、「やや不満」が 13.3%の順となっている。

選択項目	回答数	%
満足	36	2.8%
まあ満足	268	21.2%
やや不満	168	13.3%
不満	68	5.4%
わからない	655	51.8%
無回答	69	5.5%
合 計	1,264	100%



【経年変化（平成 22 年度～平成 30 年度）】

前回調査と比較すると、「満足」が 0.2 ポイント、「まあ満足」が 1.3 ポイント増加している一方、「不満」が 2.5 ポイント、「やや不満」が 1.8 ポイント減少していることから、本市における子育て支援の取り組みに対する市民の満足度は向上していることがわかる。

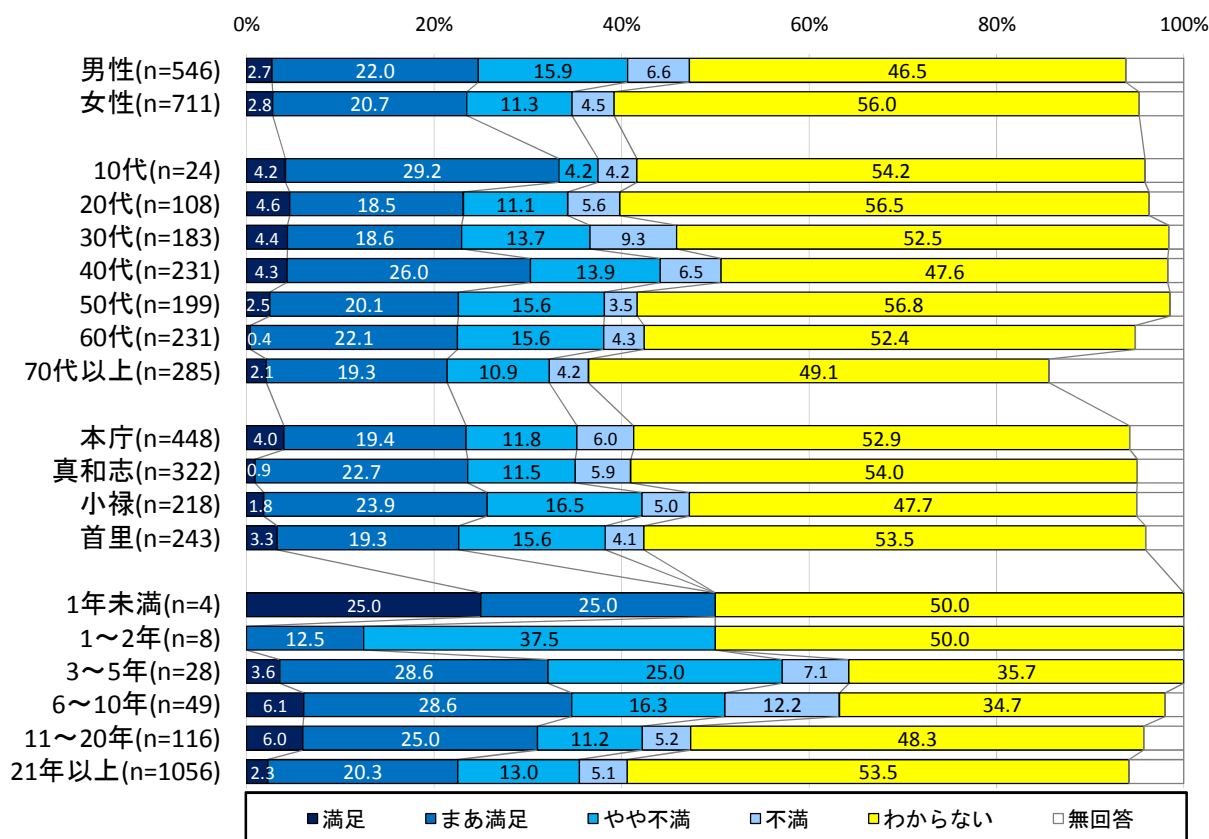


【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると女性は男性よりも「わからない」の割合が高い。

年代別でみると、20代と30代では「満足」「まあ満足」の割合はほぼ同じだが、30代の「不満」の割合が高い。一方、40代では、「まあ満足」の割合が他の世代より高い。

回答者属性(n=合計)	満足	まあ満足	やや不満	不満	わからない	無回答
男性 (n= 546)	15	120	87	36	254	34
女性 (n= 711)	20	147	80	32	398	34
10代 (n= 24)	1	7	1	1	13	1
20代 (n= 108)	5	20	12	6	61	4
30代 (n= 183)	8	34	25	17	96	3
40代 (n= 231)	10	60	32	15	110	4
50代 (n= 199)	5	40	31	7	113	3
60代 (n= 231)	1	51	36	10	121	12
70代以上 (n= 285)	6	55	31	12	140	41
本庁 (n= 448)	18	87	53	27	237	26
真和志 (n= 322)	3	73	37	19	174	16
小禄 (n= 218)	4	52	36	11	104	11
首里 (n= 243)	8	47	38	10	130	10
1年未満 (n= 4)	1	1	0	0	2	0
1～2年 (n= 8)	0	1	3	0	4	0
3～5年 (n= 28)	1	8	7	2	10	0
6～10年 (n= 49)	3	14	8	6	17	1
11～20年 (n= 116)	7	29	13	6	56	5
21年以上 (n= 1,056)	24	214	137	54	565	62



(10) 福祉について

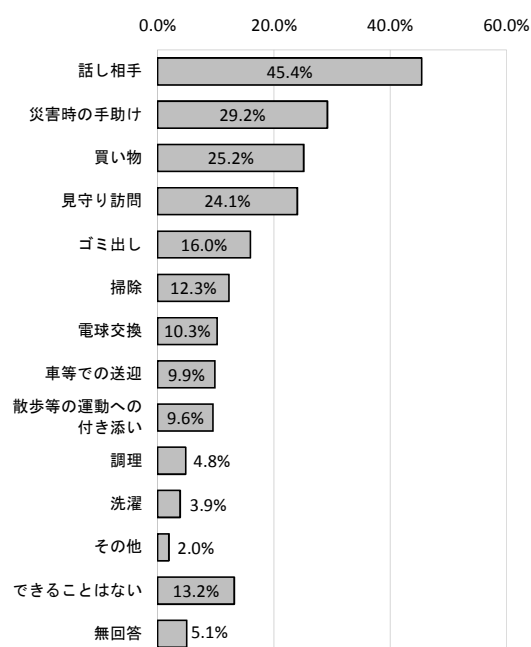
質問 29. 地域の中で困っている方(高齢者、障がいのある方等)に対して、あなたができることはどのようなことですか。次の中から3つまでお選びください

- | | | |
|----------------------------------|--------------|-----------------|
| 1. 話し相手 | 2. 買い物 | 3. 調理 |
| 4. 掃除 | 5. 洗濯 | 6. ゴミ出し |
| 7. 電球交換 | 8. 車等での送迎 | 9. 散歩等の運動への付き添い |
| 10. 見守り訪問 | 11. 災害時の手助け | |
| 12. その他 () | 13. できることはない | |

地域の中で困っている方に対し、市民ができることは「話し相手」である。

地域の中で困っている方に対し、市民ができることについては、「話し相手」が45.4%で最も高く、次いで「災害時の手助け」が29.2%、「買い物」が25.2%の順となっている。

選択項目	回答数	%
1位 話し相手	574	45.4%
2位 災害時の手助け	369	29.2%
3位 買い物	318	25.2%
4位 見守り訪問	304	24.1%
5位 ゴミ出し	202	16.0%
6位 掃除	155	12.3%
7位 電球交換	130	10.3%
8位 車等での送迎	125	9.9%
9位 散歩等の運動への付き添い	121	9.6%
10位 調理	61	4.8%
11位 洗濯	49	3.9%
— その他	25	2.0%
— できることはない	167	13.2%
— 無回答	64	5.1%
合 計	2,664	—
回答者数	1,264	210.8%



※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。

【選択肢「その他」の主な内容】

- | | |
|-----------------------|----------------|
| ・ 声掛け、困ったときの手助け (5 人) | 男性-60 代-小祿地区・他 |
| ・ 挨拶 (2 人) | 女性-50 代-首里地区・他 |

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

すべての属性において、「話し相手」の割合が最も高くなっている。

性別でみると、男性は「災害時の手助け」、女性は「買い物」の割合が高くなっている。

年代別でみると、10代～30代、50代で「災害時の手助け」の割合が高く、60代～70代以上で「見守り訪問」の割合が高くなっている。70代以上では「できることはない」の割合も高い。

居住地区別でみると、小祿地区では「買い物」、首里地区では「見守り訪問」の割合が高い。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性（n=合計） 上段（人）：下段（％）		話し相手	買い物	調理	掃除	洗濯	ゴミ出し	電球交換	車等での送迎	散歩等の運動への付き添い	見守り訪問	災害時の手助け	その他	できることはない	無回答
性別	男性（n= 546）	227 41.6	115 21.1	17 3.1	75 13.7	18 3.3	93 17.0	99 18.1	69 12.6	47 8.6	123 22.5	191 35.0	13 2.4	67 12.3	26 4.8
	女性（n= 711）	344 48.4	202 28.4	43 6.0	79 11.1	31 4.4	108 15.2	31 4.4	56 7.9	73 10.3	181 25.5	178 25.0	12 1.7	98 13.8	37 5.2
年代別	10代（n= 24）	16 66.7	5 20.8	1 4.2	3 12.5	2 8.3	5 20.8	0 0	1 4.2	7 29.2	3 12.5	10 41.7	0 0	2 8.3	0 0
	20代（n= 108）	60 55.6	31 28.7	4 3.7	19 17.6	10 9.3	15 13.9	11 10.2	12 11.1	11 10.2	15 13.9	37 34.3	2 1.9	8 7.4	2 1.9
	30代（n= 183）	92 50.3	49 26.8	5 2.7	21 11.5	8 4.4	22 12.0	14 7.7	21 11.5	18 9.8	44 24.0	75 41.0	5 2.7	19 10.4	1 0.5
	40代（n= 231）	103 44.6	80 34.6	10 4.3	27 11.7	9 3.9	35 15.2	33 14.3	25 10.8	20 8.7	56 24.2	78 33.8	3 1.3	27 11.7	8 3.5
	50代（n= 199）	83 41.7	49 24.6	12 6.0	24 12.1	5 2.5	31 15.6	21 10.6	22 11.1	11 5.5	56 28.1	73 36.7	7 3.5	21 10.6	4 2.0
	60代（n= 231）	101 43.7	62 26.8	18 7.8	23 10.0	5 2.2	44 19.0	28 12.1	19 8.2	25 10.8	65 28.1	54 23.4	2 0.9	34 14.7	19 8.2
	70代以上（n= 285）	117 41.1	42 14.7	10 3.5	37 13.0	10 3.5	48 16.8	23 8.1	25 8.8	28 9.8	65 22.8	42 14.7	6 2.1	56 19.6	30 10.5
地区別	本庁（n= 448）	209 46.7	106 23.7	25 5.6	48 10.7	14 3.1	67 15.0	45 10.0	42 9.4	40 8.9	99 22.1	133 29.7	9 2.0	60 13.4	28 6.3
	真和志（n= 322）	140 43.5	82 25.5	19 5.9	41 12.7	12 3.7	55 17.1	30 9.3	35 10.9	33 10.2	83 25.8	98 30.4	6 1.9	43 13.4	15 4.7
	小祿（n= 218）	99 45.4	69 31.7	9 4.1	29 13.3	12 5.5	38 17.4	16 7.3	17 7.8	25 11.5	45 20.6	65 29.8	5 2.3	32 14.7	6 2.8
	首里（n= 243）	110 45.3	54 22.2	7 2.9	33 13.6	9 3.7	38 15.6	34 14.0	26 10.7	20 8.2	72 29.6	65 26.7	4 1.6	29 11.9	12 4.9
居住年数別	1年未満（n= 4）	2 50.0	1 25.0	0 0	1 25.0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2 50.0	0 0
	1～2年（n= 8）	6 75.0	3 37.5	0 0	0 0	0 0	0 0	1 12.5	1 12.5	0 0	3 37.5	5 62.5	1 12.5	0 0	0 0
	3～5年（n= 28）	13 46.4	7 25.0	1 3.6	2 7.1	1 3.6	4 14.3	1 3.6	4 14.3	4 14.3	10 35.7	10 35.7	1 3.6	3 10.7	1 3.6
	6～10年（n= 49）	25 51.0	16 32.7	2 4.1	6 12.2	4 8.2	4 8.2	5 10.2	1 2.0	2 4.1	14 28.6	17 34.7	0 0	4 8.2	0 0
	11～20年（n= 116）	59 50.9	27 23.3	3 2.6	17 14.7	5 4.3	17 14.7	8 6.9	12 10.3	13 11.2	27 23.3	33 28.4	3 2.6	16 13.8	2 1.7
	21年以上（n= 1,056）	466 44.1	264 25.0	54 5.1	129 12.2	39 3.7	176 16.7	114 10.8	107 10.1	102 9.7	250 23.7	303 28.7	20 1.9	142 13.4	61 5.8

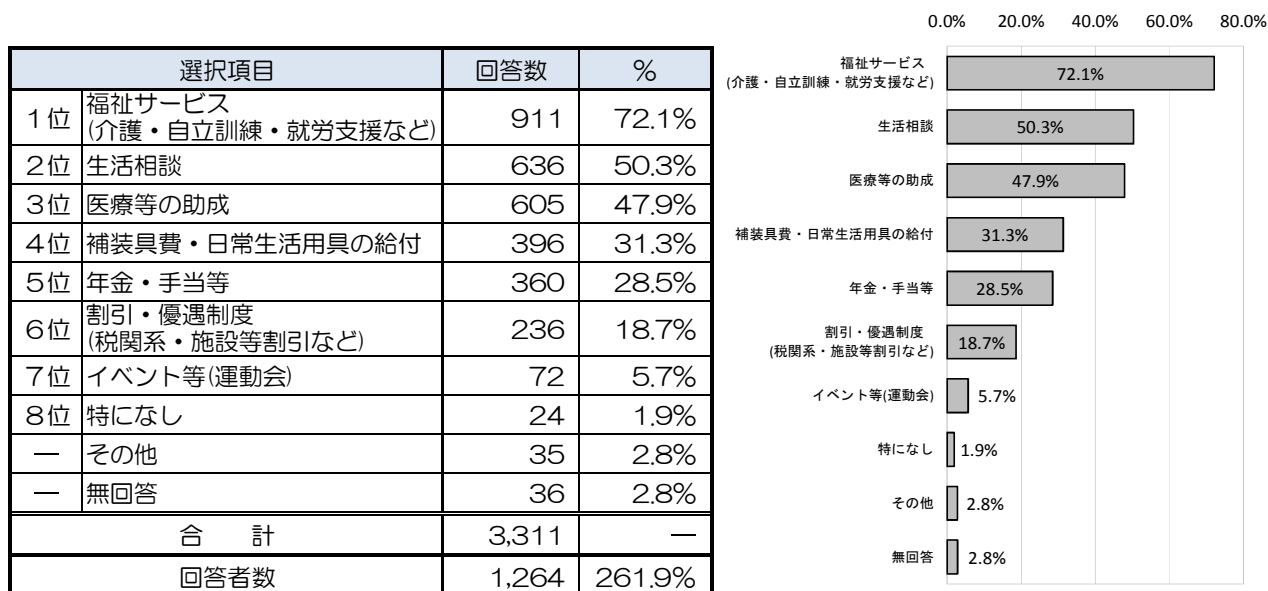
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 30. 那覇市が、障がいのある方も地域でともに暮らせるまちにするためには、どのような取り組みの充実が必要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1. 生活相談 | 2. 福祉サービス(介護・自立訓練・就労支援など) |
| 3. 医療等の助成 | 4. 年金・手当等 |
| 5. 割引・優遇制度(税関係・施設等割引など) | |
| 6. 補装具費・日常生活用具の給付 | 7. イベント等(運動会) |
| 8. 特になし | 9. その他 () |

障がいのある方も地域でともに暮らせるまちにするためには、「福祉サービス（介護・自立訓練・就労支援など）」の充実が必要である。

那覇市が、障がいのある方も地域でともに暮らせるまちにするために、どのような取り組みの充実が必要かについては、「福祉サービス（介護・自立訓練・就労支援など）」が72.1%で最も高く、次いで「生活相談」が50.3%、「医療等の助成」が47.9%の順となっている。



※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。

【選択肢「その他」の主な内容】

- | | |
|-------------------------|----------------|
| ・バリアフリーの整備（7 人） | 女性-10 代-首里地区・他 |
| ・コミュニティの場（交流会、家族会）（5 人） | 男性-30 代-本庁地区・他 |
| ・思いやり、声掛け（4 人） | 男性-30 代-本庁地区・他 |

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

ほとんどの属性において、「福祉サービス（介護・自立訓練・就労支援など）」の割合が最も高く、次いで「生活相談」、「医療等の助成」の割合が高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性（n=合計） 上段（人）：下段（%）		生活 相談	福祉サービス （介護・自立訓練・ 就労支援など）	医療等 の助成	年金・手 当等	施設等 割引など （税関系・ 優遇制度 等）	日常生 活用具の 給付	イベン ト等（運 動会）	特にな し	その他	無回 答
性別	男性（n= 546）	250 45.8	374 68.5	269 49.3	179 32.8	120 22.0	167 30.6	32 5.9	14 2.6	15 2.7	17 3.1
	女性（n= 711）	380 53.4	534 75.1	335 47.1	175 24.6	115 16.2	228 32.1	40 5.6	10 1.4	20 2.8	19 2.7
年代別	10代（n= 24）	10 41.7	17 70.8	9 37.5	10 41.7	8 33.3	7 29.2	4 16.7	0 0	1 4.2	0 0
	20代（n= 108）	56 51.9	83 76.9	43 39.8	24 22.2	25 23.1	42 38.9	4 3.7	2 1.9	4 3.7	1 0.9
	30代（n= 183）	78 42.6	139 76.0	84 45.9	47 25.7	32 17.5	72 39.3	22 12.0	1 0.5	8 4.4	1 0.5
	40代（n= 231）	110 47.6	171 74.0	103 44.6	76 32.9	40 17.3	75 32.5	13 5.6	3 1.3	8 3.5	4 1.7
	50代（n= 199）	114 57.3	161 80.9	104 52.3	56 28.1	27 13.6	67 33.7	10 5.0	1 0.5	7 3.5	0 0
	60代（n= 231）	118 51.1	156 67.5	123 53.2	72 31.2	41 17.7	60 26.0	5 2.2	7 3.0	7 3.0	10 4.3
	70代以上（n= 285）	148 51.9	183 64.2	138 48.4	72 25.3	61 21.4	73 25.6	14 4.9	10 3.5	0 0	20 7.0
地区別	本庁（n= 448）	212 47.3	314 70.1	220 49.1	123 27.5	93 20.8	148 33.0	26 5.8	10 2.2	14 3.1	13 2.9
	真和志（n= 322）	167 51.9	230 71.4	159 49.4	92 28.6	59 18.3	87 27.0	18 5.6	7 2.2	9 2.8	11 3.4
	小禄（n= 218）	110 50.5	168 77.1	109 50.0	52 23.9	33 15.1	73 33.5	17 7.8	4 1.8	6 2.8	4 1.8
	首里（n= 243）	134 55.1	183 75.3	103 42.4	77 31.7	43 17.7	76 31.3	8 3.3	3 1.2	6 2.5	5 2.1
居住年数別	1年未満（n= 4）	3 75.0	2 50.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	0 0	1 25.0	0 0	0 0	0 0
	1～2年（n= 8）	6 75.0	6 75.0	6 75.0	1 12.5	2 25.0	3 37.5	0 0	0 0	0 0	0 0
	3～5年（n= 28）	14 50.0	21 75.0	15 53.6	5 17.9	7 25.0	8 28.6	1 3.6	0 0	0 0	0 0
	6～10年（n= 49）	21 42.9	37 75.5	21 42.9	17 34.7	8 16.3	17 34.7	7 14.3	1 2.0	0 0	0 0
	11～20年（n= 116）	58 50.0	80 69.0	51 44.0	37 31.9	18 15.5	30 25.9	10 8.6	1 0.9	9 7.8	1 0.9
	21年以上（n= 1,056）	532 50.4	764 72.3	508 48.1	296 28.0	199 18.8	338 32.0	53 5.0	22 2.1	26 2.5	35 3.3

(11) 健康について

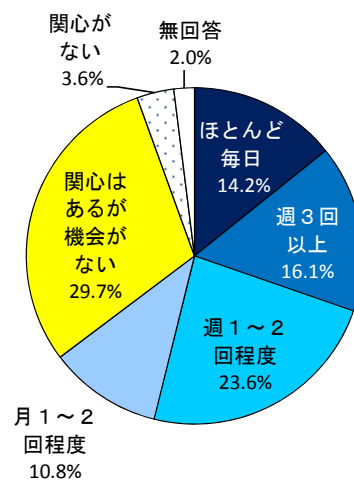
質問 31. あなたは、1 回 30 分以上の運動（ウォーキングなどを含む）をどの程度取り組んでいますか。

- | | | |
|--------------|----------------|--------------|
| 1. ほとんど毎日 | 2. 週 3 回以上 | 3. 週 1～2 回程度 |
| 4. 月 1～2 回程度 | 5. 関心はあるが機会がない | 6. 関心がない |

1 回 30 分以上の運動に取り組む関心はあるが機会がない市民が 3 割弱。

1 回 30 分以上の運動（ウォーキングなどを含む）をどの程度取り組んでいるかについては、「関心はあるが機会がない」が 29.7%で最も多く、次いで「週 1～2 回程度」が 23.6%、「週 3 回以上」が 16.1%の順となっている。

選択項目	回答数	%
ほとんど毎日	180	14.2%
週 3 回以上	203	16.1%
週 1～2 回程度	298	23.6%
月 1～2 回程度	137	10.8%
関心はあるが機会がない	376	29.7%
関心がない	45	3.6%
無回答	25	2.0%
合 計	1,264	100%

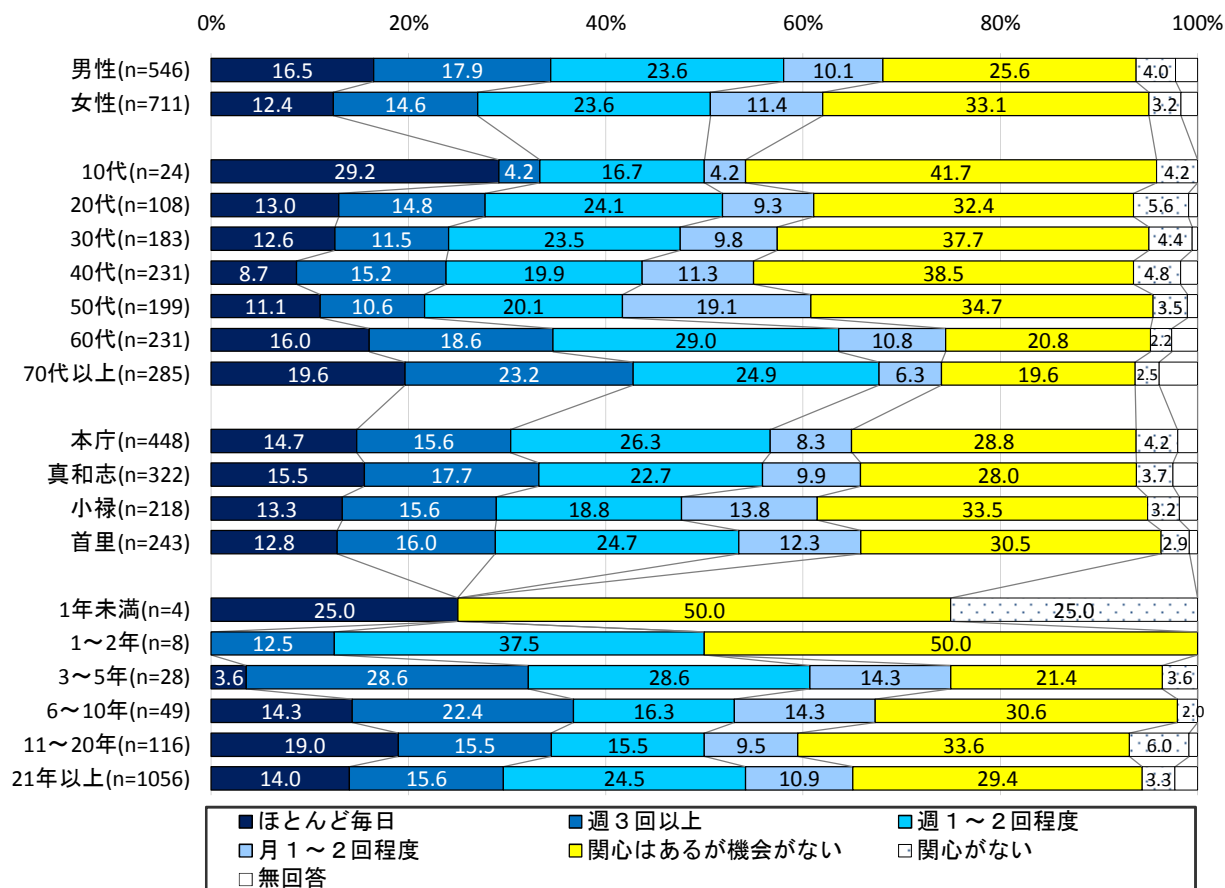


【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、男性は女性に比べ「ほとんど毎日」、「週3回以上」の割合が高い。

年代別でみると、20代以下と60代以上で、週1～2回以上運動をしている市民が半数を超えている。一方、30代～50代は、年代が上がるにつれて、運動をする機会が減る傾向がある。

回答者属性(n=合計)	選択項目	ほとんど毎日	週3回以上	週1～2回程度	月1～2回程度	関心はあるが機会がない	関心がない	無回答
男性 (n= 546)		90	98	129	55	140	22	12
女性 (n= 711)		88	104	168	81	235	23	12
10代 (n= 24)		7	1	4	1	10	1	0
20代 (n= 108)		14	16	26	10	35	6	1
30代 (n= 183)		23	21	43	18	69	8	1
40代 (n= 231)		20	35	46	26	89	11	4
50代 (n= 199)		22	21	40	38	69	7	2
60代 (n= 231)		37	43	67	25	48	5	6
70代以上 (n= 285)		56	66	71	18	56	7	11
本庁 (n= 448)		66	70	118	37	129	19	9
真和志 (n= 322)		50	57	73	32	90	12	8
小禄 (n= 218)		29	34	41	30	73	7	4
首里 (n= 243)		31	39	60	30	74	7	2
1年未満 (n= 4)		1	0	0	0	2	1	0
1～2年 (n= 8)		0	1	3	0	4	0	0
3～5年 (n= 28)		1	8	8	4	6	1	0
6～10年 (n= 49)		7	11	8	7	15	1	0
11～20年 (n= 116)		22	18	18	11	39	7	1
21年以上 (n= 1,056)		148	165	259	115	310	35	24



(12) 文化・芸術について

質問 32. 那覇市が振興したほうが良いと考える文化芸術の分野は何ですか。次の中から3つまでお選びください。

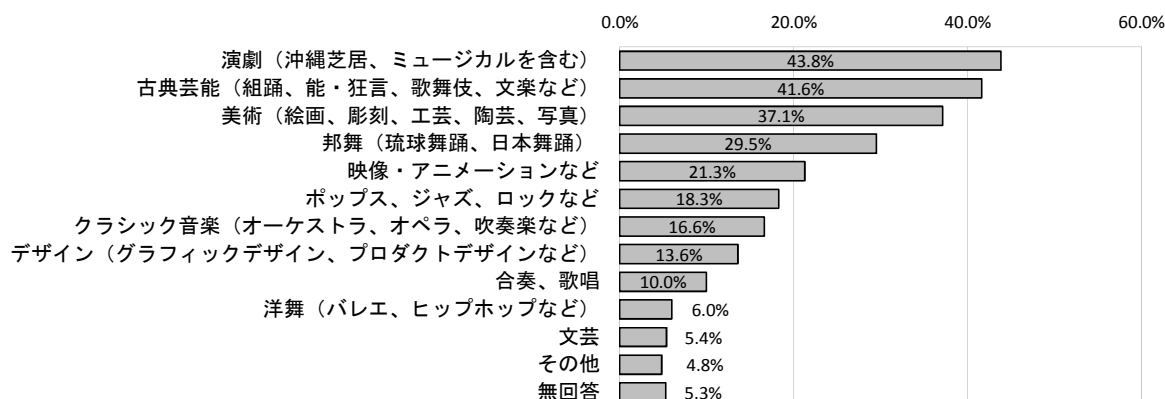
1. 古典芸能（組踊、能・狂言、歌舞伎、文楽など）
2. 演劇（沖縄芝居、ミュージカルを含む）
3. 洋舞（バレエ、ヒップホップなど）
4. 邦舞（琉球舞踊、日本舞踊）
5. ポップス、ジャズ、ロックなど
6. クラシック音楽（オーケストラ、オペラ、吹奏楽など）
7. 合奏、歌唱
8. 美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真）
9. 映像・アニメーションなど
10. デザイン（グラフィックデザイン、プロダクトデザインなど）
11. 文芸
12. その他（ ）

那覇市が振興したほうが良いと考える文化芸術の分野は「演劇」である。

那覇市が振興した方が良いと考える文化芸術の分野については、「演劇（沖縄芝居、ミュージカルを含む）」が43.8%で最も高く、次いで「古典芸能（組踊、能・狂言、歌舞伎、文楽など）」が41.6%、「美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真）」が37.1%の順となっている。

選択項目		回答数	%
1位	演劇（沖縄芝居、ミュージカルを含む）	554	43.8%
2位	古典芸能（組踊、能・狂言、歌舞伎、文楽など）	526	41.6%
3位	美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真）	469	37.1%
4位	邦舞（琉球舞踊、日本舞踊）	373	29.5%
5位	映像・アニメーションなど	269	21.3%
6位	ポップス、ジャズ、ロックなど	231	18.3%
7位	クラシック音楽（オーケストラ、オペラ、吹奏楽など）	210	16.6%
8位	デザイン（グラフィックデザイン、プロダクトデザインなど）	172	13.6%
9位	合奏、歌唱	126	10.0%
10位	洋舞（バレエ、ヒップホップなど）	76	6.0%
11位	文芸	68	5.4%
—	その他	61	4.8%
—	無回答	67	5.3%
合 計		3,202	—
回答者数		1,264	253.3%

※平成30年度より、回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。



【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

年代別でみると、10代～20代で「映像・アニメーションなど」の割合が高くなっている。

居住年数別でみると、11年以上で「演劇」の割合が最も高くなっているのに対し、1年未満、3～10年では「古典芸能」の割合が高くなっている。また、1～5年では「邦舞」の割合も高い。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性（n=合計） 上段（人）：下段（%）		古典 芸能	演 劇	洋 舞	邦 舞	ジャズ、 ポップス、 ロック など	クラ シック 音楽	合 奏、 歌唱	美術	アニメーション ・映像・シ ョンなど	デザ イン	文 芸	そ の 他	無 回 答
性別	男性（n= 546）	229 41.9	234 42.9	33 6.0	146 26.7	125 22.9	84 15.4	36 6.6	206 37.7	131 24.0	84 15.4	36 6.6	29 5.3	28 5.1
	女性（n= 711）	295 41.5	320 45.0	42 5.9	225 31.6	106 14.9	125 17.6	89 12.5	263 37.0	138 19.4	88 12.4	32 4.5	32 4.5	37 5.2
年代別	10代（n= 24）	4 16.7	10 41.7	3 12.5	9 37.5	6 25.0	3 12.5	2 8.3	5 20.8	8 33.3	4 16.7	1 4.2	2 8.3	1 4.2
	20代（n= 108）	44 40.7	41 38.0	6 5.6	39 36.1	27 25.0	15 13.9	5 4.6	38 35.2	42 38.9	22 20.4	2 1.9	3 2.8	1 0.9
	30代（n= 183）	63 34.4	71 38.8	22 12.0	52 28.4	37 20.2	25 13.7	10 5.5	65 35.5	53 29.0	40 21.9	10 5.5	15 8.2	4 2.2
	40代（n= 231）	96 41.6	96 41.6	17 7.4	49 21.2	54 23.4	36 15.6	16 6.9	83 35.9	71 30.7	52 22.5	11 4.8	13 5.6	7 3.0
	50代（n= 199）	83 41.7	88 44.2	12 6.0	46 23.1	52 26.1	42 21.1	13 6.5	84 42.2	41 20.6	32 16.1	10 5.0	8 4.0	5 2.5
	60代（n= 231）	98 42.4	106 45.9	9 3.9	85 36.8	36 15.6	43 18.6	36 15.6	97 42.0	29 12.6	11 4.8	12 5.2	10 4.3	17 7.4
	70代以上（n= 285）	137 48.1	142 49.8	6 2.1	93 32.6	19 6.7	46 16.1	43 15.1	96 33.7	24 8.4	11 3.9	21 7.4	10 3.5	31 10.9
地区別	本庁（n= 448）	183 40.8	198 44.2	33 7.4	119 26.6	99 22.1	73 16.3	40 8.9	164 36.6	101 22.5	68 15.2	24 5.4	20 4.5	22 4.9
	真和志（n= 322）	139 43.2	147 45.7	17 5.3	100 31.1	58 18.0	54 16.8	33 10.2	128 39.8	66 20.5	44 13.7	17 5.3	15 4.7	20 6.2
	小禄（n= 218）	90 41.3	93 42.7	13 6.0	74 33.9	37 17.0	35 16.1	15 6.9	85 39.0	45 20.6	31 14.2	14 6.4	10 4.6	4 1.8
	首里（n= 243）	106 43.6	107 44.0	9 3.7	73 30.0	32 13.2	43 17.7	33 13.6	81 33.3	50 20.6	21 8.6	11 4.5	16 6.6	17 7.0
居住年数別	1年未満（n= 4）	2 50.0	1 25.0	0 0	1 25.0	0 0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	0 0	0 0
	1～2年（n= 8）	2 25.0	6 75.0	0 0	4 50.0	2 25.0	1 12.5	2 25.0	3 37.5	0 0	2 25.0	1 12.5	1 12.5	0 0
	3～5年（n= 28）	14 50.0	6 21.4	5 17.9	9 32.1	7 25.0	3 10.7	3 10.7	9 32.1	8 28.6	7 25.0	1 3.6	1 3.6	0 0
	6～10年（n= 49）	21 42.9	17 34.7	6 12.2	15 30.6	11 22.4	7 14.3	1 2.0	14 28.6	13 26.5	8 16.3	3 6.1	3 6.1	0 0
	11～20年（n= 116）	39 33.6	43 37.1	11 9.5	34 29.3	21 18.1	16 13.8	6 5.2	39 33.6	32 27.6	26 22.4	7 6.0	5 4.3	6 5.2
	21年以上（n= 1,056）	446 42.2	481 45.5	53 5.0	310 29.4	190 18.0	182 17.2	111 10.5	403 38.2	215 20.4	127 12.0	55 5.2	51 4.8	60 5.7

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・しまくとぅば（3人） 女性-70代以上-真和志地区・他
- ・特定の分野に区別せず、広く支援したほうがよい（5人） 男性-30代-首里地区・他

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

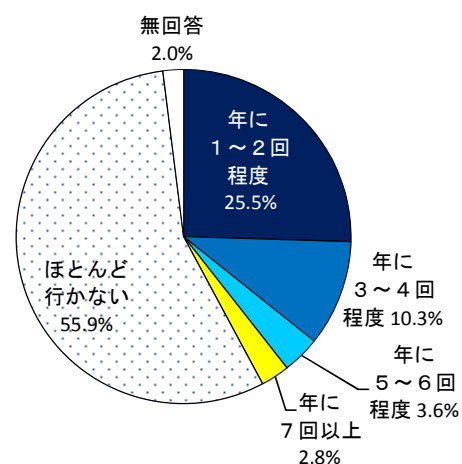
質問 33. 1 年間にどのくらいの頻度で劇場や市民会館などへ鑑賞に出掛けますか。次の中から 1 つお選びください。

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| 1. 年に 1～2 回程度 | 2. 年に 3～4 回程度 | 3. 年に 5～6 回程度 |
| 4. 年に 7 回以上 | 5. ほとんど行かない | |

劇場や市民会館などへ鑑賞にほとんど行かない市民は 5 割を超えている。

1 年間に劇場や市民会館などへ鑑賞に出掛ける頻度については、「ほとんど行かない」が 55.9% で最も多く、次いで「年に 1～2 回程度」が 25.5%、「年に 3～4 回程度」が 10.3% の順となっている。

選択項目	回答数	%
年に 1～2 回程度	322	25.5%
年に 3～4 回程度	130	10.3%
年に 5～6 回程度	46	3.6%
年に 7 回以上	35	2.8%
ほとんど行かない	706	55.9%
無回答	25	2.0%
合 計	1,264	100%



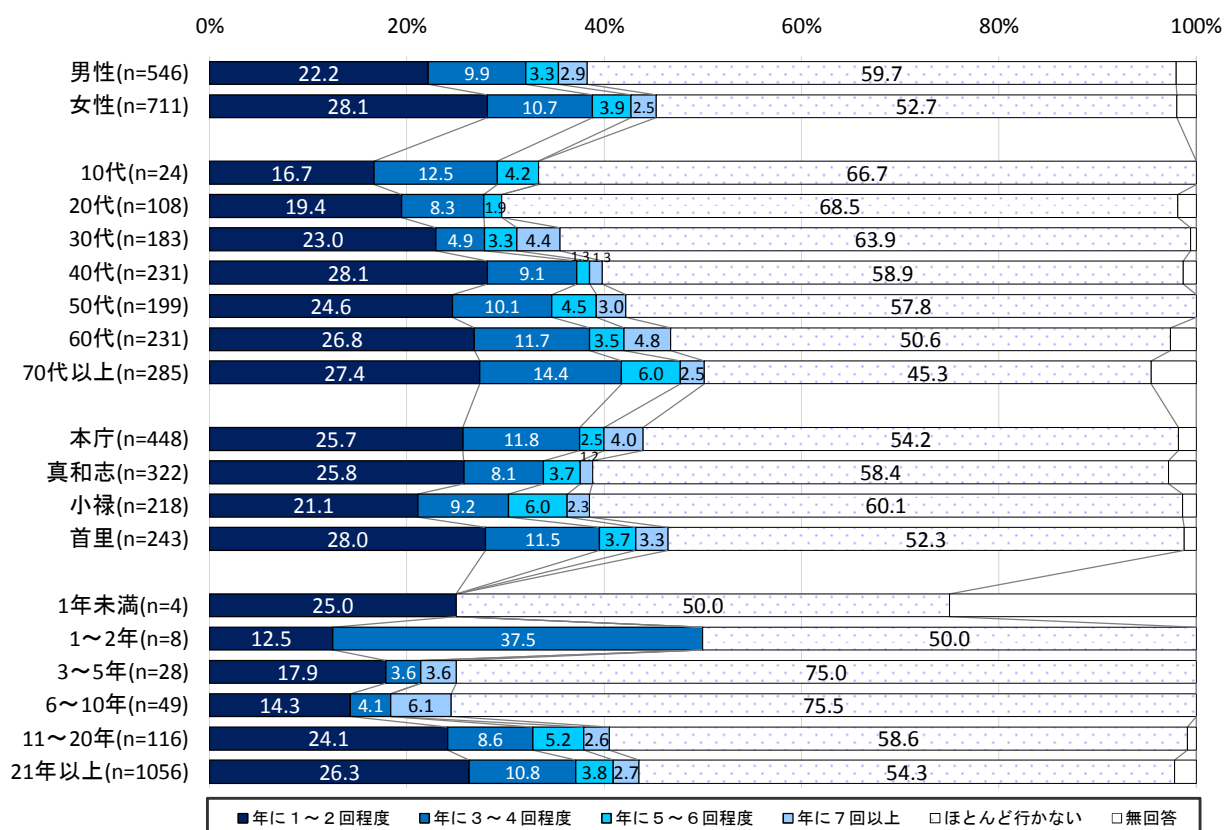
【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、男性は女性に比べ、「ほとんど行かない」の割合が高くなっている。

年代別でみると、10代を除き、年代が上がるにつれて「ほとんど行かない」の割合が減少し、年に数回は鑑賞に出掛ける傾向がある。

居住地区別でみると、真和志地区と小祿地区は「ほとんど行かない」の割合が高い。

選択項目 回答者属性(n=合計)	年に1～2回程度	年に3～4回程度	年に5～6回程度	年に7回以上	ほとんど行かない	無回答
男性 (n= 546)	121	54	18	16	326	11
女性 (n= 711)	200	76	28	18	375	14
10代 (n= 24)	4	3	1	0	16	0
20代 (n= 108)	21	9	2	0	74	2
30代 (n= 183)	42	9	6	8	117	1
40代 (n= 231)	65	21	3	3	136	3
50代 (n= 199)	49	20	9	6	115	0
60代 (n= 231)	62	27	8	11	117	6
70代以上 (n= 285)	78	41	17	7	129	13
本庁 (n= 448)	115	53	11	18	243	8
真和志 (n= 322)	83	26	12	4	188	9
小祿 (n= 218)	46	20	13	5	131	3
首里 (n= 243)	68	28	9	8	127	3
1年未満 (n= 4)	1	0	0	0	2	1
1～2年 (n= 8)	1	3	0	0	4	0
3～5年 (n= 28)	5	1	0	1	21	0
6～10年 (n= 49)	7	2	0	3	37	0
11～20年 (n= 116)	28	10	6	3	68	1
21年以上 (n= 1,056)	278	114	40	28	573	23



(13) 観光意識について

質問 34. 那覇市内における観光客の増加や、観光地としての整備が進むことによる生活環境の変化について、あなたはどのように思いますか。次の中から3つまでお選びください。

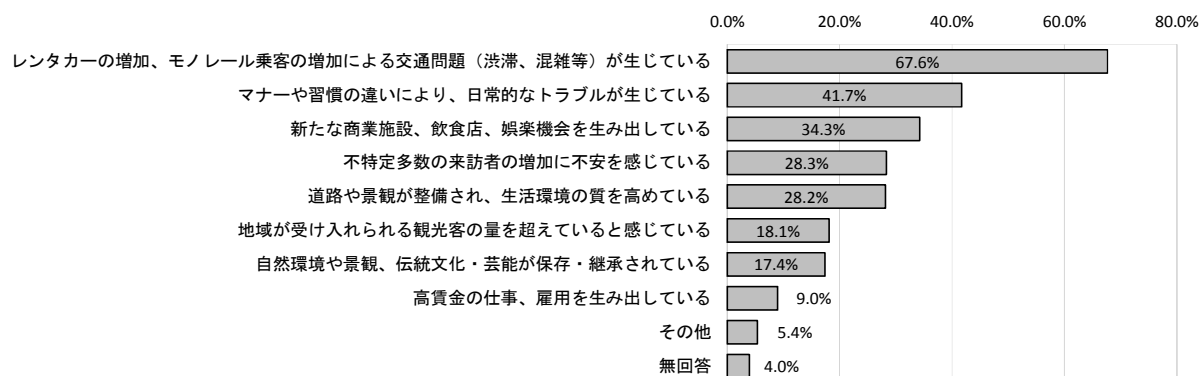
1. 自然環境や景観、伝統文化・芸能が保存・継承されている
2. 道路や景観が整備され、生活環境の質を高めている
3. 高賃金の仕事、雇用を生み出している
4. 新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している
5. レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている
6. マナーや習慣の違いにより、日常的なトラブルが生じている
7. 地域が受け入れられる観光客の量を超えていると感じている
8. 不特定多数の来訪者の増加に不安を感じている
9. その他（ ）

那覇市内における生活環境の変化について、市民は「レンタカーの増加、モノレールの乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている」と思っている。

那覇市内における生活環境の変化についてどう思うかについては、「レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている」が67.6%と最も高く、次いで「マナーや習慣の違いにより、日常的なトラブルが生じている」が41.7%、「新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している」が34.3%の順となっている。

選択項目		回答数	%
1位	レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている	855	67.6%
2位	マナーや習慣の違いにより、日常的なトラブルが生じている	527	41.7%
3位	新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している	433	34.3%
4位	不特定多数の来訪者の増加に不安を感じている	358	28.3%
5位	道路や景観が整備され、生活環境の質を高めている	356	28.2%
6位	地域が受け入れられる観光客の量を超えていると感じている	229	18.1%
7位	自然環境や景観、伝統文化・芸能が保存・継承されている	220	17.4%
8位	高賃金の仕事、雇用を生み出している	114	9.0%
—	その他	68	5.4%
—	無回答	50	4.0%
合 計		3,210	—
回答者数		1,264	254.0%

※平成30年度より、回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。



【選択肢「その他」の主な内容】

- ・観光客中心の店舗が目立ち、地域密着の場が減少（16人）
 - ・環境悪化（ゴミの増加、環境整備不足）（7人）
 - ・物価の高騰（2人）
- 女性-50代-本庁地区・他
男性-30代-本庁地区・他
女性-60代-本庁地区・他

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

いずれの属性においても、「レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題が生じている」の割合が最も高くなっている。

年代別では、20代では「新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している」の割合が高くなっており、70代以上で「道路や景観が整備され、生活環境の質を高めている」の割合が比較的高くなっている。

地区別では、首里地区で「新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している」の割合が高くなっているが、あまり大きな違いは見られない。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性（n=合計） 上段（人）：下段（％）		自然環境や景観、 伝統文化・芸能が 保存・継承されてい る	道路や景観が整備され、 生活環境の質を高めてい る	高貴金の仕事、雇用を 生み出している	新たな商業施設、 飲食店、娯楽機会を 生み出している	レンタカーの増加、モノレール 乗客の増加による交通問題 （渋滞、混雑等）が生じてい る	マナーや習慣の違いにより、 日常的なトラブルが生じてい る	地域が受け入れられる観光客の 量を超えていると感じてい る	不特定多数の来訪者の増加に 不安を感じている	その他	無回答
性別	男性（n= 546） 女性（n= 711）	95 17.4	165 30.2	51 9.3	188 34.4	372 68.1	215 39.4	107 19.6	160 29.3	24 4.4	24 4.4
年代別	10代（n= 24）	2 8.3	8 33.3	6 25.0	10 41.7	17 70.8	12 50.0	1 4.2	5 20.8	1 4.2	0 0
	20代（n= 108）	17 15.7	28 25.9	10 9.3	47 43.5	76 70.4	46 42.6	12 11.1	22 20.4	5 4.6	1 0.9
	30代（n= 183）	11 6.0	33 18.0	21 11.5	59 32.2	138 75.4	92 50.3	45 24.6	55 30.1	18 9.8	2 1.1
	40代（n= 231）	30 13.0	64 27.7	21 9.1	77 33.3	173 74.9	101 43.7	49 21.2	61 26.4	16 6.9	5 2.2
	50代（n= 199）	34 17.1	55 27.6	18 9.0	60 30.2	149 74.9	87 43.7	40 20.1	57 28.6	8 4.0	5 2.5
	60代（n= 231）	47 20.3	69 29.9	20 8.7	84 36.4	148 64.1	96 41.6	42 18.2	73 31.6	8 3.5	11 4.8
	70代以上（n= 285）	77 27.0	96 33.7	18 6.3	96 33.7	153 53.7	92 32.3	39 13.7	85 29.8	12 4.2	26 9.1
地区別	本庁（n= 448）	68 15.2	106 23.7	42 9.4	158 35.3	309 69.0	216 48.2	79 17.6	127 28.3	29 6.5	18 4.0
	真和志（n= 322）	62 19.3	106 32.9	32 9.9	104 32.3	204 63.4	114 35.4	62 19.3	95 29.5	15 4.7	15 4.7
	小禄（n= 218）	25 11.5	43 19.7	15 6.9	71 32.6	170 78.0	110 50.5	44 20.2	59 27.1	11 5.0	7 3.2
	首里（n= 243）	56 23.0	89 36.6	19 7.8	93 38.3	160 65.8	73 30.0	41 16.9	68 28.0	10 4.1	6 2.5
居住年数別	1年未満（n= 4）	2 50.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	2 50.0	1 25.0	0 0	1 25.0	0 0	0 0
	1～2年（n= 8）	1 12.5	1 12.5	1 12.5	2 25.0	5 62.5	5 62.5	1 12.5	3 37.5	2 25.0	0 0
	3～5年（n= 28）	2 7.1	6 21.4	4 14.3	11 39.3	21 75.0	12 42.9	6 21.4	8 28.6	2 7.1	0 0
	6～10年（n= 49）	6 12.2	12 24.5	6 12.2	15 30.6	33 67.3	21 42.9	12 24.5	17 34.7	5 10.2	1 2.0
	11～20年（n= 116）	10 8.6	31 26.7	19 16.4	45 38.8	85 73.3	46 39.7	16 13.8	29 25.0	6 5.2	3 2.6
	21年以上（n= 1,056）	198 18.8	303 28.7	83 7.9	358 33.9	708 67.0	440 41.7	193 18.3	299 28.3	53 5.0	46 4.4

(14) 緑のまちについて

質問 35. あなたは、住んでいる地域の花や緑（公園の緑や街路樹、公共や民間の緑化）に満足していますか。

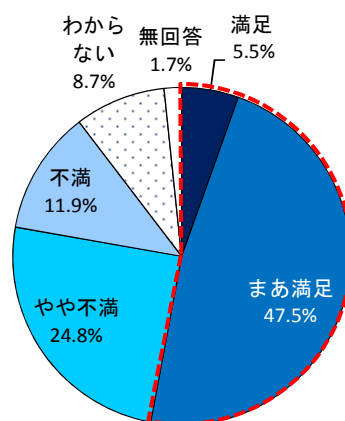
- | | | |
|---------|---------|----------|
| 1. 満足 | 2. まあ満足 | |
| 3. やや不満 | 4. 不満 | 5. わからない |

居住地域の花や緑に「満足」している市民は 53.0%。「不満」な市民は 36.7%。

住んでいる地域の花や緑（公園の緑や街路樹、公共や民間の緑化）に満足しているかについては、「まあ満足」が 47.5%で最も多く、次いで「やや不満」が 24.8%、「不満」が 11.9%の順となっている。

「満足」と「まあ満足」の合計が 53.0%に対し、「不満」と「やや不満」の合計が 36.7%であり、居住地域の花や緑に対して、「満足」している市民の方が多いことが伺える。

選択項目	回答数	%
満足	69	5.5%
まあ満足	600	47.5%
やや不満	314	24.8%
不満	150	11.9%
わからない	110	8.7%
無回答	21	1.7%
合 計	1,264	100%



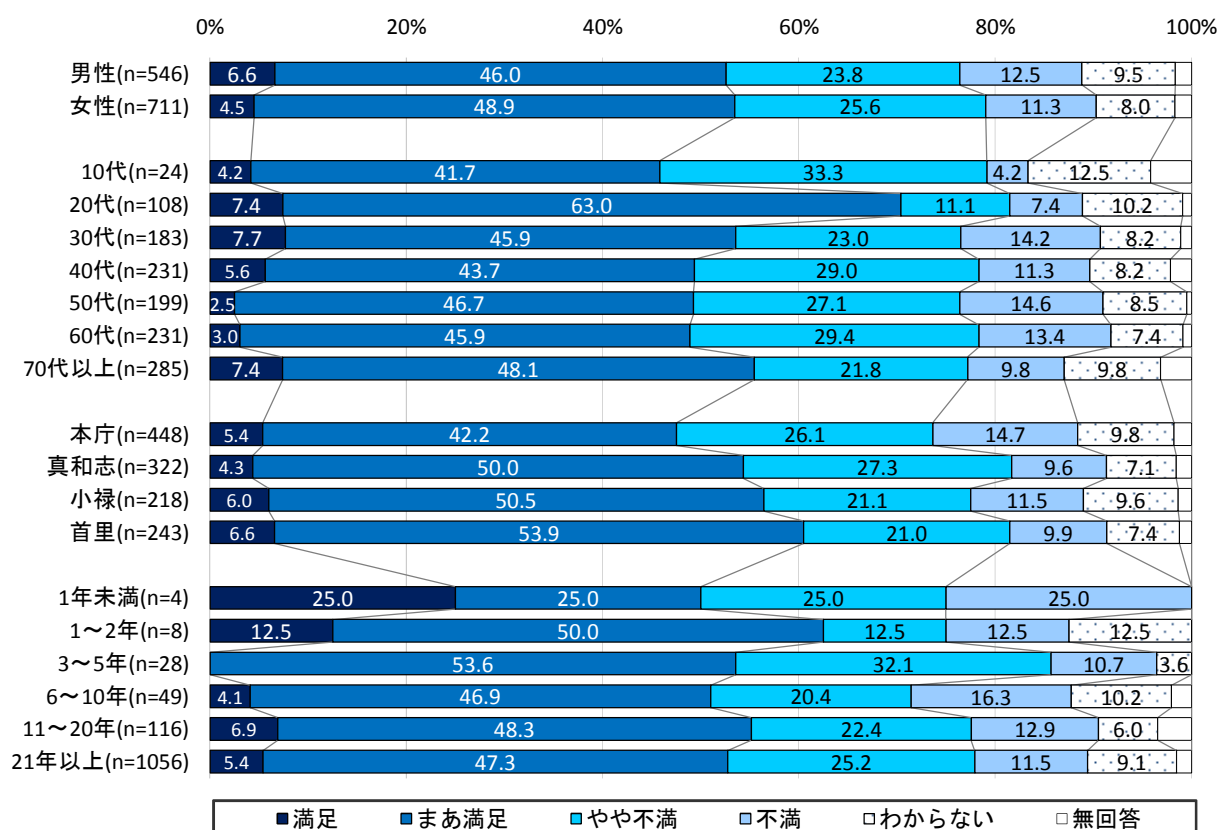
【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

年代別では、20代で「満足」と「まあ満足」の合計が7割を超えている。

居住地区では、首里地区で「満足」と「まあ満足」の合計が6割を超えている一方、本庁地区では「不満」と「やや不満」の合計が4割を超えている。

居住年数別でみると、3～5年で「やや不満」の割合が高くなっている。

選択項目 回答者属性(n=合計)	満足	まあ満足	やや不満	不満	わからない	無回答
男性 (n= 546)	36	251	130	68	52	9
女性 (n= 711)	32	348	182	80	57	12
10代 (n= 24)	1	10	8	1	3	1
20代 (n= 108)	8	68	12	8	11	1
30代 (n= 183)	14	84	42	26	15	2
40代 (n= 231)	13	101	67	26	19	5
50代 (n= 199)	5	93	54	29	17	1
60代 (n= 231)	7	106	68	31	17	2
70代以上 (n= 285)	21	137	62	28	28	9
本庁 (n= 448)	24	189	117	66	44	8
真和志 (n= 322)	14	161	88	31	23	5
小禄 (n= 218)	13	110	46	25	21	3
首里 (n= 243)	16	131	51	24	18	3
1年未満 (n= 4)	1	1	1	1	0	0
1～2年 (n= 8)	1	4	1	1	1	0
3～5年 (n= 28)	0	15	9	3	1	0
6～10年 (n= 49)	2	23	10	8	5	1
11～20年 (n= 116)	8	56	26	15	7	4
21年以上 (n= 1,056)	57	500	266	121	96	16



(15) 生涯学習について

質問 36. あなたは、どのような活動に興味があり学んでみたいと思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。

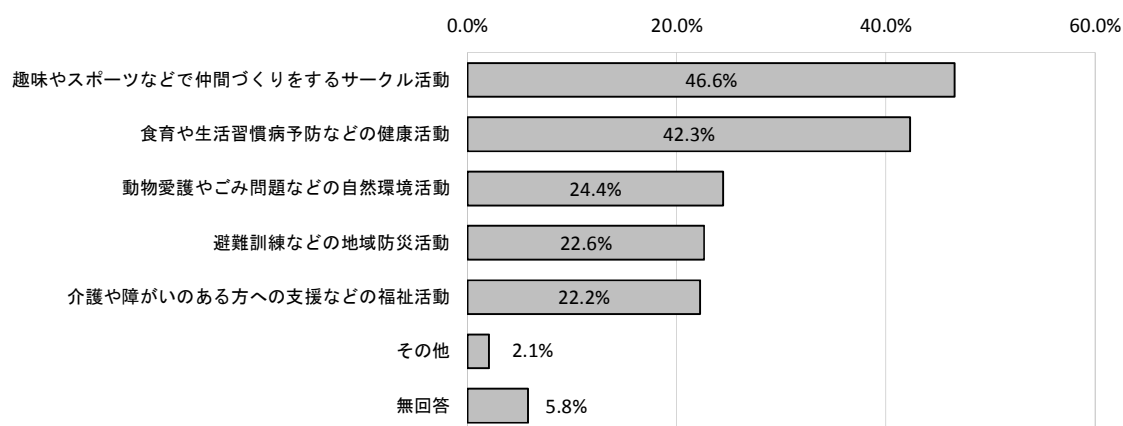
1. 動物愛護やごみ問題などの自然環境活動
2. 食育や生活習慣病予防などの健康活動
3. 避難訓練などの地域防災活動
4. 介護や障がいのある方への支援などの福祉活動
5. 趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動
6. その他 ()

市民が興味があり学んでみたい活動は「趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動」が最も多い。

興味があり学んでみたい活動については、「趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動」が 46.6%で最も高く、次いで「食育や生活習慣病予防などの健康活動」が 42.3%、「動物愛護やごみ問題などの自然環境活動」が 24.4%の順となっている。

選択項目		回答数	%
1位	趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動	589	46.6%
2位	食育や生活習慣病予防などの健康活動	535	42.3%
3位	動物愛護やごみ問題などの自然環境活動	309	24.4%
4位	避難訓練などの地域防災活動	286	22.6%
5位	介護や障がいのある方への支援などの福祉活動	281	22.2%
—	その他	26	2.1%
—	無回答	73	5.8%
合 計		2,099	—
回答者数		1,264	166.1%

※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。



【選択肢「その他」の主な内容】

- ・語学（4人）
 - ・子供に対する支援活動
- 女性-50代-本庁地区・他
女性-10代-首里地区・他

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、男性は「趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動」、女性は「食育や生活習慣病予防などの健康活動」の割合が最も高くなっている。

年代別でみると、40代では「食育や生活習慣病予防などの健康活動」の割合が最も高くなっているが、あまり大きな違いは見られない。

居住地区別でみると、真和志地区は他の地区と比べて「介護や障がいのある方への支援などの福祉活動」の割合が高い。

※■は第1位、■は第2位、□は第3位の項目

選択項目 回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)		な 動 の 物 の 愛 護 や 自 然 環 境 や ご み 活 動 題	食 育 や 生 活 習 慣 病 予 防 な ど の 健 康 活 動	避 難 訓 練 な ど の 地 域 防 災 活 動	介 護 や 障 が い の あ る 方 へ の 支 援 な ど の 福 祉 活 動	づ 趣 味 や ス ポ ー ツ な ど で 仲 間 づ くり を す る サ ー ク ル 活 動	そ の 他	無 回 答
性 別	男性 (n= 546)	128 23.4	186 34.1	115 21.1	108 19.8	272 49.8	12 2.2	28 5.1
	女性 (n= 711)	180 25.3	347 48.8	170 23.9	172 24.2	313 44.0	14 2.0	45 6.3
年 代 別	10代 (n= 24)	8 33.3	12 50.0	6 25.0	2 8.3	16 66.7	3 12.5	1 4.2
	20代 (n= 108)	38 35.2	49 45.4	29 26.9	26 24.1	58 53.7	3 2.8	2 1.9
	30代 (n= 183)	40 21.9	84 45.9	45 24.6	32 17.5	98 53.6	4 2.2	6 3.3
	40代 (n= 231)	74 32.0	96 41.6	75 32.5	67 29.0	89 38.5	3 1.3	11 4.8
	50代 (n= 199)	56 28.1	77 38.7	38 19.1	46 23.1	94 47.2	8 4.0	7 3.5
	60代 (n= 231)	44 19.0	109 47.2	44 19.0	51 22.1	112 48.5	3 1.3	11 4.8
	70代以上 (n= 285)	49 17.2	107 37.5	48 16.8	57 20.0	121 42.5	2 0.7	35 12.3
地 区 別	本庁 (n= 448)	117 26.1	195 43.5	114 25.4	98 21.9	221 49.3	11 2.5	32 7.1
	真和志 (n= 322)	73 22.7	132 41.0	81 25.2	81 25.2	143 44.4	5 1.6	17 5.3
	小祿 (n= 218)	57 26.1	93 42.7	47 21.6	46 21.1	103 47.2	4 1.8	9 4.1
	首里 (n= 243)	52 21.4	102 42.0	34 14.0	53 21.8	106 43.6	6 2.5	14 5.8
居 住 年 数 別	1年未満 (n= 4)	0 0	2 50.0	0 0	3 75.0	1 25.0	0 0	0 0
	1～2年 (n= 8)	1 12.5	4 50.0	3 37.5	0 0	3 37.5	0 0	0 0
	3～5年 (n= 28)	5 17.9	10 35.7	6 21.4	4 14.3	12 42.9	2 7.1	2 7.1
	6～10年 (n= 49)	13 26.5	25 51.0	10 20.4	7 14.3	26 53.1	1 2.0	2 4.1
	11～20年 (n= 116)	31 26.7	49 42.2	26 22.4	20 17.2	60 51.7	6 5.2	7 6.0
	21年以上 (n= 1,056)	259 24.5	443 42.0	239 22.6	247 23.4	487 46.1	17 1.6	62 5.9

(16) 青少年の育成について

質問 37. あなたは、地域の青少年（小学生～29 歳まで）とどのように関わっていますか。

あてはまるものをすべてお選びください。

1. あいさつや地域行事への参加の声掛け
2. 青少年団体へ寄付をするなど金銭的な支援で関わっている
3. 部活動のコーチや読み聞かせ、登下校の見守りなど学校支援を通して関わっている
4. 地域の青年会や子ども会活動などで関わっている
5. 特に関わりがない

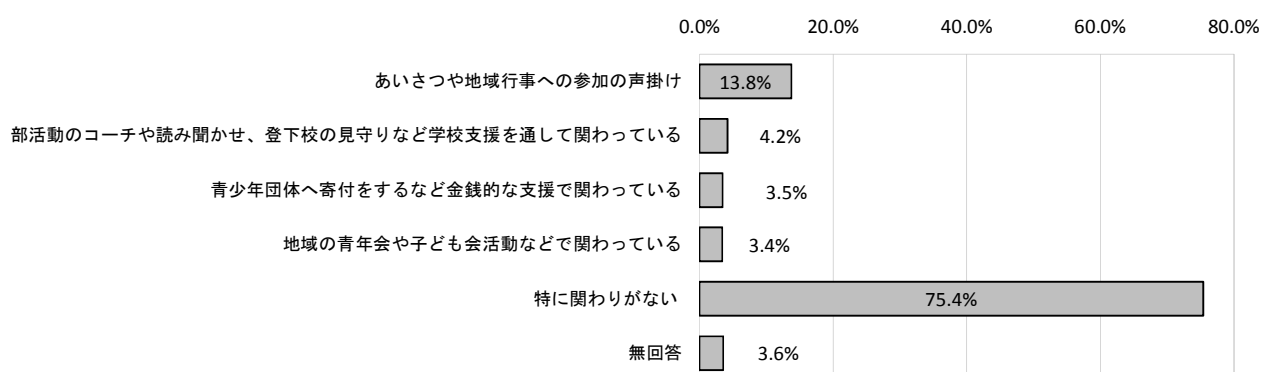
地域の青少年との関わりについて、「特に関わりがない」との回答が最も多い。

地域の青少年とどのように関わっているかについては、「あいさつや地域行事への参加の声掛け」が 13.8%と最も高く、次いで「部活動のコーチや読み聞かせ、登下校の見守りなど学校支援を通して関わっている」が 4.2%、「青少年団体への寄付をするなど金銭的な支援で関わっている」が 3.5%の順となっている。

また、「特に関わりがない」と回答した市民は 75.4%と 7 割以上を占めている。

選択項目		回答数	%
1 位	あいさつや地域行事への参加の声掛け	174	13.8%
2 位	部活動のコーチや読み聞かせ、登下校の見守りなど学校支援を通して関わっている	53	4.2%
3 位	青少年団体へ寄付をするなど金銭的な支援で関わっている	44	3.5%
4 位	地域の青年会や子ども会活動などで関わっている	43	3.4%
—	特に関わりがない	953	75.4%
—	無回答	45	3.6%
合 計		1,312	—
回答者数		1,264	103.8%

※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。



【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

いずれの属性においても「特に関わりがない」の割合が高くなっている。

年代別でみると、20代で「部活動のコーチや読み聞かせ、登下校の見守りなど学校支援を通して関わっている」の割合が比較的高くなっているが、30代以上では「あいさつや地域行事への参加の声掛け」の割合が高い。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性（n=合計） 上段（人）：下段（%）		あいさつや地域行事への 参加の声掛け	青少年団体へ寄付を するなど金銭的な支援を 関わっている	部活動のコーチや 読み聞かせ、登下校の 見守りなど学校支援を 通して関わっている	地域の青年会や子ども会 活動などで関わっている	特に 関わりがない	無 回 答
性別	男性（n= 546）	86 15.8	23 4.2	25 4.6	18 3.3	398 72.9	16 2.9
	女性（n= 711）	86 12.1	20 2.8	28 3.9	25 3.5	551 77.5	29 4.1
年代別	10代（n= 24）	5 20.8	0 0	0 0	3 12.5	16 66.7	1 4.2
	20代（n= 108）	5 4.6	2 1.9	8 7.4	3 2.8	89 82.4	1 0.9
	30代（n= 183）	28 15.3	3 1.6	12 6.6	13 7.1	132 72.1	3 1.6
	40代（n= 231）	36 15.6	10 4.3	15 6.5	10 4.3	170 73.6	5 2.2
	50代（n= 199）	27 13.6	11 5.5	4 2.0	4 2.0	157 78.9	3 1.5
	60代（n= 231）	27 11.7	6 2.6	4 1.7	6 2.6	188 81.4	8 3.5
	70代以上（n= 285）	45 15.8	12 4.2	10 3.5	4 1.4	200 70.2	23 8.1
地区別	本庁（n= 448）	63 14.1	14 3.1	21 4.7	16 3.6	337 75.2	20 4.5
	真和志（n= 322）	40 12.4	11 3.4	16 5.0	14 4.3	241 74.8	13 4.0
	小禄（n= 218）	36 16.5	8 3.7	8 3.7	4 1.8	162 74.3	4 1.8
	首里（n= 243）	29 11.9	9 3.7	7 2.9	8 3.3	191 78.6	5 2.1
居住年数別	1年未満（n= 4）	2 50.0	0 0	0 0	1 25.0	1 25.0	0 0
	1～2年（n= 8）	0 0	0 0	0 0	1 12.5	7 87.5	0 0
	3～5年（n= 28）	4 14.3	1 3.6	2 7.1	1 3.6	22 78.6	0 0
	6～10年（n= 49）	12 24.5	1 2.0	5 10.2	3 6.1	30 61.2	1 2.0
	11～20年（n= 116）	25 21.6	2 1.7	8 6.9	4 3.4	80 69.0	3 2.6
	21年以上（n= 1,056）	130 12.3	40 3.8	38 3.6	33 3.1	811 76.8	41 3.9

(17) 消防行政について

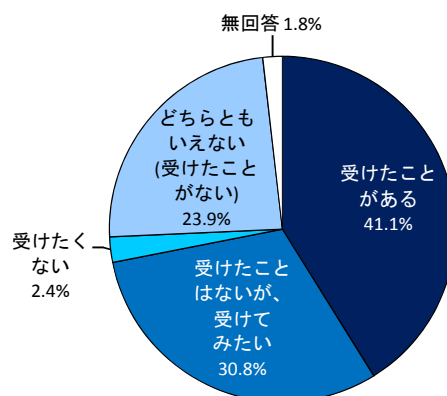
質問 38. あなたは、応急手当（心肺蘇生法及び AED の取扱い）の講習を受けたことがありますか。

1. 受けたことがある
2. 受けたことはないが、受けてみたい
3. 受けたくない
4. どちらともいえない（受けたことがない）

応急手当の講習を「受けたことがある」割合は、41.1%。

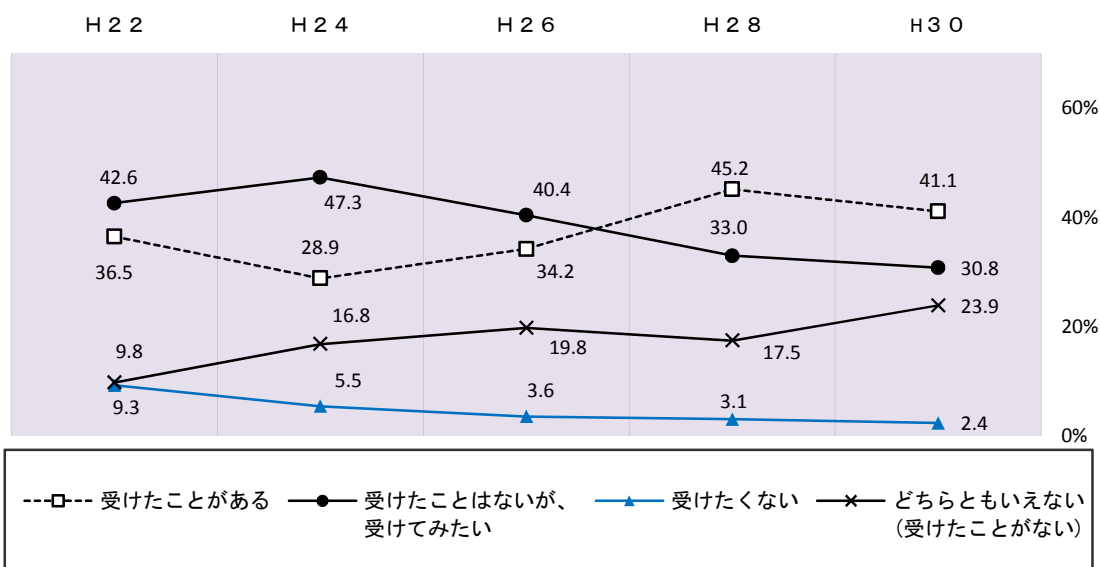
応急手当の講習を受けたことがあるかについては、「受けたことがある」が 41.1%で最も多く、次いで「受けたことはないが受けてみたい」が 30.8%、「どちらともいえない（受けたことがない）」が 23.9%の順となっている。

選択項目	回答数	%
受けたことがある	520	41.1%
受けたことはないが、受けてみたい	389	30.8%
受けたくない	30	2.4%
どちらともいえない（受けたことがない）	302	23.9%
無回答	23	1.8%
合 計	1,264	100%



【経年変化（平成 22 年度～平成 30 年度）】

前回調査と比較すると、「受けたことがある」の割合は 4.1 ポイント減少、「受けたことはないが、受けてみたい」の割合も 2.2 ポイント減少している。「どちらともいえない（受けたことがない）」の割合が 6.4 ポイント増加していることから、講習会の開催について周知を図る必要がある。

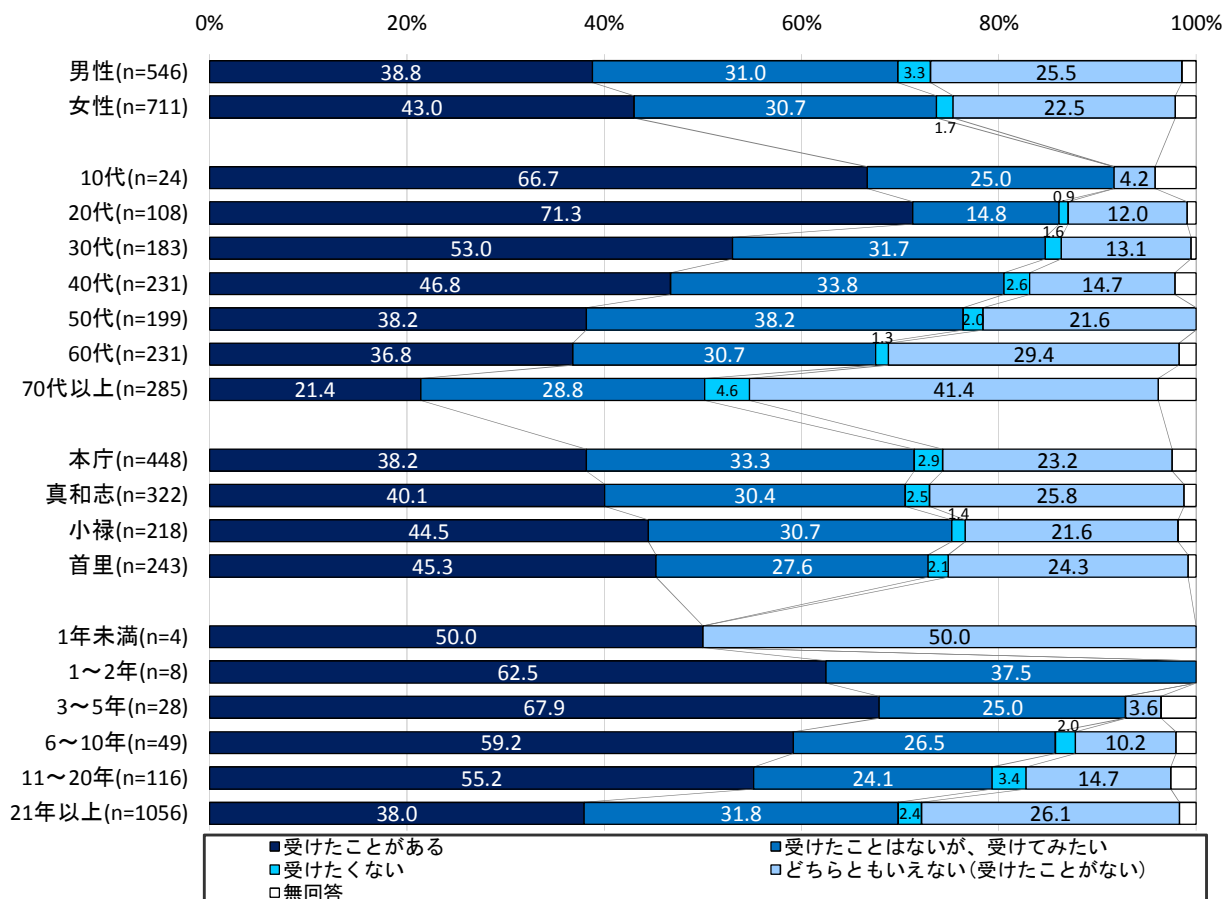


【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、女性は男性に比べ、「受けたことがある」の割合が高くなっている。

年代別でみると、10代では6割以上、20代では7割以上の市民が「受けたことがある」と回答しており、近年取り組んでいる学校などにおける応急手当の出前講座の成果が表れている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	受けたことがある	受けたことはないが、受けてみたい	受けたくない	どちらともいえない(受けたことがない)	無回答
男性 (n= 546)		212	169	18	139	8
女性 (n= 711)		306	218	12	160	15
10代 (n= 24)		16	6	0	1	1
20代 (n= 108)		77	16	1	13	1
30代 (n= 183)		97	58	3	24	1
40代 (n= 231)		108	78	6	34	5
50代 (n= 199)		76	76	4	43	0
60代 (n= 231)		85	71	3	68	4
70代以上 (n= 285)		61	82	13	118	11
本庁 (n= 448)		171	149	13	104	11
真和志 (n= 322)		129	98	8	83	4
小禄 (n= 218)		97	67	3	47	4
首里 (n= 243)		110	67	5	59	2
1年未満 (n= 4)		2	0	0	2	0
1～2年 (n= 8)		5	3	0	0	0
3～5年 (n= 28)		19	7	0	1	1
6～10年 (n= 49)		29	13	1	5	1
11～20年 (n= 116)		64	28	4	17	3
21年以上 (n= 1,056)		401	336	25	276	18



(18) 防災対策について

質問 39. あなたが実施している防災対策は何ですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

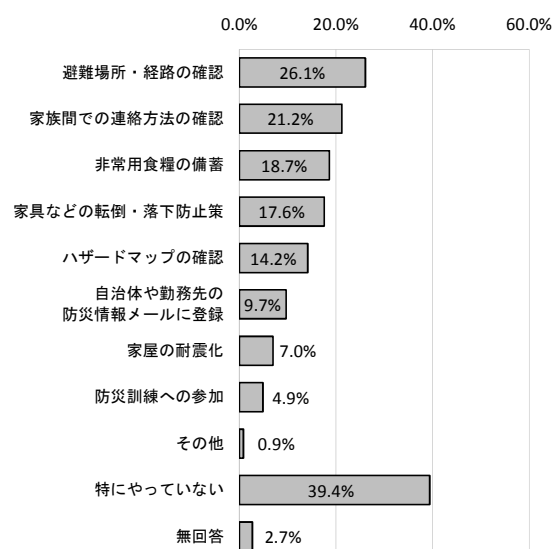
- | | |
|---------------------------------|-----------------------|
| 1. 非常用食糧の備蓄 | 2. 家具などの転倒・落下防止策 |
| 3. 避難場所・経路の確認 | 4. ハザードマップの確認 |
| 5. 家族間での連絡方法の確認 | 6. 防災訓練への参加 |
| 7. 家屋の耐震化 | 8. 自治体や勤務先の防災情報メールに登録 |
| 9. その他 () | 10. 特にやっていない |

市民が実施している防災対策について、「特にやっていない」は 39.4%。

市民が実施している防災対策については、「避難場所・経路の確認」が 26.1%で最も高く、次いで「家族間での連絡方法の確認」が 21.2%、「非常用食糧の備蓄」が 18.7%の順となっている。

また、「特にやっていない」と回答した市民は 39.4%で、4 割弱を占めていることから、防災対策に関する情報提供や意識啓発をさらに行っていく必要がある。

選択項目		回答数	%
1 位	避難場所・経路の確認	330	26.1%
2 位	家族間での連絡方法の確認	268	21.2%
3 位	非常用食糧の備蓄	236	18.7%
4 位	家具などの転倒・落下防止策	222	17.6%
5 位	ハザードマップの確認	179	14.2%
6 位	自治体や勤務先の 防災情報メールに登録	122	9.7%
7 位	家屋の耐震化	88	7.0%
8 位	防災訓練への参加	62	4.9%
—	その他	11	0.9%
—	特にやっていない	498	39.4%
—	無回答	34	2.7%
合 計		2,050	—
回答者数		1,264	162.2%



※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

ほぼすべての属性で「特にやっていない」の割合が最も高くなっていることから、防災に対する市民意識の啓発に力を入れる必要がある。

性別でみると、男性は「家具などの転倒・落下防止策」、女性は「家族間での連絡方法の確認」の割合が比較的高い。

居住年数別でみると、1 年未満～10 年では「家族間での連絡方法の確認」の割合が、11 年以上では「避難場所・経路の確認」が比較的高い。

※■は第 1 位、■は第 2 位、■は第 3 位の項目

選択項目 回答者属性（n=合計） 上段（人）：下段（%）		非常用食糧の備蓄	家具などの転倒・落下防止策	避難場所・経路の確認	ハザードマップの確認	連絡方法の確認	防災訓練への参加	家屋の耐震化	防災自治体や勤務に先登の録	その他	特にやっていない	無回答
性別	男性（n= 546）	98 17.9	101 18.5	144 26.4	86 15.8	98 17.9	27 4.9	43 7.9	52 9.5	8 1.5	219 40.1	15 2.7
	女性（n= 711）	137 19.3	120 16.9	184 25.9	91 12.8	168 23.6	35 4.9	43 6.0	70 9.8	3 0.4	279 39.2	18 2.5
年代別	10代（n= 24）	2 8.3	4 16.7	7 29.2	5 20.8	4 16.7	3 12.5	1 4.2	2 8.3	0	9 37.5	1 4.2
	20代（n= 108）	19 17.6	11 10.2	24 22.2	7 6.5	18 16.7	4 3.7	3 2.8	11 10.2	0	52 48.1	1 0.9
	30代（n= 183）	42 23.0	24 13.1	50 27.3	34 18.6	50 27.3	12 6.6	8 4.4	31 16.9	2 1.1	64 35.0	2 1.1
	40代（n= 231）	51 22.1	41 17.7	71 30.7	43 18.6	60 26.0	8 3.5	15 6.5	37 16.0	1 0.4	76 32.9	5 2.2
	50代（n= 199）	29 14.6	34 17.1	51 25.6	23 11.6	38 19.1	9 4.5	14 7.0	23 11.6	3 1.5	92 46.2	0
	60代（n= 231）	36 15.6	49 21.2	67 29.0	32 13.9	53 22.9	16 6.9	21 9.1	9 3.9	3 1.3	87 37.7	5 2.2
	70代以上（n= 285）	56 19.6	58 20.4	59 20.7	34 11.9	44 15.4	10 3.5	26 9.1	9 3.2	2 0.7	118 41.4	20 7.0
地区別	本庁（n= 448）	93 20.8	86 19.2	128 28.6	63 14.1	85 19.0	19 4.2	32 7.1	46 10.3	4 0.9	170 37.9	16 3.6
	真和志（n= 322）	47 14.6	49 15.2	76 23.6	47 14.6	72 22.4	17 5.3	18 5.6	30 9.3	2 0.6	138 42.9	8 2.5
	小椋（n= 218）	40 18.3	34 15.6	57 26.1	29 13.3	48 22.0	14 6.4	17 7.8	21 9.6	3 1.4	83 38.1	5 2.3
	首里（n= 243）	51 21.0	48 19.8	61 25.1	34 14.0	60 24.7	11 4.5	19 7.8	22 9.1	2 0.8	93 38.3	3 1.2
居住年数別	1年未満（n= 4）	0 0	1 25.0	1 25.0	0 0	3 75.0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 25.0	0 0
	1～2年（n= 8）	1 12.5	2 25.0	2 25.0	1 12.5	2 25.0	1 12.5	0 0	0 0	0 0	3 37.5	0 0
	3～5年（n= 28）	8 28.6	3 10.7	7 25.0	7 25.0	9 32.1	3 10.7	1 3.6	1 3.6	2 7.1	10 35.7	0 0
	6～10年（n= 49）	11 22.4	10 20.4	8 16.3	5 10.2	12 24.5	1 2.0	3 6.1	12 24.5	0 0	17 34.7	1 2.0
	11～20年（n= 116）	24 20.7	15 12.9	36 31.0	23 19.8	24 20.7	9 7.8	8 6.9	16 13.8	1 0.9	39 33.6	5 4.3
	21年以上（n= 1,056）	191 18.1	190 18.0	274 25.9	142 13.4	217 20.5	48 4.5	76 7.2	93 8.8	8 0.8	428 40.5	28 2.7

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 40. あなたが市に特に力を入れてほしい災害対策は何ですか。次の中から3つまでお選びください。

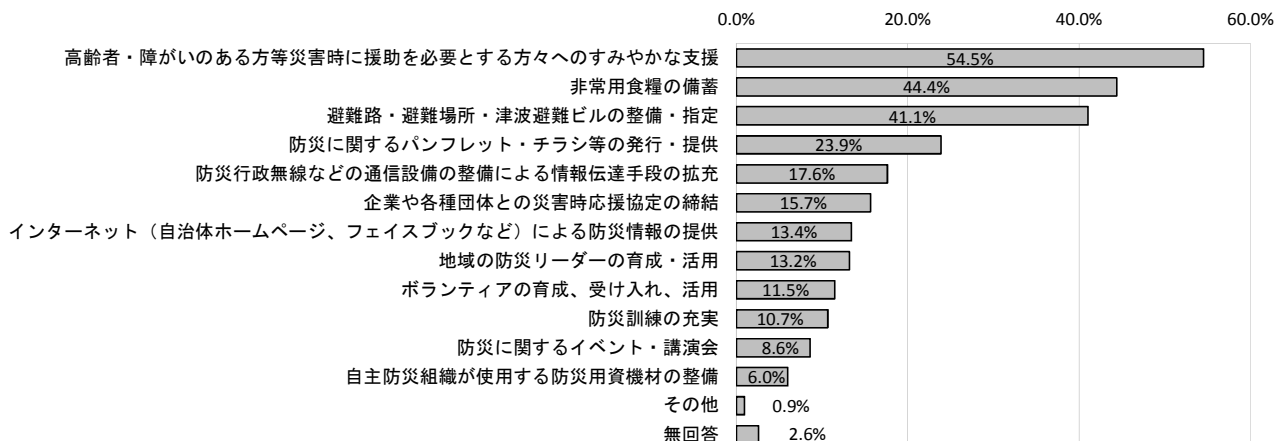
1. 非常用食糧の備蓄
2. 高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援
3. 防災に関するパンフレット・チラシ等の発行・提供
4. 避難路・避難場所・津波避難ビルの整備・指定
5. 地域の防災リーダーの育成・活用
6. 防災訓練の充実
7. 防災に関するイベント・講演会
8. インターネット（自治体ホームページ、フェイスブックなど）による防災情報の提供
9. 防災行政無線などの通信設備の整備による情報伝達手段の拡充
10. ボランティアの育成、受け入れ、活用
11. 自主防災組織が使用する防災用資機材の整備
12. 企業や各種団体との災害時応援協定の締結
13. その他（ ）

市民が特に力を入れてほしい災害対策は「高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援」である。

那覇市に特に力を入れてほしい災害対策については、「高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援」が 54.5%で最も高く、次いで「非常用食糧の備蓄」が 44.4%、「避難路・避難場所・津波避難ビルの整備・指定」が 41.1%の順となっている。

選択項目	回答数	%
1位 高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援	689	54.5%
2位 非常用食糧の備蓄	561	44.4%
3位 避難路・避難場所・津波避難ビルの整備・指定	519	41.1%
4位 防災に関するパンフレット・チラシ等の発行・提供	302	23.9%
5位 防災行政無線などの通信設備の整備による情報伝達手段の拡充	223	17.6%
6位 企業や各種団体との災害時応援協定の締結	198	15.7%
7位 インターネット（自治体ホームページ、フェイスブックなど）による防災情報の提供	170	13.4%
8位 地域の防災リーダーの育成・活用	167	13.2%
9位 ボランティアの育成、受け入れ、活用	145	11.5%
10位 防災訓練の充実	135	10.7%
11位 防災に関するイベント・講演会	109	8.6%
12位 自主防災組織が使用する防災用資機材の整備	76	6.0%
— その他	12	0.9%
— 無回答	33	2.6%
合 計	3,339	—
回答者数	1,264	264.2%

※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。



【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

年代別でみると、20代以降、年代が上がるにつれて、「高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援」の割合が高くなっていることから、災害発生時における高齢者や障がいのある方への支援について、市民の関心が高まっていることがわかる。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目		回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)													
		非常用食糧の備蓄	高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援	防災に関するパンフレット・チラシ等の発行・提供	津波避難ビル・避難場所・避難路・避難場所・指定	地域の防災リーダーの育成・活用	防災訓練の充実	防災に関するイベント・講演会	ホームページ、フェイスブックなど）による防災情報の提供	インターネット（自治体ホームページ、フェイスブックなど）による防災情報の提供	防災行政無線などの通信設備の整備による情報伝達手段の拡充	ボランティアの育成、受け入れ、活用	自主防災組織が使用する防災用資機材の整備	企業や各種団体との災害時応援協定の締結	その他
性別	男性 (n= 546)	236 43.2	285 52.2	142 26.0	221 40.5	75 13.7	60 11.0	47 8.6	73 13.4	96 17.6	79 14.5	37 6.8	83 15.2	5 0.9	11 2.0
	女性 (n= 711)	323 45.4	403 56.7	160 22.5	296 41.6	90 12.7	74 10.4	62 8.7	97 13.6	125 17.6	65 9.1	39 5.5	115 16.2	7 1.0	20 2.8
年代別	10代 (n= 24)	13 54.2	12 50.0	5 20.8	9 37.5	3 12.5	2 8.3	1 4.2	7 29.2	5 20.8	1 4.2	1 4.2	3 12.5	0 0	1 4.2
	20代 (n= 108)	43 39.8	50 46.3	21 19.4	53 49.1	12 11.1	10 9.3	9 8.3	31 28.7	21 19.4	11 10.2	12 11.1	12 11.1	1 0.9	1 0.9
	30代 (n= 183)	82 44.8	90 49.2	46 25.1	68 37.2	19 10.4	20 10.9	21 11.5	38 20.8	26 14.2	22 12.0	14 7.7	32 17.5	3 1.6	3 1.6
	40代 (n= 231)	103 44.6	126 54.5	52 22.5	81 35.1	33 14.3	34 14.7	15 6.5	32 13.9	46 19.9	27 11.7	15 6.5	57 24.7	2 0.9	5 2.2
	50代 (n= 199)	83 41.7	103 51.8	46 23.1	88 44.2	23 11.6	17 8.5	21 10.6	31 15.6	42 21.1	25 12.6	9 4.5	34 17.1	4 2.0	1 0.5
	60代 (n= 231)	111 48.1	136 58.9	60 26.0	102 44.2	31 13.4	23 10.0	21 9.1	18 7.8	41 17.7	21 9.1	9 3.9	33 14.3	1 0.4	5 2.2
	70代以上 (n= 285)	125 43.9	171 60.0	72 25.3	117 41.1	43 15.1	29 10.2	21 7.4	13 4.6	41 14.4	36 12.6	16 5.6	27 9.5	1 0.4	17 6.0
地区別	本庁 (n= 448)	203 45.3	247 55.1	110 24.6	186 41.5	50 11.2	43 9.6	43 9.6	59 13.2	80 17.9	45 10.0	24 5.4	76 17.0	7 1.6	13 2.9
	真和志 (n= 322)	137 42.5	181 56.2	87 27.0	138 42.9	44 13.7	31 9.6	27 8.4	38 11.8	55 17.1	45 14.0	13 4.0	51 15.8	2 0.6	6 1.9
	小祿 (n= 218)	99 45.4	113 51.8	52 23.9	84 38.5	33 15.1	22 10.1	18 8.3	36 16.5	38 17.4	21 9.6	18 8.3	32 14.7	2 0.9	4 1.8
	首里 (n= 243)	110 45.3	132 54.3	45 18.5	97 39.9	36 14.8	33 13.6	19 7.8	31 12.8	45 18.5	29 11.9	19 7.8	37 15.2	1 0.4	7 2.9
居住年数別	1年未満 (n= 4)	0 0	3 75.0	0 0	2 50.0	2 50.0	0 0	1 25.0	2 50.0	0 0	2 50.0	0 0	0 0	0 0	0 0
	1～2年 (n= 8)	3 37.5	5 62.5	2 25.0	4 50.0	0 0	0 0	1 12.5	2 25.0	2 25.0	1 12.5	1 12.5	2 25.0	0 0	0 0
	3～5年 (n= 28)	15 53.6	10 35.7	7 25.0	11 39.3	1 3.6	5 17.9	5 17.9	5 17.9	3 10.7	5 17.9	2 7.1	3 10.7	1 3.6	0 0
	6～10年 (n= 49)	24 49.0	23 46.9	11 22.4	23 46.9	9 18.4	5 10.2	3 6.1	8 16.3	5 10.2	4 8.2	4 8.2	7 14.3	2 4.1	2 4.1
	11～20年 (n= 116)	41 35.3	59 50.9	23 19.8	43 37.1	13 11.2	11 9.5	7 6.0	28 24.1	18 15.5	14 12.1	7 6.0	26 22.4	1 0.9	3 2.6
	21年以上 (n= 1,056)	477 45.2	589 55.8	258 24.4	434 41.1	140 13.3	114 10.8	91 8.6	125 11.8	194 18.4	118 11.2	62 5.9	160 15.2	8 0.8	28 2.7

【選択肢「その他」の主な内容】

・ペットの避難場所（3人）

女性-50代-真和志地区・他

(19) 環境について

質問 41. 資源循環型社会の形成促進のため、本市では、次に掲げるものを資源化物としてリサイクルしています。今後も資源化物としての取り扱いを続けてほしいものをすべてお選びください。

- | | | |
|----------|-----------|-----------------|
| 1. 紙類 | 2. 布類 | 3. 缶類（アルミ・スチール） |
| 4. ガラスビン | 5. ペットボトル | 6. 草木 |

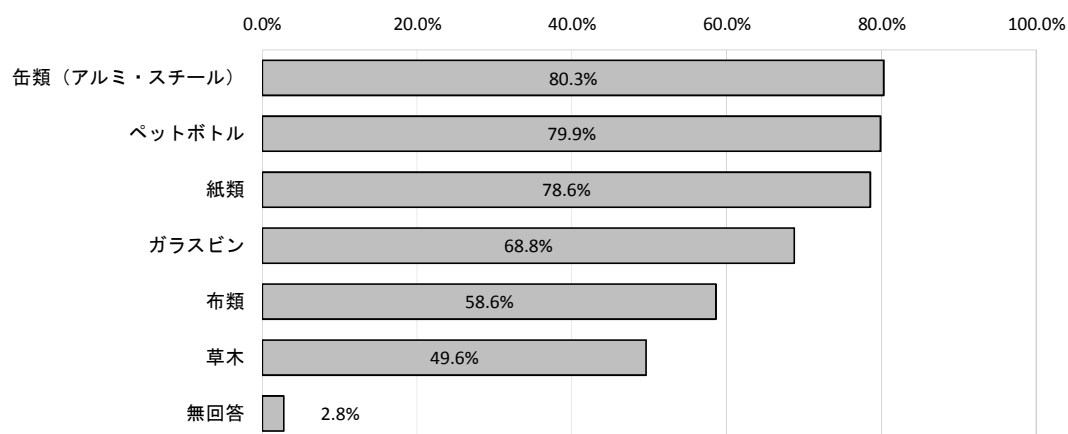
資源化物としての取り扱いを続けてほしいものは「缶類（アルミ・スチール）」、「ペットボトル」「紙類」の順に高い。

資源循環型社会の形成促進のために、資源化物として取り扱いを続けてほしいものについては、「缶類（アルミ・スチール）」が 80.3%と最も高く、次いで「ペットボトル」が 79.9%、「紙類」が 78.6%の順となっている。

草木を除き、資源化物としての取り扱いを 5 割以上の方が続けてほしいと希望している。

選択項目		回答数	%
1 位	缶類（アルミ・スチール）	1,015	80.3%
2 位	ペットボトル	1,010	79.9%
3 位	紙類	993	78.6%
4 位	ガラスビン	869	68.8%
5 位	布類	741	58.6%
6 位	草木	627	49.6%
—	無回答	35	2.8%
合 計		5,290	—
回答者数		1,264	418.5%

※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。



【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

年代別でみると、10～20代、70代以上で「紙類」、30代で「ペットボトル」の割合が最も高くなっているが、あまり違いは見られない。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

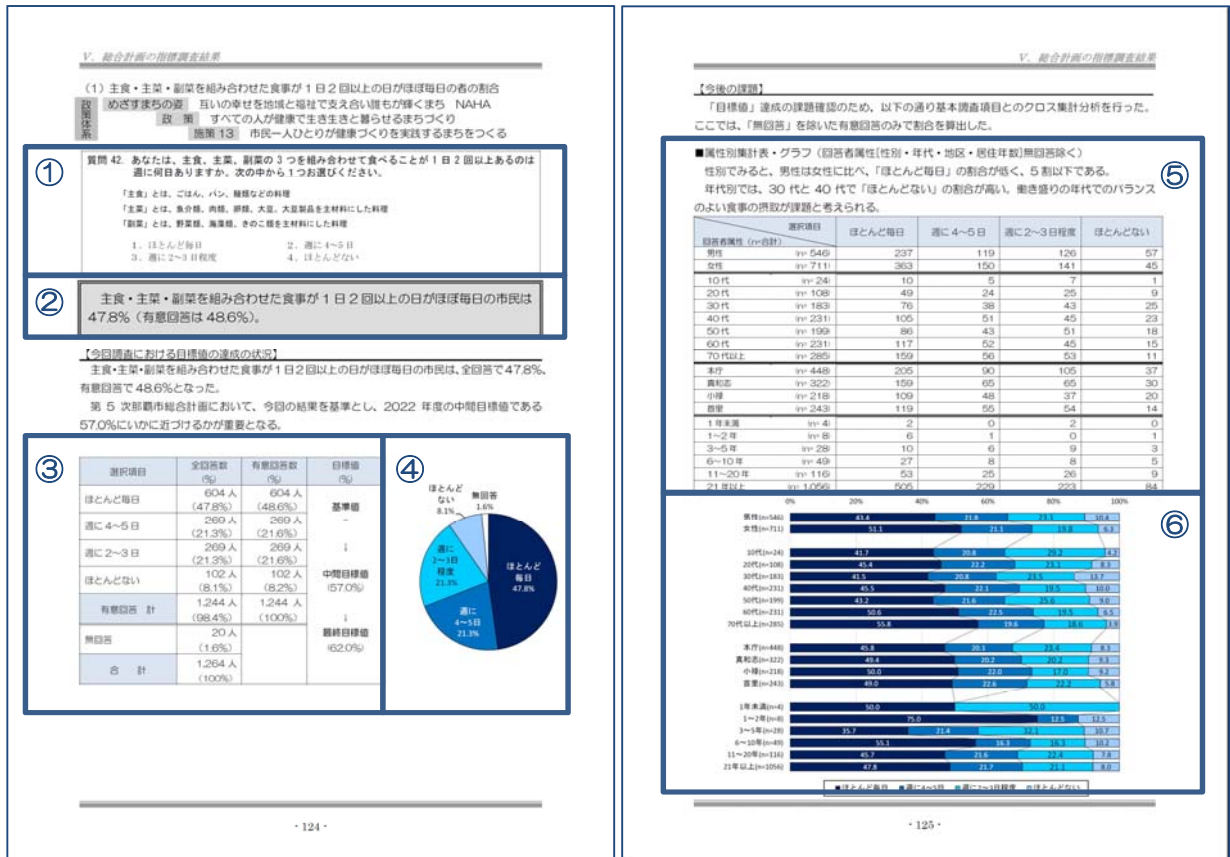
選択項目 回答者属性（n=合計） 上段（人）：下段（％）		紙類	布類	缶類 （アルミ・ スチール）	ガラスビン	ペット ボトル	草木	無回答
性別	男性（n= 546）	419 76.7	305 55.9	440 80.6	377 69.0	430 78.8	259 47.4	13 2.4
	女性（n= 711）	569 80.0	433 60.9	570 80.2	488 68.6	576 81.0	365 51.3	22 3.1
年代別	10代（n= 24）	20 83.3	11 45.8	19 79.2	12 50.0	17 70.8	13 54.2	2 8.3
	20代（n= 108）	91 84.3	52 48.1	74 68.5	59 54.6	85 78.7	44 40.7	1 0.9
	30代（n= 183）	133 72.7	109 59.6	142 77.6	130 71.0	149 81.4	89 48.6	5 2.7
	40代（n= 231）	175 75.8	129 55.8	188 81.4	165 71.4	180 77.9	111 48.1	8 3.5
	50代（n= 199）	153 76.9	120 60.3	170 85.4	149 74.9	170 85.4	106 53.3	1 0.5
	60代（n= 231）	189 81.8	138 59.7	191 82.7	160 69.3	188 81.4	112 48.5	4 1.7
	70代以上（n= 285）	231 81.1	182 63.9	230 80.7	194 68.1	219 76.8	151 53.0	14 4.9
地区別	本庁（n= 448）	355 79.2	277 61.8	359 80.1	317 70.8	359 80.1	218 48.7	12 2.7
	真和志（n= 322）	250 77.6	185 57.5	249 77.3	222 68.9	254 78.9	159 49.4	11 3.4
	小祿（n= 218）	168 77.1	110 50.5	171 78.4	139 63.8	177 81.2	101 46.3	4 1.8
	首里（n= 243）	202 83.1	155 63.8	215 88.5	175 72.0	199 81.9	140 57.6	6 2.5
居住年数別	1年未満（n= 4）	3 75.0	1 25.0	2 50.0	2 50.0	3 75.0	2 50.0	0 0
	1～2年（n= 8）	5 62.5	3 37.5	5 62.5	5 62.5	7 87.5	2 25.0	0 0
	3～5年（n= 28）	20 71.4	14 50.0	20 71.4	18 64.3	26 92.9	13 46.4	2 7.1
	6～10年（n= 49）	37 75.5	33 67.3	40 81.6	38 77.6	40 81.6	25 51.0	2 4.1
	11～20年（n= 116）	91 78.4	63 54.3	90 77.6	70 60.3	84 72.4	53 45.7	5 4.3
	21年以上（n= 1,056）	836 79.2	627 59.4	856 81.1	735 69.6	848 80.3	531 50.3	26 2.5

V. 総合計画の指標調査結果

V. 総合計画の指標調査結果

第5次那覇市総合計画で設定された指標についての調査結果は、以下のとおりである。なお、指標目標数値は、「わからない」や「無回答」の影響を考慮して設定されていないので、ここでは、その影響を受ける場合（以下「全回答」という）と、その影響を除いた場合（以下、「有意回答」という）について分けて検証を行っている。

報告書の見方について



- ① 今回調査に使用したアンケート用紙の質問を掲載
- ② ①の質問に関し、③～⑤の表・グラフから分析した目標値の達成状況を掲載
- ③ ①の質問に関し、回答数の集計及び基準値・中間目標値・最終目標値を掲載
- ④ ①の質問に関する、回答数の集計グラフを掲載
- ⑤ ①の質問に関する回答を、属性（性別、年代、居住地区、居住年数）別に集計し掲載
- ⑥ ⑤において集計した結果を棒グラフにて掲載

(1) 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者の割合

政策
体系

めざすまちの姿

互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA

政策

すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり

施策 13

市民一人ひとりが健康づくりを実践するまちをつくる

質問 42. あなたは、主食、主菜、副菜の3つを組み合わせて食べることが1日2回以上あるのは週に何日ありますか。次の中から1つお選びください。

「主食」とは、ごはん、パン、麺類などの料理

「主菜」とは、魚介類、肉類、卵類、大豆。大豆製品を主材料にした料理

「副菜」とは、野菜類、海藻類、きのこ類を主材料にした料理

1. ほとんど毎日
2. 週に4～5日
3. 週に2～3日程度
4. ほとんどない

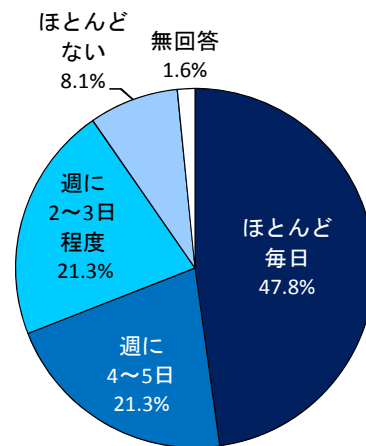
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の市民は47.8%（有意回答は48.6%）。

【今回調査における目標値の達成の状況】

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の市民は、全回答で47.8%、有意回答で48.6%となった。

第5次那覇市総合計画において、設定された2022年度の間目標値である57.0%にいかに近づけるかが重要となる。

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	目標値 (%)
ほとんど毎日	604人 (47.8%)	604人 (48.6%)	基準値 -
週に4～5日	269人 (21.3%)	269人 (21.6%)	
週に2～3日	269人 (21.3%)	269人 (21.6%)	
ほとんどない	102人 (8.1%)	102人 (8.2%)	中間目標値 (57.0%)
有意回答 計	1,244人 (98.4%)	1,244人 (100%)	最終目標値 (62.0%)
無回答	20人 (1.6%)		
合 計	1,264人 (100%)		



【今後の課題】

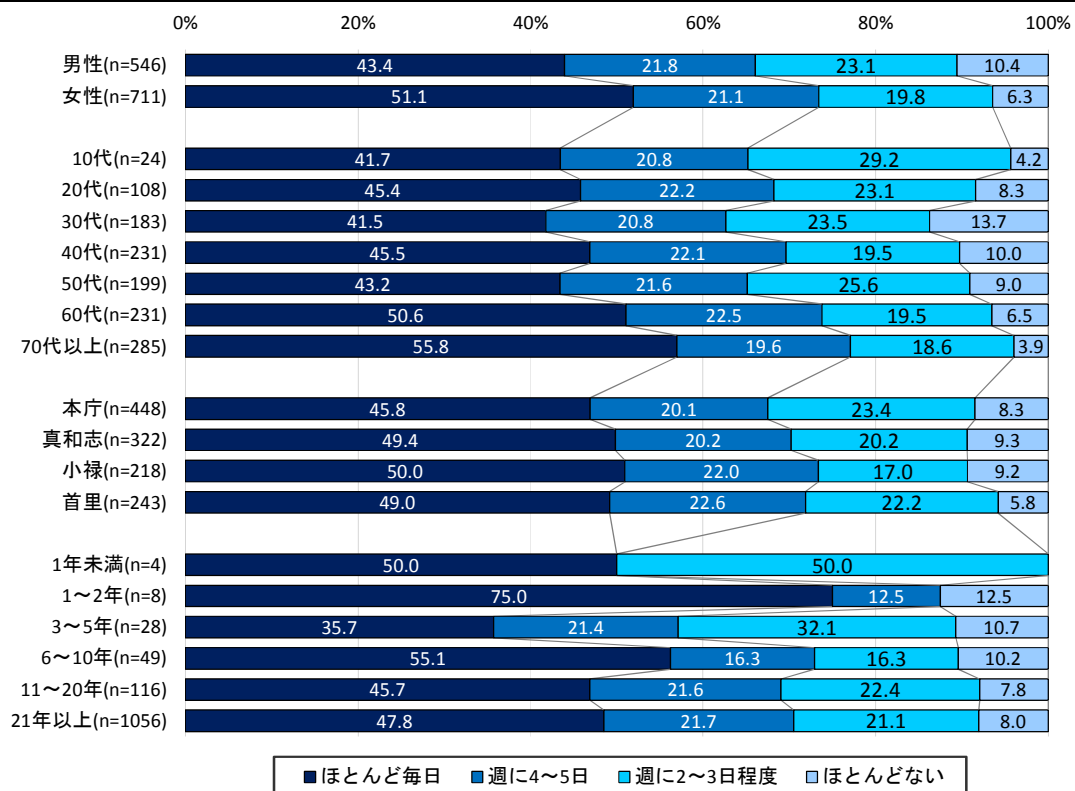
「目標値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。
ここでは、「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く）

性別でみると、男性は女性に比べ、「ほとんど毎日」の割合が低く、5割以下である。

年代別では、30代と40代で「ほとんどない」の割合が高い。働き盛りの年代でのバランスのよい食事の摂取が課題と考えられる。

選択項目 回答者属性 (n=合計)	ほとんど毎日	週に4～5日	週に2～3日程度	ほとんどない
男性 (n= 546)	237	119	126	57
女性 (n= 711)	363	150	141	45
10代 (n= 24)	10	5	7	1
20代 (n= 108)	49	24	25	9
30代 (n= 183)	76	38	43	25
40代 (n= 231)	105	51	45	23
50代 (n= 199)	86	43	51	18
60代 (n= 231)	117	52	45	15
70代以上 (n= 285)	159	56	53	11
本庁 (n= 448)	205	90	105	37
真和志 (n= 322)	159	65	65	30
小禄 (n= 218)	109	48	37	20
首里 (n= 243)	119	55	54	14
1年未満 (n= 4)	2	0	2	0
1～2年 (n= 8)	6	1	0	1
3～5年 (n= 28)	10	6	9	3
6～10年 (n= 49)	27	8	8	5
11～20年 (n= 116)	53	25	26	9
21年以上 (n= 1,056)	505	229	223	84



(2) 地球温暖化を防ぐための実践項目数

政策
体系

めざすまちの姿

自然環境と都市機能が調和した住みつづけたいまち NAHA

政策

省エネを実践し、資源が循環するまちづくり

施策 41

省エネを実践するライフスタイルへの転換を促進するまちをつくる

質問 43. 地球環境保護のため、あなたが実践していることを次の中からお選びください。

この質問では、あてはまるものをすべてお選びください。

1. 電気の節約
2. 水の節約
3. マイバッグ、マイはし、マイボトルの使用
4. ごみの減量
5. 紙・布・缶・ビン・ペットボトル・草木の分別
6. 生ごみの堆肥化
7. エコドライブの実践
8. 公共交通の利用
9. ノーマイカーデーの実践
10. 地産地消の実践
11. 環境にやさしい商品の選択
12. 屋上・壁面等緑化、緑のカーテンの実践
13. 太陽光発電の利用
14. 太陽熱温水器の利用
15. ハイブリッド車・電気自動車等の利用
16. 省エネ家電・製品の利用
17. エコキュートやエネファームの利用

市民が実践しているエコ活動の項目数は、平均 4.11 個で、2016 年の基準値を下回っている。

【今回調査における目標値の達成状況】

当該調査では、選択個数の総和を、1 個も回答しなかった 44 人（実施個数 0 とみなす）を含めた 1,264 人で割り、一人当たりの実践個数を算出した。

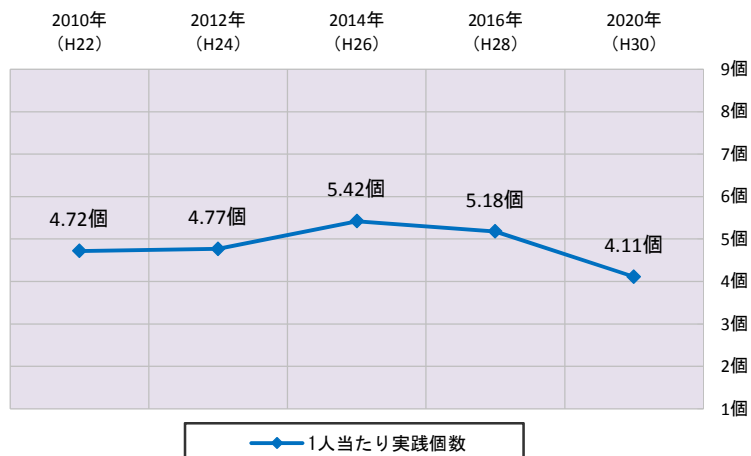
前回調査よりも 1.07 個減少しており、2016 年の基準値の 5 個を下回る結果となった。

平成 26 年度調査以降、減少傾向にあるため、2022 年度の中間目標値に向けて改善が必要である。

1 人当たりの実践項目数(平均) =

実践項目の選択総数 5,201 個 ÷ 回答者数 1,264 ÷ 4.11（前回 5.18）

実践項目の 選択個数	回答者数	1 人当たり 実践項目数	前回の 1 人当たり 実施個数 (前回調査比)	基準値
5,201 個	1,264 人	4.11 個	5.18 個 (-1.07 個)	基準値 5 個 (2016 年) 中間目標値 8 個 (2022 年)



【今後の課題】

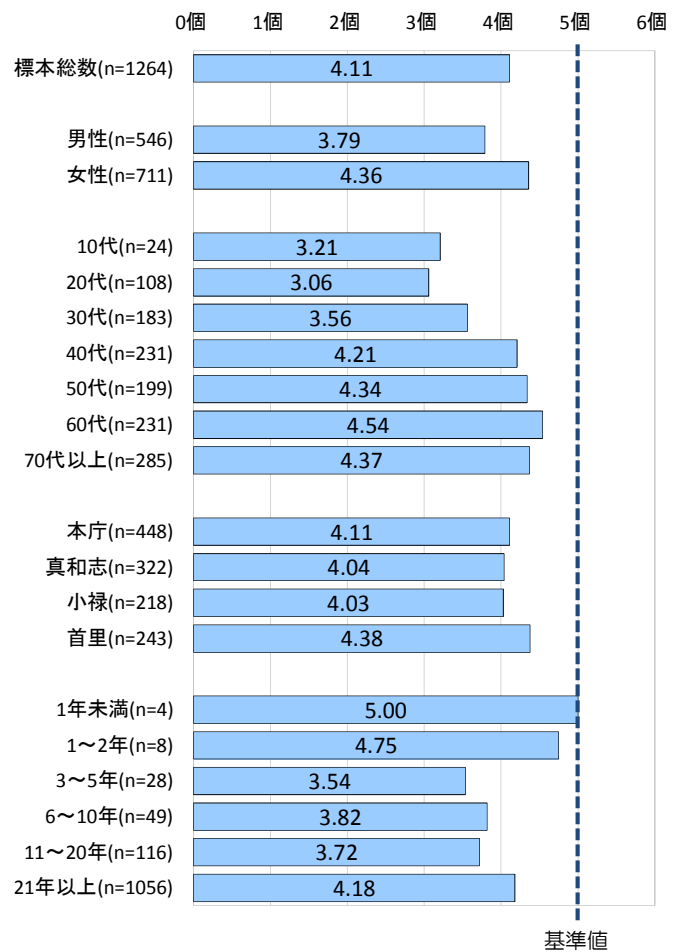
「目標値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。
ここでは、標本総数の平均実践個数 4.11 個と、属性別の平均実践個数との比較を行った。

■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く）

性別でみると、女性は男性に比べ、0.57 個多くなっている。

年代別でみると、20 代の 1 人当たりの実践個数が最も少なく、年代が上がるにつれて実践個数が増加する傾向がある。10 代～30 代の若い世代で実践個数が少ないことから、若い年代層にむけた省エネやエコ活動に関する意識啓発などが重要と考えられる。

選択項目	実践個数 (個)	実践個数 /人 (個)
標本総数 (n= 1,264)	5,201	4.11
男性 (n= 546)	2,072	3.79
女性 (n= 711)	3,101	4.36
10 代 (n= 24)	77	3.21
20 代 (n= 108)	330	3.06
30 代 (n= 183)	652	3.56
40 代 (n= 231)	973	4.21
50 代 (n= 199)	864	4.34
60 代 (n= 231)	1,049	4.54
70 代以上 (n= 285)	1,246	4.37
本庁 (n= 448)	1,843	4.11
真和志 (n= 322)	1,300	4.04
小禄 (n= 218)	878	4.03
首里 (n= 243)	1,065	4.38
1 年未満 (n= 4)	20	5.00
1～2 年 (n= 8)	38	4.75
3～5 年 (n= 28)	99	3.54
6～10 年 (n= 49)	187	3.82
11～20 年 (n= 116)	431	3.72
21 年以上 (n= 1,056)	4,413	4.18



■実践項目の順位（回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く）

ここでは、実践項目の多い順からグラフの掲載を行い、経年変化をみるために、前回調査の割合と共に掲載を行った。

前回の調査と比較すると、順位に大きな変動はないものの、すべての項目で減少傾向が見られ、環境保護に対する意識低下が見受けられる。特に「ごみの減量」については、12.4ポイント減少していることから、ごみ減量に関するイベントの実施など市民や事業者の意識啓発を図る必要がある。

※「マイバック、マイはし、マイボトルの使用」は、前回調査で「マイバックの使用」と「その他（マイはし、マイボトル、裏紙使用他）」に分かれていたため、比較不可。「クールビズの実践」は今回調査からの追加項目。「エコキュートやエネファームの利用」は項目名変更のため、比較不可。



めざすまちの姿 次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA
政 策 郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり
施策 29 市民の文化芸術・芸能活動を支援するまちをつくる

文化活動を主体的に行う機会や、優れた文化や地域文化を観たり、ふれる機会が充実しているまちと思う市民は 32.0%（有意回答は 62.0%）。

第5次那覇市総合計画において、基準値である36.0%を有意回答では達成しているが、全回答ではわずかに及ばなかった。今後は「わからない」と回答した43.9%の市民の満足度を上げる施策を行っていくことが必要である。

Response	Percentage
まあ満足	29.4%
やや不満	14.3%
不満	5.3%
無回答	4.4%
わからない	43.9%

【今後の課題】

「目標値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。
ここでは、「わからない」と「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

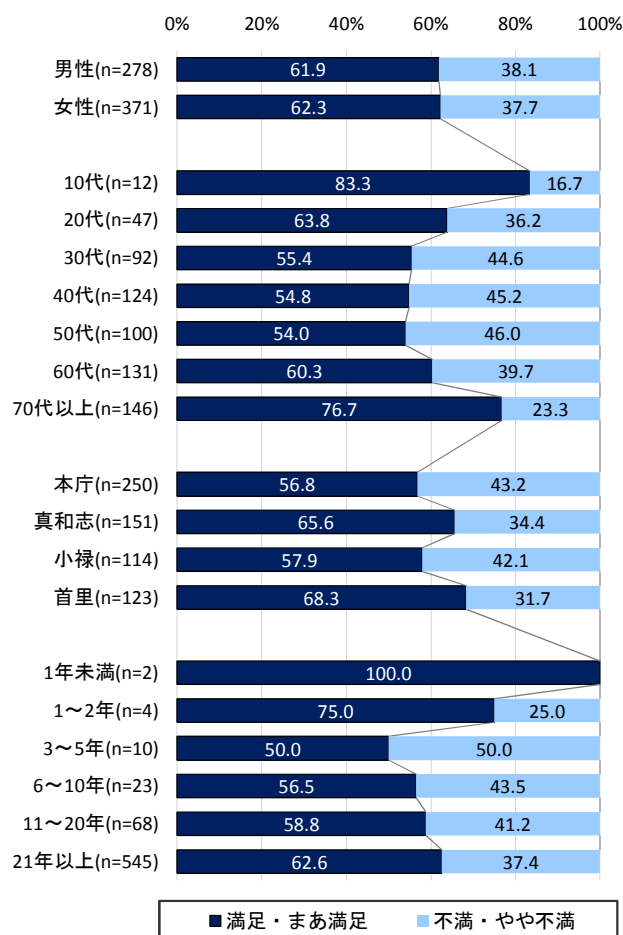
■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く）

性別でみると、あまり大きな違いは見られない。

年代別でみると、10代と70代以上で満足度が高くなっている。就労者の多い20代～60代は、文化活動を主体的に行ったり、観たり、ふれる機会が少ない状況が考えられるため、いかにその機会を増やすかを検討しなければならない。

居住地区別でみると、首里地区と真和志地区で満足度が高くなっているが、あまり大きな違いは見られない。

回答者属性 (n=合計)	選択項目	まあ満足	やや不満
男性 (n= 278)		172	106
女性 (n= 371)		231	140
10代 (n= 12)		10	2
20代 (n= 47)		30	17
30代 (n= 92)		51	41
40代 (n= 124)		68	56
50代 (n= 100)		54	46
60代 (n= 131)		79	52
70代以上 (n= 146)		112	34
本庁 (n= 250)		142	108
真和志 (n= 151)		99	52
小禄 (n= 114)		66	48
首里 (n= 123)		84	39
1年未満 (n= 2)		2	0
1～2年 (n= 4)		3	1
3～5年 (n= 10)		5	5
6～10年 (n= 23)		13	10
11～20年 (n= 68)		40	28
21年以上 (n= 545)		341	204



VI. その他

Ⅵ. その他

【その他】

質問 45. 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになりますか。あてはまる点数を、次の中から1つお選びください。

とても不幸 ← 0点 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10点 → とても幸せ

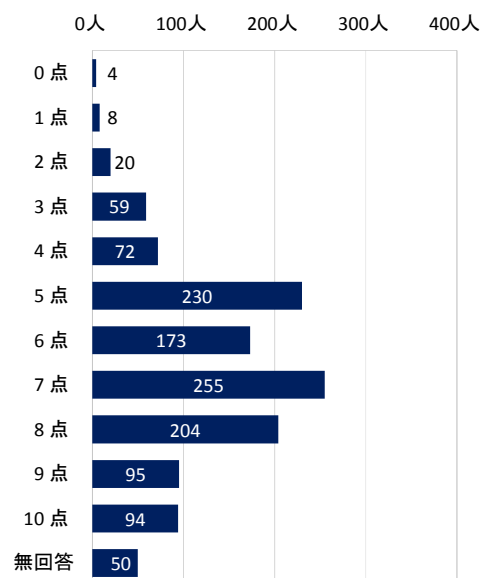
那覇市民の平均幸せ点数は、10点満点中 6.52 点。

当該質問による平均点は、次の式により算出した。

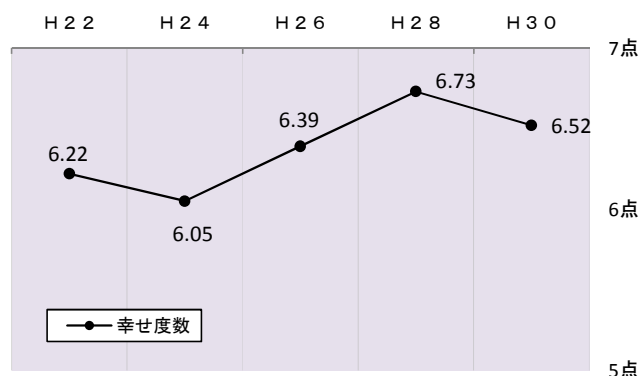
$$\text{平均点} = \frac{\text{各点数計の合計}}{\text{有効回答数の合計}} = \frac{7,913 \text{ (点)}}{1,214 \text{ (人)}} \div 6.52 \text{ 点}$$

那覇市民の平均幸せ点数は 6.52 点となった。今回の回答では「7 点」をつけた 255 人が最も多く、次いで「5 点」をつけた 230 人、「8 点」をつけた 204 人の順となっている。

選択項目	回答者数	各点数計	有効回答数	平均点
0 点	4 人	0 点	1,214 人	6.52 点
1 点	8 人	8 点		
2 点	20 人	40 点		
3 点	59 人	177 点		
4 点	72 人	288 点		
5 点	230 人	1,150 点		
6 点	173 人	1,038 点		
7 点	255 人	1,785 点		
8 点	204 人	1,632 点		
9 点	95 人	855 点		
10 点	94 人	940 点		
無回答	50 人	—		
計	1,264 人	7,913 点		



【経年変化（平成 22 年度～平成 30 年度）】



前回調査と比較すると、幸せ点数は、0.21 ポイント減少したが、過去 4 回の調査と比較すると、2 番目に高い数字となっており、依然高い水準を維持している。

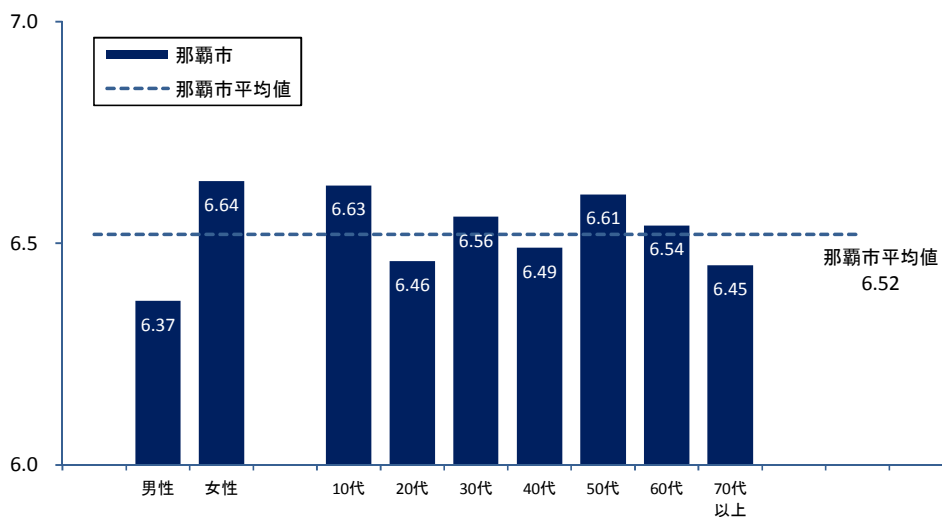
今後も、市民の「幸せ度」を高められるように、第5次総合計画に基づく那覇市の施策を着実に展開する必要がある。

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

那覇市民の幸せ度数を前回調査と比較すると、年代別では 20 代、50 代、居住年数別では 11～20 年がほぼ横ばいだが、その他の属性で前回調査を下回る結果となった。

市民の幸せ度数を、性別、年代別にみると、性別では男性、年代別では 20 代、40 代、70 代で那覇市の平均を下回っている。

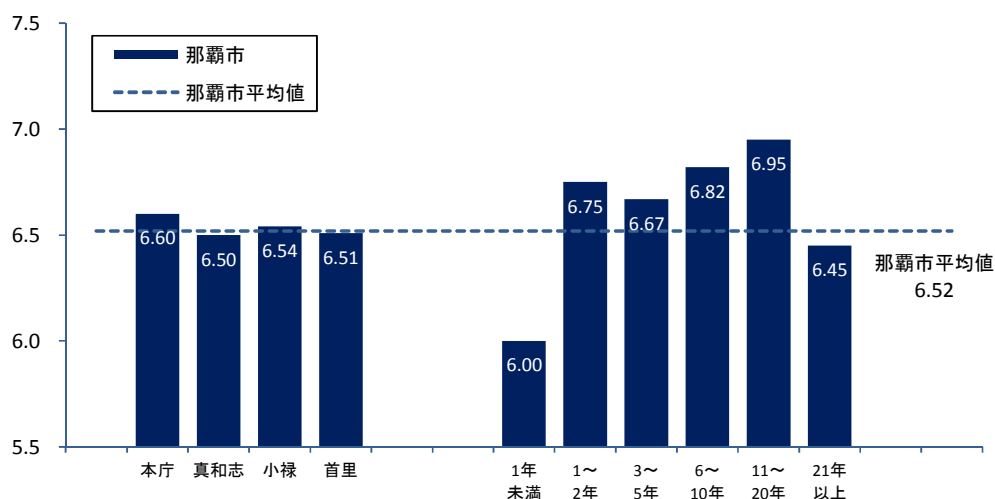
選択項目 回答者属性(n=合計)	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	今回平均値	那覇市平均値 平成28年
男性 (n= 546)	3	6	8	24	36	104	80	105	88	36	33	23	6.37	6.45
女性 (n= 711)	1	2	12	34	35	125	93	150	116	58	61	24	6.64	6.91
10代 (n= 24)	0	0	0	1	2	4	4	4	6	2	1	0	6.63	…
20代 (n= 108)	0	1	1	4	8	18	23	23	12	7	9	2	6.46	6.44
30代 (n= 183)	0	2	2	9	15	27	32	37	23	13	20	3	6.56	7.01
40代 (n= 231)	1	0	5	15	11	49	26	44	33	21	20	6	6.49	6.89
50代 (n= 199)	1	3	4	11	9	27	23	39	44	19	12	7	6.61	6.59
60代 (n= 231)	1	0	4	8	15	41	33	48	47	13	14	7	6.54	6.62
70代以上 (n= 285)	1	2	4	11	12	63	32	60	39	20	18	23	6.45	6.64
本庁 (n= 448)	0	1	6	20	25	79	65	92	79	29	35	17	6.60	6.71
和志 (n= 322)	0	1	3	21	15	61	39	74	47	31	16	14	6.50	6.70
小禄 (n= 218)	1	3	5	6	15	35	39	38	32	15	23	6	6.54	6.74
首里 (n= 243)	3	1	4	10	13	44	30	50	44	17	17	10	6.51	6.82
1年未満 (n= 4)	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	6.00	6.64
1～2年 (n= 8)	0	0	0	0	1	2	1	0	2	2	0	0	6.75	6.80
3～5年 (n= 28)	0	0	0	2	1	5	3	7	6	0	3	1	6.67	7.01
6～10年 (n= 49)	0	1	2	1	3	8	6	6	11	2	9	0	6.82	6.85
11～20年 (n= 116)	0	0	1	2	6	13	20	27	22	10	10	5	6.95	6.95
21年以上 (n=1,056)	4	7	17	53	61	201	143	213	163	80	72	42	6.45	6.63



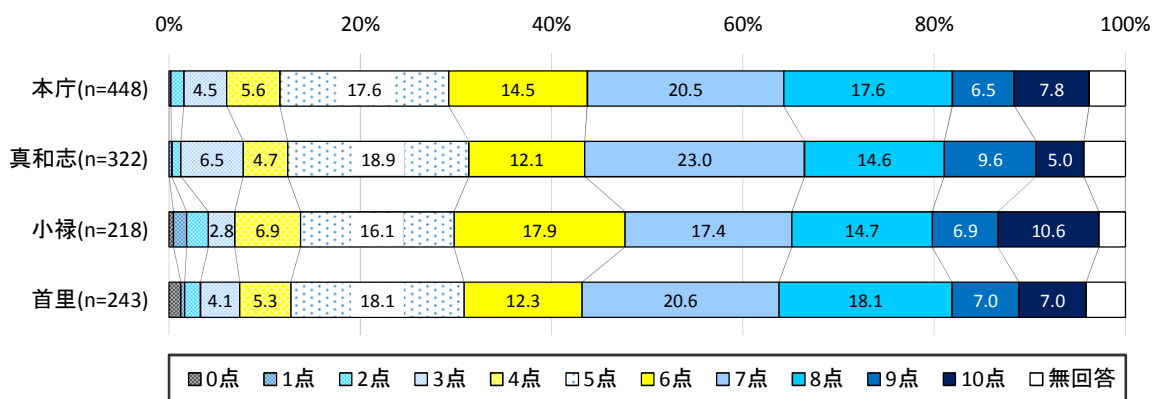
那覇市平均値と、居住地区、居住年数の平均値との比較を行った。

居住地区でみると、本庁地区が最も高く、那覇市平均値を 0.08 ポイント上回っている。那覇市の平均値を下回ったのは、真和志地区と首里地区で、那覇市平均値との差は、真和志地区で 0.02 ポイント、首里地区で 0.01 ポイントとなっている。

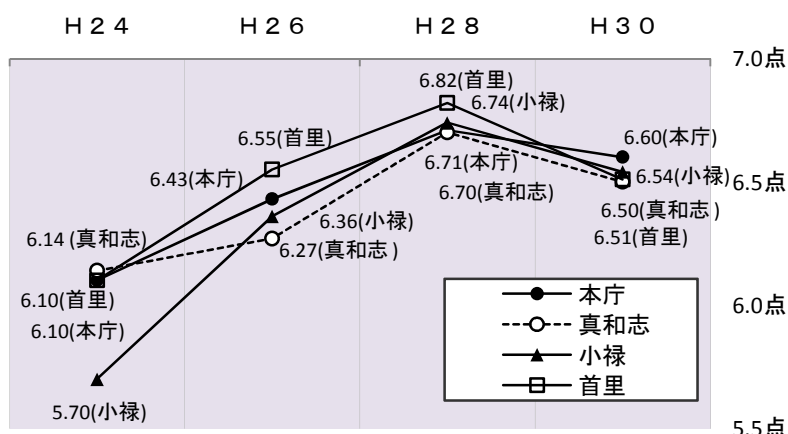
居住年数では、最も幸せ度数が高いのは、11～20年となっており、居住年数 1 年未満、21 年以上では、那覇市平均値を下回っている。



属性を居住地区に絞り、点数の割合を確認したところ、小禄地区は「6 点」をつけた市民の割合が最も高く、本庁地区、真和志地区、首里地区では「7 点」をつけた市民の割合が最も高い。



居住地区ごとの経年変化をみると、平成 26 年度調査以降、首里地区の幸せ度数が最も高かったが、今回調査では本庁地区が首里地区を上回る結果となった。首里地区は前回調査に比べ、0.31 ポイント減少している。



VII. 市の政策に対する満足度・ 重要度調査結果

VII. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

1. 満足度・重要度調査の結果

那覇市では、2018年度から10年間のまちづくりの指針となる「第5次総合計画」を策定し、『なはで暮らし、働き、育てよう！笑顔広がる元気なまち NAHA ～みんなでつなごう市民力～』を将来像に掲げ、まちづくりの姿勢として、その担い手一人ひとりを結びつける【5つの絆】を示している。

満足度・重要度調査は、23の政策に対する市民の満足度と重要度を把握し、政策に対する市民意識として今後の取り組みに反映させるものである。

政策という抽象的なイメージの強い調査であるため、前回調査と同様、全体として「わからない」の回答比率が高かったため、考察では「わからない」と「無回答」を除く、有意回答をもとに分析した。

2. 各政策に対する満足度・重要度の加点評価

(1) 回答者数について

今回調査における満足度の回答者数は842名、重要度の回答者数は997名となっており、全回答者数1,264名のうち、約半数が回答している。

満足度と重要度の回答者数の差は、満足度について回答を避けている市民が、個々の政策について（市の政策は公的なものなので「重要」と考えているため）重要度のみ回答したことによるものと考えられる。

VII. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

(2) 満足度・重要度調査の加点方法と平均評価点

満足度・重要度調査の結果は、政策ごとに集計を行い、下記のような点数配点をもって、政策ごとの平均評価点を算出した。(※「わからない」「無回答」は加点から除いてある。)

満足度：「満足」＝4点、「まあ満足」＝3点、「やや不満」＝2点、「不満」＝1点
重要度：「高い」＝4点、「まあ高い」＝3点、「やや低い」＝2点、「低い」＝1点

政 策	満足度			重要度		
	合計点数	有意回答者数	平均評価点	合計点数	有意回答者数	平均評価点
【めざすまちの姿】 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA						
小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり	1,435	584	2.46	2,463	855	2.88
地域の力が重なる安全安心のまちづくり	2,014	834	2.41	3,273	1,001	3.27
交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり	1,941	741	2.62	2,833	946	2.99
人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり	2,151	840	2.56	3,166	995	3.18
【めざすまちの姿】 互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA						
地域で暮らし地域で支えるまちづくり	1,980	857	2.31	3,383	1,016	3.33
すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり	2,155	863	2.50	3,333	1,030	3.24
身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり	2,474	950	2.60	3,544	1,050	3.38
衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり	2,398	879	2.73	3,371	1,022	3.30
【めざすまちの姿】 次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA						
子育てが楽しくなるまちづくり	1,774	798	2.22	3,374	994	3.39
自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり	1,775	788	2.25	3,276	989	3.31
生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり	1,908	808	2.36	3,082	993	3.10
郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり	1,971	774	2.55	2,991	983	3.04
【めざすまちの姿】 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA						
ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり	2,134	870	2.45	3,011	996	3.02
様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり	1,869	798	2.34	2,995	982	3.05
産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり	1,815	831	2.18	3,156	996	3.17
中心市街地を活かしたまちづくり	2,053	909	2.26	3,045	1,025	2.97
【めざすまちの姿】 自然環境と都市機能が調和した住みつけたいまち NAHA						
省エネを実践し、資源が循環するまちづくり	2,183	877	2.49	3,211	1,023	3.14
自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり	2,068	908	2.28	3,067	1,021	3.00
暮らしで良し歩いて楽しい快適なまちづくり	2,155	1,005	2.14	3,391	1,047	3.24
災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり	2,104	953	2.21	3,378	1,044	3.24
那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり	1,907	840	2.27	2,992	980	3.05
【基本構想を推進するために】 市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営を行う						
市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり	1,892	818	2.31	2,927	958	3.06
効率的で効果的な行財政運営を行う	1,898	834	2.28	3,166	985	3.21
平 均 値	2,002	842	2.38	3,149	997	3.16

(3) 満足度調査結果の分析

各政策を満足度調査の平均評価点（満足度）でランク付けすると、下記の通りとなった。

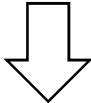
全政策の平均評価点は 2.38 点であり、全政策 23 項目のうち 10 項目が平均評価点を上回る結果となった。

順位	政 策	平均 評価点	有意 回答者数
1	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり	2.73	879
2	交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり	2.62	741
3	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり	2.60	950
4	人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり	2.56	840
5	郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり	2.55	774
6	すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり	2.50	863
7	省エネを実践し、資源が循環するまちづくり	2.49	877
8	小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり	2.46	584
9	ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり	2.45	870
10	地域の力が重なる安全安心のまちづくり	2.41	834
11	生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり	2.36	808
12	様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり	2.34	798
13	市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり	2.31	818
14	地域で暮らし地域で支えるまちづくり	2.31	857
15	自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり	2.28	908
16	効率的で効果的な行財政運営を行う	2.28	834
17	那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり	2.27	840
18	中心市街地を活かしたまちづくり	2.26	909
19	自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり	2.25	788
20	子育てが楽しくなるまちづくり	2.22	798
21	災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり	2.21	953
22	産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり	2.18	831
23	暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり	2.14	1,005
平 均 値		2.38	842

高



平均
満足度
2.38



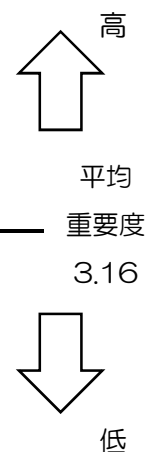
低

(4) 重要度調査結果の分析

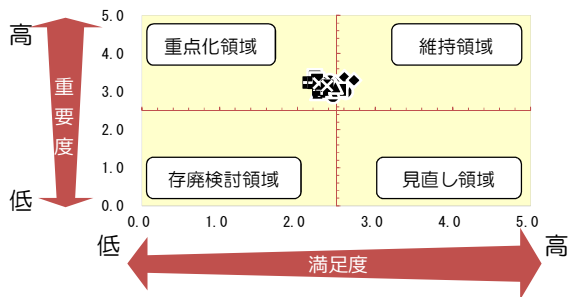
各政策の重要度調査の平均評価点（重要度）をランク付けすると、下記の通りとなった。

全政策の平均評価点は 3.16 点であり、全政策 23 項目のうち 12 項目が平均評価点を上回っており、20 項目は 3 点以上という結果となった。

順位	政 策	平均 評価点	有意 回答者数
1	子育てが楽しくなるまちづくり	3.39	994
2	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり	3.38	1,050
3	地域で暮らし地域で支えるまちづくり	3.33	1,016
4	自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり	3.31	989
5	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり	3.30	1,022
6	地域の力が重なる安全安心のまちづくり	3.27	1,001
7	暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり	3.24	1,047
8	すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり	3.24	1,030
9	災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり	3.24	1,044
10	効率的で効果的な行財政運営を行う	3.21	985
11	人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり	3.18	995
12	産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり	3.17	996
13	省エネを実践し、資源が循環するまちづくり	3.14	1,023
14	生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり	3.10	993
15	市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり	3.06	958
16	那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり	3.05	980
17	様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり	3.05	982
18	郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり	3.04	983
19	ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり	3.02	996
20	自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり	3.00	1,021
21	交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり	2.99	946
22	中心市街地を活かしたまちづくり	2.97	1,025
23	小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり	2.88	855
平 均 値		3.16	997

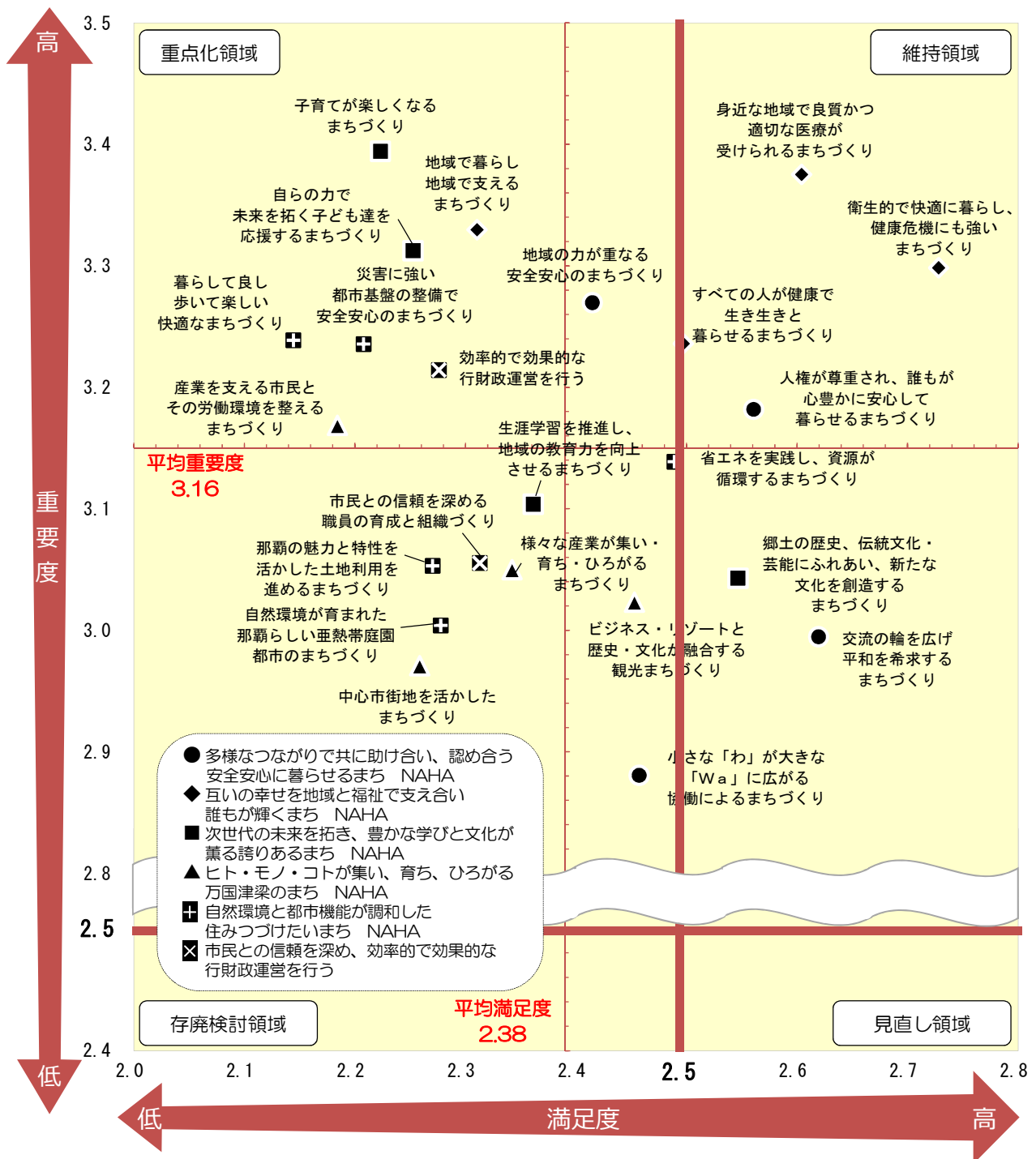


(5) 満足度・重要度のクロス集計からみた政策に対する市民意識



一般に満足度と重要度を組み合わせて評価を行う場合、左記の図のように分類して、存廃、見直し、重点化、維持の判断を行うべきとされている。
分類領域は、加點評価の平均 2.5 点を基準とする。

今回の調査結果における平均満足度、平均重要度を中心とした個々の政策分布図は以下の通りとなった。なお、23 の政策は「めざすまちの姿」ごとに区分している。



【重点化領域とされる政策】 ※（計：満足度平均＋重要度平均 満：満足度平均 重：重要度平均）

- ・地域の力が重なる安全安心のまちづくり (計:5.68 満:2.41 重:3.27)
- ・地域で暮らし地域で支えるまちづくり (計:5.64 満:2.31 重:3.33)
- ・省エネを実践し、資源が循環するまちづくり (計:5.63 満:2.49 重:3.14)
- ・子育てが楽しくなるまちづくり (計:5.61 満:2.22 重:3.39)
- ・自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり (計:5.56 満:2.25 重:3.31)
- ・効率的で効果的な行財政運営を行う (計:5.49 満:2.28 重:3.21)
- ・ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり (計:5.47 満:2.45 重:3.02)
- ・生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり (計:5.46 満:2.36 重:3.10)
- ・災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり (計:5.45 満:2.21 重:3.24)
- ・様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり (計:5.39 満:2.34 重:3.05)
- ・暮らしで良し歩いて楽しい快適なまちづくり (計:5.38 満:2.14 重:3.24)
- ・市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり (計:5.37 満:2.31 重:3.06)
- ・産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり (計:5.35 満:2.18 重:3.17)
- ・小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり (計:5.34 満:2.46 重:2.88)
- ・那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり (計:5.32 満:2.27 重:3.05)
- ・自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり (計:5.28 満:2.28 重:3.00)
- ・中心市街地を活かしたまちづくり (計:5.23 満:2.26 重:2.97)

【維持領域とされる政策】 ※（計：満足度平均＋重要度平均 満：満足度平均 重：重要度平均）

- ・衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり (計:6.03 満:2.73 重:3.30)
- ・身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり (計:5.98 満:2.60 重:3.38)
- ・人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり (計:5.74 満:2.56 重:3.18)
- ・すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり (計:5.74 満:2.50 重:3.24)
- ・交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり (計:5.61 満:2.62 重:2.99)
- ・郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり (計:5.59 満:2.55 重:3.04)

【存廃検討領域とされる政策】

なし

【見直し領域とされる政策】

なし

「第 5 次総合計画」における 23 の政策については、いずれも存廃、見直しが必要とされるものはなく、今後とも維持継続、あるいは更に力をいれていくことが求められている。

3. 各政策に対する満足度・重要度評価の状況

めざすまちの姿 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA
 政策 小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり
 (自治会や校区まちづくり協議会への活動支援等)

「小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり」の政策については、市民に重要性を認識させる取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 51.7%、重要度では「まあ高い」以上が 73.7%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりやや高く、重要度は低くみている。

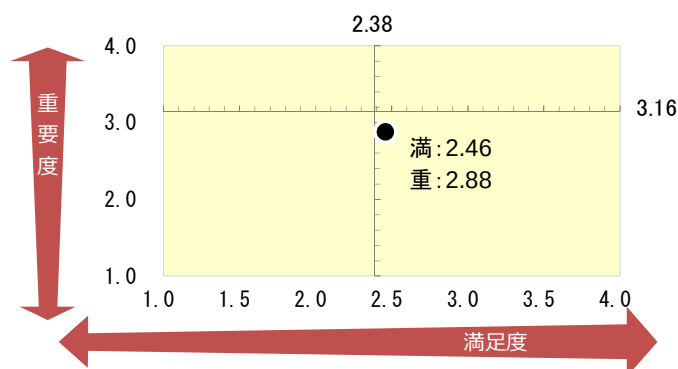
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	19人 (1.5%)	302人 (51.7%)
まあ満足	283人 (22.4%)	
やや不満	228人 (18.0%)	282人 (48.3%)
不満	54人 (4.3%)	
有意回答 計	584人 (46.2%)	584人 (100%)
わからない	563人 (44.5%)	
無回答	117人 (9.3%)	
合 計	1,264人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	173人 (13.7%)	630人 (73.7%)
まあ高い	457人 (36.2%)	
やや低い	175人 (13.8%)	225人 (26.3%)
低い	50人 (4.0%)	
有意回答 計	855人 (67.6%)	855人 (100%)
わからない	257人 (20.3%)	
無回答	152人 (12.0%)	
合 計	1,264人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA
 政 策 地域の力が重なる安全安心のまちづくり
 (防犯・交通安全活動の推進、防災体制の強化等)

「地域の力が重なる安全安心のまちづくり」の政策については、市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 50.7%、重要度では「まあ高い」以上が 84.7%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度はほぼ平均値程度となっており、重要度は高くみている。

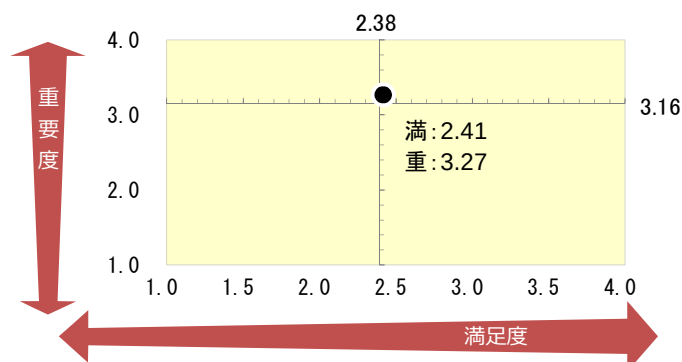
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	28 人 (2.2%)	423 人 (50.7%)
まあ満足	395 人 (31.3%)	
やや不満	306 人 (24.2%)	411 人 (49.3%)
不満	105 人 (8.3%)	
有意回答 計	834 人 (66.0%)	834 人 (100%)
わからない	306 人 (24.2%)	
無回答	124 人 (9.8%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	456 人 (36.1%)	848 人 (84.7%)
まあ高い	392 人 (31.0%)	
やや低い	120 人 (9.5%)	153 人 (15.3%)
低い	33 人 (2.6%)	
有意回答 計	1,001 人 (79.2%)	1,001 人 (100%)
わからない	111 人 (8.8%)	
無回答	152 人 (12.0%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA
 政 策 交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり
 (平和・国際交流の推進等)

「交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり」の政策については、市民に重要性を認識させる取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が61.7%、重要度では「まあ高い」以上が77.0%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりも高く、重要度は低くみている。

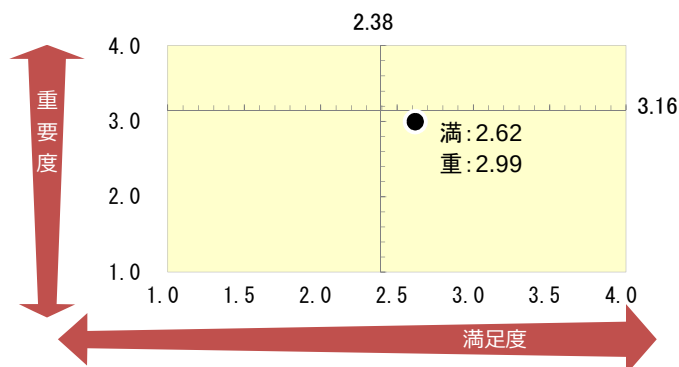
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	52人 (4.1%)	457人 (61.7%)
まあ満足	405人 (32.0%)	
やや不満	234人 (18.5%)	284人 (38.3%)
不満	50人 (4.0%)	
有意回答 計	741人 (58.6%)	741人 (100%)
わからない	388人 (30.7%)	
無回答	135人 (10.7%)	
合 計	1,264人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	264人 (20.9%)	728人 (77.0%)
まあ高い	464人 (36.7%)	
やや低い	167人 (13.2%)	218人 (23.0%)
低い	51人 (4.0%)	
有意回答 計	946人 (74.8%)	946人 (100%)
わからない	152人 (12.0%)	
無回答	166人 (13.1%)	
合 計	1,264人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA
 政 策 人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり
 （人権尊重、男女共同参画推進等）

「人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり」の政策については、市民の満足度・重要度を高めていく取組を継続する必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が58.9%、重要度では「まあ高い」以上が82.2%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりも高く、重要度は平均値程度とみている。

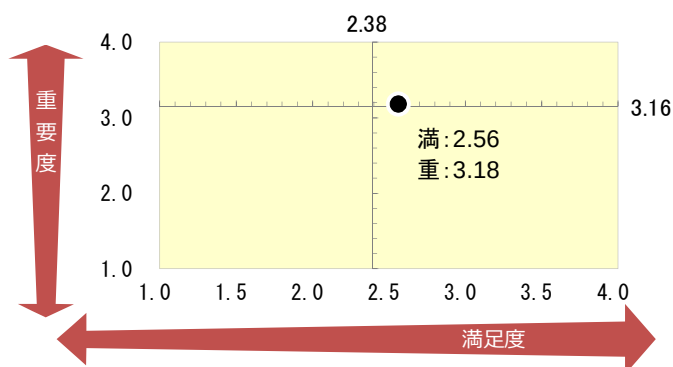
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	60人 (4.7%)	495人 (58.9%)
まあ満足	435人 (34.4%)	
やや不満	261人 (20.6%)	345人 (41.1%)
不満	84人 (6.6%)	
有意回答 計	840人 (66.5%)	840人 (100%)
わからない	297人 (23.5%)	
無回答	127人 (10.0%)	
合 計	1,264人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	392人 (31.0%)	818人 (82.2%)
まあ高い	426人 (33.7%)	
やや低い	143人 (11.3%)	177人 (17.8%)
低い	34人 (2.7%)	
有意回答 計	995人 (78.7%)	995人 (100%)
わからない	114人 (9.0%)	
無回答	155人 (12.3%)	
合 計	1,264人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA

政 策 地域で暮らし地域で支えるまちづくり
(福祉・介護・障がいのある方への支援、子どもの貧困対策等)

「地域で暮らし地域で支えるまちづくり」の政策については、市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が41.0%、重要度では「まあ高い」以上が86.0%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりもやや低く、重要度は高くみている。

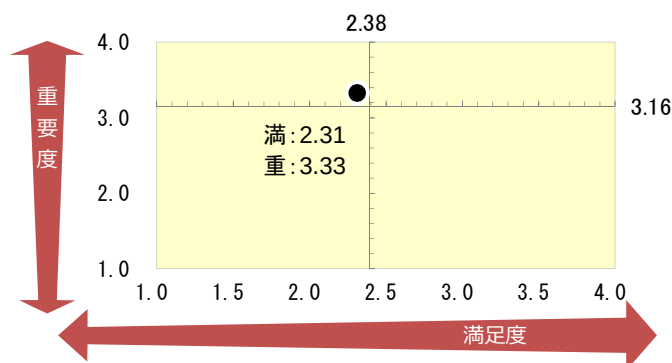
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	44人 (3.5%)	351人 (41.0%)
まあ満足	307人 (24.3%)	
やや不満	377人 (29.8%)	506人 (59.0%)
不満	129人 (10.2%)	
有意回答 計	857人 (67.8%)	857人 (100%)
わからない	286人 (22.6%)	
無回答	121人 (9.6%)	
合 計	1,264人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	509人 (40.3%)	874人 (86.0%)
まあ高い	365人 (28.9%)	
やや低い	110人 (8.7%)	142人 (14.0%)
低い	32人 (2.5%)	
有意回答 計	1,016人 (80.4%)	1,016人 (100%)
わからない	94人 (7.4%)	
無回答	154人 (12.2%)	
合 計	1,264人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA

政 策 すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり
(健康づくりの実践、こころの健康維持等)

「すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり」の政策については、市民の満足度・重要度を高めていく取組を継続する必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が54.1%、重要度では「まあ高い」以上が84.4%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりも高く、重要度もやや高くみている。

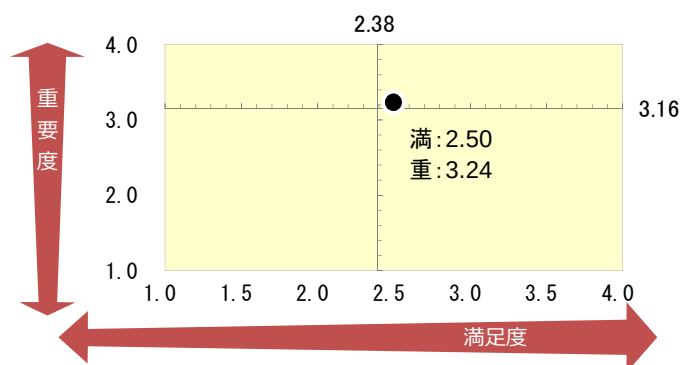
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	53人 (4.2%)	467人 (54.1%)
まあ満足	414人 (32.8%)	
やや不満	305人 (24.1%)	396人 (45.9%)
不満	91人 (7.2%)	
有意回答 計	863人 (68.3%)	863人 (100%)
わからない	271人 (21.4%)	
無回答	130人 (10.3%)	
合 計	1,264人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	432人 (34.2%)	869人 (84.4%)
まあ高い	437人 (34.6%)	
やや低い	133人 (10.5%)	161人 (15.6%)
低い	28人 (2.2%)	
有意回答 計	1,030人 (81.5%)	1,030人 (100%)
わからない	82人 (6.5%)	
無回答	152人 (12.0%)	
合 計	1,264人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA

政 策 身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり
(地域医療の充実等)

「身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり」の政策については、市民は満足度・重要度ともに高くみている。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が61.1%、重要度では「まあ高い」以上が88.6%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度、重要度ともに平均値よりも高くみている。

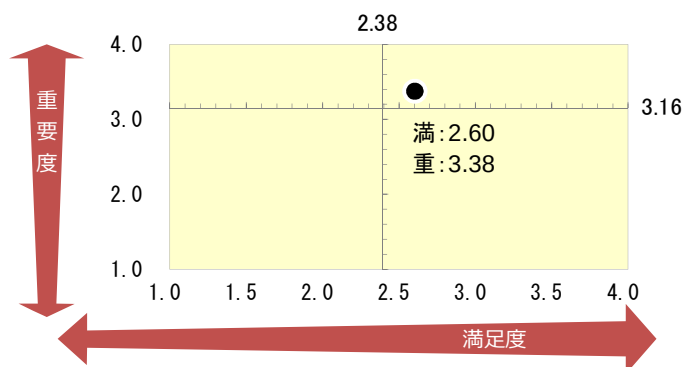
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	97人 (7.7%)	580人 (61.1%)
まあ満足	483人 (38.2%)	
やや不満	267人 (21.1%)	370人 (38.9%)
不満	103人 (8.1%)	
有意回答 計	950人 (75.2%)	950人 (100%)
わからない	190人 (15.0%)	
無回答	124人 (9.8%)	
合 計	1,264人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	545人 (43.1%)	930人 (88.6%)
まあ高い	385人 (30.5%)	
やや低い	89人 (7.0%)	120人 (11.4%)
低い	31人 (2.5%)	
有意回答 計	1,050人 (83.1%)	1,050人 (100%)
わからない	62人 (4.9%)	
無回答	152人 (12.0%)	
合 計	1,264人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA

政 策 衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり
(生活衛生・食品衛生・感染症対策等)

「衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり」の政策については、市民の満足度・重要度ともに高くみている。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が66.7%、重要度では「まあ高い」以上が86.8%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度、重要度ともに平均値よりも高くみている。

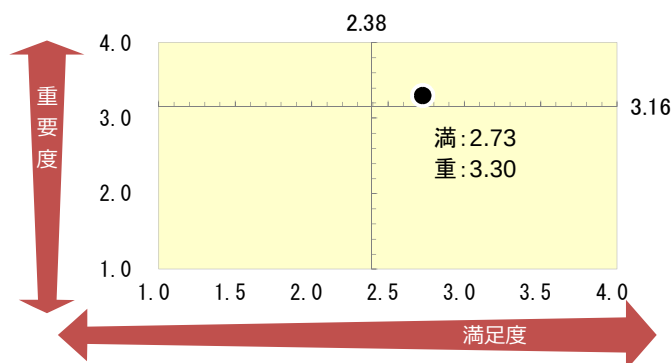
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	105 人 (8.3%)	586 人 (66.7%)
まあ満足	481 人 (38.1%)	
やや不満	242 人 (19.1%)	293 人 (33.3%)
不満	51 人 (4.0%)	
有意回答 計	879 人 (69.5%)	879 人 (100%)
わからない	248 人 (19.6%)	
無回答	137 人 (10.8%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	461 人 (36.5%)	887 人 (86.8%)
まあ高い	426 人 (33.7%)	
やや低い	114 人 (9.0%)	135 人 (13.2%)
低い	21 人 (1.7%)	
有意回答 計	1,022 人 (80.9%)	1,022 人 (100%)
わからない	81 人 (6.4%)	
無回答	161 人 (12.7%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA

政 策 子育てが楽しくなるまちづくり
(子育て支援、待機児童対策等)

「子育てが楽しくなるまちづくり」の政策については、子育て支援が大きな課題であることから、市民の満足度を高めていくために、より一層の取組を行う必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 36.3%、重要度では「まあ高い」以上が 87.9%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりも低く、重要度は高くみている。

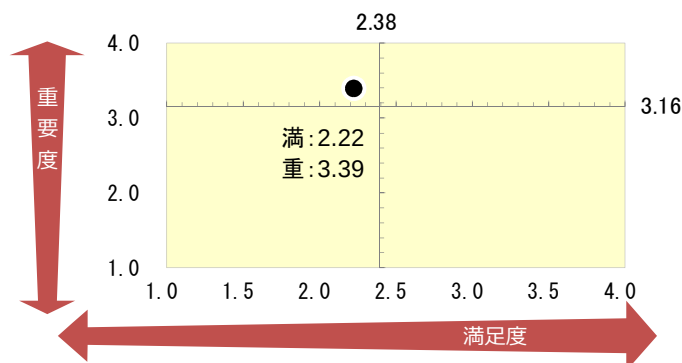
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	38 人 (3.0%)	290 人 (36.3%)
まあ満足	252 人 (19.9%)	
やや不満	358 人 (28.3%)	
不満	150 人 (11.9%)	508 人 (63.7%)
有意回答 計	798 人 (63.1%)	798 人 (100%)
わからない	337 人 (26.7%)	
無回答	129 人 (10.2%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	542 人 (42.9%)	874 人 (87.9%)
まあ高い	332 人 (26.3%)	
やや低い	90 人 (7.1%)	120 人 (12.1%)
低い	30 人 (2.4%)	
有意回答 計	994 人 (78.6%)	994 人 (100%)
わからない	119 人 (9.4%)	
無回答	151 人 (11.9%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA

政 策 自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり
(学力向上、教育環境の整備等)

「自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり」の政策については、市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 39.6%、重要度では「まあ高い」以上が 85.3%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりも低く、重要度はやや高くみている。

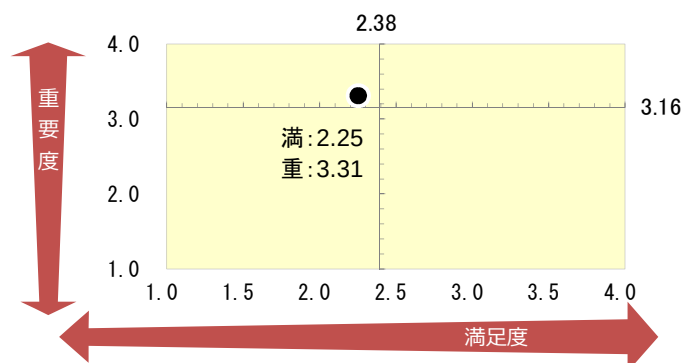
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	30 人 (2.4%)	312 人 (39.6%)
まあ満足	282 人 (22.3%)	
やや不満	333 人 (26.3%)	476 人 (60.4%)
不満	143 人 (11.3%)	
有意回答 計	788 人 (62.3%)	788 人 (100%)
わからない	342 人 (27.1%)	
無回答	134 人 (10.6%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	485 人 (38.4%)	844 人 (85.3%)
まあ高い	359 人 (28.4%)	
やや低い	114 人 (9.0%)	145 人 (14.7%)
低い	31 人 (2.5%)	
有意回答 計	989 人 (78.2%)	989 人 (100%)
わからない	117 人 (9.3%)	
無回答	158 人 (12.5%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA

政 策 生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり
(スポーツ施設等の整備、青少年健全育成等)

「生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり」の政策については、市民の満足度・重要度を高めていく取組を継続する必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 44.9%、重要度では「まあ高い」以上が 79.1%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値程度となっているが、重要度はやや低くみている。

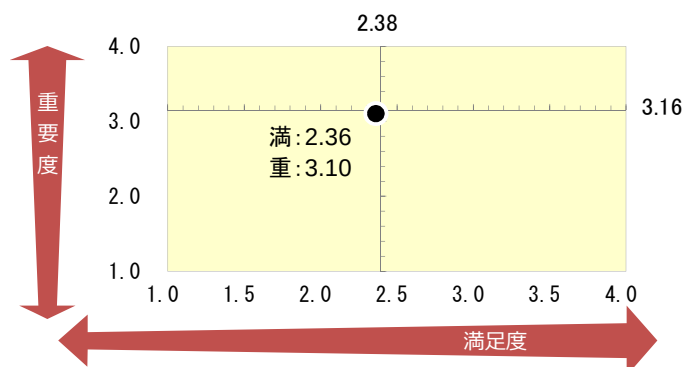
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	44 人 (3.5%)	363 人 (44.9%)
まあ満足	319 人 (25.2%)	
やや不満	330 人 (26.1%)	445 人 (55.1%)
不満	115 人 (9.1%)	
有意回答 計	808 人 (63.9%)	808 人 (100%)
わからない	322 人 (25.5%)	
無回答	134 人 (10.6%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	346 人 (27.4%)	785 人 (79.1%)
まあ高い	439 人 (34.7%)	
やや低い	173 人 (13.7%)	208 人 (20.9%)
低い	35 人 (2.8%)	
有意回答 計	993 人 (78.6%)	993 人 (100%)
わからない	115 人 (9.1%)	
無回答	156 人 (12.3%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA

政 策 郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり
(文化財の保全、文化芸術・芸能活動の支援等)

「郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり」の政策については、市民に重要性を認識させる取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が56.2%、重要度では「まあ高い」以上が75.3%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりも高く、重要度は低くみている。

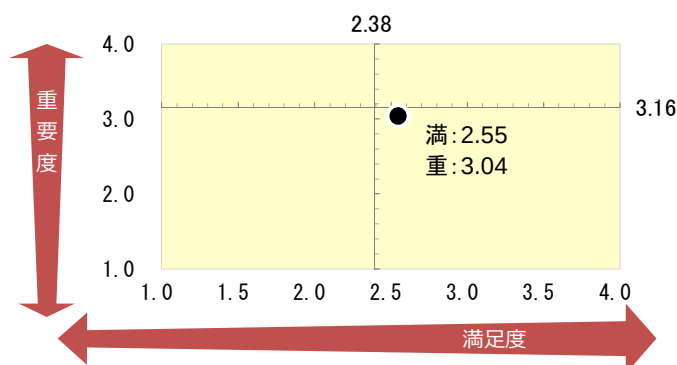
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	64人 (5.1%)	435人 (56.2%)
まあ満足	371人 (29.4%)	
やや不満	263人 (20.8%)	339人 (43.8%)
不満	76人 (6.0%)	
有意回答 計	774人 (61.2%)	774人 (100%)
わからない	358人 (28.3%)	
無回答	132人 (10.4%)	
合 計	1,264人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	326人 (25.8%)	740人 (75.3%)
まあ高い	414人 (32.8%)	
やや低い	202人 (16.0%)	243人 (24.7%)
低い	41人 (3.2%)	
有意回答 計	983人 (77.8%)	983人 (100%)
わからない	129人 (10.2%)	
無回答	152人 (12.0%)	
合 計	1,264人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA

政 策 ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり
(観光客受入体制の整備、観光資源の発掘・創造等)

「ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり」の政策については、市民に重要性を認識させる取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が51.6%、重要度では「まあ高い」以上が78.2%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりもやや高く、重要度はやや低くみている。

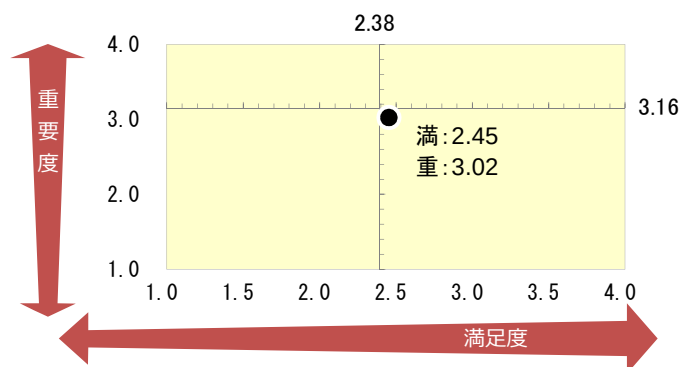
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	50人 (4.0%)	449人 (51.6%)
まあ満足	399人 (31.6%)	
やや不満	316人 (25.0%)	421人 (48.4%)
不満	105人 (8.3%)	
有意回答 計	870人 (68.8%)	870人 (100%)
わからない	279人 (22.1%)	
無回答	115人 (9.1%)	
合 計	1,264人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	291人 (23.0%)	779人 (78.2%)
まあ高い	488人 (38.6%)	
やや低い	166人 (13.1%)	217人 (21.8%)
低い	51人 (4.0%)	
有意回答 計	996人 (78.8%)	996人 (100%)
わからない	123人 (9.7%)	
無回答	145人 (11.5%)	
合 計	1,264人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA

政 策 様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり
(産業振興、中小企業支援等)

「様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり」の政策については、市民に重要性を認識させる取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 43.7%、重要度では「まあ高い」以上が 78.8%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値程度となっているが、重要度はやや低くみている。

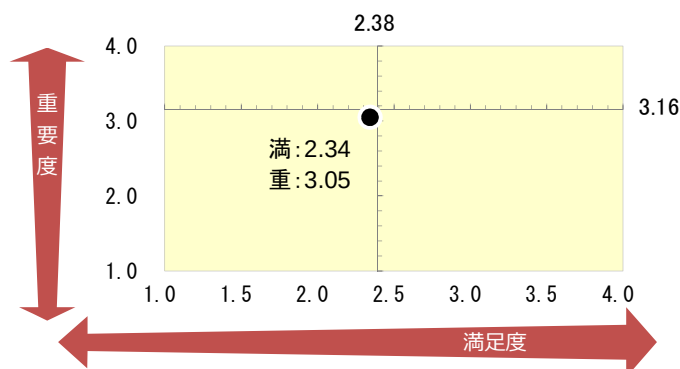
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	37 人 (2.9%)	349 人 (43.7%)
まあ満足	312 人 (24.7%)	
やや不満	336 人 (26.6%)	449 人 (56.3%)
不満	113 人 (8.9%)	
有意回答 計	798 人 (63.1%)	798 人 (100%)
わからない	351 人 (27.8%)	
無回答	115 人 (9.1%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	300 人 (23.7%)	774 人 (78.8%)
まあ高い	474 人 (37.5%)	
やや低い	165 人 (13.1%)	208 人 (21.2%)
低い	43 人 (3.4%)	
有意回答 計	982 人 (77.7%)	982 人 (100%)
わからない	137 人 (10.8%)	
無回答	145 人 (11.5%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA

政 策 産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり
(労働環境の改善、就労支援、人材育成の推進等)

「産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり」の政策については、市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 34.4%、重要度では「まあ高い」以上が 81.7%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりも低く、重要度は平均値程度とみている。

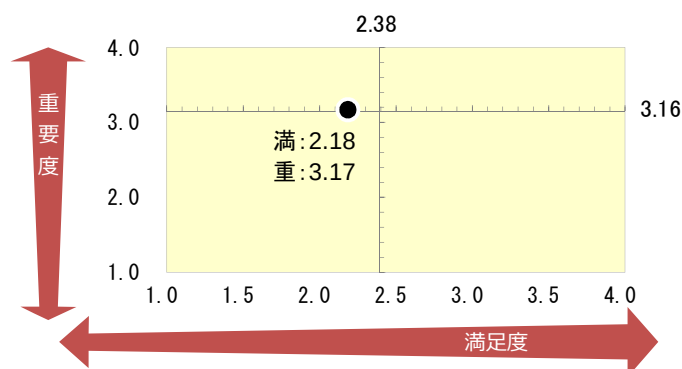
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	36 人 (2.8%)	286 人 (34.4%)
まあ満足	250 人 (19.8%)	
やや不満	376 人 (29.7%)	545 人 (65.6%)
不満	169 人 (13.4%)	
有意回答 計	831 人 (65.7%)	831 人 (100%)
わからない	311 人 (24.6%)	
無回答	122 人 (9.7%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	398 人 (31.5%)	814 人 (81.7%)
まあ高い	416 人 (32.9%)	
やや低い	134 人 (10.6%)	182 人 (18.3%)
低い	48 人 (3.8%)	
有意回答 計	996 人 (78.8%)	996 人 (100%)
わからない	121 人 (9.6%)	
無回答	147 人 (11.6%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA

政 策 中心市街地を活かしたまちづくり
(商店街・マチグーの振興等)

「中心市街地を活かしたまちづくり」の政策については、市民の満足度・重要度ともに高めるために、より一層力を入れて取組を行う必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 39.1%、重要度では「まあ高い」以上が 74.0%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度、重要度ともに平均値よりも低くみている。

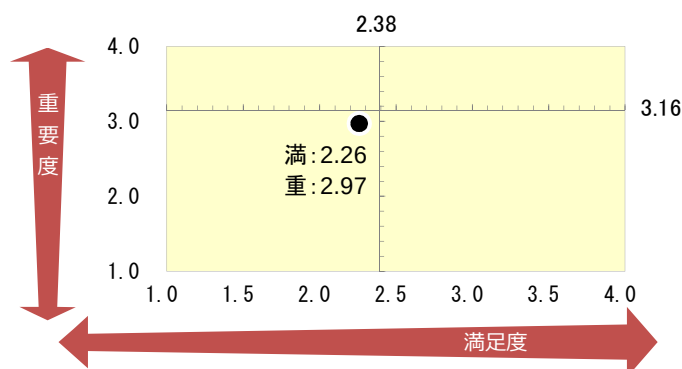
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	42 人 (3.3%)	355 人 (39.1%)
まあ満足	313 人 (24.8%)	
やや不満	392 人 (31.0%)	554 人 (60.9%)
不満	162 人 (12.8%)	
有意回答 計	909 人 (71.9%)	909 人 (100%)
わからない	246 人 (19.5%)	
無回答	109 人 (8.6%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	310 人 (24.5%)	758 人 (74.0%)
まあ高い	448 人 (35.4%)	
やや低い	194 人 (15.3%)	267 人 (26.0%)
低い	73 人 (5.8%)	
有意回答 計	1,025 人 (81.1%)	1,025 人 (100%)
わからない	98 人 (7.8%)	
無回答	141 人 (11.2%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 自然環境と都市機能が調和した住みつづけたまち NAHA

政 策 省エネを実践し、資源が循環するまちづくり
(省エネを実践するライフスタイルの推進、ごみ減量化等)

「省エネを実践し、資源が循環するまちづくり」の政策については、市民に重要性を認識させる取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が51.9%、重要度では「まあ高い」以上が80.6%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりも高く、重要度は平均値程度とみている。

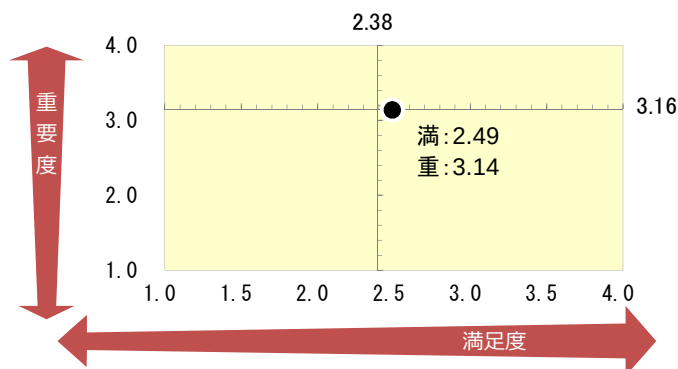
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	59人 (4.7%)	455人 (51.9%)
まあ満足	396人 (31.3%)	
やや不満	337人 (26.7%)	422人 (48.1%)
不満	85人 (6.7%)	
有意回答 計	877人 (69.4%)	877人 (100%)
わからない	266人 (21.0%)	
無回答	121人 (9.6%)	
合 計	1,264人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	374人 (29.6%)	825人 (80.6%)
まあ高い	451人 (35.7%)	
やや低い	164人 (13.0%)	198人 (19.4%)
低い	34人 (2.7%)	
有意回答 計	1,023人 (80.9%)	1,023人 (100%)
わからない	96人 (7.6%)	
無回答	145人 (11.5%)	
合 計	1,264人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 自然環境と都市機能が調和した住みつけたいまち NAHA

政 策 自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり
(魅力ある都市景観の形成、道路美化等)

「自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり」の政策については、市民の満足度・重要度を高める取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 40.6%、重要度では「まあ高い」以上が 75.2%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度・重要度ともに平均値より低くみている。

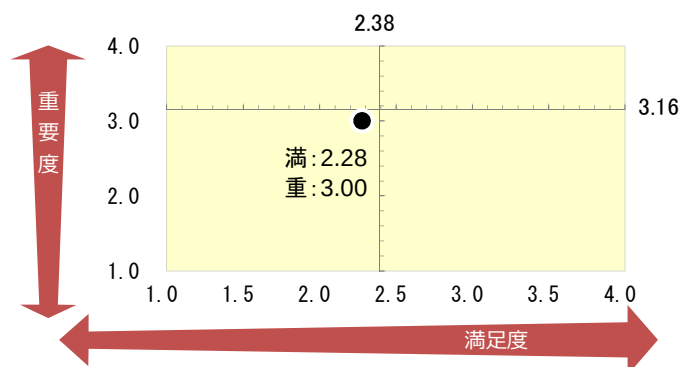
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	46 人 (3.6%)	369 人 (40.6%)
まあ満足	323 人 (25.6%)	
やや不満	376 人 (29.7%)	539 人 (59.4%)
不満	163 人 (12.9%)	
有意回答 計	908 人 (71.8%)	908 人 (100%)
わからない	229 人 (18.1%)	
無回答	127 人 (10.0%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	321 人 (25.4%)	768 人 (75.2%)
まあ高い	447 人 (35.4%)	
やや低い	189 人 (15.0%)	253 人 (24.8%)
低い	64 人 (5.1%)	
有意回答 計	1,021 人 (80.8%)	1,021 人 (100%)
わからない	93 人 (7.4%)	
無回答	150 人 (11.9%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 自然環境と都市機能が調和した住みつづきたいまち NAHA

政 策 暮らしで良し歩いて楽しい快適なまちづくり
(交通体系の整備等)

「暮らしで良し歩いて楽しい快適なまちづくり」の政策については、市民の満足度を高めるために一層力を入れて取組を行う必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 34.4%、重要度では「まあ高い」以上が 82.9%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりも低く、重要度はやや高くみている。

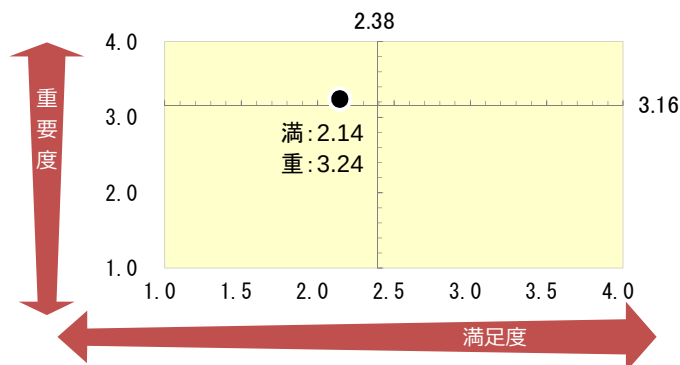
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	47 人 (3.7%)	346 人 (34.4%)
まあ満足	299 人 (23.7%)	
やや不満	411 人 (32.5%)	659 人 (65.6%)
不満	248 人 (19.6%)	
有意回答 計	1,005 人 (79.5%)	1,005 人 (100%)
わからない	141 人 (11.2%)	
無回答	118 人 (9.3%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	471 人 (37.3%)	868 人 (82.9%)
まあ高い	397 人 (31.4%)	
やや低い	137 人 (10.8%)	179 人 (17.1%)
低い	42 人 (3.3%)	
有意回答 計	1,047 人 (82.8%)	1,047 人 (100%)
わからない	65 人 (5.1%)	
無回答	152 人 (12.0%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 自然環境と都市機能が調和した住みつけたいまち NAHA

政 策 災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり
(安全安心で快適な道路や公園の整備等)

「災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり」の政策については、市民の満足度を高めるための取組を行う必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 36.3%、重要度では「まあ高い」以上が 81.9%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりも低く、重要度はやや高くみている。

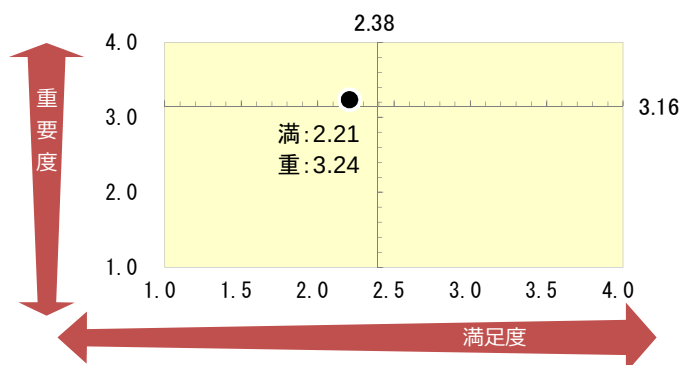
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	38 人 (3.0%)	346 人 (36.3%)
まあ満足	308 人 (24.4%)	
やや不満	421 人 (33.3%)	607 人 (63.7%)
不満	186 人 (14.7%)	
有意回答 計	953 人 (75.4%)	953 人 (100%)
わからない	198 人 (15.7%)	
無回答	113 人 (8.9%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	482 人 (38.1%)	855 人 (81.9%)
まあ高い	373 人 (29.5%)	
やや低い	142 人 (11.2%)	189 人 (18.1%)
低い	47 人 (3.7%)	
有意回答 計	1,044 人 (82.6%)	1,044 人 (100%)
わからない	81 人 (6.4%)	
無回答	139 人 (11.0%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 自然環境と都市機能が調和した住みつけたいまち NAHA

政 策 那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり
(都市計画、土地利用等)

「那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり」の政策については、市民の満足度・重要度ともに高める取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 40.0%、重要度では「まあ高い」以上が 76.2%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度・重要度ともに平均値よりも低くみている。

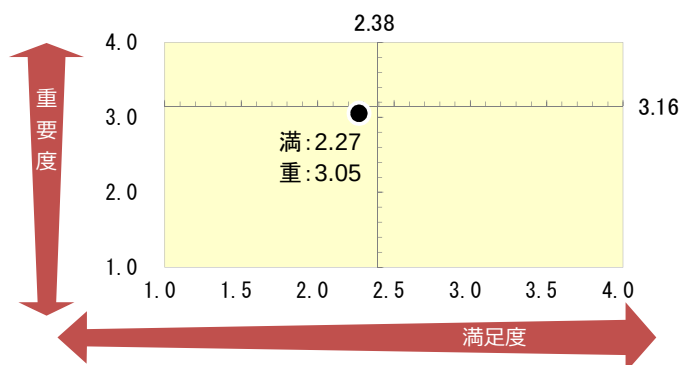
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	42 人 (3.3%)	336 人 (40.0%)
まあ満足	294 人 (23.3%)	
やや不満	353 人 (27.9%)	504 人 (60.0%)
不満	151 人 (11.9%)	
有意回答 計	840 人 (66.5%)	840 人 (100%)
わからない	298 人 (23.6%)	
無回答	126 人 (10.0%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	338 人 (26.7%)	747 人 (76.2%)
まあ高い	409 人 (32.4%)	
やや低い	180 人 (14.2%)	233 人 (23.8%)
低い	53 人 (4.2%)	
有意回答 計	980 人 (77.5%)	980 人 (100%)
わからない	133 人 (10.5%)	
無回答	151 人 (11.9%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



基本構想を推進するために 市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営を行う

政 策 市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり
(行政サービスの電子化等)

「市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり」の政策については、市民の満足度・重要度ともに高める取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 45.4%、重要度では「まあ高い」以上が 77.1%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度・重要度ともに平均値よりやや低くみている。

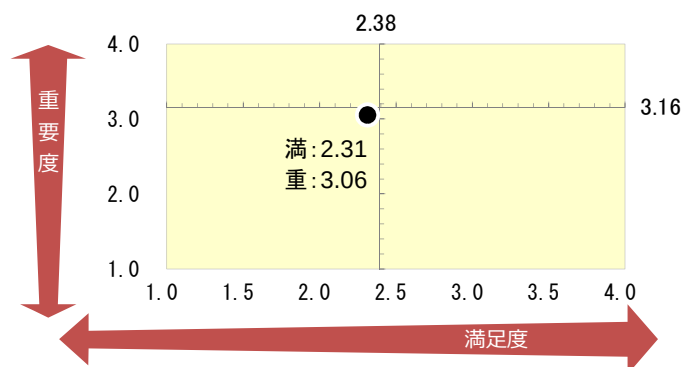
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	42 人 (3.3%)	371 人 (45.4%)
まあ満足	329 人 (26.0%)	
やや不満	290 人 (22.9%)	447 人 (54.6%)
不満	157 人 (12.4%)	
有意回答 計	818 人 (64.7%)	818 人 (100%)
わからない	331 人 (26.2%)	
無回答	115 人 (9.1%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	334 人 (26.4%)	739 人 (77.1%)
まあ高い	405 人 (32.0%)	
やや低い	157 人 (12.4%)	219 人 (22.9%)
低い	62 人 (4.9%)	
有意回答 計	958 人 (75.8%)	958 人 (100%)
わからない	157 人 (12.4%)	
無回答	149 人 (11.8%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



基本構想を推進するために 市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営を行う

政 策 効率的で効果的な行財政運営を行う
(市民満足度の高いサービスの提供等)

「効率的で効果的な行財政運営を行う」の政策については、市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が42.3%、重要度では「まあ高い」以上が82.8%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりもやや低く、重要度は平均値程度とみている。

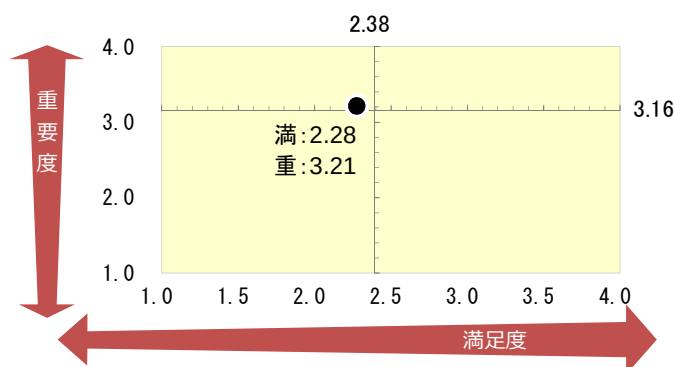
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	44 人 (3.5%)	353 人 (42.3%)
まあ満足	309 人 (24.4%)	
やや不満	314 人 (24.8%)	481 人 (57.7%)
不満	167 人 (13.2%)	
有意回答 計	834 人 (66.0%)	834 人 (100%)
わからない	311 人 (24.6%)	
無回答	119 人 (9.4%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	425 人 (33.6%)	816 人 (82.8%)
まあ高い	391 人 (30.9%)	
やや低い	124 人 (9.8%)	169 人 (17.2%)
低い	45 人 (3.6%)	
有意回答 計	985 人 (77.9%)	985 人 (100%)
わからない	132 人 (10.4%)	
無回答	147 人 (11.6%)	
合 計	1,264 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



発行 那覇市企画財務部 企画調整課

〒900-8585 那覇市泉崎1-1-1

TEL : 098-862-9937

FAX : 098-862-4263

